

取扱説明書

SC-LX704

AV RECEIVER

Pioneer

Ja

目次



接続する



-スピーカーを接続する



再生する



設定する



困ったときは



仕様について



追補情報

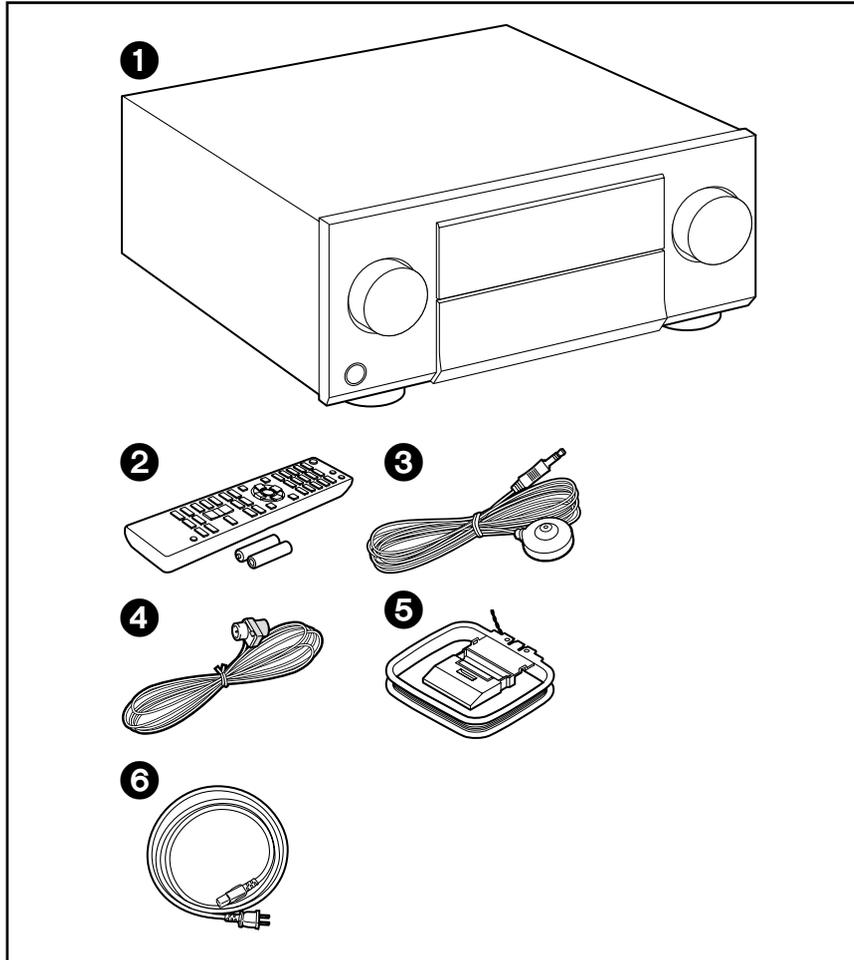


箱の中身を確認する	5	HDMI端子のないAV機器との接続	81
新機能の追加(ファームウェアアップデート)について	6	オーディオ機器との接続	82
ファームウェアの更新情報について	6	ビデオカメラなどを接続する	83
追加された新機能の操作等について	6	別室のAV機器と接続する(マルチゾーン接続)	84
ファームウェアアップデートの手順	7	別室のテレビと接続する(ゾーン2)	84
各部の名前	10	別室のプリメインアンプと接続する(ゾーン2)	85
前面パネル	10	別室のプリメインアンプと接続する(ゾーン3)	86
表示部	12	ゾーンBに接続する	87
後面パネル	13	プリメインアンプなどを接続する(ゾーンB)	87
リモコン	15	アンテナを接続する	88
接続する		ネットワークに接続する	89
スピーカーを接続する	18	外部のコントロール機器を接続する	90
スピーカーを設置する	19	IR入力/出力端子	90
スピーカー接続と「スピーカー設定」の設定	45	12Vトリガー出力端子	91
パワーアンプを接続する	74	電源コードを接続する	92
スピーカー組み合わせ一覧	75	再生する	
テレビを接続する	77	AV機器の再生	94
ARC/eARC対応テレビとの接続	78	基本の操作	94
ARC非対応テレビとの接続	79	BLUETOOTH®再生	95
再生機器を接続する	80	基本の操作	95
HDMI端子のあるAV機器との接続	80	インターネットラジオ	96

再生する	96	本機を Amazon Music に登録する	112
Spotify	98	Pioneer Remote App を使って Amazon Music を再生する	112
AirPlay®	99	リモコンを使って Amazon Music を再生する	113
本機で再生する	99	Sonos システムと接続して再生する	114
複数の機器で再生する (AirPlay2)	100	必要な機器	114
DTS Play-Fi®	101	本機と Sonos Connect との接続方法	114
再生する	101	設定する	114
FlareConnect™	102	Sonos を本機で再生する	115
再生する	102	AM/FM ラジオを聴く	116
USB ストレージ	103	放送局を選局する	116
基本の操作	103	放送局を登録する	118
デバイスや対応フォーマットについて	105	マルチゾーン	120
PC や NAS に保存された音楽ファイルを再生する	106	再生する (ゾーン2)	121
Windows Media® Player の設定をする	106	再生する (ゾーン3)	123
再生する	107	ゾーン B 再生	124
対応音声フォーマットについて	109	再生する	124
Play Queue	110	便利な機能	125
初期設定	110	PERSONAL PRESET を使う	125
Play Queue 情報の追加	110	トーンを調整する	127
並び替えや削除	111	AV Direct モードを使う	129
再生する	111	スリープタイマー	130
Amazon Music	112		

リスニングモード	131	マニュアルMCACC	177
リスニングモードを選ぶ	131	EQ Professional	183
スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード	134	MCACCデータチェック	184
リスニングモードの効果	137	データ管理	185
入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて	142	ネットワーク/Bluetooth	186
文字を入力する	146	メニュー操作	186
設定する		ネットワーク	187
システム設定	147	Bluetooth	189
メニューリスト	147	AV Adjust	190
メニュー操作	149	メニュー操作	190
入力/出力端子の割り当て	150	Web Setup	193
スピーカー	155	メニュー操作	193
音の設定・調整	161	設定ウィザードでの初期設定	194
入力ソース	162	初期設定を始める	194
ハードウェア	164	困ったときは	
マルチゾーン	172	動作が不安定なときは	199
その他	173	故障かなと思ったら	201
MCACC Pro	175	仕様について	
メニュー操作	175	待機時消費電力を抑えるには	210
フルオートMCACC	176	HDMIについて	211
		主な仕様	213

箱の中身を確認する



1. 本体 (1)
2. リモコン (RC-977R) (1)、乾電池 (単4形、R03) (2)
3. 測定用マイク (1)
 - 初期設定の際に使用します。
4. FM室内アンテナ (1)
5. AM室内アンテナ (1)
6. 電源コード (1)
 - 初期設定ガイド (1)
 - 保証書 (1)
 - * 本書はオンライン版の取扱説明書です。製品には付属していません。
 - スピーカーはインピーダンスが4 ~ 16Ωのものを接続してください。
 - 電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。
 - 他社製品との接続により生じたいかなる損害に対しても、当社では責任を負いかねます。
 - お使いいただけるネットワークサービスやコンテンツは、ファームウェアのアップデートにより新しい機能が追加されたり、サービスプロバイダーのサービス終了などによりご利用できなくなる場合があります。また、お住まいの地域によって利用可能なサービスが異なる場合があります。
 - ファームウェアアップデートの詳細については、弊社ホームページなどでお知らせいたします。
 - 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

新機能の追加 (ファームウェアアップデート) について

本機は、ご購入後にファームウェアの更新があった場合、ネットワーク経由またはUSB経由でファームウェアをアップデートする機能を搭載しています。これにより、さまざまな機能の追加や動作の改善を行うことができます。

また、製品の生産時期によっては、更新されたファームウェアに切り替えることがあり、はじめから新機能が追加されている場合もあります。最新のファームウェアの内容や、お持ちの製品のファームウェアのバージョンを確認する方法などについては次の項をご参照ください。

ファームウェアの更新情報について

最新のファームウェアの更新内容や、ファームウェアバージョンについては、弊社ホームページでご確認ください。お持ちの製品のファームウェアバージョンが、最新のファームウェアバージョンと異なる場合、ファームアップデートを行っていただくことを推奨します。

お持ちの製品のファームウェアを確認するには、リモコンの  ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「その他」-「ファームウェアアップデート」-「バージョン」(→[p174](#)) を参照ください。

追加された新機能の操作等について

取扱説明書に記載されている内容から追加・変更された場合、次の参照先の内容をご覧ください。

[追補情報 ≫](#)

□ ファームウェアアップデートの手順 (→[p7](#))

ファームウェアアップデートの手順

ネットワーク経由またはUSB経由のどちらの方法も、更新には約30分かかります。また、どちらの方法で更新しても設定した内容は保持されます。なお、本機をネットワーク接続している場合、ファームウェアの更新の通知が表示される場合があります。アップデートを行う場合は、リモコンのカーソルボタンで、「アップデートします」を選んでENTERボタンで決定してください。「Completed!」が表示された後に、本機は自動でスタンバイ状態になり、更新が完了します。

免責事項：本プログラムおよび付随するオンラインドキュメンテーションは、お客様の責任においてご使用いただくために提供されます。

弊社は、法理に関わらず、また不法行為や契約から生じるかを問わず、本プログラムまたは付随するオンラインドキュメンテーションの使用に際して生じたいかなる損害および請求に対して責任を負うものではなく、賠償することはありません。弊社は、いかなる場合においても、補償、弁済、損失利益または逸失利益、データの損失その他の理由により生じた損害を含む（ただしこれらに限定されない）、特別損害、間接的損害、付随的又は派生的損害について、お客様または第三者に対して一切の責任を負いません。

ネットワーク経由で更新する

- 更新中は、以下のことを行わないでください。
 - ケーブルやUSBストレージ、測定用マイク、ヘッドホンの抜き差し、電源を切るなど機器の操作
 - PCやスマートフォンのアプリケーションからの本機へのアクセス
- 本機の電源が入っていること、インターネットに接続していることを確認してください。
- ネットワークに接続されたコントロール機器（PCなど）の電源を切ってください。
- 再生中のインターネットラジオ、USBまたは、サーバーなどを止めてください。
- マルチゾーン機能を使用している場合は、機能をオフにしてください。
- 「HDMI CEC」設定を「オン」にしている場合は、「オフ」にしてください。
 - **⏏**を押してホーム画面を表示します。次に「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」を選び、ENTERボタンを押したあと、「HDMI CEC」を選び、「オフ」を選びます。
- * 記載が画面の実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

アップデート

1. **⏏**を押します。
テレビ画面にホーム画面が表示されます。



2. カーソルで「システム設定」-「その他」-「ファームウェアアップデート」-「ネットワーク経由のアップデート」を順に選び、ENTERを押します。



- 「ファームウェアアップデート」がグレー表示されて選べない場合は、起動するまでにしばらく時間がかかります。
 - 更新可能なファームウェアが存在しない場合、「ネットワーク経由のアップデート」は選べません。
3. 「アップデート」が選ばれた状態で、ENTERを押して更新を開始します。
 - 書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、進行状況は本体の表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。
 - 「Completed!」が表示されると、更新完了です。
 4. 本体の **⏏** STANDBY/ONを押して、本機をスタンバイ状態にします。これでアップデートが完了して、最新のファームウェアに更新されました。
 - リモコンの **⏏** は使用しないでください。

エラーが表示されたときは

エラー時は、本体の表示部に「*-* * Error!」と表示されます。(「*」は表示される英数字を表しています。)以下の説明を参照し、確認してください。

エラーコード

- * -01、* -10 :
LANケーブルが認識できません。LANケーブルを正しく接続してください。
- * -02、* -03、* -04、* -05、* -06、* -11、* -13、* -14、* -16、* -17、* -18、* -20、* -21 :
インターネットに接続できません。以下の項目を確認してください。
 - ルーターの電源が入っている
 - 本機とルーターがネットワーク接続されている
 本機およびルーターの電源の抜き差しをお試しください。改善することがあります。それでもインターネットにつながらない場合は、DNSサーバーまたはプロキシサーバーが停止している可能性があります。サーバーの稼働状況をプロバイダにご確認ください。
- その他 :
一度電源プラグを抜いたあとコンセントに差し込み、最初からやり直してください。

USB経由で更新する

- 更新中は、以下のことを行わないでください。
 - ケーブルやUSBストレージ、測定用マイク、ヘッドホンの抜き差し、電源を切るなど機器の操作
 - PCやスマートフォンのアプリケーションからの本機へのアクセス
- 256 MB以上の容量のUSBストレージを準備してください。USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。
 - USBカードリーダーに挿入したメディアは、この機能で使えないことがあります。
 - セキュリティ機能付きのUSBストレージには対応していません。
 - ハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- USBストレージにデータがある場合は消去してください。
- ネットワークに接続されたコントロール機器(PCなど)の電源を切ってください。
- 再生中のインターネットラジオ、USBまたは、サーバーなどを止めてください。
- マルチゾーン機能を使用している場合は、機能をオフにしてください。

- 「HDMI CEC」の設定を「オン」にしている場合は、「オフ」にしてください。
 - **⏪**を押してホーム画面を表示します。次に「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」を選び、ENTERボタンを押したあと、「HDMI CEC」を選び、「オフ」を選びます。
 - * USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合、正しく内容を読み込めない場合、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
 - * USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても、弊社は一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
 - * 記載が画面の実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

アップデート

1. お使いのPCにUSBストレージを接続します。
2. 弊社ホームページからお使いのPCにファームウェアファイルをダウンロードして、解凍します。
ファームウェアには、以下のようなファイル名が付いています。
PIOAVR *****_R****.zip
PC上でこのファイルを解凍してください。機種により、ファイルやフォルダの数は異なります。
3. 解凍したファイルやフォルダをすべてUSBストレージのルートフォルダにコピーします。
 - 必ず解凍したファイルをコピーしてください。
4. USBストレージを本機のUSB端子に接続します。
 - USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
 - USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
5. **⏪**を押します。
テレビ画面にホーム画面が表示されます。



6. カーソルで「システム設定」-「その他」-「ファームウェアアップデート」-「USB経由のアップデート」を順に選び、ENTERを押します。



- 「ファームウェアアップデート」がグレー表示されて選べない場合は、起動するまでにしばらく時間がかかります。
 - 更新可能なファームウェアが存在しない場合、「USB経由のアップデート」は選べません。
7. 「アップデート」が選ばれた状態で、ENTERを押して更新を開始します。
- 書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、進行状況は本体の表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。
 - 更新中は、電源を切ったり、USBストレージを抜き差ししないでください。
 - 「Completed!」が表示されると、更新完了です。
8. 本機からUSBストレージを抜きます。
9. 本体の **⏻** STANDBY/ON を押して、本機をスタンバイ状態にします。これでアップデートが完了して、最新のファームウェアに更新されました。
- リモコンの **⏻** は使用しないでください。

エラーが表示されたときは

エラー時は、本体の表示部に「*-* * Error!」と表示されます。（「*」は表示される英数字を表しています。）以下の説明を参照し、確認してください。

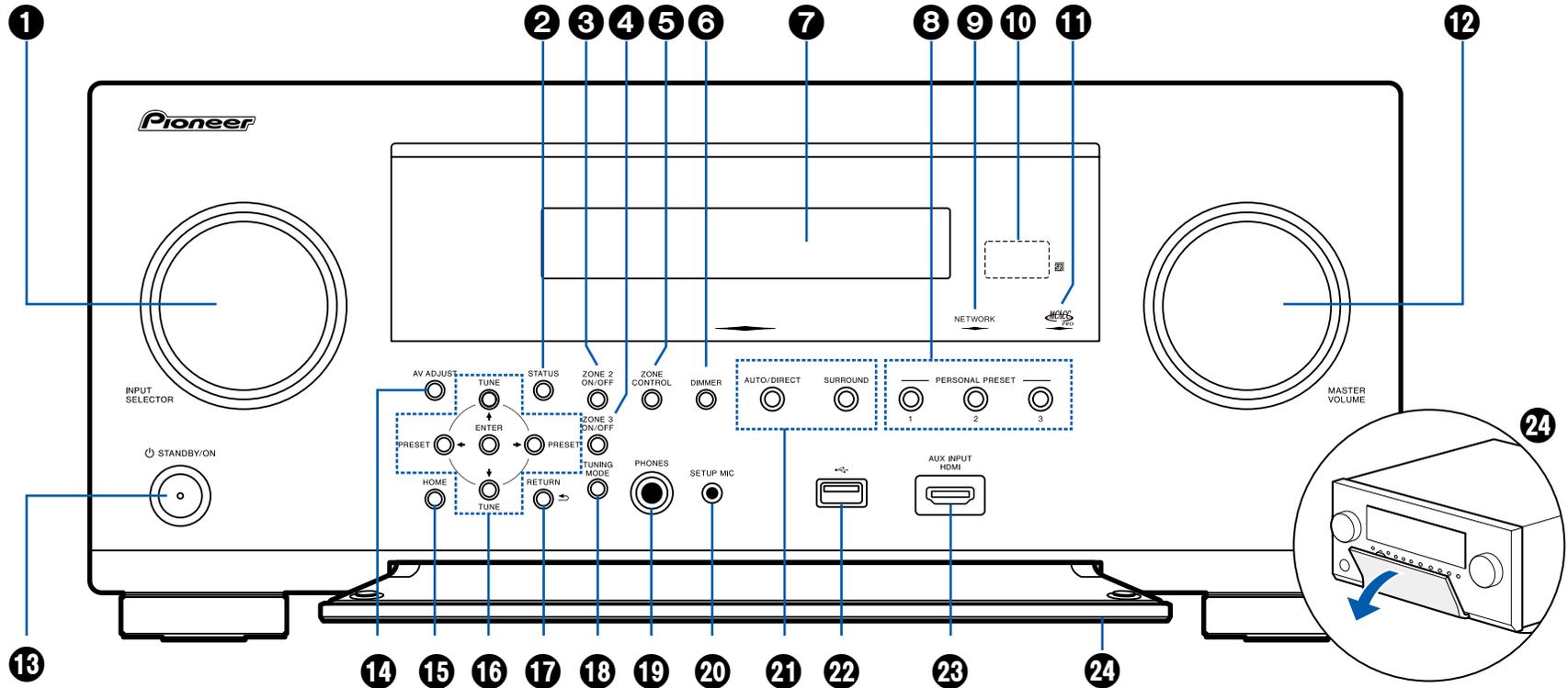
エラーコード

- * -01、* -10 :
USBストレージが認識できません。USBストレージやUSBケーブルが、本機のUSB端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。
USBストレージで外部電源を供給できる製品は、外部電源をご使用ください。
- * -05、* -13、* -20、* -21 :
USBストレージのルートフォルダにファームウェアファイルが存在しない、お使いの機種と異なるファームウェアファイルが使用されている、などが考えられます。再度ファームウェアファイルのダウンロードからやり直してください。

- その他：
一度電源プラグを抜いたあとコンセントに差し込み、最初からやり直してください。

各部の名前

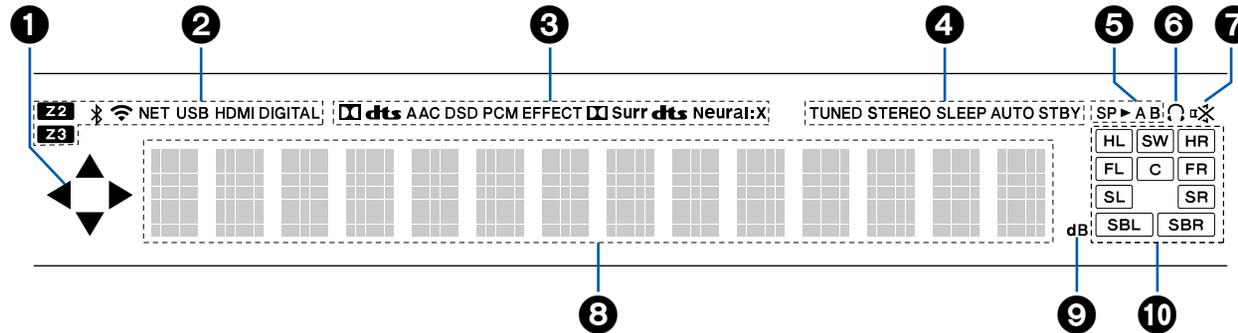
前面パネル



□ 詳細は (→ [p11](#))

1. INPUT SELECTOR ダイヤル: 再生する入力を切り換えます。
2. STATUS ボタン: 表示部の情報を切り換えます。(→[p133](#))
3. ZONE 2 ON/OFF ボタン: ゾーン2をオン/オフします。(→[p121](#))
4. ZONE 3 ON/OFF ボタン: ゾーン3をオン/オフします。(→[p123](#))
5. ZONE CONTROL ボタン: マルチゾーン機能の操作に使用します。(→[p120](#))
6. DIMMER ボタン: 表示部を消灯したり、明るさを3段階で切り換えることができます。
7. 表示部 (→[p12](#))
8. PERSONAL PRESET 1/2/3 ボタン: 現在の入力切替やリスニングモードなどの設定状態を登録したり、呼び出しをします。(→[p125](#))
9. NETWORK インジケータ: 「NET」入力切替でネットワークに接続されているときに点灯します。本機がスタンバイ時に、次のいずれかの機能を有効に設定している場合や、機能が働いている状態のときに点灯します。点灯しているときは、スタンバイ時での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードとなり、消費電力の増加を最小限に抑制しています。ただし、ゾーン2/ゾーン3がオンの場合は点灯しません。
 - HDMI CEC (→[p164](#))
 - HDMI スタンバイスルー (→[p164](#))
 - スタンバイ時のUSB電源供給 (→[p166](#))
 - ネットワークスタンバイ (→[p166](#))
 - Bluetoothによる起動 (→[p166](#))
10. リモコン受光部: リモコンからの信号を受信します。
 - リモコンの受光範囲は距離が約5m、角度は上下20°、左右30°以内です。
11. MCACC PRO インジケータ: MCACC (→[p176、195](#)) で測定したスピーカー補正を有効にしている場合に点灯します。
12. MASTER VOLUME
13. **STANDBY/ON** ボタン: 電源をオンにするとボタンの周辺が点灯します。ゾーン2/ゾーン3をオンにしたときも点灯します。7のDIMMERボタンをくり返し押し、表示部を消灯させた場合は薄く点灯します。
14. AV ADJUST ボタン: 「HDMI」「オーディオ」などの設定を、再生中にテレビの画面ですばやく行うことができます。(→[p190](#))
15. HOME ボタン: ホーム画面を表示します。(→[p149、175、186](#))
16. カーソル (↑/↓/←/→), ENTER ボタン: カーソルで項目を選び、ENTERで決定します。チューナー使用時には選局に使用します。(→[p116](#))
17. RETURN ボタン: 設定中にひとつ前の表示に戻します。
18. TUNING MODE ボタン: 選局モードを切り換えるときに使用します。(→[p116](#))
19. PHONES 端子: 標準プラグ (ø6.3 mm) のヘッドホンを接続します。
20. SETUP MIC 端子: 付属の測定用マイクを接続します。(→[p176、195](#))
21. リスニングモードボタン: リスニングモード (→[p131](#)) を切り換えます。
22. USB 端子: USB ストレージを接続して音楽ファイルを再生します。(→[p103](#))
23. AUX INPUT HDMI 端子: HDMIケーブルを使用して、ビデオカメラなどを接続します。(→[p83](#))
24. フロントドア

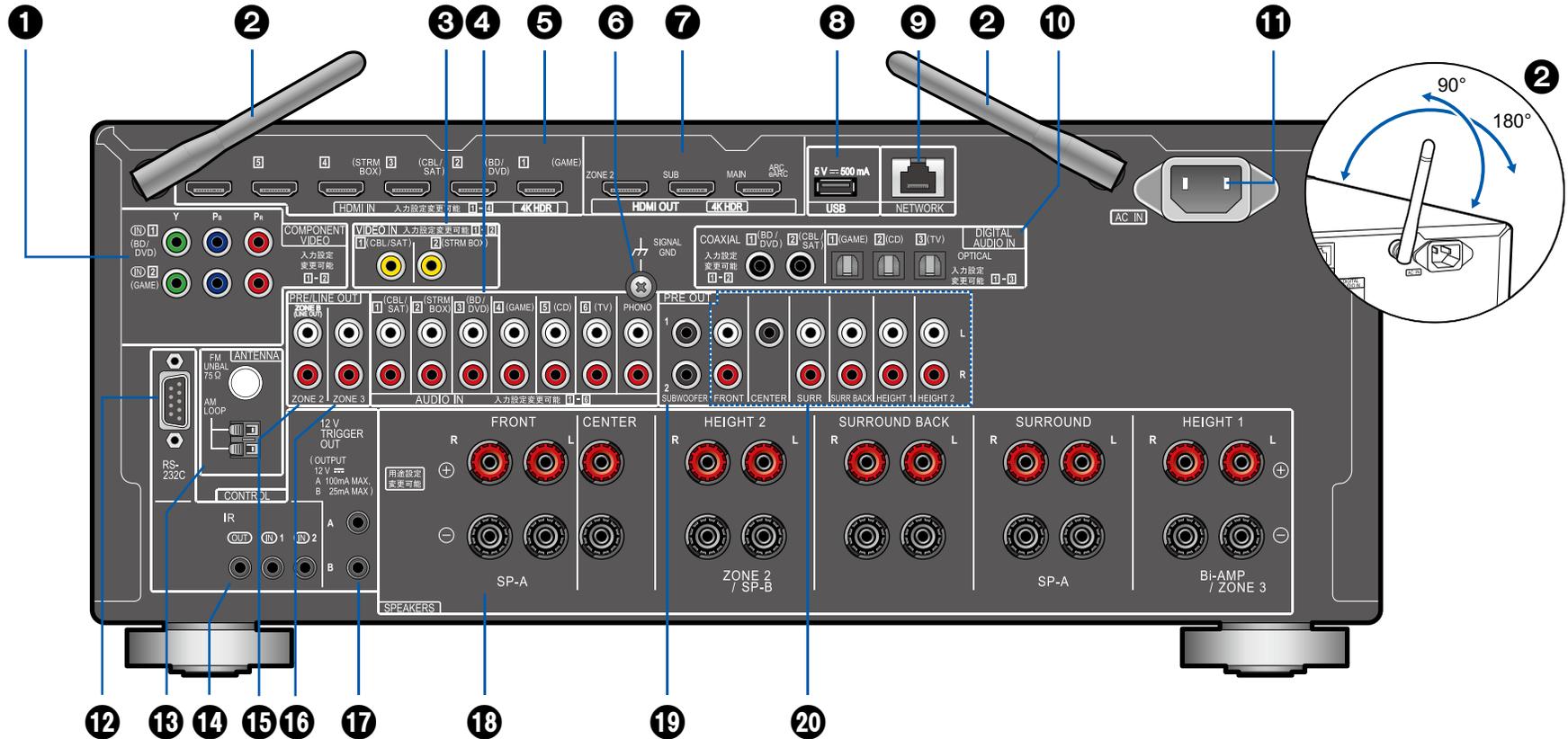
表示部



- カーソル(▲/▼/◀/▶): 「NET」、「USB」入力切換での操作時に点灯すること
があります。
- 次の状態のときに点灯します。
Z2/Z3: ゾーン2/ ゾーン3がオンのとき
*: BLUETOOTH 接続時
Wi-Fi 接続時
NET: 「NET」入力切換でネットワークに接続されているとき。ネットワークに
正しく接続されていないときは点滅します。
USB: 「USB」入力切換でUSBが接続かつ選択されているとき。USBが正しく
接続されていないときは点滅します。
HDMI: HDMI信号が入力かつ選択されているとき
DIGITAL: デジタル信号が入力かつ選択されているとき
- 入力されているデジタル音声信号の種類やリスニングモードに応じて点灯しま
す。
- 次の状態のときに点灯します。
TUNED: AM/FM放送局の受信時
STEREO: FMステレオ局の受信時
SLEEP: スリープタイマーが設定されているとき (→p165)
AUTO STBY: 自動スタンバイが設定されているとき (→p165)
- 音声の出力先を表示します。
SP ▶ A: スピーカーAにのみ音声を出力しているとき
SP ▶ B: スピーカーBにのみ音声を出力しているとき

- SP ▶ A: スピーカーAとスピーカーBに音声を出力しているとき
A: ゾーンAにのみ音声を出力しているとき
B: ゾーンBにのみ音声を出力しているとき
AB: ゾーンAとゾーンBに音声を出力しているとき
- ヘッドホン接続時に点灯します。
- 消音中に点滅します。
- 入力信号のさまざまな情報を表示します。
- 音量の調整時に点灯します。
- スピーカー/チャンネル表示: リスニングモードに対応した出力チャンネルを表
示します。

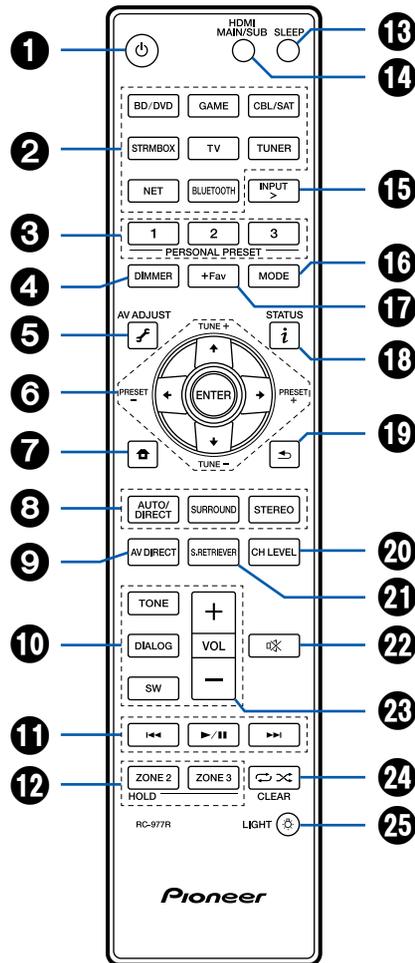
後面パネル



□ 詳細は (→ [p14](#))

1. COMPONENT VIDEO IN 端子: コンポーネントビデオケーブルを使用して、AV 機器の映像信号を入力します。(480iの解像度のみに対応しています。)
2. 無線アンテナ: Wi-Fi接続を行う場合や、BLUETOOTH対応機器をご使用の場合に使用します。接続状況に応じて、アンテナの角度を調整してください。
3. VIDEO IN 端子: ビデオ用ピンケーブルを使用して、AV 機器の映像信号を入力します。
4. AUDIO IN 端子: オーディオ用ピンケーブルを使用して、AV 機器の音声信号を入力します。
5. HDMI IN 端子: HDMIケーブルを使用してAV 機器と接続し、映像信号や音声信号を伝送します。
6. SIGNAL GND 端子: レコードプレーヤーのアース線を接続します。
7. HDMI OUT 端子: HDMIケーブルを使用してテレビやプロジェクターなどのモニターと接続し、映像信号や音声信号を伝送します。
8. USB 端子: USBストレージを接続して音楽ファイルを再生します。(→[p103](#)) USBケーブルを使用して、USB機器への電源供給(5 V/0.5 A)も可能です。
9. NETWORK 端子: LANケーブルを使用して、ネットワークに接続します。
10. DIGITAL AUDIO IN OPTICAL/COAXIAL 端子: 光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブルを使用して、テレビやAV機器のデジタル音声信号を入力します。
11. AC IN : 付属の電源コードを接続します。
12. RS-232C 端子: RS-232C 端子を装備したホームコントロールシステムを接続する端子です。ホームコントロールシステムの導入については、専門の販売店にお問い合わせください。
13. ANTENNA AM LOOP/FM UNBAL 75 Ω 端子: 付属のアンテナを接続します。
14. IR IN/OUT 端子: リモートコントロールレシーバーユニットに接続する端子です。(→[p90](#))
15. ZONE 2 PRE/LINE OUT 端子: オーディオ用ピンケーブルを使用して、別室(ゾーン2)のプリメインアンプやパワーアンプと接続し、音声信号を出力します。
ZONE B LINE OUT 端子: オーディオ用ピンケーブルを使用して、プリメインアンプと接続し、本機に接続したスピーカー(ゾーンA)と同じソースの音声を同時に出力します。
16. ZONE 3 PRE/LINE OUT 端子: オーディオ用ピンケーブルを使用して、別室(ゾーン3)のプリメインアンプやパワーアンプと接続し、音声信号を出力します。
17. 12V TRIGGER OUT A/B 端子: 12Vトリガー入力端子を持つ機器と接続し、その機器と本機を電源連動させる端子です。(→[p91](#))
18. SPEAKERS 端子: スピーカーケーブルを使用して、スピーカーを接続します。(バナナプラグに対応しています。直径が4 mmのプラグをお使いください。Yプラグの接続には対応しておりません。)
19. SUBWOOFER PRE OUT 端子: サブウーファーケーブルを使用して、アンプ内蔵サブウーファーを接続します。アンプ内蔵サブウーファーは2台まで接続可能です。2台のアンプ内蔵サブウーファーの音量レベルなどは、個別に設定できます。(→[p160](#))
20. PRE OUT 端子: パワーアンプを接続します。(→[p74](#))

リモコン



1. **⏻** STANDBY/ON ボタン
2. 入力切替ボタン: 再生する入力を切り換えます。
3. PERSONAL PRESET 1/2/3 ボタン: 現在の入力切替やリスニングモードなどの設定状態を登録したり、呼び出しをします。(→[p125](#))
4. DIMMER ボタン: 表示部を消灯したり、明るさを3段階で切り換えることができます。
5. **f** (AV ADJUST) ボタン: 「HDMI」「オーディオ」などの設定を、再生中にテレビの画面ですばやく行うことができます。(→[p190](#))
6. カーソル、ENTER ボタン: カーソルで項目を選び、ENTER で決定します。← / → ボタンは、テレビの画面で音楽フォルダやファイルなどのリストが一画面で表示されない場合に、画面を切り換えることができます。
7. **🏠** ボタン: ホーム画面を表示します。(→[p149](#)、[175](#)、[186](#))
8. リスニングモードボタン: リスニングモード(→[p131](#))を選びます。
9. AV DIRECT ボタン: デジタル回路で発生するノイズを抑えて音質を向上させることができます。(→[p129](#))
10. TONE/DIALOG/SW ボタン: スピーカーの音質やサブウーファーのレベルを調整することができます。(→[p127](#))
11. 再生操作ボタン: Music Server(→[p106](#))やUSB再生(→[p103](#))の再生操作に使用します。また、16のMODEボタンで「CEC MODE」に切り換えると、HDMI CEC機能が有効なAV機器を操作することができます。(機器によっては操作できない場合があります。)
12. ZONE 2/ZONE 3 ボタン: マルチゾーン機能(→[p120](#))の操作に使用します。
13. SLEEP ボタン: スリープタイマーを設定します。「30 min」、「60 min」、「90 min」から選びます。(→[p130](#))
14. HDMI MAIN/SUB ボタン: 映像信号を出力するHDMI OUT端子を「MAIN」、「SUB」、「MAIN+SUB」から選びます。
15. INPUT > ボタン: 再生する入力を切り換えます。
16. MODE ボタン: AM/FM放送局の自動選局/手動選局(→[p116](#))の切り換えに使用します。また、本機にHDMI CEC機能が有効なAV機器を接続している場合、11の再生操作ボタンを「CEC MODE」または「RCV MODE」(通常モード)に切り換えることができます。
17. +Fav ボタン: AM/FM放送局を登録するときに使用します。(→[p118](#))
18. **i** (STATUS) ボタン: 表示部の情報を切り換えます。
19. **↶** ボタン: 設定中にひとつ前の表示に戻します。

20. CH LEVEL ボタン: 各スピーカーの音量レベル (→[p159](#)) の設定を確認できます。6 のカーソル◀/▶ボタンで設定を変更することもできます。
21. S.RETRIEVER ボタン: サウンドレトリバー (→[p191](#)) を有効にし、圧縮された音声をより良い音質にします。
22. ㊦ ボタン: 一時的に消音します。もう一度押すと消音状態を解除できます。
23. ボリュームボタン
24. ㊦ ㊧ ボタン: Music Server や USB 再生時にリピート / ランダム再生の操作ができます。
CLEAR ボタン: テレビ 画面での文字入力時に、入力した文字をすべて消去します。
25. ㊦ (LIGHT) ボタン: リモコンのバックライトをオン / オフします。また、オンにしたのち操作をせずに 10 秒経つと自動で消灯します。

接続する

スピーカーを接続する	18
テレビを接続する	77
再生機器を接続する	80
別室のAV機器と接続する(マルチゾーン接続)	84
ゾーンBに接続する	87
アンテナを接続する	88
ネットワークに接続する	89
外部のコントロール機器を接続する	90
電源コードを接続する	92

スピーカーを接続する

本機は、設置するスピーカーのレイアウトを、さまざまなパターンの中から選ぶことができます。お持ちのスピーカーやご使用環境に応じて、以下のフローチャートでスピーカーレイアウトを選んで、接続方法や初期設定の内容をご確認いただくこともできます。

ハイトスピーカーを使用しますか？

はい

■ ハイトスピーカーを1組使用する場合

- 5.1.2チャンネルシステム (→[p62](#))
- 5.1.2チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (→[p63](#))
- 5.1.2チャンネルシステム + スピーカー B (→[p64](#))
- 5.1.2チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) (→[p65](#))
- 7.1.2チャンネルシステム (→[p66](#))
- 7.1.2チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (→[p67](#))
- 7.1.2チャンネルシステム + スピーカー B (→[p68](#))
- 7.1.2チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) (→[p69](#))

■ ハイトスピーカーを2組使用する場合

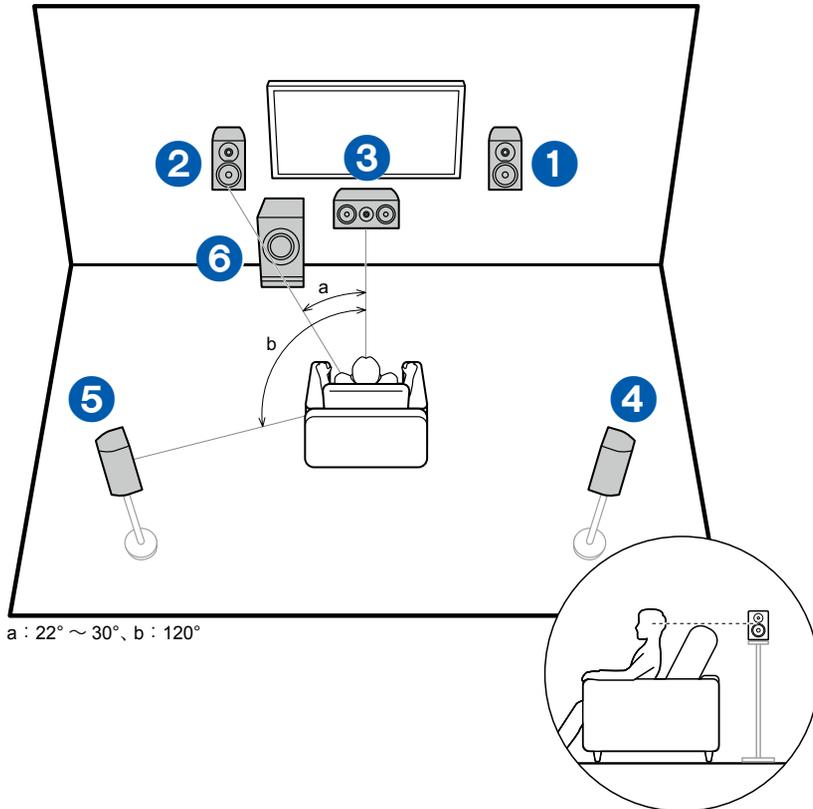
- 5.1.4チャンネルシステム (→[p70](#))
- 5.1.4チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (→[p71](#))
- 5.1.4チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) (→[p72](#))
- 7.1.4チャンネルシステム (→[p73](#))

いいえ

- 5.1チャンネルシステム (→[p47](#))
- 5.1チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (→[p48](#))
- 5.1チャンネルシステム + スピーカー B (→[p49](#))
- 5.1チャンネルシステム + スピーカー B (バイアンプ対応スピーカー) (→[p50](#))
- 5.1チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) (→[p51](#)、[52](#)、[53](#))
- 5.1チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) + ゾーンスピーカー (→[p54](#))
- 7.1チャンネルシステム (→[p55](#))
- 7.1チャンネルシステム + ゾーンスピーカー (→[p56](#)、[57](#))
- 7.1チャンネルシステム + スピーカー B (→[p58](#))
- 7.1チャンネルシステム + スピーカー B (バイアンプ対応スピーカー) (→[p59](#))
- 7.1チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) (→[p60](#))
- 7.1チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) + ゾーンスピーカー (→[p61](#))

スピーカーを設置する

■ 5.1 チャンネルシステム



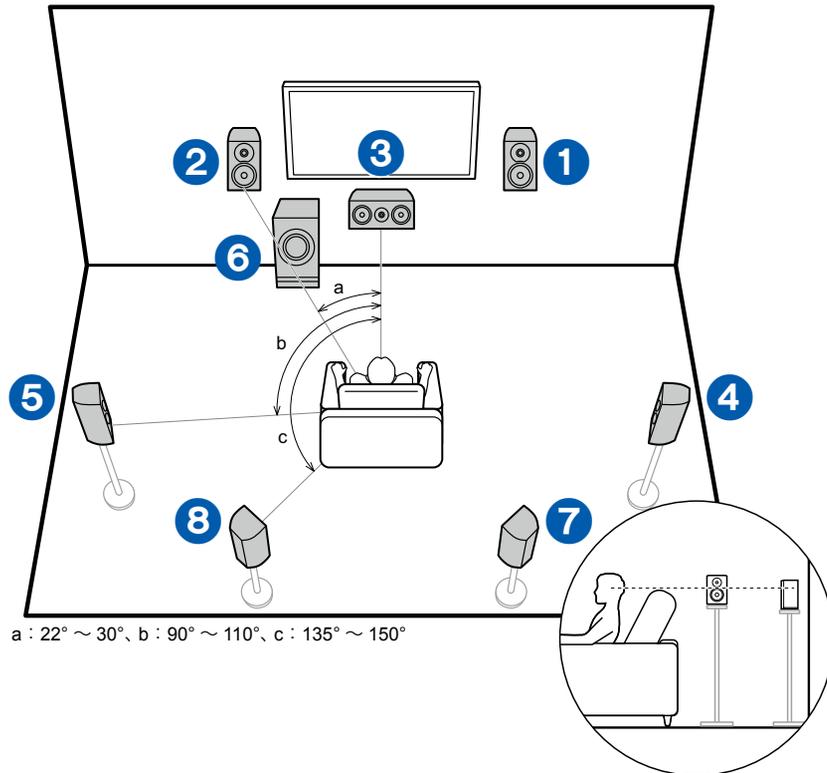
基本となる5.1チャンネルシステムです。フロントスピーカーは前方のステレオ音声、センタースピーカーはセリフやボーカルなど画面中央の音声を出します。サラウンドスピーカーは後方音場を創出します。アンプ内蔵サブウーファーは重低音を再生し、音場の密度感を高めます。

フロントスピーカーは耳の高さに、サラウンドスピーカーは耳の高さのちょうど上に設置するのが理想です。センタースピーカーは視聴者に向くよう角度をつけて設置します。アンプ内蔵サブウーファーは、センタースピーカーとフロントスピーカーの間に設置すると、音楽ソースでも自然に再生できます。

- 1, 2 フロントスピーカー
- 3 センタースピーカー
- 4, 5 サラウンドスピーカー
- 6 アンプ内蔵サブウーファー

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→ [p134](#))

■ 7.1 チャンネルシステム



基本となる5.1チャンネルシステム(→p19)にサラウンドバックスピーカーを加えた7.1チャンネルシステムです。フロントスピーカーは前方のステレオ音声を、センタースピーカーはセリフやボーカルなど画面中央の音声を出力します。サラウンドスピーカーは後方音場を創出します。アンプ内蔵サブウーファーは重低音を再生し、音場の密度感を高めます。サラウンドバックスピーカーは、後方音場の包囲感や音のつながりを向上させ、よりリアルな音場を創出します。フロントスピーカーは耳の高さに、サラウンドスピーカーは耳の高さのちょうど上に設置するのが理想です。センタースピーカーは視聴者に向くよう角度をつけて設置します。アンプ内蔵サブウーファーは、センタースピーカーとフロントスピーカーの間に設置すると、音楽ソースでも自然に再生できます。サラウンドバックスピーカーは耳の高さに設置するのが理想です。

- ・ サラウンドバックスピーカーを設置する場合、サラウンドスピーカーの設置は必須です。

- 1, 2 フロントスピーカー
- 3 センタースピーカー
- 4, 5 サラウンドスピーカー
- 6 アンプ内蔵サブウーファー
- 7, 8 サラウンドバックスピーカー

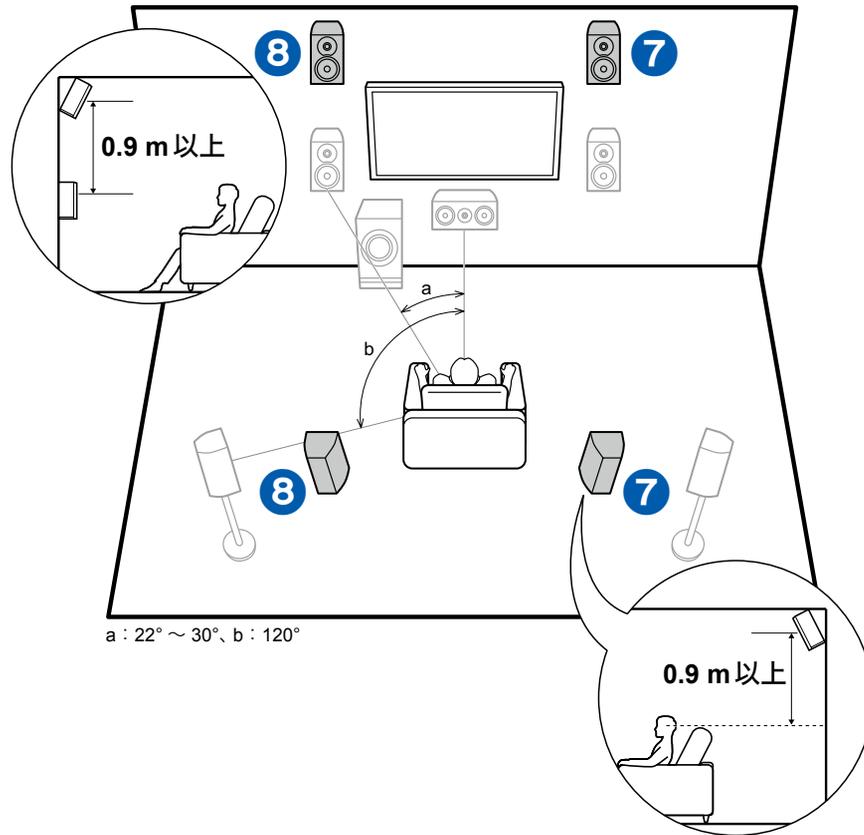
□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→p134)

■ 5.1.2 チャンネルシステム

5.1.2チャンネルシステムは、基本となる5.1チャンネルシステム(→p19)に、ハイトスピーカーを組み合わせたスピーカーレイアウトです。ハイトスピーカーはお手持ちのスピーカーや使用環境に応じて、以下の3種類から選択できます。

- フロントハイスピーカー / リアハイスピーカーを使用した場合の設置例(→p22)
- 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例(→p23)
- Dolby Enabledスピーカー(Dolby Speakers)を使用した場合の設置例(→p24)

□ フロントハイスピーカー/リアハイスピーカーを使用した場合の設置例



フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される基本の5.1チャンネルシステム(→p19)にハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイスピーカー(前方)またはリアハイスピーカー(後方)を加えたシステムです。このハイトスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。フロントハイスピーカー(前方)またはリアハイスピーカー(後方)はフロントスピーカーの少なくとも0.9 m 以上高く設置します。

フロントハイスピーカー(前方)はフロントスピーカーの真上に設置し、リアハイスピーカー(後方)の左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせます。どちらの場合も、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

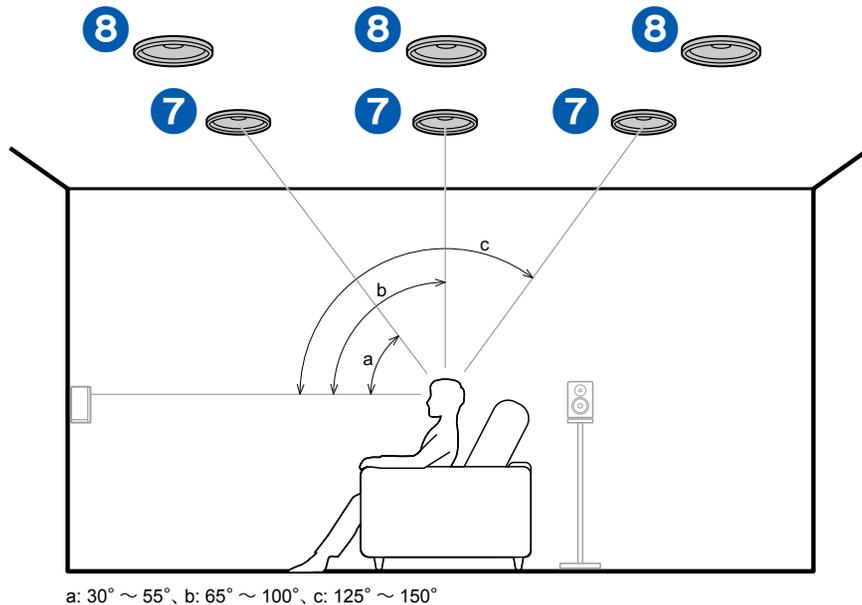
7, 8 ハイトスピーカー

いずれか1つを選びます：

- フロントハイスピーカー(前方)
- リアハイスピーカー(後方)

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→p134)

□ 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例



フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される基本の5.1チャンネルシステム(→p19)にハイトスピーカーのタイプのひとつであるトップフロントスピーカー(前方)またはトップミドルスピーカー(真上)またはトップリアスピーカー(後方)を加えたシステムです。このハイトスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。トップフロントスピーカー(前方)は視聴位置から前方の天井に、トップミドルスピーカー(真上)は視聴位置の真上の天井に、トップリアスピーカー(後方)は、視聴位置から後方の天井に取り付けます。それぞれ、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

- ドルビーラボラトリーズは Dolby Atmos の効果を最大に高める設置として、このタイプのハイトスピーカーの設置を推奨しています。

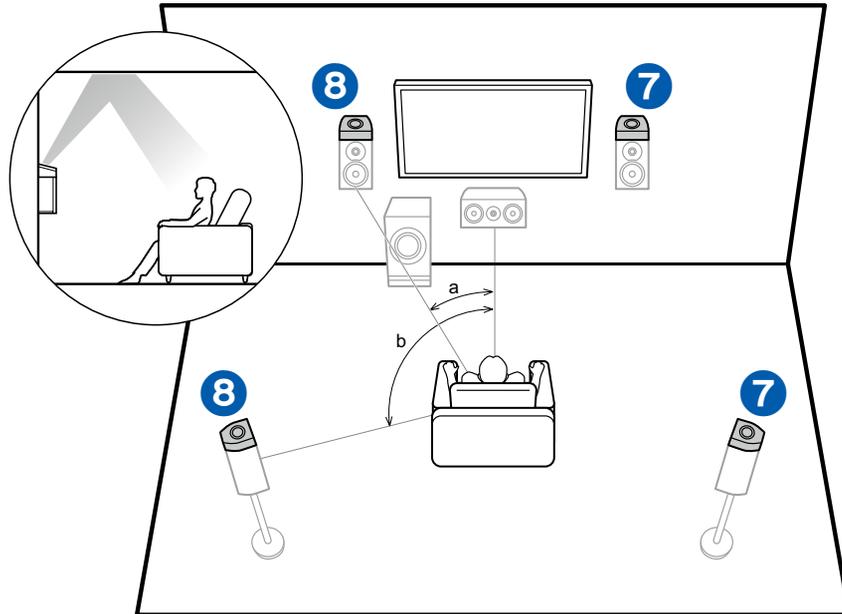
7, 8 ハイトスピーカー

いずれか1つを選びます：

- トップフロントスピーカー(前方)
- トップミドルスピーカー(真上)
- トップリアスピーカー(後方)

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→p134)

□ Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speakers) を使用した場合の設置例



a : 22° ~ 30°, b : 120°

フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される基本の5.1チャンネルシステム(→p19)にハイトスピーカーのタイプのひとつであるDolby Enabledスピーカー(フロント)またはDolby Enabledスピーカー(サラウンド)を加えたシステムです。Dolby Enabledスピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。このハイトスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。それぞれ、フロントスピーカーまたはサラウンドスピーカーの上に設置します。

7, 8 ハイトスピーカー

いずれか1つを選びます：

- Dolby Enabledスピーカー(フロント)
- Dolby Enabledスピーカー(サラウンド)

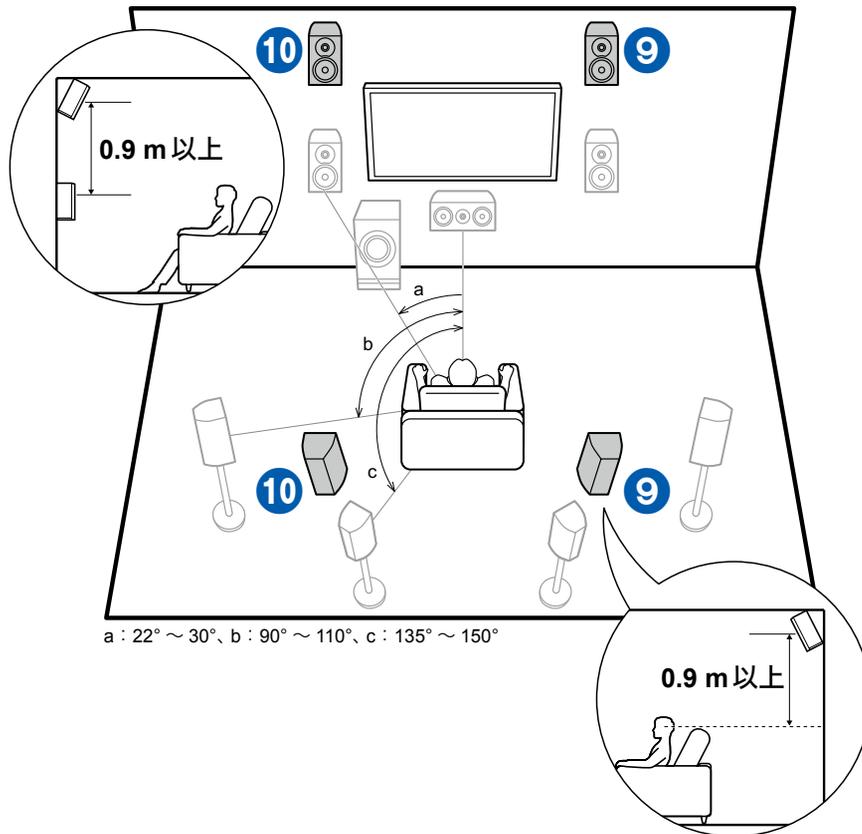
□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→p134)

■ 7.1.2 チャンネルシステム

7.1.2チャンネルシステムは、7.1チャンネルシステム(→[p20](#))に、ハイトスピーカーを組み合わせたスピーカーレイアウトです。ハイトスピーカーはお手持ちのスピーカーや使用環境に応じて、以下の3種類から選択できます。

- フロントハイトスピーカー / リアハイトスピーカーを使用した場合の設置例(→[p26](#))
- 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例(→[p27](#))
- Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speakers) を使用した場合の設置例(→[p28](#))

□ フロントハイスピーカー/リアハイスピーカーを使用した場合の設置例



フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される7.1チャンネルシステム（→p20）にハイスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイスピーカー（前方）またはリアハイスピーカー（後方）を加えたシステムです。このハイスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。フロントハイスピーカー（前方）またはリアハイスピーカー（後方）はフロントスピーカーの少なくとも0.9 m 以上高く設置します。フロントハイスピーカー（前方）はフロントスピーカーの真上に設置し、リアハイスピーカー（後方）の左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせます。どちらの場合も、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

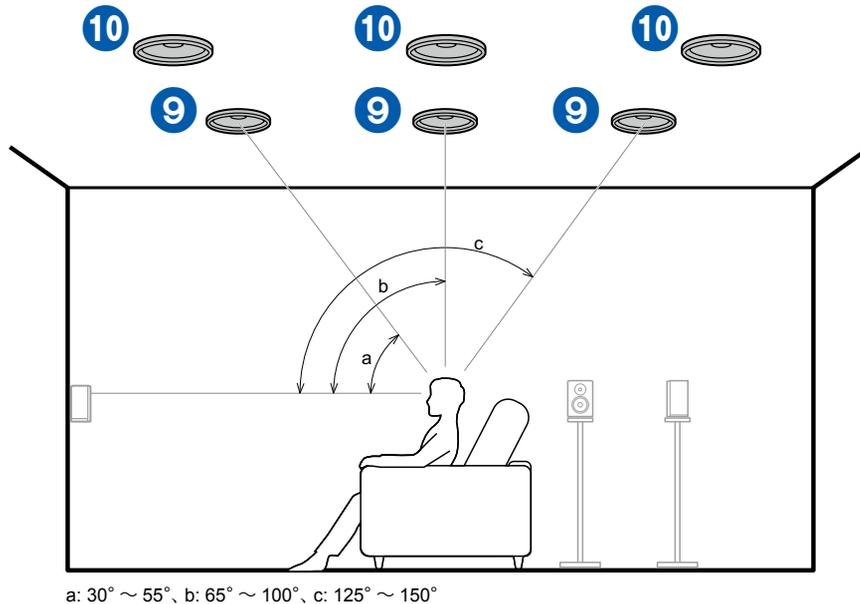
9, 10 ハイスピーカー

いずれか1つを選びます：

- フロントハイスピーカー（前方）
- リアハイスピーカー（後方）

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード（→p134）

□ 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例



フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される7.1チャンネルシステム(→p20)にハイトスピーカーのタイプのひとつであるトップフロントスピーカー(前方)またはトップミドルスピーカー(真上)またはトップリアスピーカー(後方)を加えたシステムです。このハイトスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。トップフロントスピーカー(前方)は視聴位置から前方の天井に、トップミドルスピーカー(真上)は視聴位置の真上の天井に、トップリアスピーカー(後方)は、視聴位置から後方の天井に取り付けます。それぞれ、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

- ドルビーラボラトリーズは Dolby Atmos の効果を最大に高める設置として、このタイプのハイトスピーカーの設置を推奨しています。

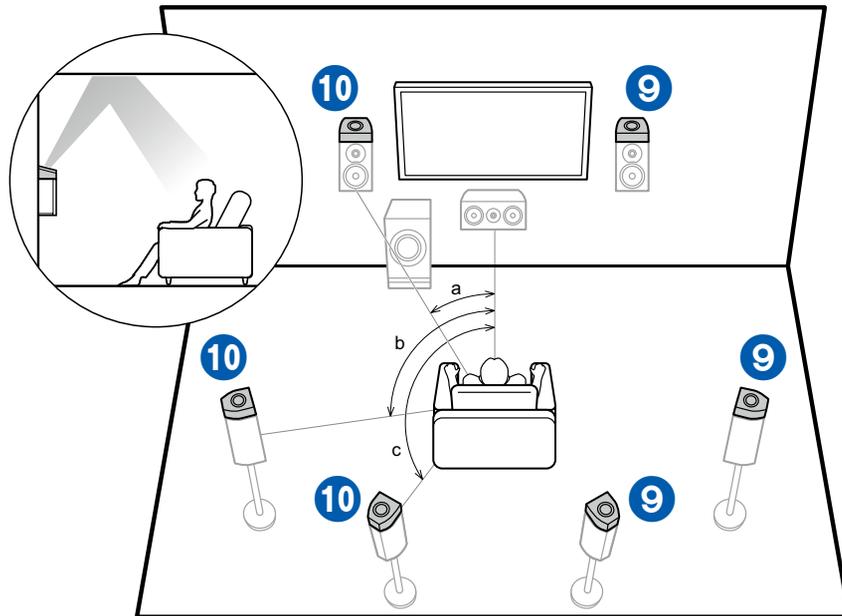
9, 10 ハイトスピーカー

いずれか1つを選びます：

- トップフロントスピーカー(前方)
- トップミドルスピーカー(真上)
- トップリアスピーカー(後方)

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→p134)

□ Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speakers) を使用した場合の設置例



a : 22° ~ 30°, b : 90° ~ 110°, c : 135° ~ 150°

フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される7.1チャンネルシステム (→p20) にハイトスピーカーのタイプのひとつである Dolby Enabled スピーカー (フロント)、Dolby Enabled スピーカー (サラウンド) または Dolby Enabled スピーカー (サラウンドバック) を加えたシステムです。Dolby Enabled スピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。このハイトスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。それぞれ、フロントスピーカー、サラウンドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーの上に設置します。

9, 10 ハイトスピーカー

いずれか1つを選びます：

- Dolby Enabledスピーカー (フロント)
- Dolby Enabledスピーカー (サラウンド)
- Dolby Enabledスピーカー (サラウンドバック)

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→p134)

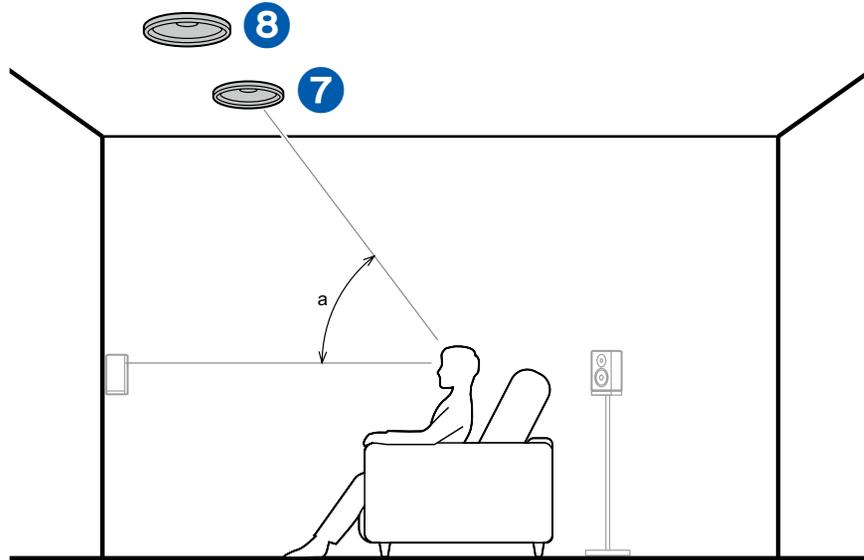
■ 5.1.4 チャンネルシステム

5.1.4チャンネルシステムは、基本となる5.1チャンネルシステム(→[p19](#))に、前方に左右1組、後方に左右1組、計2組のハイトスピーカーを組み合わせたスピーカーレイアウトです。ハイトスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。2組のハイトスピーカーの組み合わせは、以下の中から選択できます。

- 前方にトップフロントスピーカーを使用した場合の組み合わせ例(→[p30](#))
- 前方にトップミドルスピーカーを使用した場合の組み合わせ例(→[p32](#))
- 前方にフロントハイスピーカーを使用した場合の組み合わせ例(→[p33](#))
- 前方にDolby Enabledスピーカー(フロント)を使用した場合の組み合わせ例(→[p35](#))

□ 前方にトップフロントスピーカーを使用した場合の組み合わせ例

トップフロントスピーカーについて

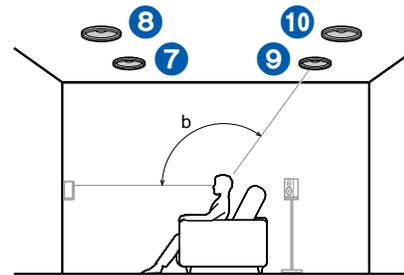


a : 30° ~ 55°

トップフロントスピーカーは視聴位置から前方の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。前方にトップフロントスピーカーを使用した場合は、後方に使用できるハイトスピーカーは、右記の組み合わせ例1～組み合わせ例3までの3通りから選択することができます。

7, 8 トップフロントスピーカー

(組み合わせ例1) 後方にトップリアスピーカーを使用する

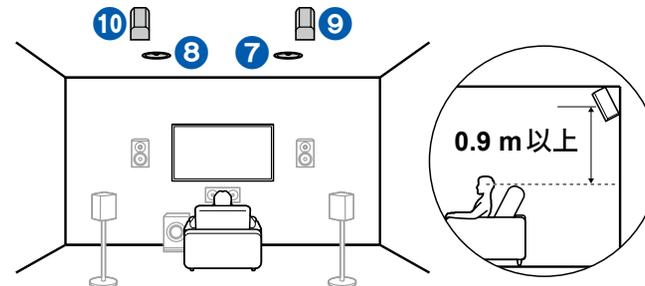


b : 125° ~ 150°

トップリアスピーカーは視聴位置から後方の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

9, 10 トップリアスピーカー

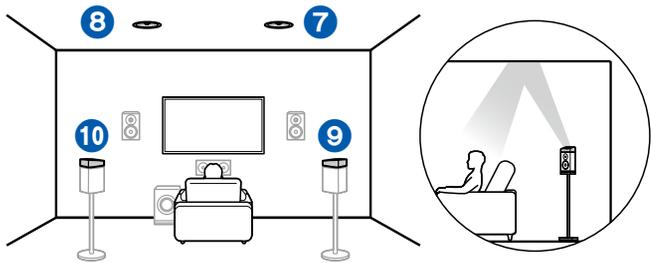
(組み合わせ例2) 後方にリアハイスピーカーを使用する



リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせ、フロントスピーカーの少なくとも0.9 m以上高く設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

9, 10 リアハイスピーカー

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→p134)

(組み合わせ例3) 後方に Dolby Enabled スピーカー (サラウンド) を使用する

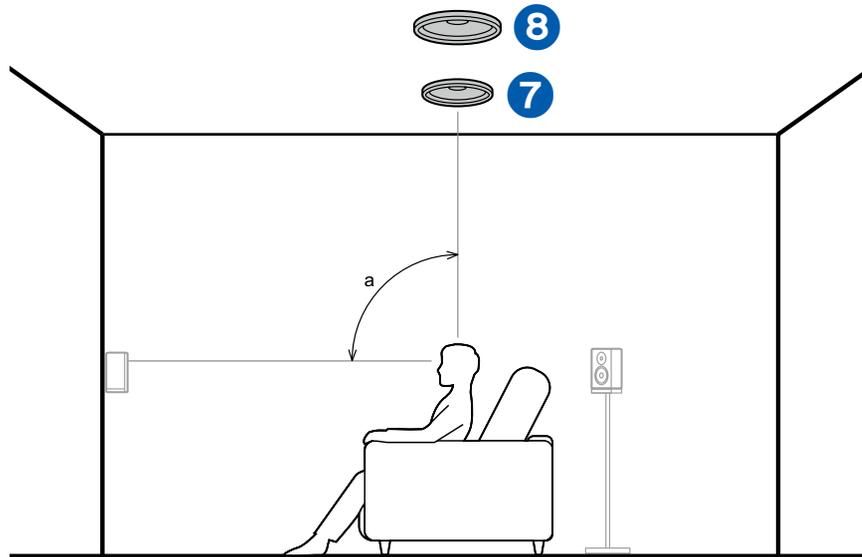
Dolby Enabled スピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。
Dolby Enabled スピーカー (サラウンド) はサラウンドスピーカーの上に設置しません。

9, 10 Dolby Enabled スピーカー (サラウンド)

□ **スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→[p134](#))**

□ 前方にトップミドルスピーカーを使用した場合の組み合わせ例

トップミドルスピーカーについて

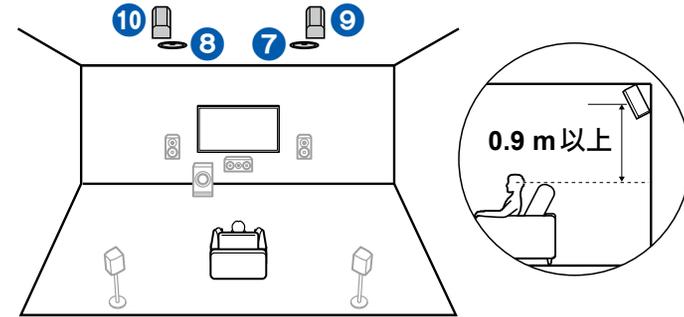


a : 65° ~ 100°

トップミドルスピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。前方にトップミドルスピーカーを使用した場合は、後方に右記のリアハイスピーカーを使用することができます。

7, 8 トップミドルスピーカー

後方にリアハイスピーカーを使用する



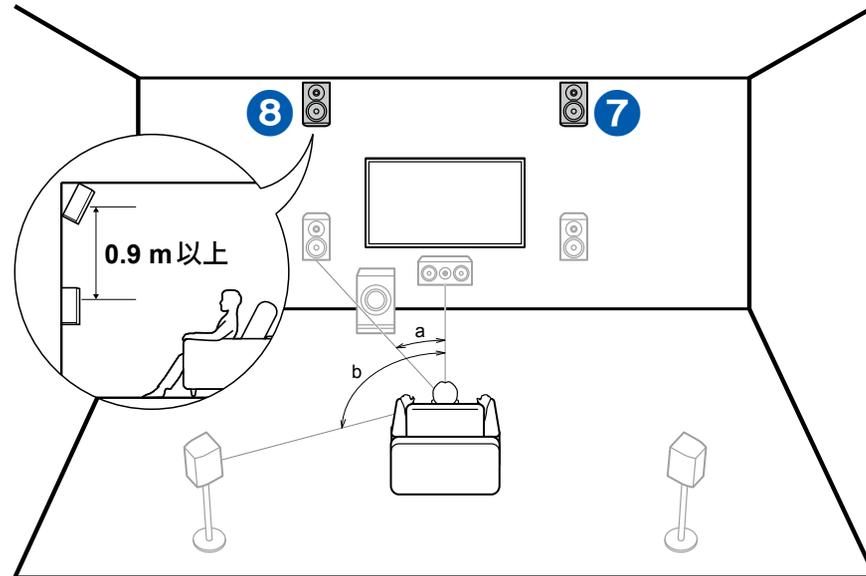
リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせ、フロントスピーカーの少なくとも0.9 m以上高く設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

9, 10 リアハイスピーカー

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→p134)

□ 前方にフロントハイスピーカーを使用した場合の組み合わせ例

フロントハイスピーカーについて

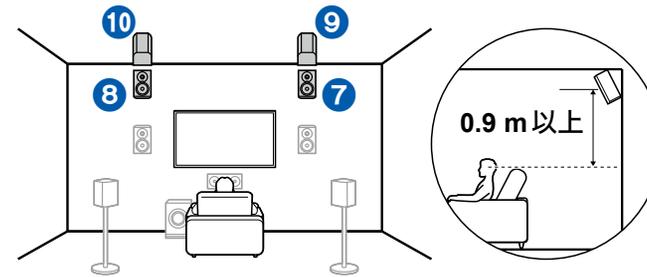


a: 22° ~ 30°、b: 120°

フロントハイスピーカーはフロントスピーカーの真上に少なくとも0.9 m以上高く設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。前方にフロントハイスピーカーを使用した場合は、後方に使用できるハイスピーカーは、右記の組み合わせ例1～組み合わせ例4までの4通りから選択することができます。

7, 8 フロントハイスピーカー

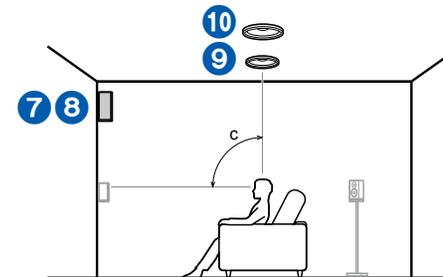
(組み合わせ例1) 後方にリアハイスピーカーを使用する



リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせ、フロントスピーカーの少なくとも0.9 m以上高く設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

9, 10 リアハイスピーカー

(組み合わせ例2) 後方にトップミドルスピーカーを使用する



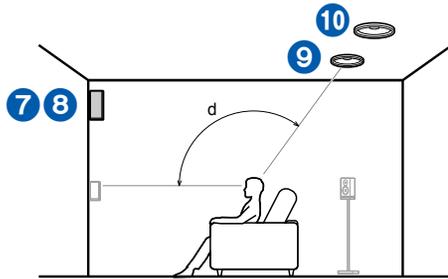
c: 65° ~ 100°

トップミドルスピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

9, 10 トップミドルスピーカー

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→p134)

(組み合わせ例3) 後方にトップリアスピーカーを使用する

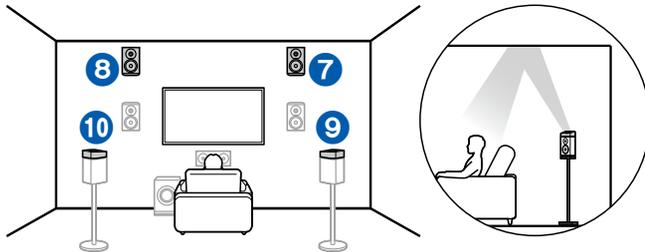


d: 125° ~ 150°

トップリアスピーカーは視聴位置から後方の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

9, 10 トップリアスピーカー

(組み合わせ例4) 後方にDolby Enabledスピーカー(サラウンド)を使用する



Dolby Enabledスピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。

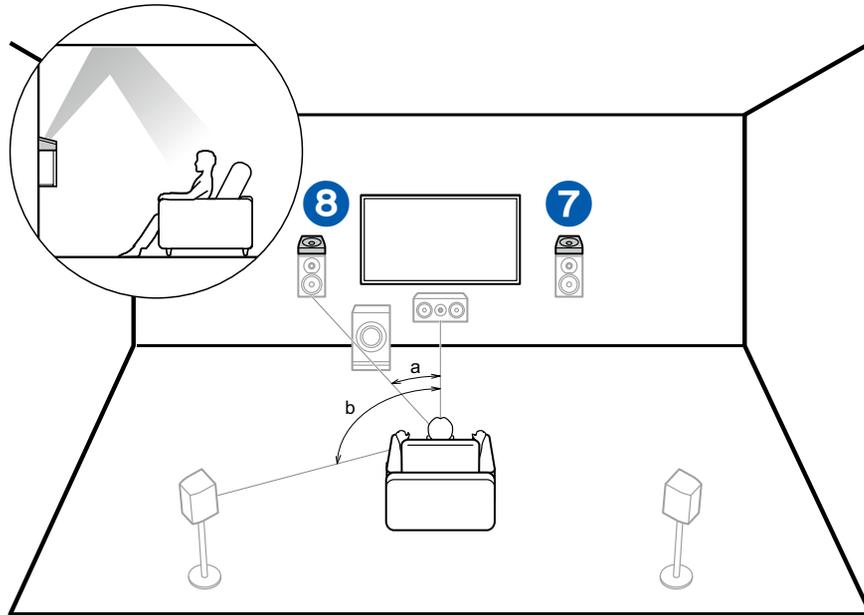
Dolby Enabledスピーカー(サラウンド)はサラウンドスピーカーの上に設置します。

9, 10 Dolby Enabledスピーカー(サラウンド)

□ **スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード** (→ [p134](#))

□ 前方に Dolby Enabled スピーカー（フロント）を使用した場合の組み合わせ例

Dolby Enabled スピーカー（フロント）について

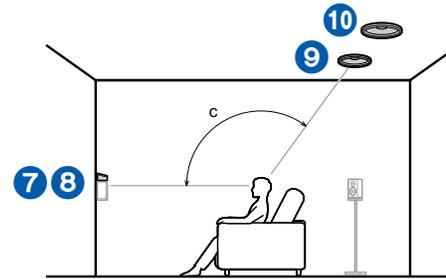


a: 22° ~ 30°、b: 120°

Dolby Enabled スピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。Dolby Enabled スピーカー（フロント）はフロントスピーカーの上に設置します。前方に Dolby Enabled スピーカー（フロント）を使用した場合は、後方に使用できるハイトスピーカーは、右記の組み合わせ例 1 ~ 組み合わせ例 3 までの 3 通りから選択することができます。

7, 8 Dolby Enabled スピーカー（フロント）

（組み合わせ例 1）後方にトッリアスピーカーを使用する

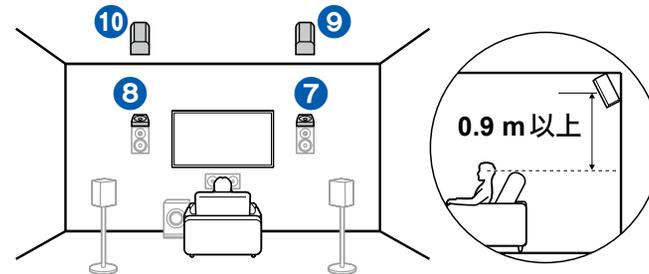


c: 125° ~ 150°

トッリアスピーカーは視聴位置から後方の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

9, 10 トッリアスピーカー

（組み合わせ例 2）後方にリアハイスピーカーを使用する

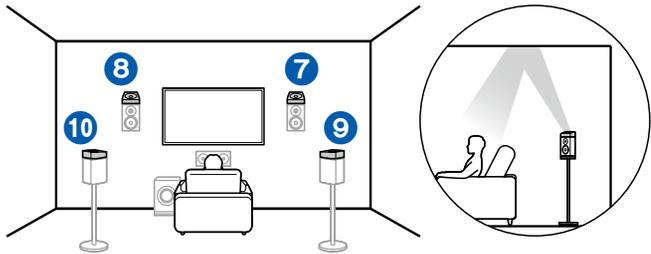


リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせ、フロントスピーカーの少なくとも 0.9 m 以上高く設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

9, 10 リアハイスピーカー

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→p134)

(組み合わせ例3) 後方に Dolby Enabled スピーカー (サラウンド) を使用する



Dolby Enabled スピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。Dolby Enabled スピーカー (サラウンド) はサラウンドスピーカーの上に設置します。

9, 10 Dolby Enabled スピーカー (サラウンド)

□ **スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→[p134](#))**

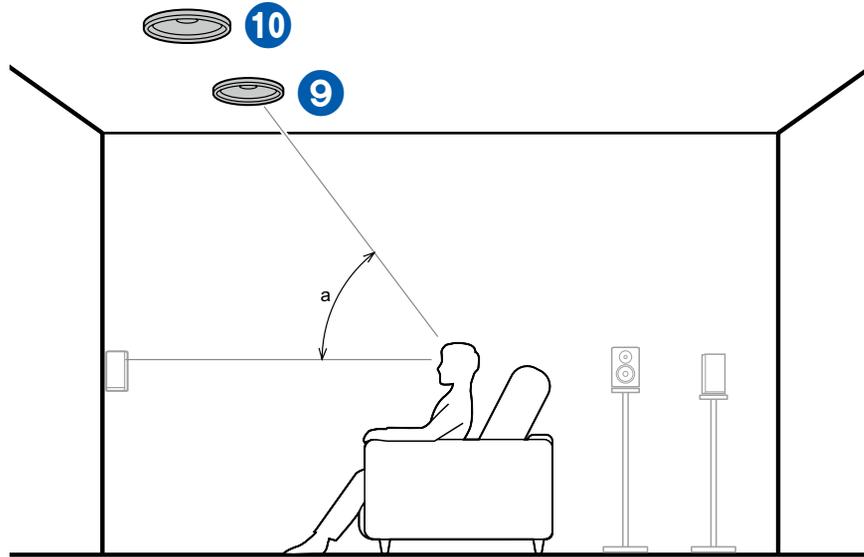
■ 7.1.4 チャンネルシステム

7.1.4チャンネルシステムは、基本となる7.1チャンネルシステム(→[p20](#))に、前方に左右1組、後方に左右1組、計2組のハイトスピーカーを組み合わせたスピーカーレイアウトです。ハイトスピーカーの設置により、上方の音場感を充実させることができます。2組のハイトスピーカーの組み合わせは、以下の中から選択できます。

- 前方にトップフロントスピーカーを使用した場合の組み合わせ例(→[p38](#))
- 前方にトップミドルスピーカーを使用した場合の組み合わせ例(→[p40](#))
- 前方にフロントハイスピーカーを使用した場合の組み合わせ例(→[p41](#))
- 前方にDolby Enabledスピーカー(フロント)を使用した場合の組み合わせ例(→[p43](#))

□ 前方にトップフロントスピーカーを使用した場合の組み合わせ例

トップフロントスピーカーについて

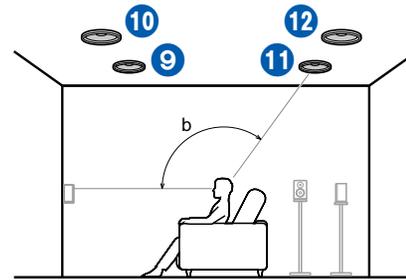


a: 30° ~ 55°

トップフロントスピーカーは視聴位置から前方の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。前方にトップフロントスピーカーを使用した場合は、後方に使用できるハイトスピーカーは、右記の組み合わせ例1～組み合わせ例4までの4通りから選択することができます。

9, 10 トップフロントスピーカー

(組み合わせ例1) 後方にトップリアスピーカーを使用する

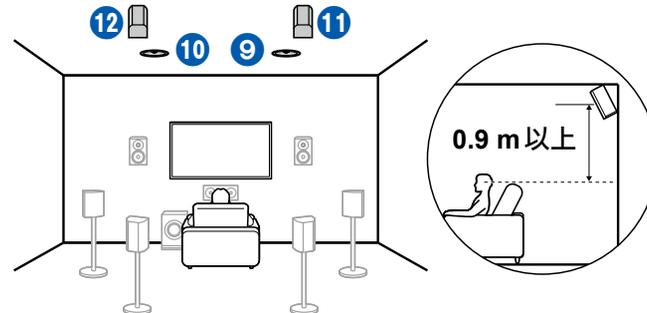


b: 125° ~ 150°

トップリアスピーカーは視聴位置から後方の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

11, 12 トップリアスピーカー

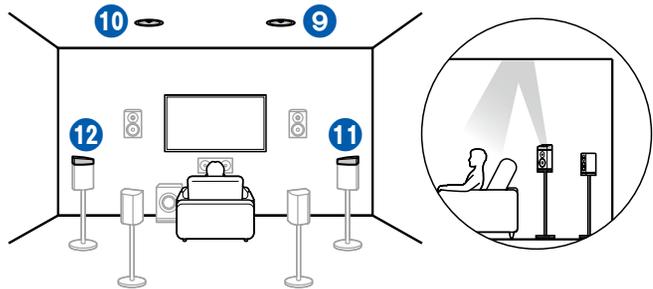
(組み合わせ例2) 後方にリアハイスピーカーを使用する



リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせ、フロントスピーカーの少なくとも0.9 m以上高く設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

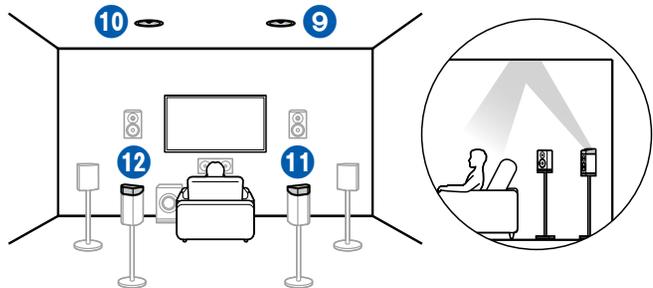
11, 12 リアハイスピーカー

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→p134)

(組み合わせ例3) 後方に Dolby Enabled スピーカー (サラウンド) を使用する

Dolby Enabled スピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。Dolby Enabled スピーカー (サラウンド) はサラウンドスピーカーの上に設置します。

11, 12 Dolby Enabled スピーカー (サラウンド)

(組み合わせ例4) 後方に Dolby Enabled スピーカー (サラウンドバック) を使用する

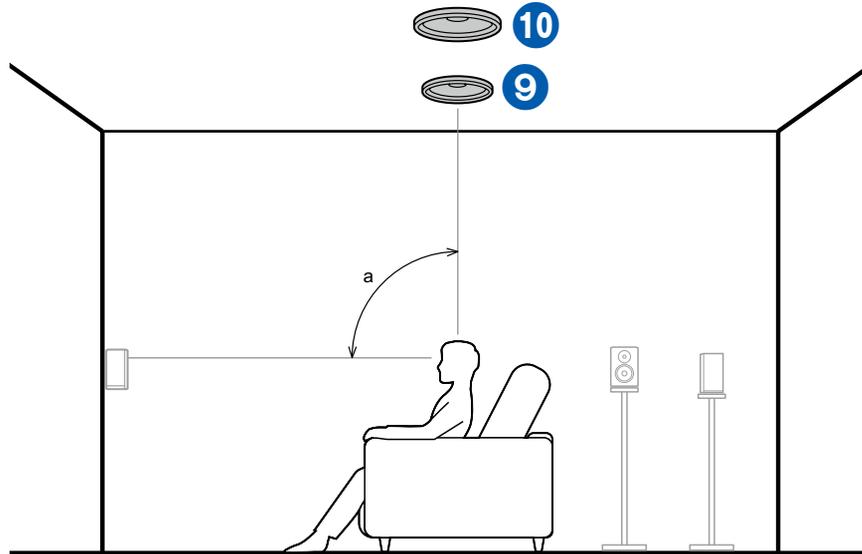
Dolby Enabled スピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。Dolby Enabled スピーカー (サラウンドバック) はサラウンドバックスピーカーの上に設置します。

11, 12 Dolby Enabled スピーカー (サラウンドバック)

□ **スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→[p134](#))**

□ 前方にトップミドルスピーカーを使用した場合の組み合わせ例

トップミドルスピーカーについて

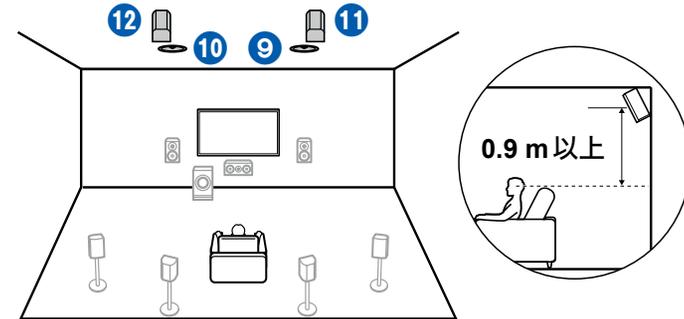


a: 65° ~ 100°

トップミドルスピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。前方にトップミドルスピーカーを使用した場合は、後方に右記のリアハイスピーカーを使用することができます。

9, 10 トップミドルスピーカー

後方にリアハイスピーカーを使用する



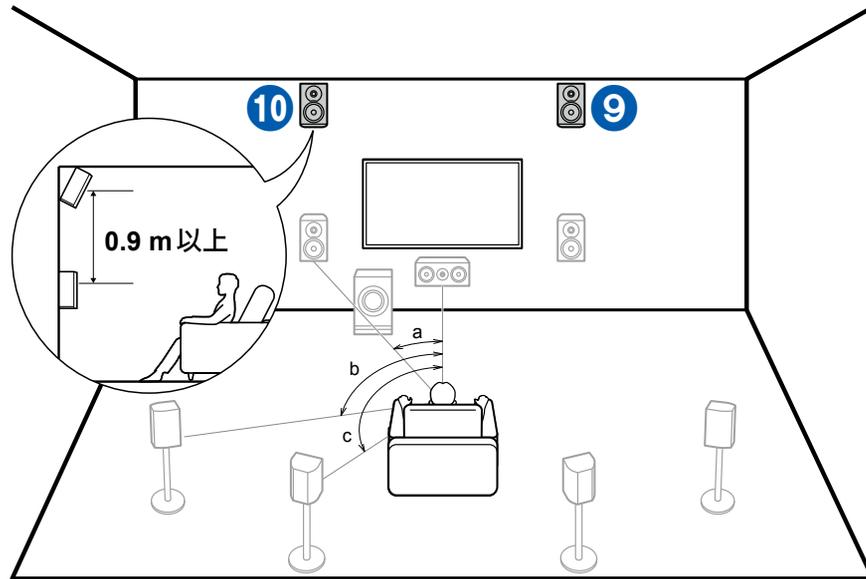
リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせ、フロントスピーカーの少なくとも0.9 m以上高く設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

11, 12 リアハイスピーカー

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→p134)

□ 前方にフロントハイスピーカーを使用した場合の組み合わせ例

フロントハイスピーカーについて

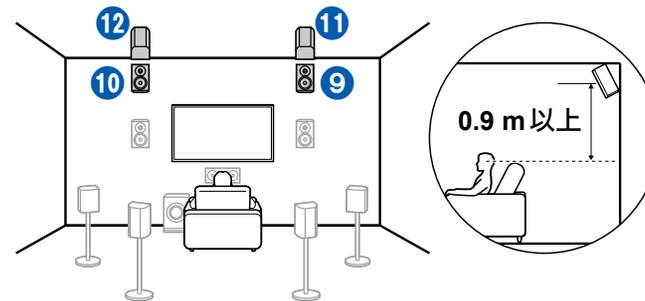


a: 22° ~ 30°, b: 90° ~ 110°, c: 135° ~ 150°

フロントハイスピーカーはフロントスピーカーの真上に少なくとも0.9 m以上高く設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。前方にフロントハイスピーカーを使用した場合は、後方に使用できるハイスピーカーは、右記の組み合わせ例1～組み合わせ例5までの5通りから選択することができます。

9, 10 フロントハイスピーカー

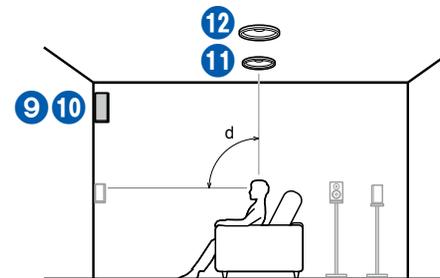
(組み合わせ例1) 後方にリアハイスピーカーを使用する



リアハイスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせ、フロントスピーカーの少なくとも0.9 m以上高く設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

11, 12 リアハイスピーカー

(組み合わせ例2) 後方にトップミドルスピーカーを使用する



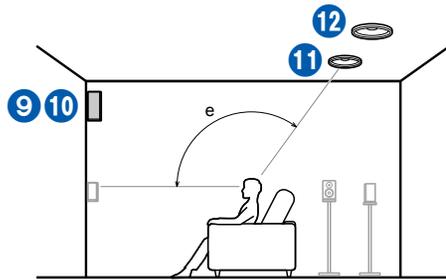
d: 65° ~ 100°

トップミドルスピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

11, 12 トップミドルスピーカー

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→p134)

(組み合わせ例3) 後方にトッリアスピーカーを使用する

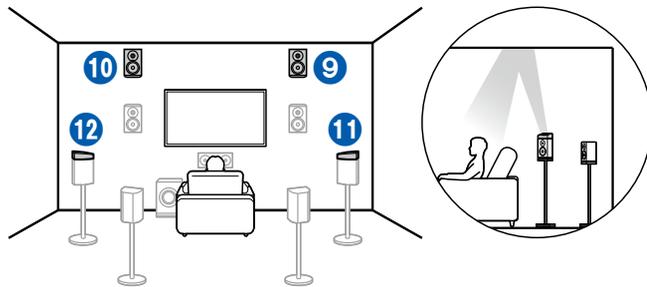


e: 125° ~ 150°

トッリアスピーカーは視聴位置から後方の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

11, 12 トッリアスピーカー

(組み合わせ例4) 後方にDolby Enabledスピーカー(サラウンド)を使用する

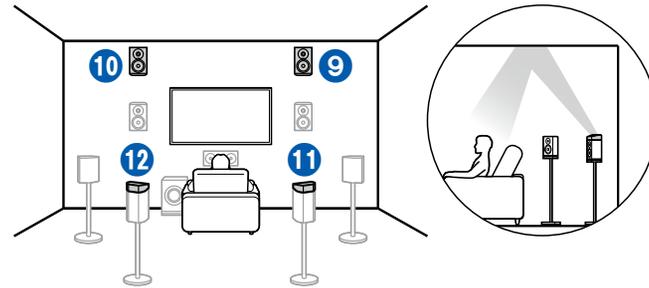


Dolby Enabledスピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。

Dolby Enabledスピーカー(サラウンド)はサラウンドスピーカーの上に設置します。

11, 12 Dolby Enabledスピーカー(サラウンド)

(組み合わせ例5) 後方にDolby Enabledスピーカー(サラウンドバック)を使用する



Dolby Enabledスピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。

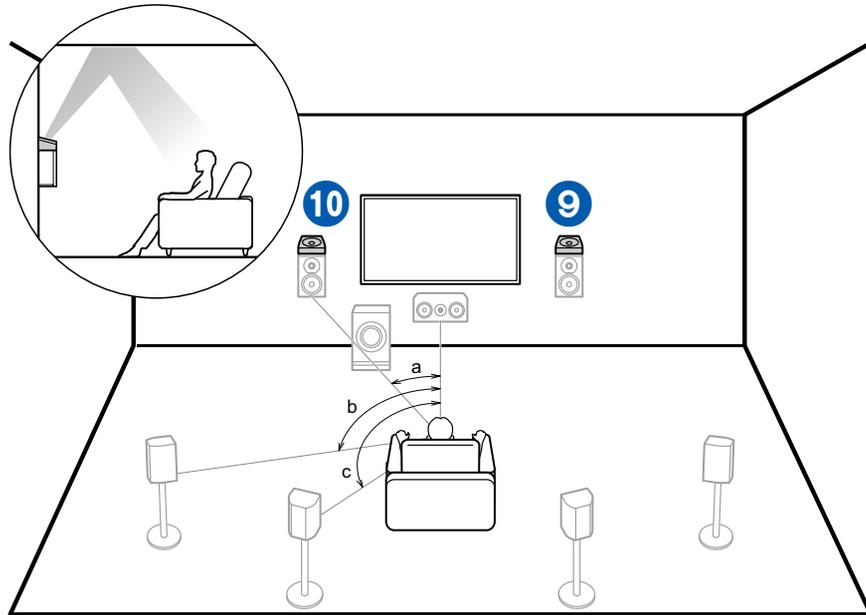
Dolby Enabledスピーカー(サラウンドバック)はサラウンドバックスピーカーの上に設置します。

11, 12 Dolby Enabledスピーカー(サラウンドバック)

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→[p134](#))

□ 前方に Dolby Enabled スピーカー (フロント) を使用した場合の組み合わせ例

Dolby Enabled スピーカー (フロント) について



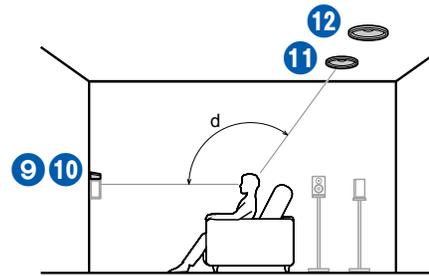
a: 22° ~ 30°、b: 90° ~ 110°、c: 135° ~ 150°

Dolby Enabled スピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。

Dolby Enabled スピーカー (フロント) はフロントスピーカーの上に設置します。前方に Dolby Enabled スピーカー (フロント) を使用した場合は、後方に使用できるハイトスピーカーは、右記の組み合わせ例 1 ~ 組み合わせ例 4 までの 4 通りから選択することができます。

9, 10 Dolby Enabled スピーカー (フロント)

(組み合わせ例 1) 後方にトップリアスピーカーを使用する

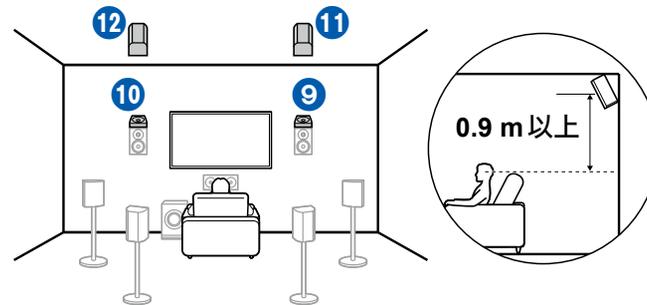


d: 125° ~ 150°

トップリアスピーカーは視聴位置から後方の天井に取り付け、左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

11, 12 トップリアスピーカー

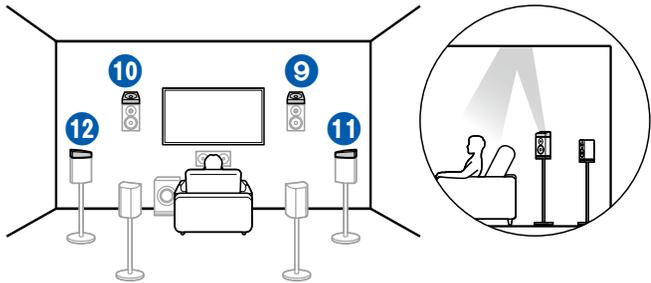
(組み合わせ例 2) 後方にリアハイトスピーカーを使用する



リアハイトスピーカーの左右の間隔はフロントスピーカーの左右と合わせ、フロントスピーカーの少なくとも 0.9 m 以上高く設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

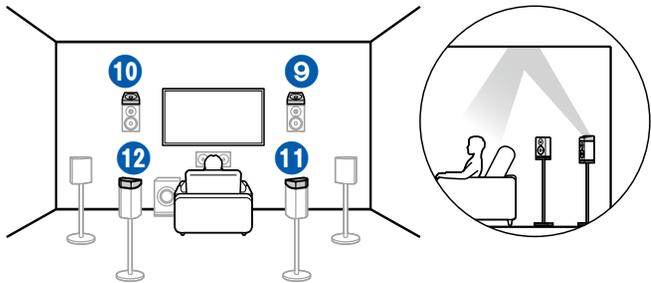
11, 12 リアハイトスピーカー

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→p134)

(組み合わせ例3) 後方に Dolby Enabled スピーカー (サラウンド) を使用する

Dolby Enabled スピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。
Dolby Enabled スピーカー (サラウンド) はサラウンドスピーカーの上に設置します。

11, 12 Dolby Enabled スピーカー (サラウンド)

(組み合わせ例4) 後方に Dolby Enabled スピーカー (サラウンドバック) を使用する

Dolby Enabled スピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。
Dolby Enabled スピーカー (サラウンドバック) はサラウンドバックスピーカーの上に設置します。

11, 12 Dolby Enabled スピーカー (サラウンドバック)

□ **スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード (→[p134](#))**

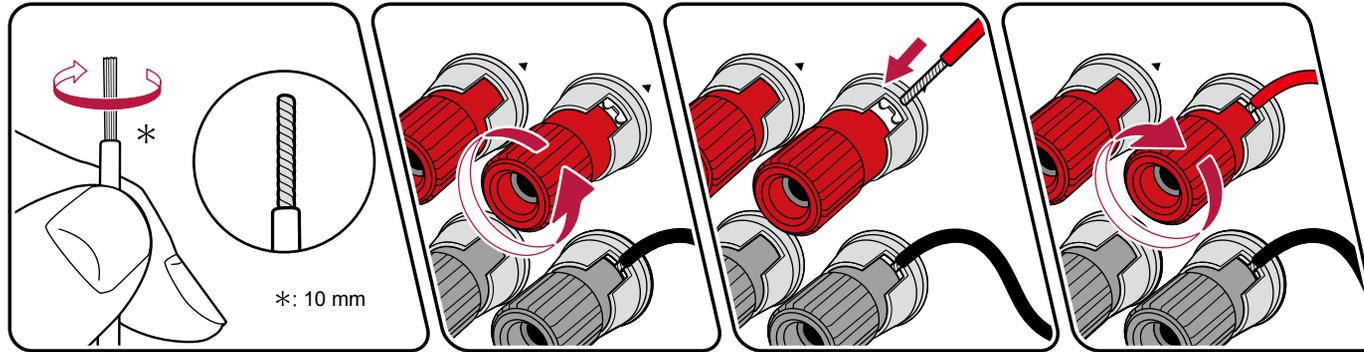
スピーカー接続と「スピーカー設定」の設定

接続について

■ (ご注意) スピーカーインピーダンスについて

スピーカーはインピーダンスが4～16Ωのものを接続してください。

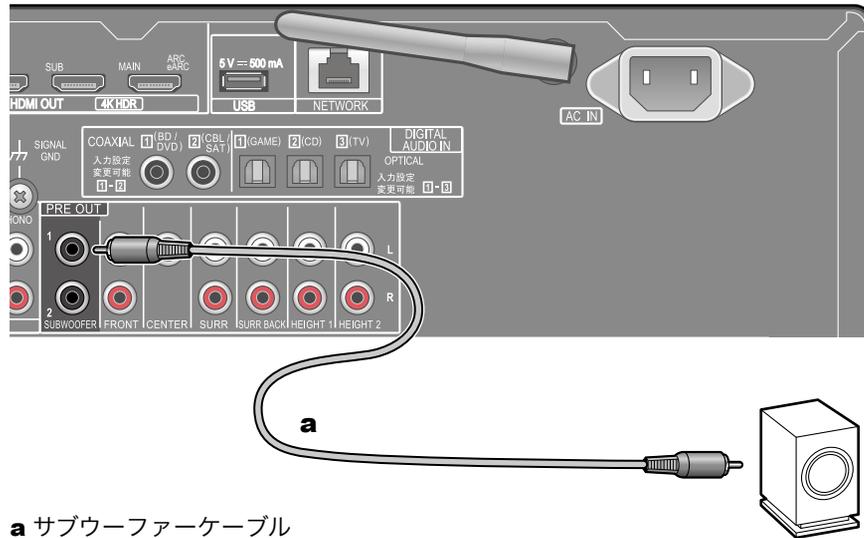
■ スピーカーケーブルを接続する



本機の端子の+側とスピーカーの+側を、-側は-側とを、チャンネルごとに必ずあわせて接続してください。間違えて接続すると、位相が逆になり低音が出にくくなります。スピーカーケーブル先端の芯線はしっかりよじるなどして、芯線がスピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、+側と-側が接触すると故障の原因となることがあります。



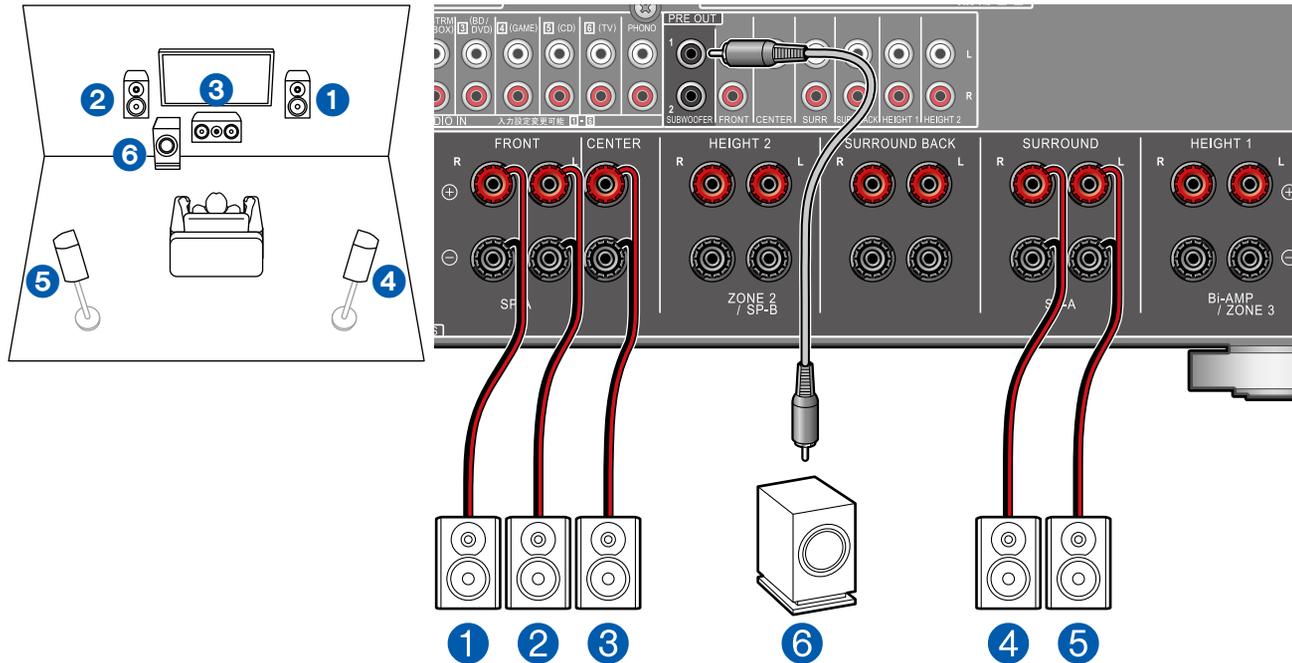
■ サブウーファーを接続する



a サブウーファーケーブル

サブウーファーケーブルを使用して、本機とアンプ内蔵サブウーファーを接続します。アンプ内蔵サブウーファーは2台まで接続可能です。2台のアンプ内蔵サブウーファーの音量レベルなどは、個別に設定できます。(→p160)

■ 5.1 チャンネルシステム



基本となる5.1チャンネルシステムです。スピーカーレイアウトの詳細は「スピーカーを設置する」(→p19)をご参照ください。

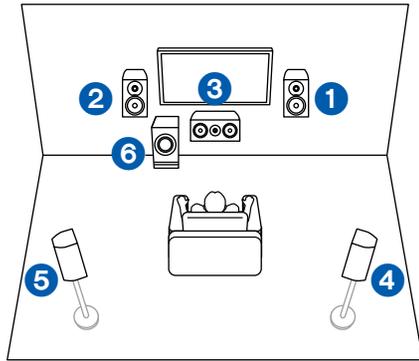
■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



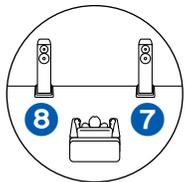
- スピーカーチャンネル：5.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→p157)
- パイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 5.1チャンネルシステム + ゾーンスピーカー

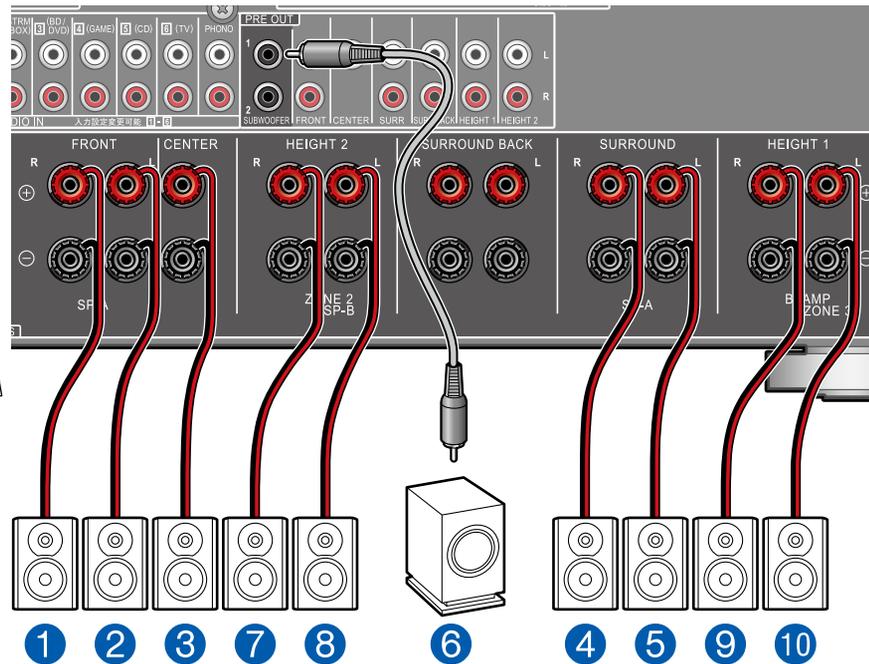
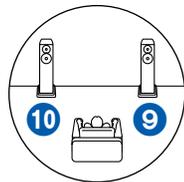
メインルーム



ゾーン2



ゾーン3



メインルーム：基本となる5.1チャンネルシステムです。スピーカーレイアウトの詳細は「スピーカーを設置する」(→ [p19](#)) をご参照ください。

ゾーン2/ゾーン3：メインルーム(本機のある部屋)で5.1チャンネル再生をしながら、別室(ゾーン2/ゾーン3)で、2チャンネルの音声を楽しむことができます。メインルームとゾーン2/ゾーン3で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。

外部接続のAV機器の音声をゾーン3出力するには、オーディオ用ピンケーブルでの接続が必要です。HDMIケーブルや同軸デジタルケーブル、光デジタルケーブルでの接続ではゾーン3出力できませんのでご注意ください。

■ 初期設定(→ [p195](#))時の「スピーカー設定」の設定について：



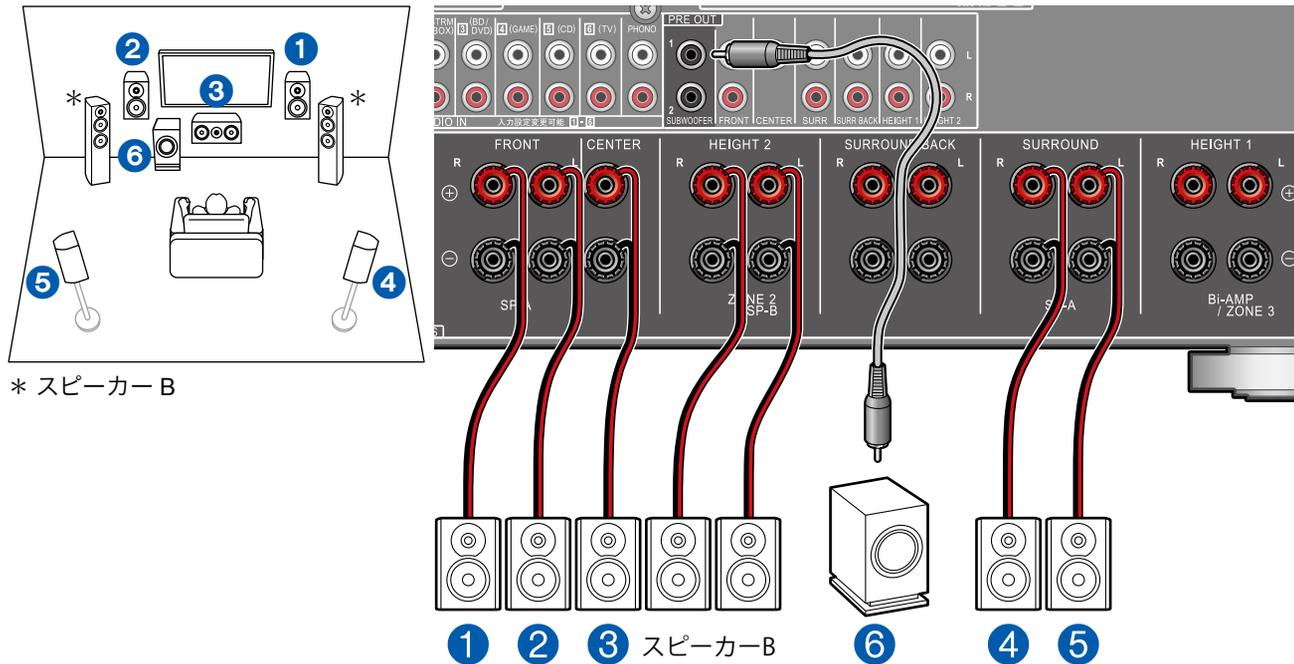
- スピーカーチャンネル：5.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：ゾーン2またはゾーン2/ゾーン3
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 フリアウト：ゾーン2
- パイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→ [p195](#))



設定が必要です

HDMI入力の映像や音声をゾーン2出力する場合は、ホーム画面の「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「ゾーン2 HDMI出力」(→ [p151](#))を「使用する」に設定してください。

■ 5.1チャンネルシステム + スピーカー B



* スピーカー B

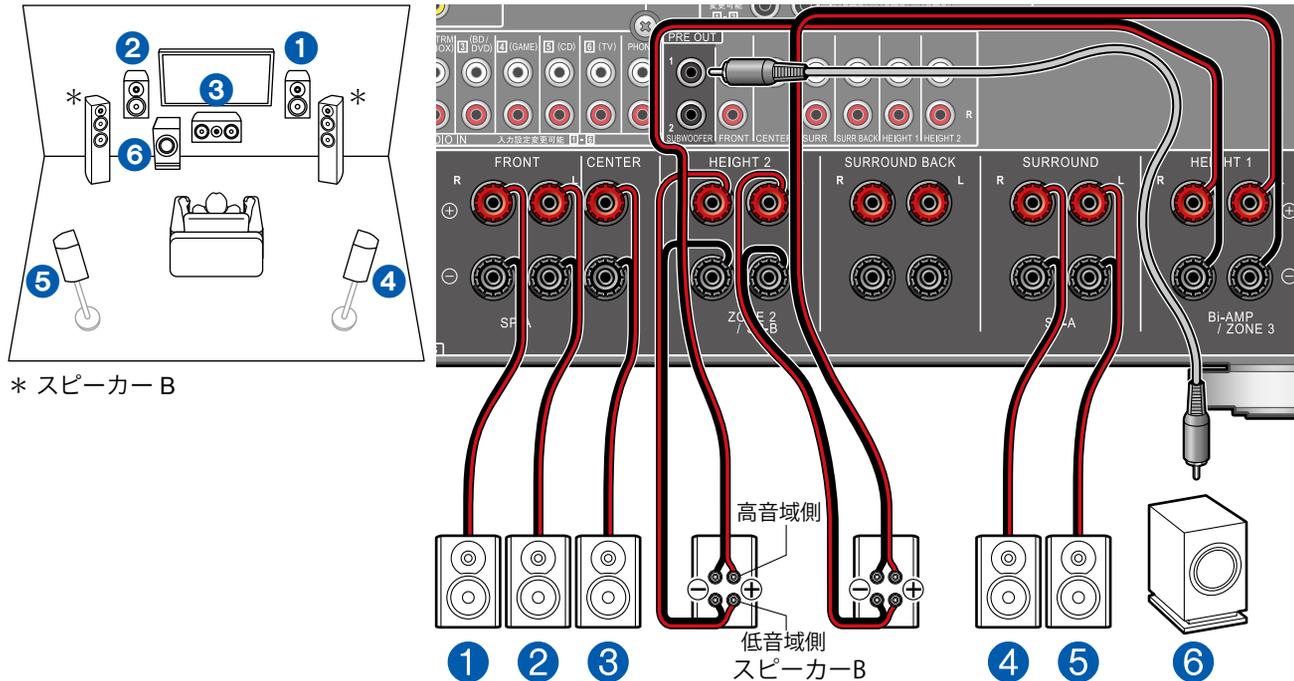
メインのスピーカーシステム（スピーカー Aシステム）以外にフロントスピーカーをもう1系統、スピーカー Bシステムとして接続して、5.1チャンネルシステム（→p19）を構成することができます。スピーカー Bシステムとして接続した場合、同じ音声をスピーカー A/B/A+Bで切り換えて出力することができます。スピーカーの切り換え操作は「AV Adjust」の「Speakers」（→p191）で行います。

■ 初期設定（→p195）時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：5.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：有り
- ゾーン2プリアンプ：ゾーン2
- バイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align（→p195）

■ 5.1チャンネルシステム + スピーカー B (バイアンプ対応スピーカー)



* スピーカー B

メインのスピーカーシステム (スピーカー A システム) 以外にフロントスピーカーをもう 1 系統、スピーカー B システムとして接続して、5.1チャンネルシステム (→p19) を構成することができます。スピーカー B システムとして接続した場合、同じ音声をスピーカー A/B/A+B で切り換えて出力することができます。スピーカーの切換操作は「AV Adjust」の「Speakers」(→p191)で行います。

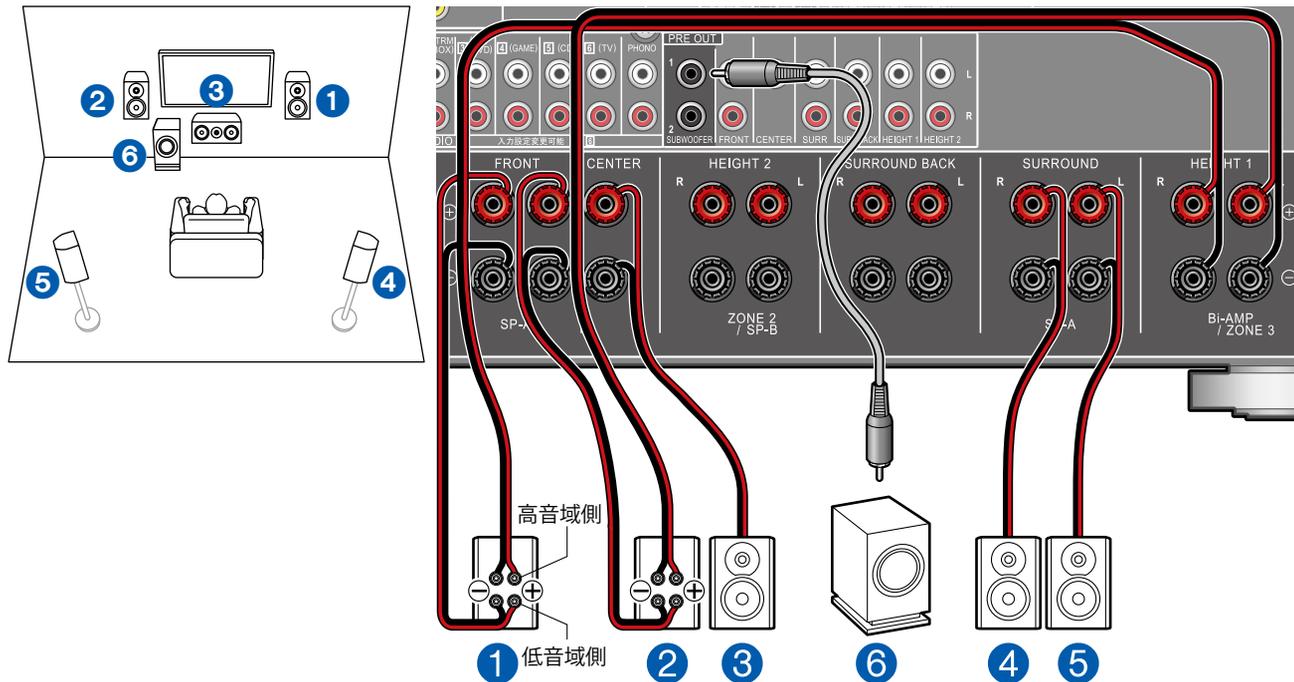
バイアンプ接続に対応したスピーカー B システムを接続して、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：5.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：バイアンプ
- ゾーン2プリアウト：ゾーン2
- バイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 5.1チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) (フロント)



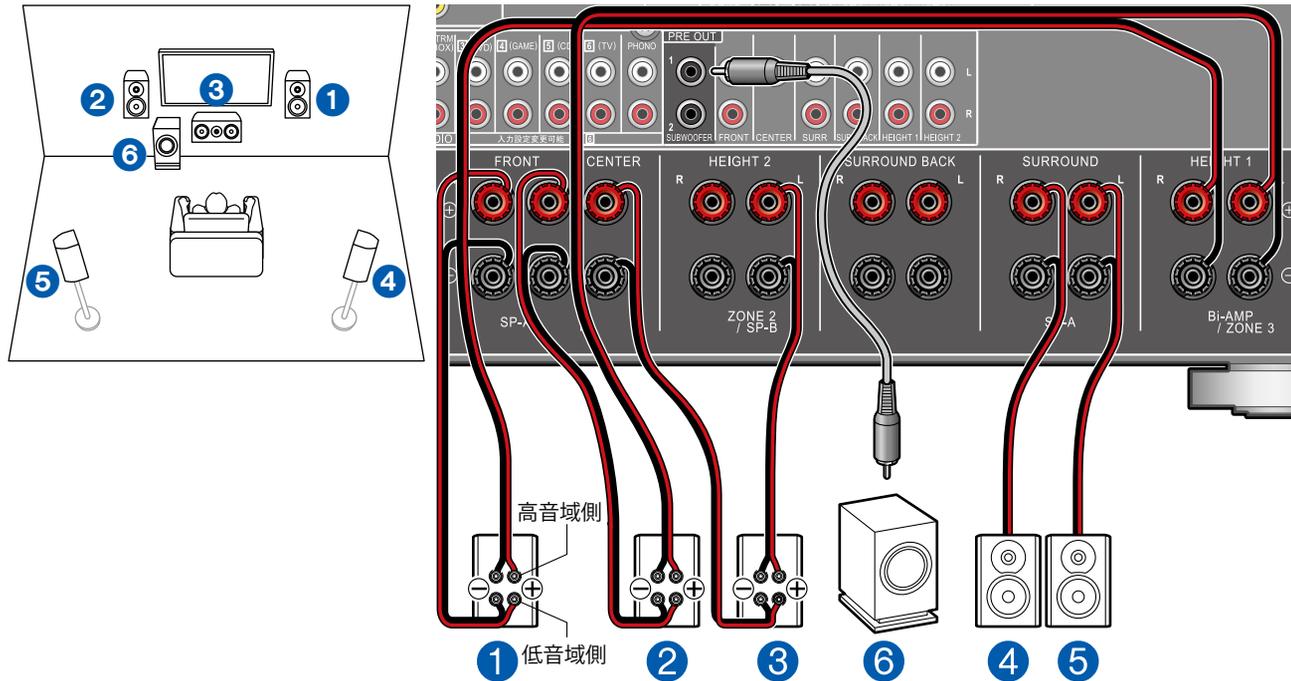
バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続して、5.1チャンネルシステム (→p19) を構成することができます。バイアンプ接続により、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：5.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→p157)
- バイアンプ：フロント
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 5.1チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) (フロント/センター)



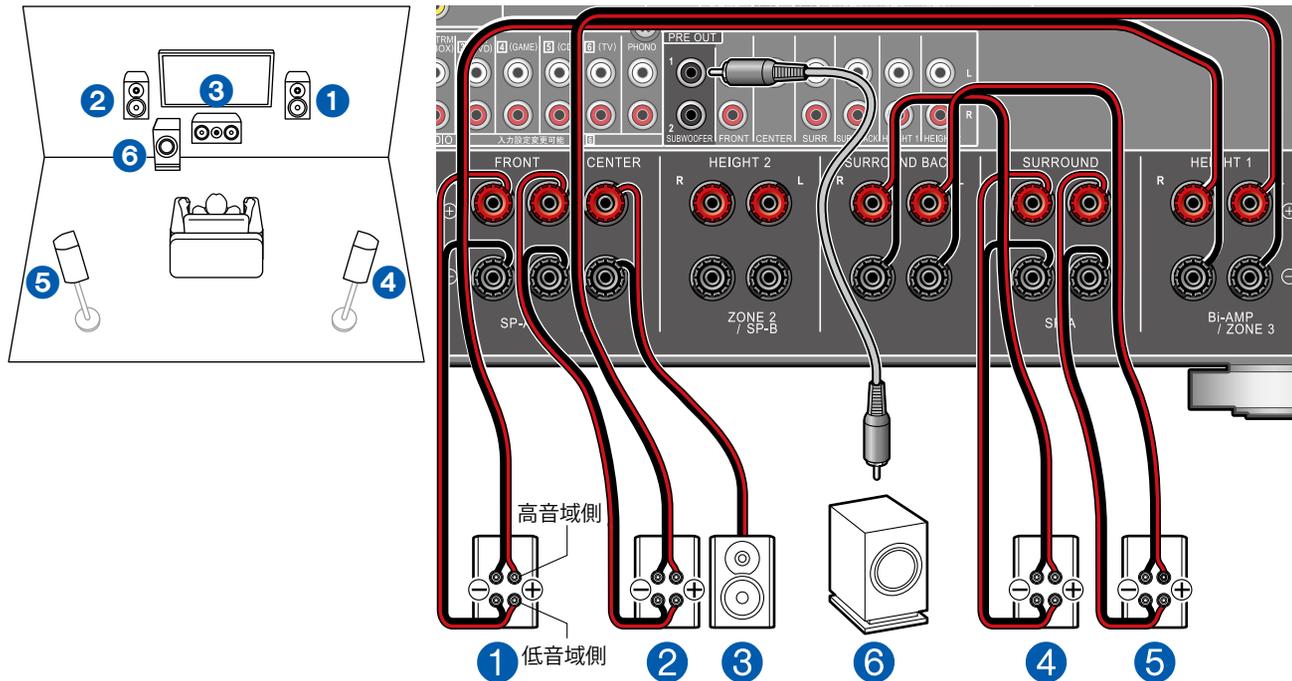
バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーとセンタースピーカーを接続して、5.1チャンネルシステム (→p19) を構成することができます。バイアンプ接続により、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：5.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカー-B：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→p157)
- バイアンプ：フロント/センター
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 5.1チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) (フロント/サラウンド)



バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーとサラウンドスピーカーを接続して、5.1チャンネルシステム (→p19) を構成することができます。バイアンプ接続により、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

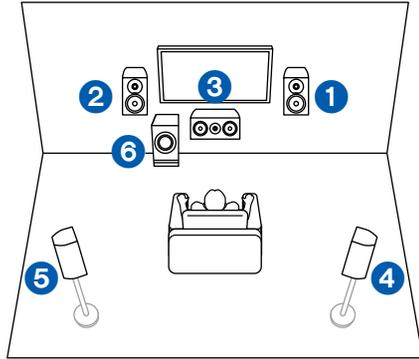
■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



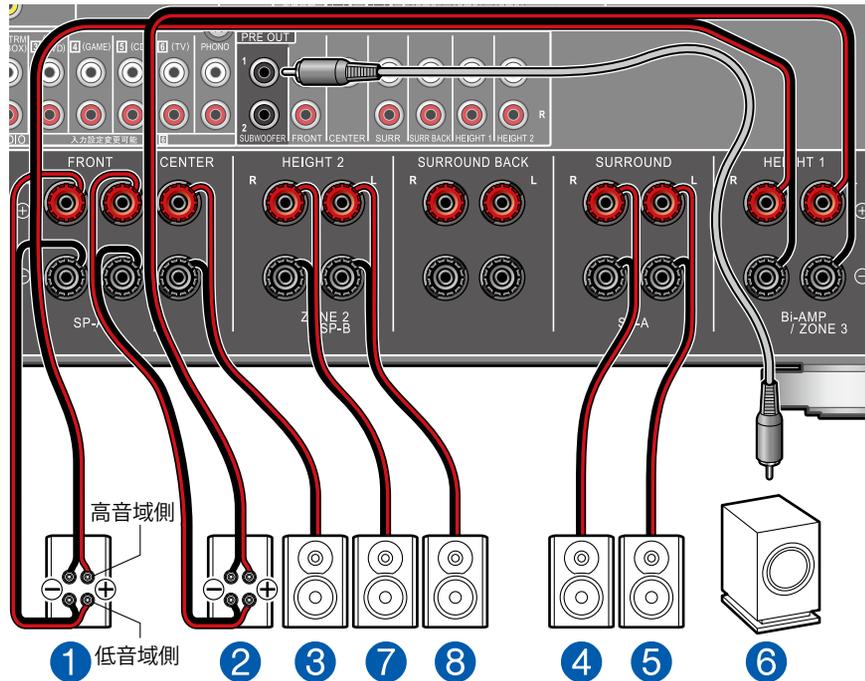
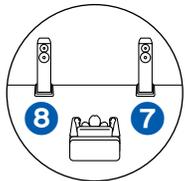
- スピーカーチャンネル：5.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカー-B：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→p157)
- バイアンプ：フロント/サラウンド
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 5.1チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) + ゾーンスピーカー

メインルーム



ゾーン2



バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続して、5.1チャンネルシステム (→p19) を構成することができます。バイアンプ接続により、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

メインルーム：基本となる5.1チャンネルシステムです。

ゾーン2：メインルーム (本機のある部屋) で5.1チャンネル再生をしながら、別室 (ゾーン2) で、2チャンネルの音声を楽しむことができます。メインルームとゾーン2で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：

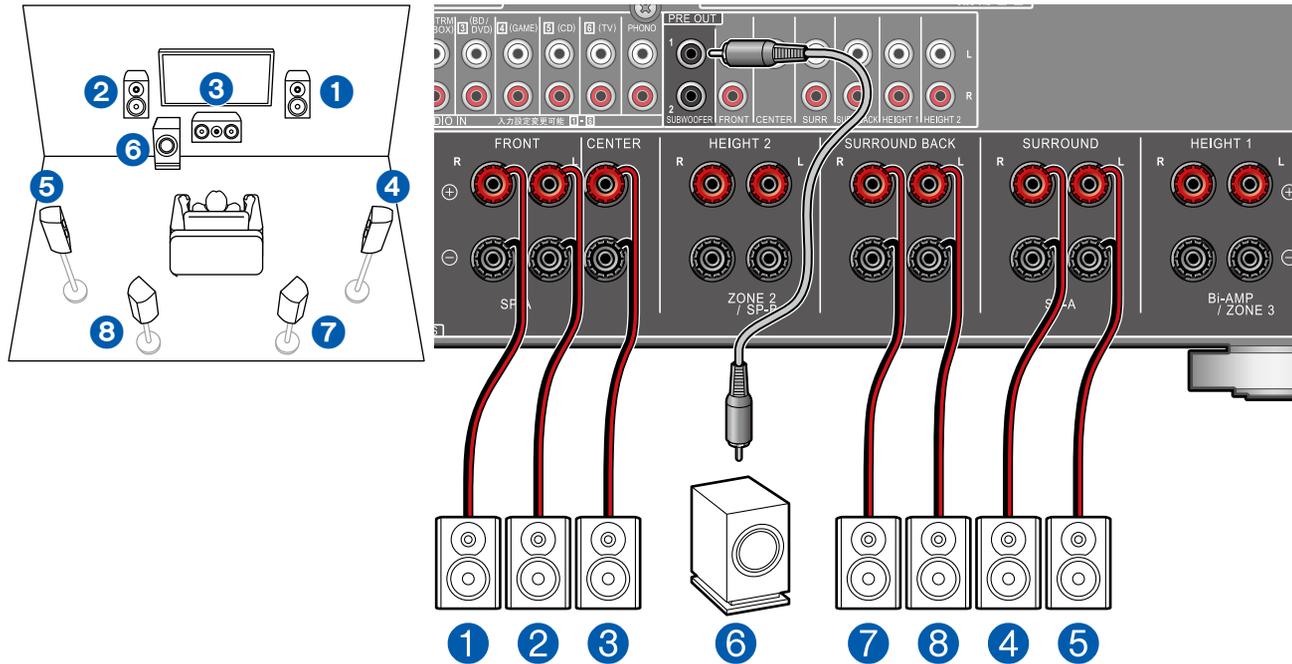


- スピーカーチャンネル：5.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：ゾーン2
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：ゾーン2 (→p157)
- バイアンプ：フロント
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)



設定が必要です
HDMI 入力映像や音声をゾーン2出力する場合は、ホーム画面の「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「ゾーン2 HDMI出力」(→p151)を「使用する」に設定してください。

■ 7.1 チャンネルシステム



基本となる5.1チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを加えた7.1チャンネルシステムです。スピーカーレイアウトの詳細は「スピーカーを設置する」(→[p20](#))をご参照ください。

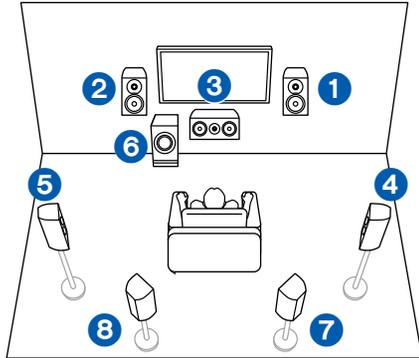
■ 初期設定 (→[p195](#)) 時の「スピーカー設定」の設定について：



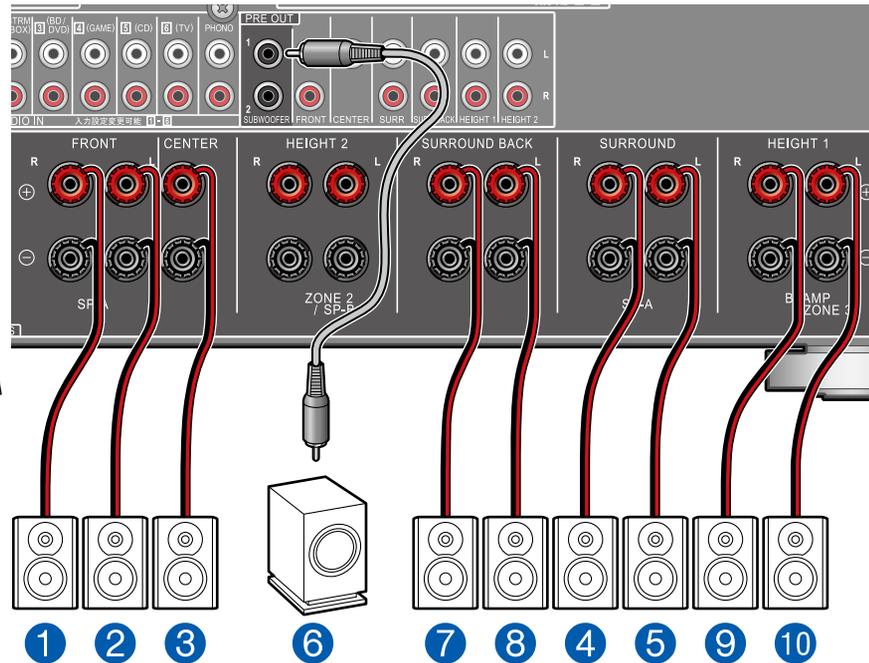
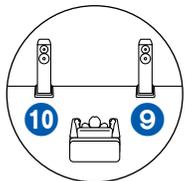
- スピーカーチャンネル：7.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→[p157](#))
- パイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→[p195](#))

■ 7.1チャンネルシステム+ ゾーンスピーカー (ゾーン2)

メインルーム



ゾーン2



メインルーム：基本となる5.1チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを加えた7.1チャンネルシステムです。スピーカーレイアウトの詳細は「スピーカーを設置する」(→p20)をご参照ください。

ゾーン2：メインルーム(本機のある部屋)で再生をしながら、別室(ゾーン2)で、2チャンネルの音声を楽しむことができます。メインルームとゾーン2で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。

- 別室でゾーン3スピーカーを接続せずゾーン2スピーカーのみを接続する場合は、ゾーン2スピーカーをHEIGHT 1端子に接続してください。

■ 初期設定(→p195)時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：7.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：ゾーン2
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：ゾーン2
- バイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

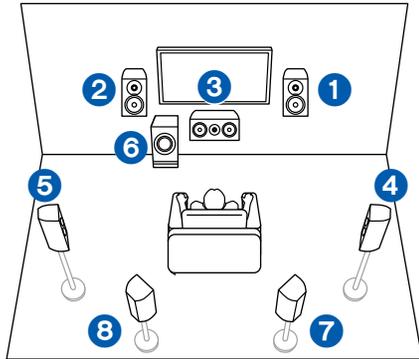


設定が必要です

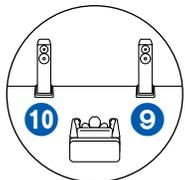
HDMI入力映像や音声をゾーン2出力する場合は、ホーム画面の「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「ゾーン2 HDMI出力」(→p151)を「使用する」に設定してください。

■ 7.1チャンネルシステム+ゾーンスピーカー (ゾーン2/ゾーン3)

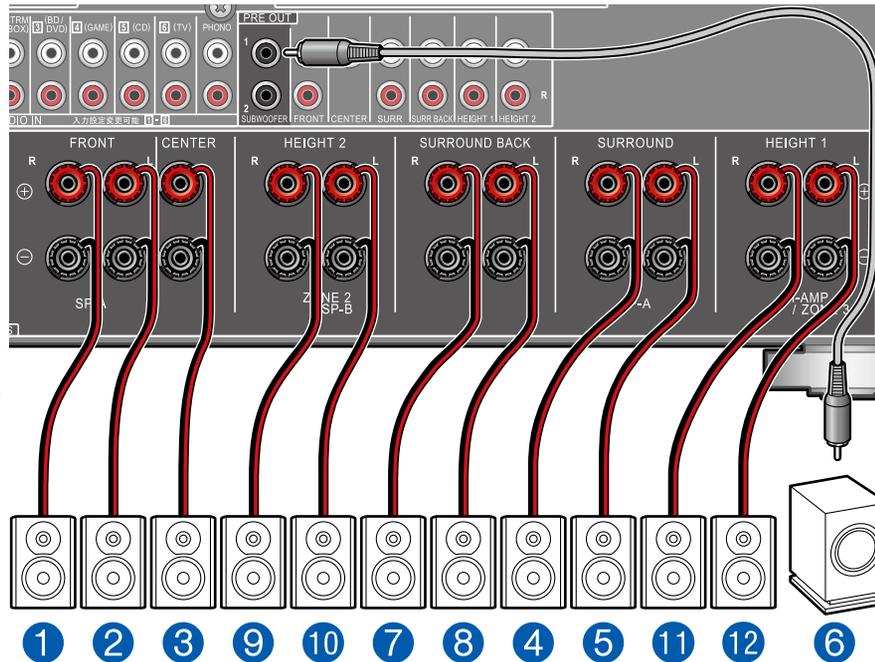
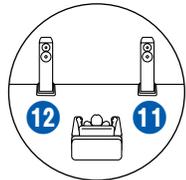
メインルーム



ゾーン2



ゾーン3



メインルーム：基本となる5.1チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを加えた7.1チャンネルシステムです。スピーカーレイアウトの詳細は「スピーカーを設置する」(→p20)をご参照ください。

ゾーン2/ゾーン3：メインルーム(本機のある部屋)で再生をしながら、別室(ゾーン2/ゾーン3)で、2チャンネルの音声を楽しむことができます。メインルームとゾーン2/ゾーン3で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。

外部接続のAV機器の音声をゾーン3出力するには、オーディオ用ピンケーブルでの接続が必要です。HDMIケーブルや同軸デジタルケーブル、光デジタルケーブルでの接続ではゾーン3出力できませんのでご注意ください。

- ゾーン2/ゾーン3再生を行っているときは、メインルームのサラウンドバックスピーカーからは再生できません。

■ 初期設定(→p195)時の「スピーカー設定」の設定について：



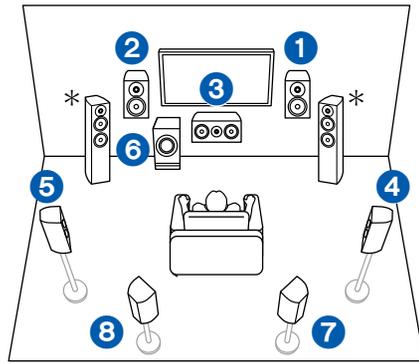
- スピーカーチャンネル：7.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：ゾーン2/ゾーン3
- スピーカーB：無し
- ゾーン2プリアンプ：ゾーン2
- ハイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)



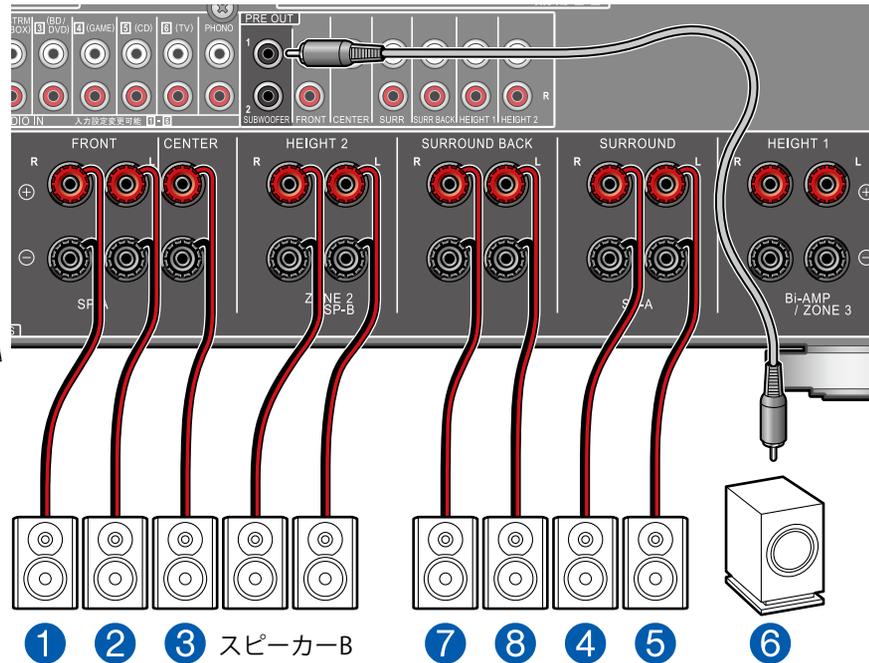
設定が必要です

HDMI入力の映像や音声をゾーン2出力する場合は、ホーム画面の「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「ゾーン2 HDMI出力」(→p151)を「使用する」に設定してください。

■ 7.1チャンネルシステム+ スピーカー B



* スピーカー B



メインのスピーカーシステム（スピーカー Aシステム）以外にフロントスピーカーをもう1系統、スピーカー Bシステムとして接続して、7.1チャンネルシステム（→p20）を構成することができます。スピーカー Bシステムとして接続した場合、同じ音声をスピーカー A/B/A+Bで切り換えて出力することができます。スピーカーの切換操作は「AV Adjust」の「Speakers」（→p191）で行います。

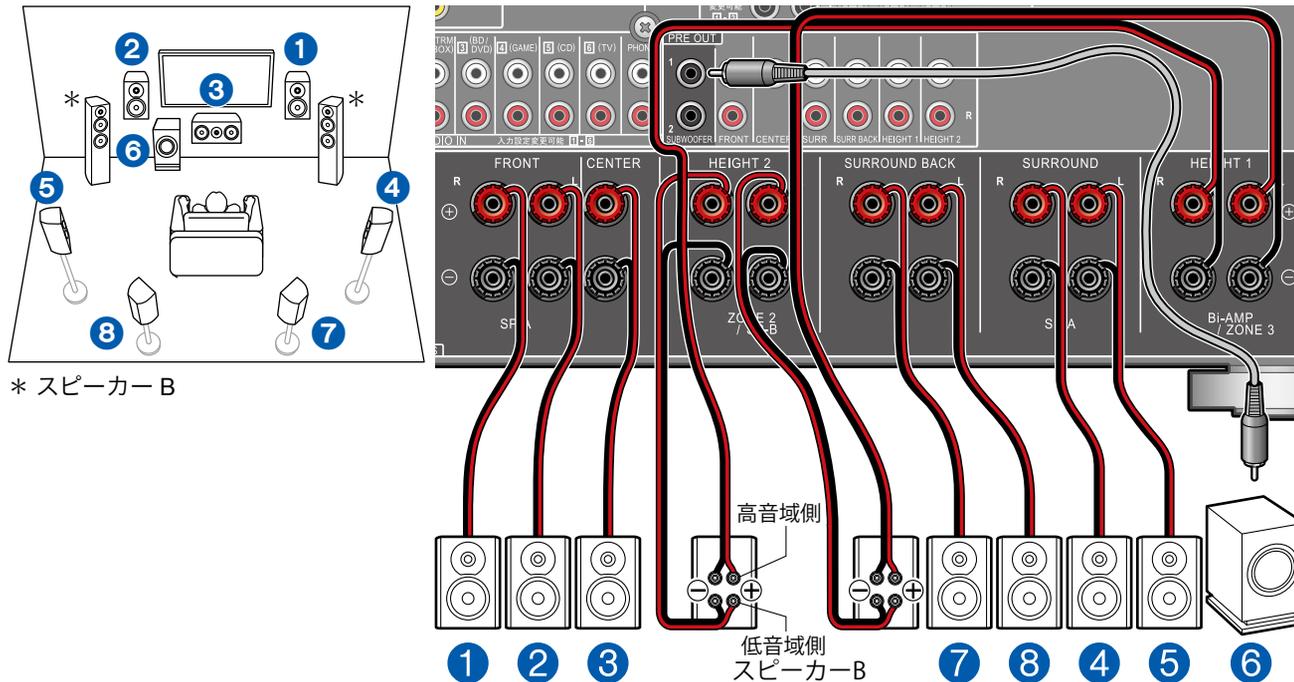
- スピーカー A+Bで再生を行っているときは、サラウンドバックスピーカーからは再生できません。

■ 初期設定（→p195）時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：7.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：有り
- ゾーン2プリアンプ：ゾーン2
- バイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align（→p195）

■ 7.1チャンネルシステム+ スピーカー B (バイアンプ対応スピーカー)



メインのスピーカーシステム(スピーカー Aシステム)以外にフロントスピーカーをもう1系統、スピーカー Bシステムとして接続して、7.1チャンネルシステム(→p20)を構成することができます。スピーカー Bシステムとして接続した場合、同じ音声をスピーカー A/B/A+Bで切り換えて出力することができます。スピーカーの切換操作は「AV Adjust」の「Speakers」(→p191)で行います。

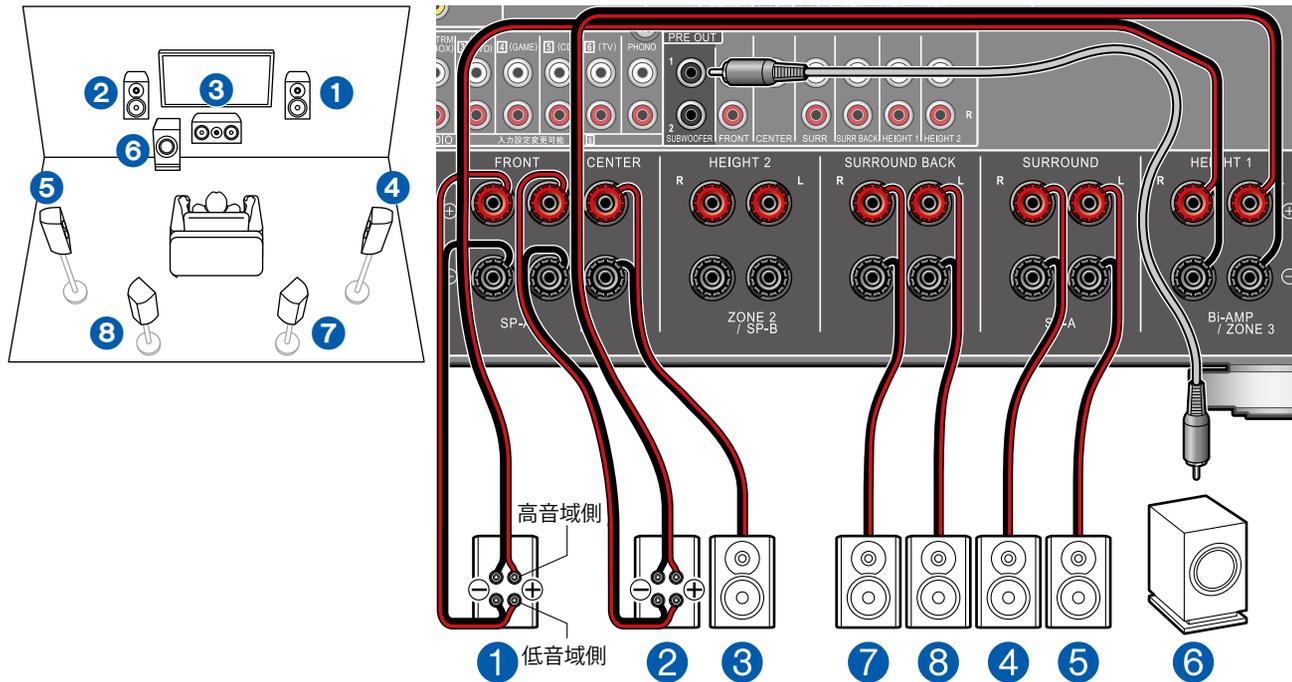
• スピーカー A+Bで再生を行っているときは、サラウンドバックスピーカーからは再生できません。
バイアンプ接続に対応したスピーカー Bシステムを接続して、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

■ 初期設定(→p195)時の「スピーカー設定」の設定について:



- スピーカーチャンネル: 7.1 ch
- サブウーファー: 1ch
- ハイト1スピーカー: ---
- ハイト2スピーカー: ---
- ゾーンスピーカー: 無し
- スピーカーB: バイアンプ
- ゾーン2プリアンプ: ゾーン2
- バイアンプ: 無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 7.1チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー)



バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続して、7.1チャンネルシステム(→p20)を構成することができます。バイアンプ接続により、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

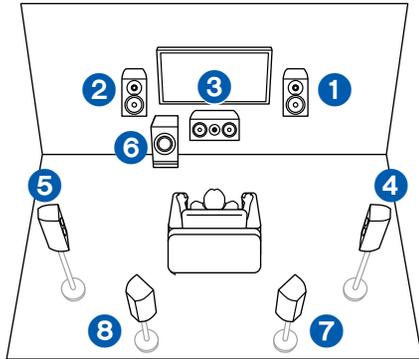
■ 初期設定(→p195)時の「スピーカー設定」の設定について:



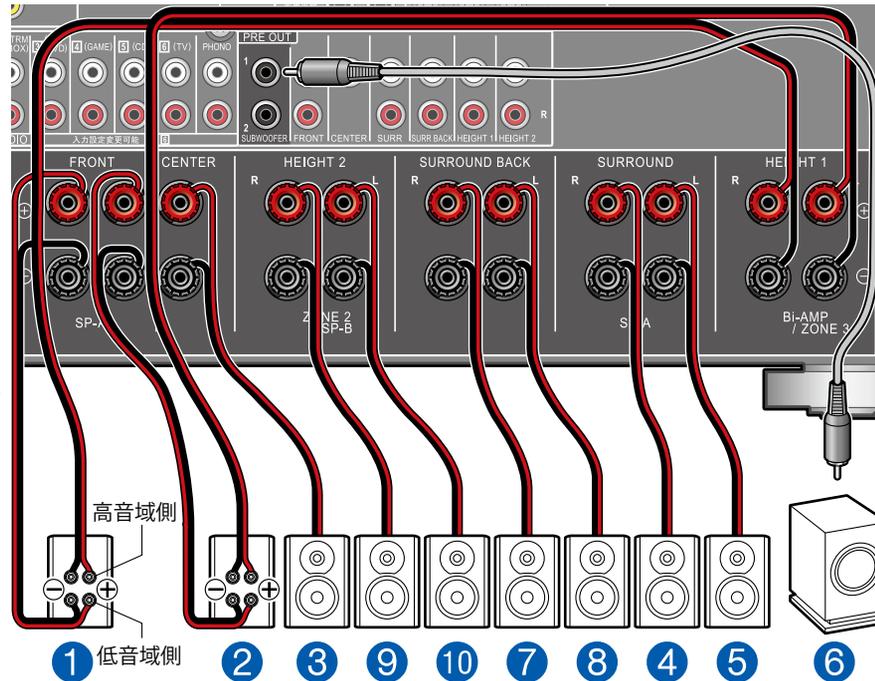
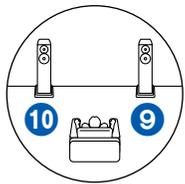
- スピーカーチャンネル: 7.1 ch
- サブウーファー: 1ch
- ハイト1スピーカー: ---
- ハイト2スピーカー: ---
- ゾーンスピーカー: 無し
- スピーカーB: 無し
- ゾーン2プリアンプ: 任意の値 (→p157)
- バイアンプ: フロント
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 7.1チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー) + ゾーンスピーカー

メインルーム



ゾーン2



バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続して、7.1チャンネルシステム (→p20) を構成することができます。バイアンプ接続により、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

メインルーム：基本となる5.1チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを加えた7.1チャンネルシステムです。

ゾーン2：メインルーム (本機のある部屋) で再生をしながら、別室 (ゾーン2) で、2チャンネルの音声を楽しむことができます。メインルームとゾーン2で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。

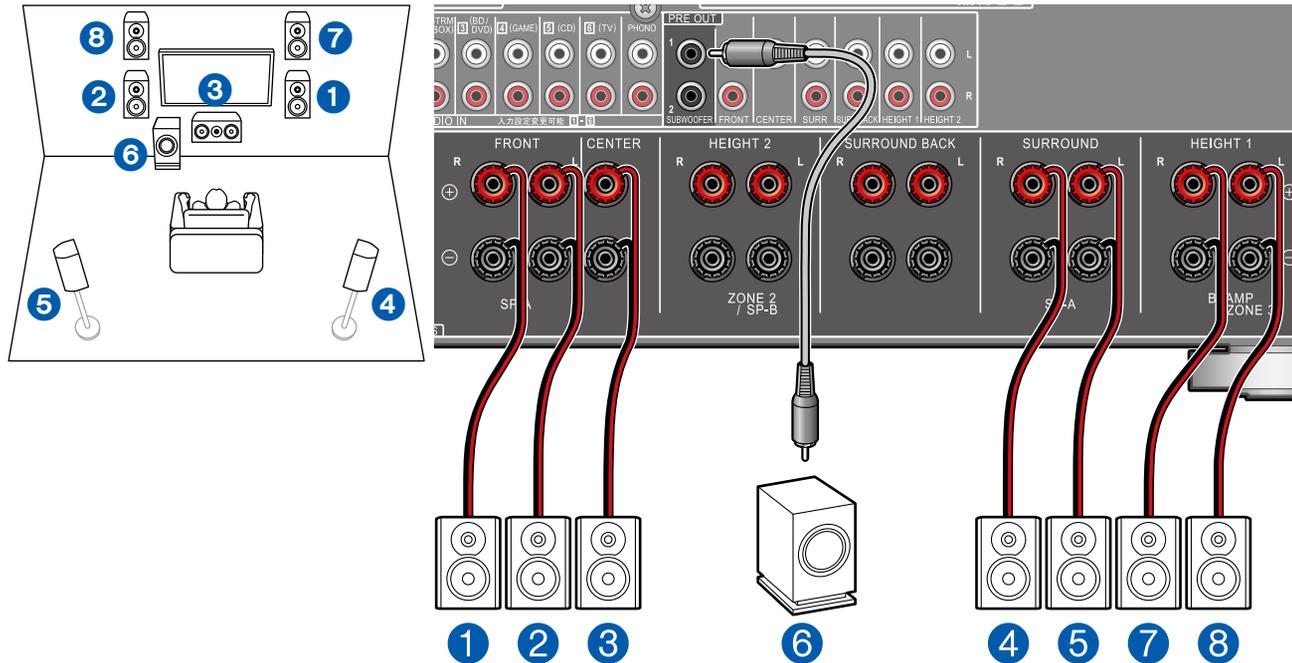
- ゾーン2再生を行っているときは、メインルームのサラウンドバックスピーカーからは再生できません。

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：7.1 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：ゾーン2
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：ゾーン2 (→p157)
- バイアンプ：フロント
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 5.1.2チャンネルシステム



5.1チャンネルシステムに、ハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイトスピーカーを組み合わせた例です。ハイトスピーカーは以下の3タイプの中から1組のみ選んで接続することができます。

- フロントハイトスピーカー/リアハイトスピーカーを使用した場合の設置例 (→p22)
- 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例 (→p23)
- Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speakers) を使用した場合の設置例 (→p24)

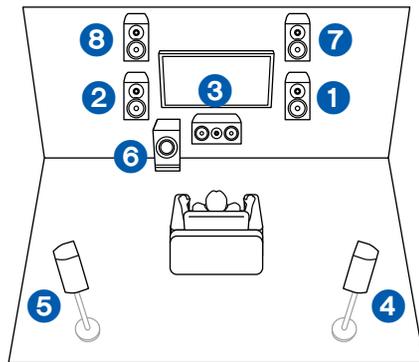
■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



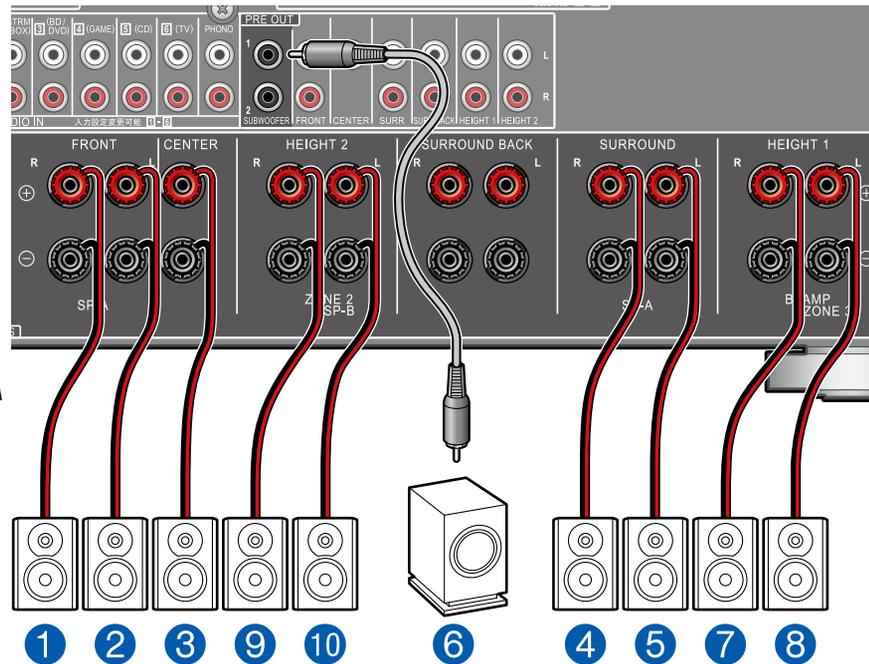
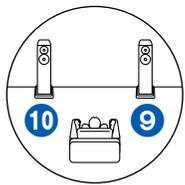
- スピーカーチャンネル：5.1.2 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→p157)
- パイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 5.1.2チャンネルシステム+ ゾーンスピーカー

メインルーム



ゾーン2



メインルーム：5.1チャンネルシステムに、ハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイトスピーカーを組み合わせた例です。ハイトスピーカーは以下の3タイプの中から1組のみ選んで接続することができます。

- フロントハイトスピーカー/リアハイトスピーカーを使用した場合の設置例 (→p22)
- 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例 (→p23)
- Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speaker) を使用した場合の設置例 (→p24)

ゾーン2：メインルーム (本機のある部屋) で再生をしながら、別室 (ゾーン2) で、2チャンネルの音声を楽しむことができます。メインルームとゾーン2で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



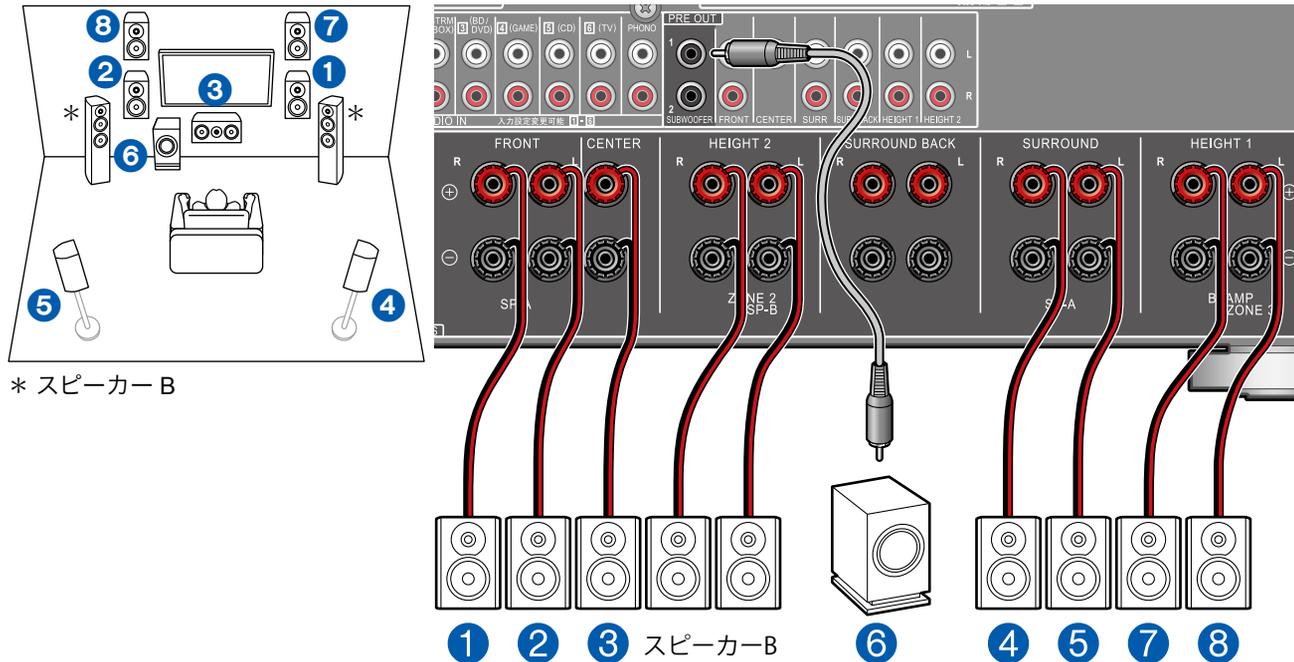
- スピーカーチャンネル：5.1.2 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：ゾーン2
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：ゾーン2
- バイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)



設定が必要です

HDMI 入力映像や音声をゾーン2出力する場合は、ホーム画面の「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「ゾーン2 HDMI出力」(→p151) を「使用する」に設定してください。

■ 5.1.2チャンネルシステム+ スピーカー B



* スピーカー B

5.1チャンネルシステムに、ハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイトスピーカーを組み合わせた例です。ハイトスピーカーは以下の3タイプの中から1組のみ選んで接続することができます。

□ フロントハイトスピーカー/リアハイトスピーカーを使用した場合の設置例 (→ p22)

□ 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例 (→ p23)

□ Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speaker) を使用した場合の設置例 (→ p24)

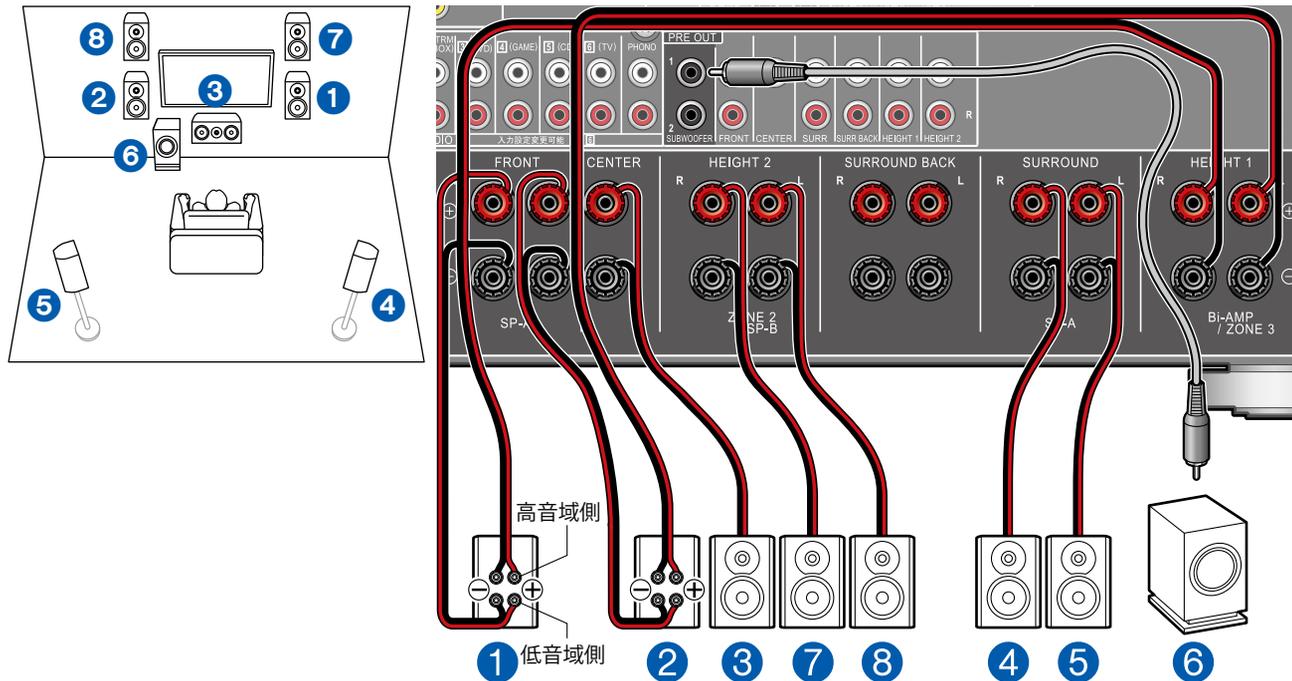
メインのスピーカーシステム (スピーカー Aシステム) 以外にフロントスピーカーをもう1系統、スピーカー Bシステムとして接続して、5.1.2チャンネルシステムを構成することができます。スピーカー Bシステムとして接続した場合、同じ音声をスピーカー A/B/A+Bで切り換えて出力することができます。スピーカーの切換操作は「AV Adjust」の「Speakers」(→ p191)で行います。

■ 初期設定 (→ p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：5.1.2 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：有り
- ゾーン2 プリアウト：ゾーン2
- バイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→ p195)

■ 5.1.2チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー)



5.1チャンネルシステムに、ハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイスピーカーを組み合わせた例です。ハイトスピーカーは以下の3タイプの中から1組のみ選んで接続することができます。

□ フロントハイスピーカー/リアハイスピーカーを使用した場合の設置例 (→p22)

□ 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例 (→p23)

□ Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speaker) を使用した場合の設置例 (→p24)

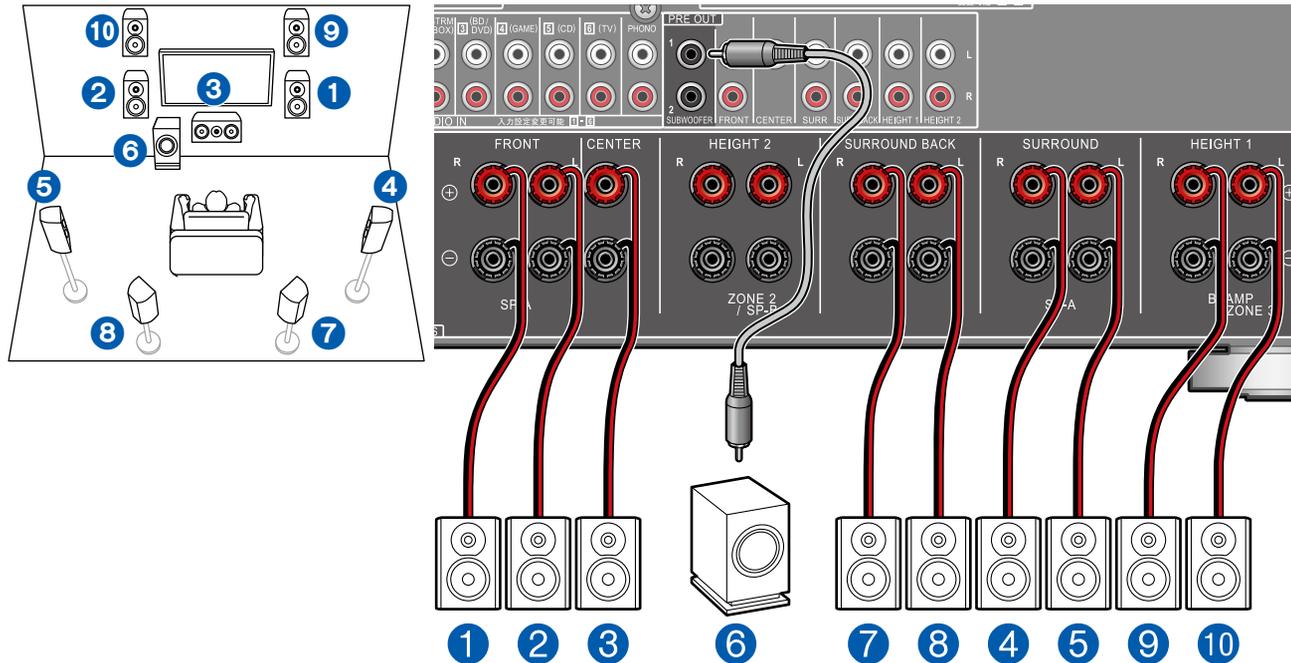
バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続して、5.1.2チャンネルシステムを構成することができます。バイアンプ接続により、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：5.1.2 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→p157)
- バイアンプ：フロント
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 7.1.2チャンネルシステム



7.1チャンネルシステムに、ハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイトスピーカーを組み合わせた例です。ハイトスピーカーは以下の3タイプの中から1組のみ選んで接続することができます。

- フロントハイトスピーカー/リアハイトスピーカーを使用した場合の設置例 (→p26)
- 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例 (→p27)
- Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speaker) を使用した場合の設置例 (→p28)

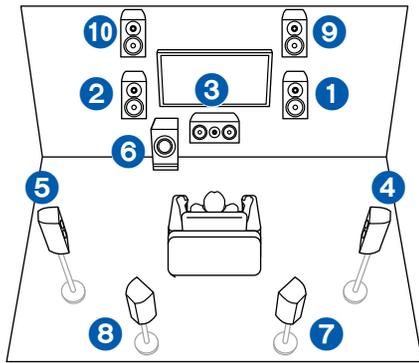
■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



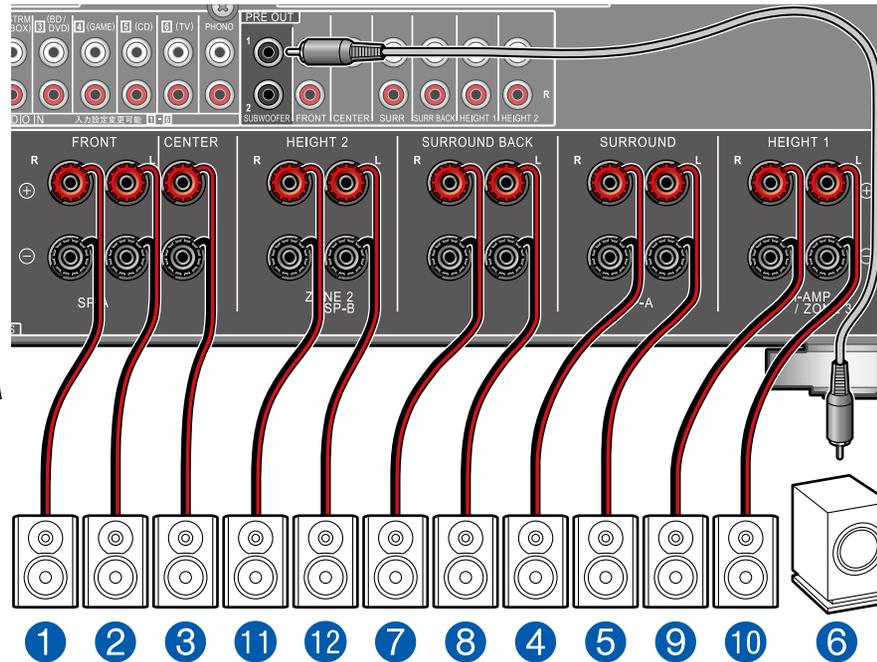
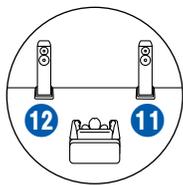
- スピーカーチャンネル：7.1.2 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→p157)
- パイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 7.1.2チャンネルシステム+ ゾーンスピーカー

メインルーム



ゾーン2



メインルーム：7.1チャンネルシステムに、ハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイトスピーカーを組み合わせた例です。ハイトスピーカーは以下の3タイプの中から1組のみ選んで接続することができます。

- フロントハイトスピーカー/リアハイトスピーカーを使用した場合の設置例 (→p26)
- 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例 (→p27)
- Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speaker) を使用した場合の設置例 (→p28)

ゾーン2：メインルーム (本機のある部屋) で再生をしながら、別室 (ゾーン2) で、2チャンネルの音声を楽しむことができます。メインルームとゾーン2で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。

- ゾーン2再生を行っているときは、メインルームのサラウンドバックスピーカーからは再生できません。

- 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



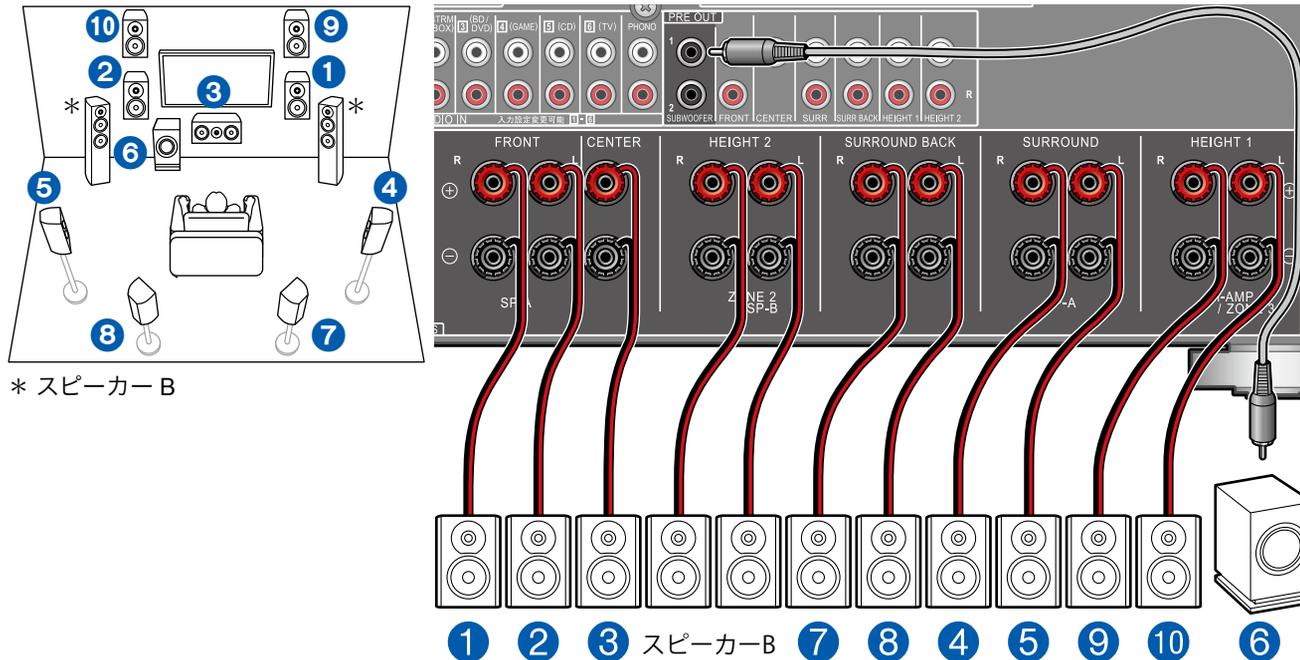
- スピーカーチャンネル：7.1.2 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：ゾーン2
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：ゾーン2
- バイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)



設定が必要です

HDMI入力の映像や音声をゾーン2出力する場合は、ホーム画面の「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「ゾーン2 HDMI出力」(→p151)を「使用する」に設定してください。

■ 7.1.2チャンネルシステム+ スピーカー B



* スピーカー B

7.1チャンネルシステムに、ハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイトスピーカーを組み合わせた例です。ハイトスピーカーは以下の3タイプの中から1組のみ選んで接続することができます。

□ フロントハイトスピーカー/リアハイトスピーカーを使用した場合の設置例 (→p26)

□ 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例 (→p27)

□ Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speaker) を使用した場合の設置例 (→p28)

メインのスピーカーシステム (スピーカー Aシステム) 以外にフロントスピーカーをもう1系統、スピーカー Bシステムとして接続して、7.1.2チャンネルシステムを構成することができます。スピーカー Bシステムとして接続した場合、同じ音声をスピーカー AB/A+Bで切り換えて出力することができます。スピーカーの切換操作は「AV Adjust」の「Speakers」(→p191)で行います。

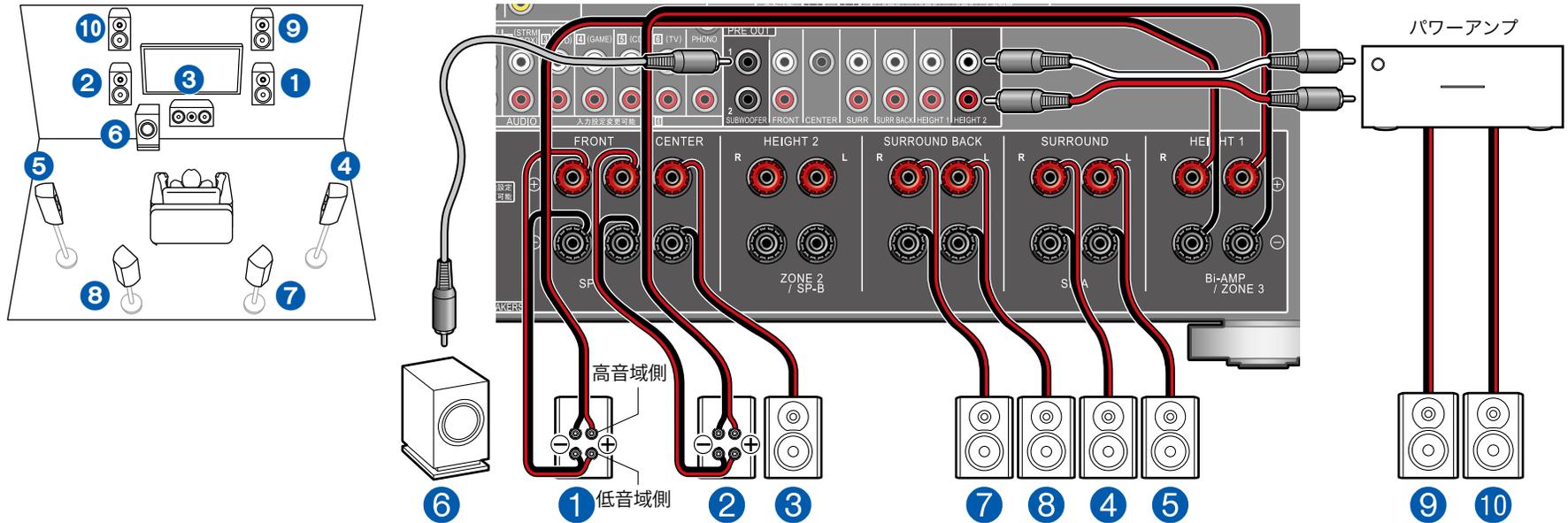
• スピーカー A+Bで再生を行っているときは、サラウンドバックスピーカーからは再生できません。

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：7.1.2 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ハイト2スピーカー：---
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：有り
- ゾーン2 プリアウト：ゾーン2
- バイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 7.1.2チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー)



7.1チャンネルシステムに、ハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイトスピーカーを組み合わせた例です。ハイトスピーカーは以下の3タイプの中から1組のみ選んで接続することができます。

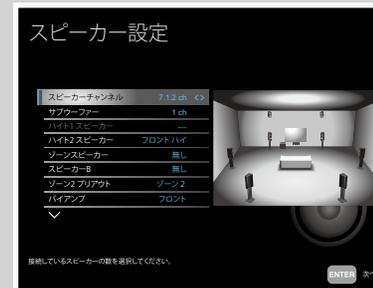
□ フロントハイトスピーカー/リアハイトスピーカーを使用した場合の設置例 (→p26)

□ 天井埋め込み型スピーカーを使用した場合の設置例 (→p27)

□ Dolby Enabledスピーカー (Dolby Speaker) を使用した場合の設置例 (→p28)

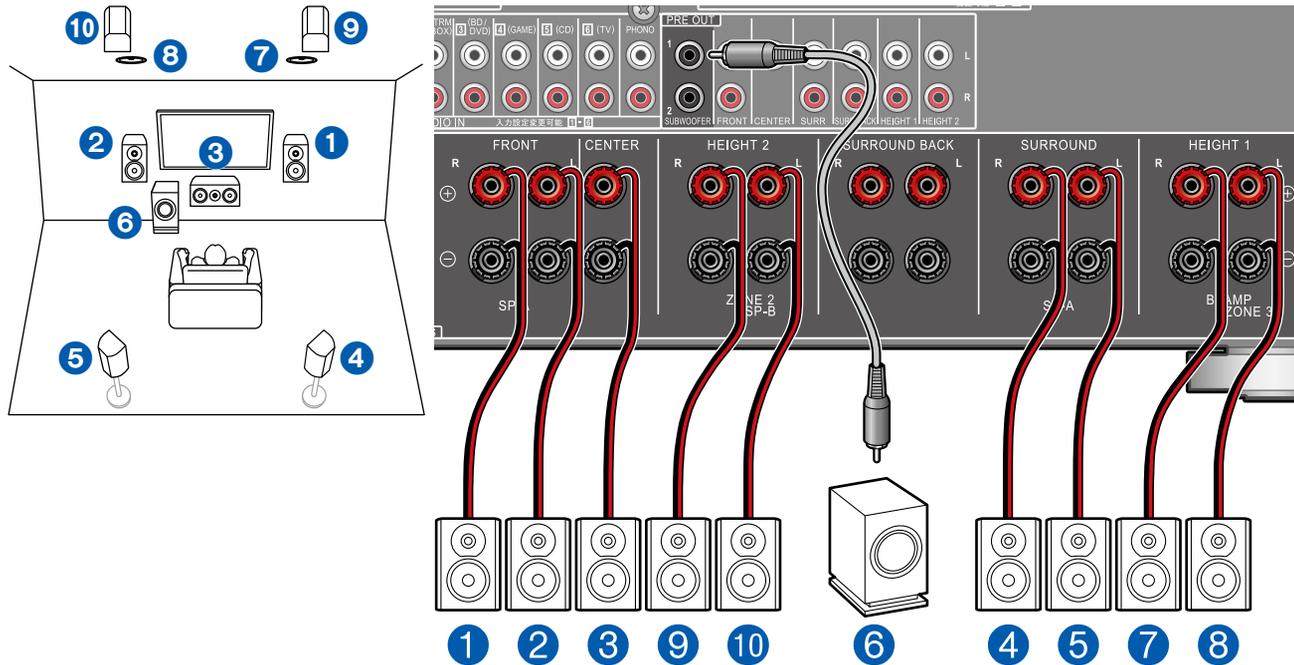
バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続して、7.1.2チャンネルシステムを構成することができます。バイアンプ接続により、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：7.1.2 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：---
- ハイト2スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカー-B：無し
- ゾーン2プリアンプ：任意の値 (→p157)
- バイアンプ：フロント
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 5.1.4 チャンネルシステム



5.1チャンネルシステムに、前方にトップミドルスピーカーを後方にリアハイスピーカーを組み合わせた例です。前方のハイトスピーカーは以下の4タイプの中から選ぶことができます。前方に使用するハイトスピーカーによって、後方に組み合わせることのできるハイトスピーカーは異なります。

- 前方にトップフロントスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p30)
- 前方にトップミドルスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p32)
- 前方にフロントハイスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p33)
- 前方にDolby Enabledスピーカー(フロント)を使用した場合の組み合わせ例 (→p35)

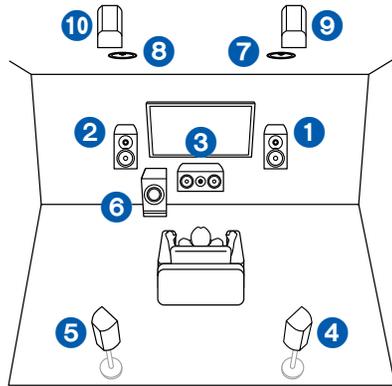
■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



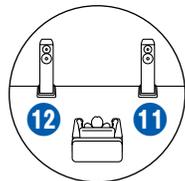
- スピーカーチャンネル：5.1.4 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ハイト2スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→p157)
- バイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 5.1.4チャンネルシステム+ ゾーンスピーカー

メインルーム



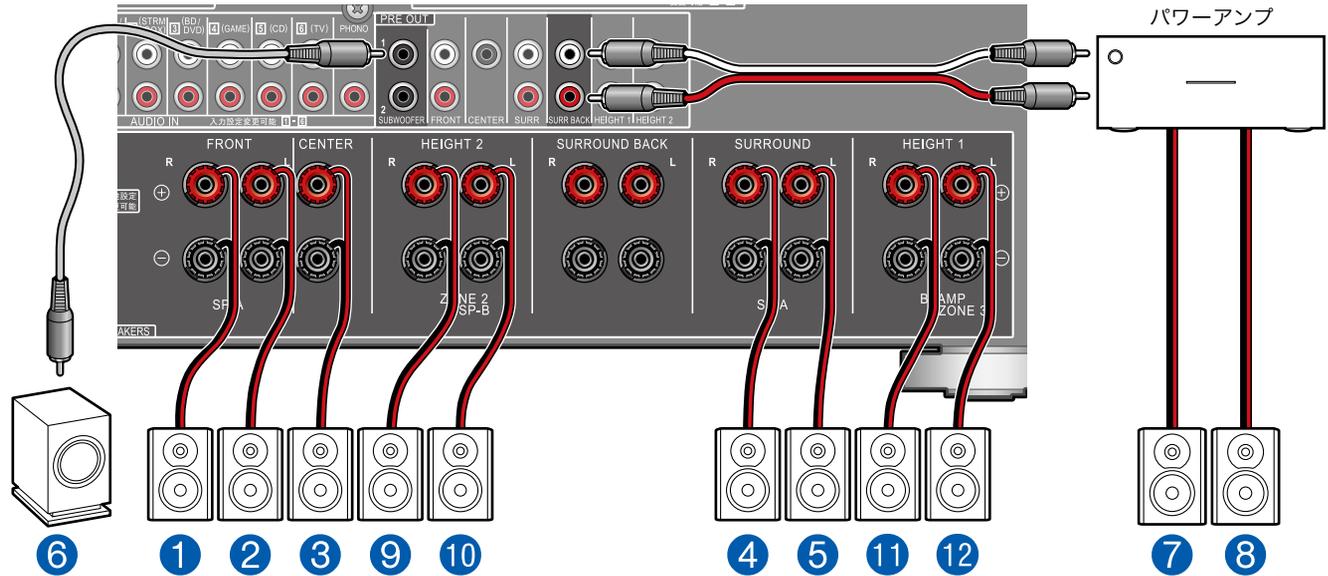
ゾーン2



メインルーム：5.1チャンネルシステムに、前方にトップミドルスピーカーを後方にリアハイスピーカーを組み合わせた例です。前方のハイトスピーカーは以下の4タイプの中から選ぶことができます。前方に使用するハイトスピーカーによって、後方に組み合わせることのできるハイトスピーカーは異なります。

- 前方にトップフロントスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p30)
- 前方にトップミドルスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p32)
- 前方にフロントハイスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p33)
- 前方にDolby Enabledスピーカー(フロント)を使用した場合の組み合わせ例 (→p35)

ゾーン2：メインルーム(本機のある部屋)で再生をしながら、別室(ゾーン2)で、2チャンネルの音声を楽しむことができます。メインルームとゾーン2で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。



■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



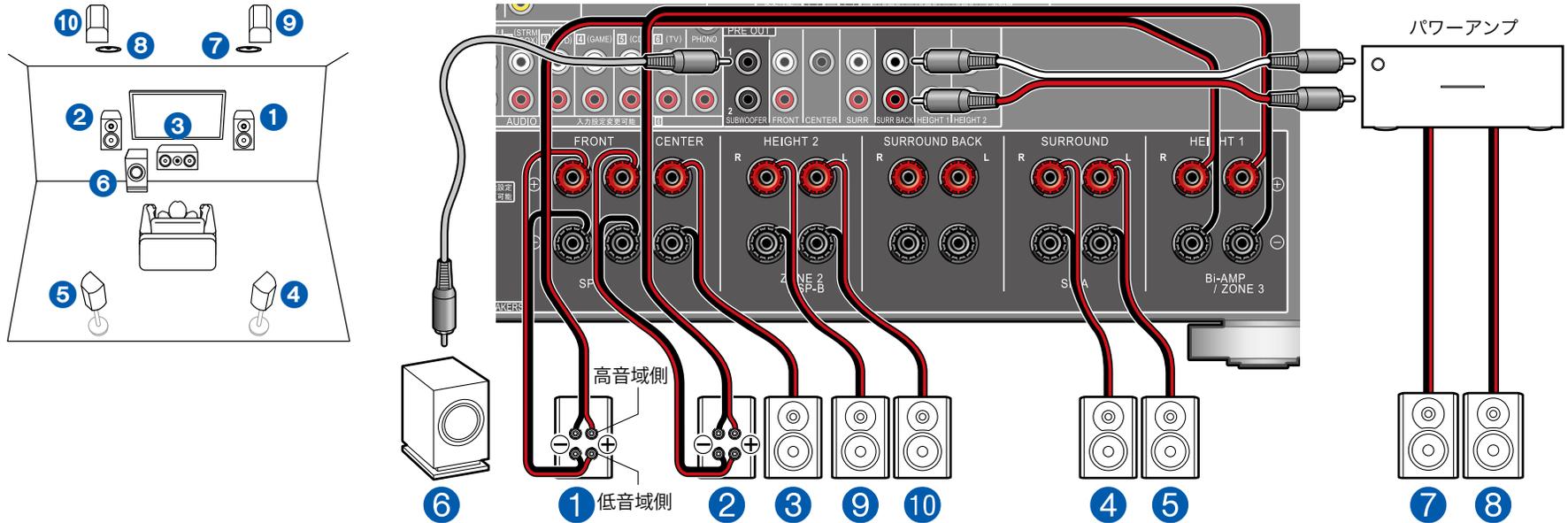
- スピーカーチャンネル：5.1.4 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ハイト2スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ゾーンスピーカー：ゾーン2
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：ゾーン2
- バイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)



設定が必要です

HDMI入力の映像や音声をゾーン2出力する場合は、ホーム画面の「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「ゾーン2 HDMI出力」(→p151)を「使用する」に設定してください。

■ 5.1.4 チャンネルシステム (バイアンプ対応スピーカー)



5.1チャンネルシステムに、前方にトップミドルスピーカーを後方にリアハイスピーカーを組み合わせた例です。前方のハイトスピーカーは以下の4タイプの中から選ぶことができます。前方に使用するハイトスピーカーによって、後方に組み合わせることのできるハイトスピーカーは異なります。

- 前方にトップフロントスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p30)
- 前方にトップミドルスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p32)
- 前方にフロントハイスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p33)
- 前方にDolby Enabledスピーカー(フロント)を使用した場合の組み合わせ例 (→p35)

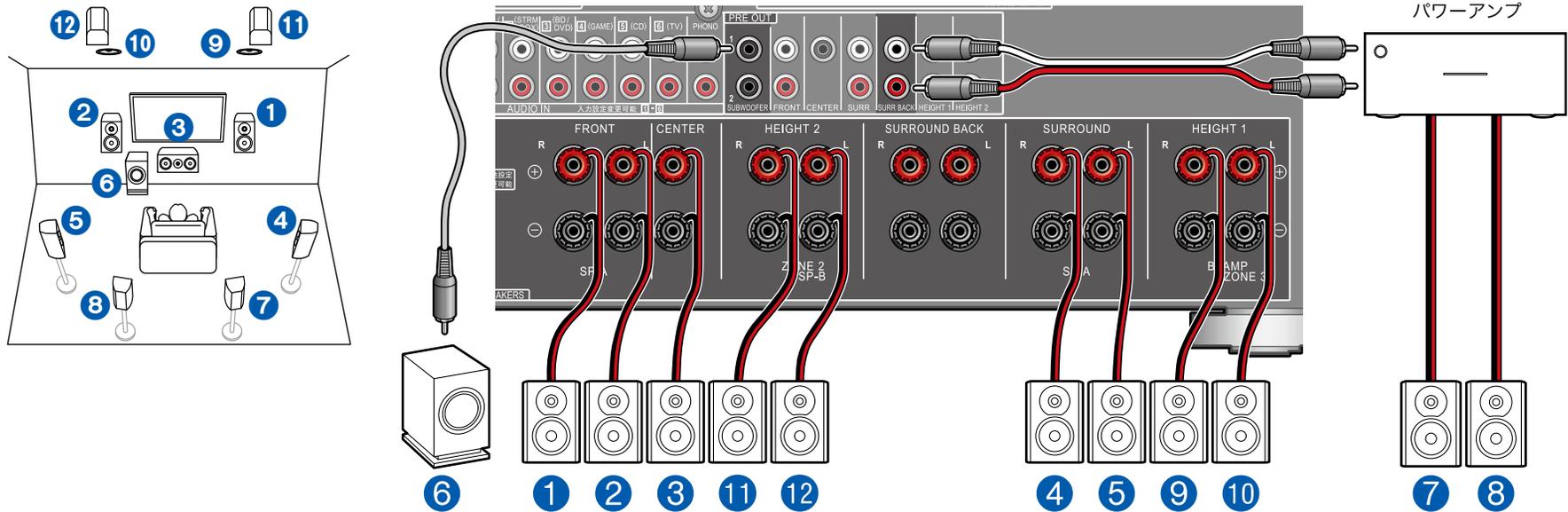
バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続して、5.1.4チャンネルシステムを構成することができます。バイアンプ接続により、低音域と高音域の音質を向上させることができます。なお、バイアンプ対応スピーカー側のウーファー端子とツイーター端子を接続しているショートバーは必ず外してください。また、ご使用のスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：5.1.4 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ハイト2スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカーB：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→p157)
- バイアンプ：フロント
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

■ 7.1.4 チャンネルシステム



7.1チャンネルシステムに、前方にトップミドルスピーカーを後方にリアハイスピーカーを組み合わせた例です。前方のハイトスピーカーは以下の4タイプの中から選ぶことができます。前方に使用するハイトスピーカーによって、後方に組み合わせることのできるハイトスピーカーは異なります。

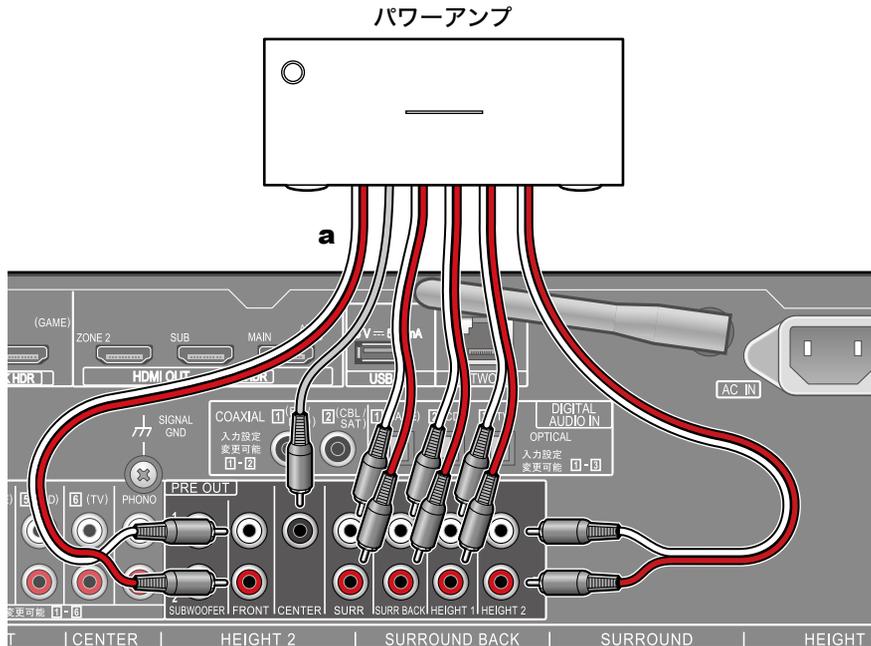
- 前方にトップフロントスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p38)
- 前方にトップミドルスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p40)
- 前方にフロントハイスピーカーを使用した場合の組み合わせ例 (→p41)
- 前方にDolby Enabledスピーカー(フロント)を使用した場合の組み合わせ例 (→p43)

■ 初期設定 (→p195) 時の「スピーカー設定」の設定について：



- スピーカーチャンネル：7.1.4 ch
- サブウーファー：1ch
- ハイト1スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ハイト2スピーカー：実際に設置したハイトスピーカーのタイプの中から選択してください
- ゾーンスピーカー：無し
- スピーカー B：無し
- ゾーン2 プリアウト：任意の値 (→p157)
- パイアンプ：無し
- Symmetry / All Channel Adjust / Front Align (→p195)

パワーアンプを接続する



a オーディオ用ピンケーブル

パワーアンプを本機に接続して、本機をプリアンプとして使用できます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。各スピーカーは、パワーアンプに接続してください。詳しくは、パワーアンプの取扱説明書をご覧ください。

- 左図のように、PRE OUT 端子を使用して接続します。



設定が必要です

- 接続しているスピーカーのチャンネル数に合わせて、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」を設定してください。
- 本機の使用しないSPEAKERS端子の電源をオフにして、消費電力を抑えることができます。設定は、「システム設定」-「その他」-「プリアンプモード」で行ってください。

スピーカー組み合わせ一覧

• いずれの組み合わせでも、アンプ内蔵サブウーファーは2台まで接続可能です。

スピーカー チャンネル	FRONT	CENTER	SURROUND	SURROUND BACK	HEIGHT 1	HEIGHT 2	SP B (*1) (スピーカー B)	Bi-AMP (*1)	ZONE 2 (*1) (ゾーンスピーカー)	ZONE 3 (*1) (ゾーンスピーカー)
2.1 ch	✓						✓(*2)	フロント	✓	✓
3.1 ch	✓	✓					✓(*2)	フロント、 フロント/センター	✓	✓
4.1 ch	✓		✓				✓(*2)	フロント、 フロント/サラウンド	✓	✓
5.1 ch	✓	✓	✓				✓(*2)	フロント/センター、 フロント/サラウンド	✓	✓
6.1 ch	✓		✓	✓			✓(*2)	フロント	✓(*3)	✓
7.1 ch	✓	✓	✓	✓			✓(*2)	フロント	✓(*3)	✓
2.1.2 ch	✓				✓(*4)		✓	フロント	✓	
3.1.2 ch	✓	✓			✓(*4)		✓	フロント	✓	
4.1.2 ch	✓		✓		✓(*4)		✓	フロント	✓	
5.1.2 ch	✓	✓	✓		✓(*4)		✓	フロント	✓	
6.1.2 ch	✓		✓	✓	✓(*5)		✓	フロント	✓	
7.1.2 ch	✓	✓	✓	✓	✓(*5)		✓	フロント	✓	
4.1.4 ch	✓		✓		✓	✓(*6)		フロント	✓	
5.1.4 ch	✓	✓	✓		✓	✓(*6)		フロント	✓	
6.1.4 ch	✓		✓	✓(*7)	✓	✓				
7.1.4 ch	✓	✓	✓	✓(*7)	✓	✓				

(*1) スピーカー B、Bi-AMP、ゾーンスピーカーを同時に使用することはできません。ただし、2.1 ch ~ 7.1 ch の場合に、Bi-AMP (フロント) とゾーン2スピーカーを同時に使用することは可能です。

(*2) スピーカー Bをバイアンプ接続することも可能です。

(*3) 別室でゾーン3スピーカーを接続せずゾーン2スピーカーのみを接続する場合は、ゾーン2スピーカーをHEIGHT 1端子に接続してください。ただし、Bi-AMP (フロント) と同時に使用する場合は、ゾーン2スピーカーをHEIGHT 2端子に接続してください。

(*4) フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合は、ハイトスピーカーをHEIGHT 2端子に接続する必要があります。

(*5) 本機は9チャンネルのアンプ構成のため、フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合、PRE OUT HEIGHT 2端子とパワーアンプをオーディオ用ピンケーブルで接続し、パワーアンプにハイトスピーカーを接続する必要があります。

(*6) 本機は9チャンネルのアンプ構成のため、フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合またはゾーン2スピーカーを使用する場合、PRE OUT SURR BACK端子とパワーアンプをオーディオ用ピンケーブルで接続し、パワーアンプにハイトスピーカーを接続する必要があります。

(*7) 本機は9チャンネルのアンプ構成のため、この組み合わせの場合、PRE OUT SURR BACK 端子とパワーアンプをオーディオ用ピンケーブルで接続し、パワーアンプにサラウンドバックスピーカーを接続する必要があります。

HEIGHT 1/HEIGHT 2について

ハイトスピーカーを2組接続する場合、選択できるハイトスピーカーの組み合わせは以下のとおりです。

- ハイト1スピーカー：トップミドル、ハイト2スピーカー：リアハイ
- ハイト1スピーカー：フロント ハイ、ハイト2スピーカー：リアハイ/トップミドル/トップリア/Dolby Enabledスピーカー（サラウンド）/Dolby Enabledスピーカー（サラウンドバック）のいずれか
- ハイト1スピーカー：トップフロントまたはDolby Enabledスピーカー（フロント）、ハイト2スピーカー：リアハイ/トップリア/Dolby Enabledスピーカー（サラウンド）/Dolby Enabledスピーカー（サラウンドバック）のいずれか

なお、ハイトスピーカーを1組のみ接続する場合は、ハイトスピーカーのタイプから1つお選びいただけます。

テレビを接続する

本機はテレビとAV機器の間に接続します。本機とテレビを接続することで、AV機器の映像や音声信号をテレビに出力したり、テレビの音声を本機で再生することができます。テレビとの接続は、テレビがARC (Audio Return Channel) 機能やeARC (Enhanced Audio Return Channel) 機能に対応しているかにより異なります。ARC機能およびeARC機能は、HDMIケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。テレビがARC機能およびeARC機能に対応しているかどうかは、テレビの取扱説明書などでご確認ください。

- eARC機能は、HDMI 2.1で追加される新機能です。従来のARC機能から拡張された機能であり、ARC機能では伝送できなかったDolby TrueHDやDTS-HD Master Audioなどの音声フォーマットをeARC機能対応テレビから本機へ伝送することが可能になります。(→[p211](#))

お手持ちのテレビは**ARC機能**に対応していますか？

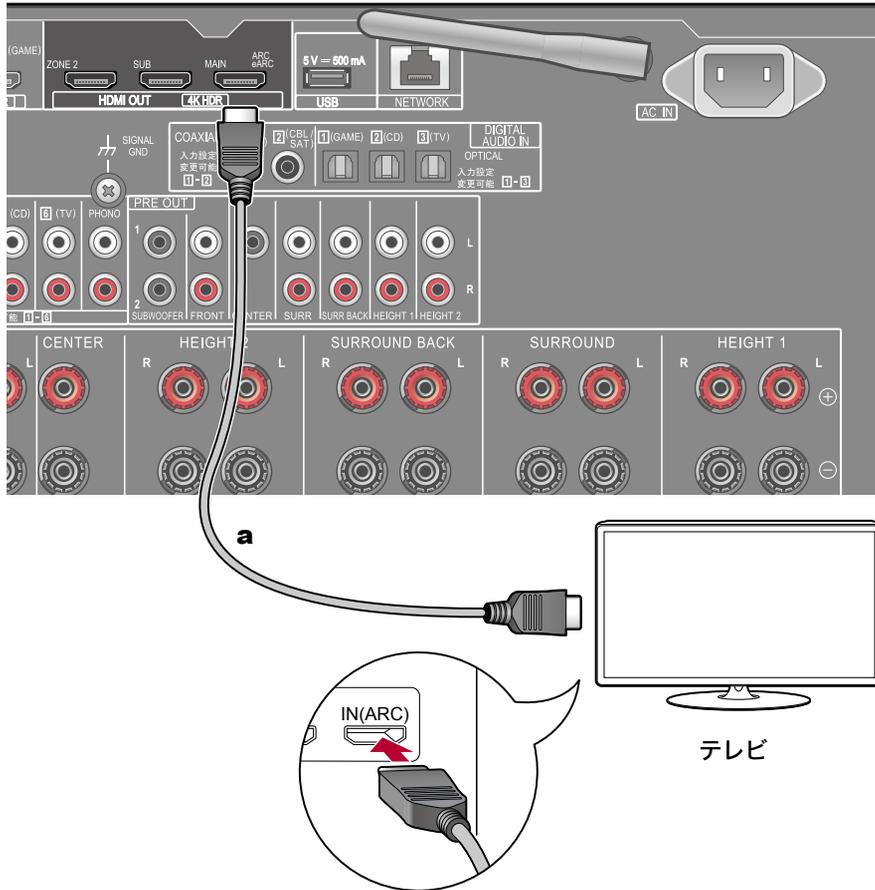
はい

- **ARC/eARC対応テレビとの接続** (→[p78](#))

いいえ

- **ARC非対応テレビとの接続** (→[p79](#))

ARC/eARC 対応テレビとの接続



a HDMI ケーブル

テレビが ARC (Audio Return Channel) 機能(*) に対応している場合は、HDMI ケーブルのみを使用してテレビと接続を行います。テレビ側の HDMI IN 端子は ARC 対応の端子を選んで接続してください。HDMI ケーブルは本機の HDMI OUT 端子に接続してください。

- HDMI OUT SUB 端子にもう 1 台テレビやプロジェクターを接続することができます。MAIN と SUB の切り換えは、リモコンの HDMI MAIN/SUB ボタン (→ [p15](#)) や「AV Adjust」(→ [p190](#)) で行います。なお、この端子は ARC 機能には対応していません。
- HDMI OUT MAIN 端子と SUB 端子の両方に解像度の異なる機器を接続している場合は、低い方の解像度に合わせて出力されます。
- 4K の高画質映像を再生する場合は、「PREMIUM Certified Cable」のラベルが貼られているプレミアムハイスピード HDMI ケーブル、またはイーサネット対応プレミアムハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。また、リモコンの  ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV 出力/OSD」-「4K 信号フォーマット」(→ [p151](#)) を「拡張」にしてください。

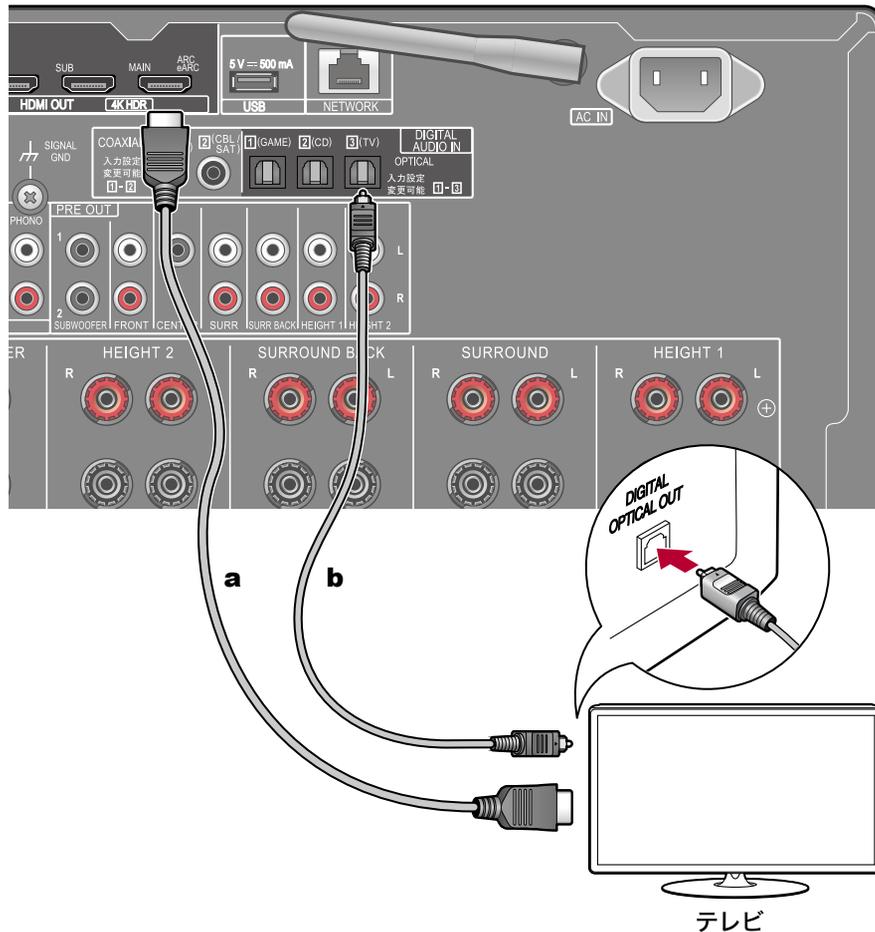


設定が必要です

- ARC 機能を使用するためには設定が必要です。初期設定 (→ [p194](#)) の「4. ARC 設定」で、「はい」を選択してください。「いいえ、とばします」を選んだ場合は、初期設定の完了後に、システム設定メニューで設定が必要です。リモコンの  ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「オーディオリターンチャンネル」を「オン」に設定します。(→ [p165](#))
- テレビの接続、CEC 機能や音声出力に関する設定については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

(*) ARC 機能：HDMI ケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声再生する機能です。ARC 機能を搭載しているテレビとの接続は、HDMI ケーブル 1 本の接続で完了します。テレビが ARC 機能に対応しているかどうかはテレビの取扱説明書などで確認ください。

ARC 非対応テレビとの接続



a HDMIケーブル、b 光デジタルケーブル

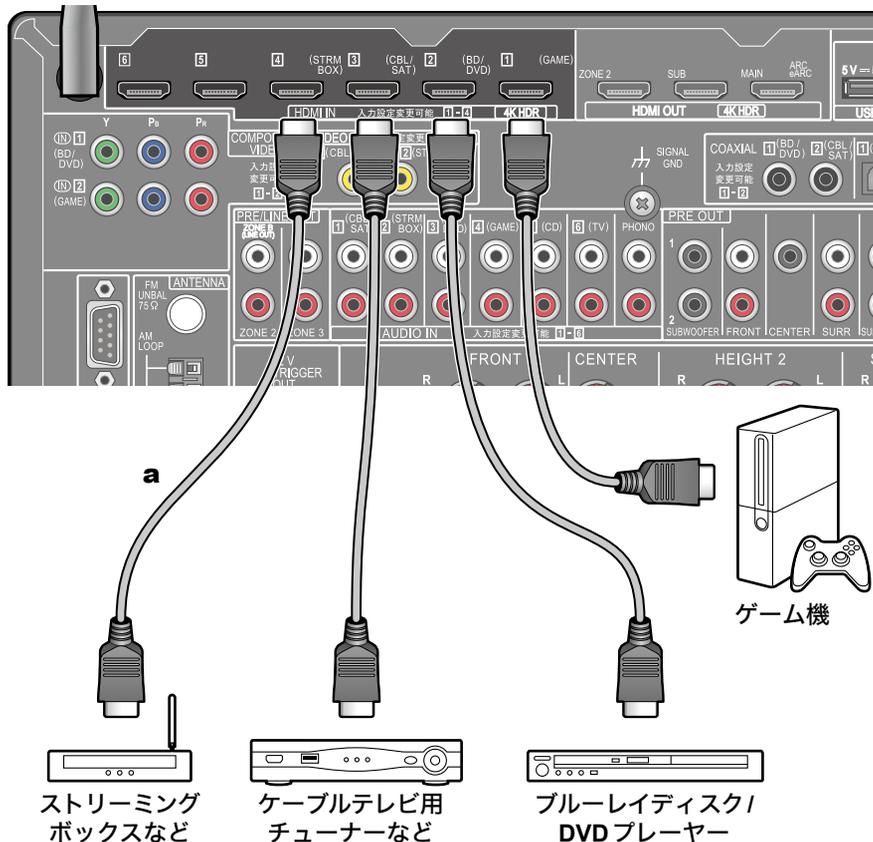
テレビがARC (Audio Return Channel) 機能(*)に対応していない場合は、HDMIケーブルと光デジタルケーブルを接続します。

- 本機の入力端子に接続したケーブルテレビ用チューナーなどでテレビを視聴する場合(テレビ内蔵のチューナーを使用しない場合)は、光デジタルケーブルやオーディオ用ピンケーブルを接続する必要はありません。
- HDMI OUT SUB 端子にもう1台テレビやプロジェクターを接続することができます。MAIN と SUB の切り換えは、リモコンのHDMI MAIN/SUB ボタン(→ [p15](#))や「AV Adjust」(→ [p190](#))で行います。なお、この端子はARC 機能には対応していません。
- HDMI OUT MAIN 端子と SUB 端子の両方に解像度の異なる機器を接続している場合は、低い方の解像度に合わせて出力されます。
- 4Kの高画質映像を再生する場合は、パッケージに「PREMIUM Certified Cable」のラベルが貼られているプレミアムハイスピードHDMIケーブル、またはイーサネット対応プレミアムハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。また、リモコンの  ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「4K信号フォーマット」(→ [p151](#))を「拡張」にしてください。

(*) ARC 機能：HDMIケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。ARC 機能を搭載しているテレビとの接続は、HDMIケーブル1本の接続で完了します。テレビがARC機能に対応しているかどうかはテレビの取扱説明書などで確認ください。

再生機器を接続する

HDMI 端子のある AV 機器との接続



a HDMI ケーブル

HDMI 端子を持つ AV 機器との接続例です。CEC (Consumer Electronics Control) 規格に準拠している AV 機器との接続では、入力切替の連動切替などの HDMI CEC 機能(*) や、本機の電源がスタンバイ状態になっているときでも AV 機器の映像 / 音声信号をテレビに伝送できる HDMI スタンバイスルー機能を使用することができます。

- 4K の高画質映像を再生する場合は、パッケージに「PREMIUM Certified Cable」のラベルが貼られているプレミアムハイスピード HDMI ケーブル、またはイーサネット対応プレミアムハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。また、リモコンの  ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「入力 / 出力端子の割り当て」-「TV 出力 / OSD」-「4K 信号フォーマット」(→ [p151](#)) を「拡張」にしてください。

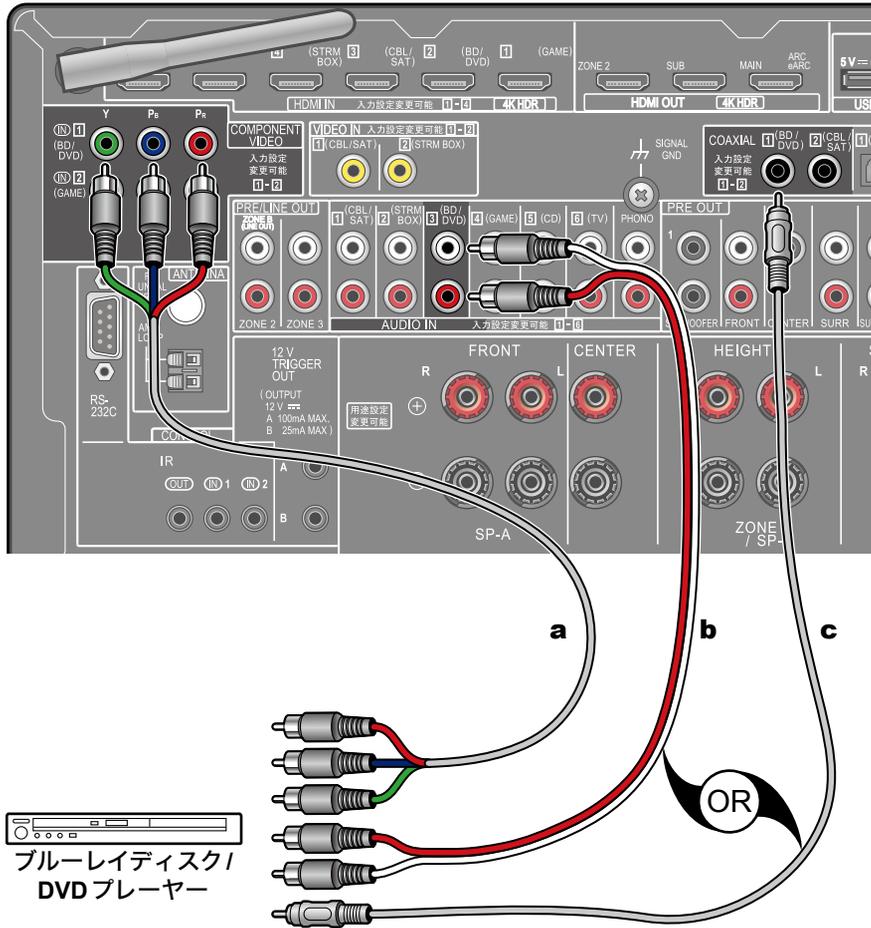


設定が必要です

- HDMI CEC 機能や HDMI スタンバイスルー機能は、初期設定 (→ [p194](#)) の「4. ARC 設定」で「はい」を選んだ場合は、自動的に有効になります。「いいえ、とびます」を選んだ場合は、初期設定の完了後に、システム設定メニューで設定が必要です。リモコンの  ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」から設定します。(→ [p164](#))
- Dolby Digital などのデジタルサラウンド音声を楽しむためには、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

(*) HDMI CEC 機能：CEC 規格に準拠した再生機との入力切替の連動切り換え / CEC 規格に準拠したテレビのリモコンで、音声をテレビから出力するか、本機から出力するかの切り換えや音量調整などの操作 / テレビの電源オフに連動して自動で電源スタンバイなどのコントロール機能が可能です。

HDMI端子のないAV機器との接続



a コンポーネントビデオケーブル、**b** オーディオ用ピンケーブル、**c** 同軸デジタルケーブル

HDMI端子を持たないAV機器との接続例です。AV機器に装備されている端子に合わせてケーブルを選び接続してください。映像入力をBD/DVD端子に接続する場合、音声入力もBD/DVD端子に接続するなど、映像入力端子と音声入力端子は同じ名称の端子を接続します。なお、VIDEO IN端子、COMPONENT VIDEO IN端子に入力された映像信号は、HDMIの映像信号に変換されてHDMI OUT端子から出力されます。

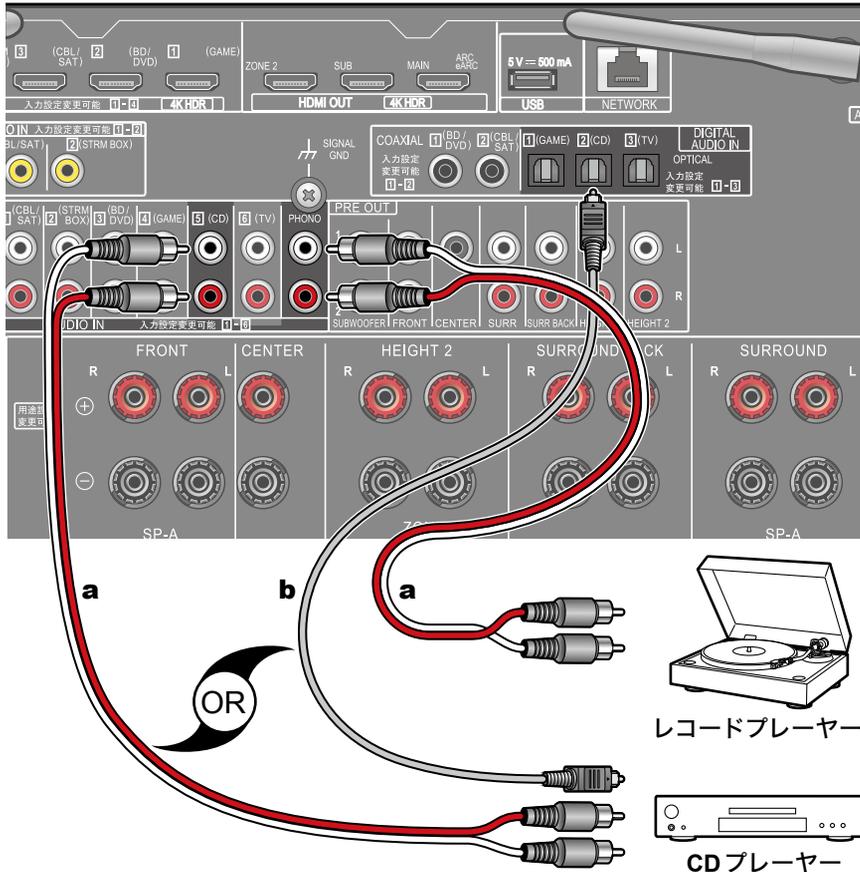
- Dolby Digitalなどのデジタルサラウンド再生を楽しむためには、音声信号は同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルでの接続が必要です。
- 図の場合、入力切替の割り当て(→[p152](#))を変更すると、BD/DVD以外の端子に接続することもできます。



設定が必要です

- COMPONENT VIDEO IN端子は480iの解像度のみに対応しています。COMPONENT VIDEO IN端子に接続する場合は、再生機器の出力解像度の設定を480iに設定してください。480iなどの選択肢がない場合は、インターレースを選択してください。再生機器が480iで出力できない場合は、VIDEO IN端子をご使用ください。
- Dolby Digitalなどのデジタルサラウンド音声を楽しむためには、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

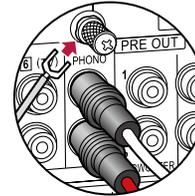
オーディオ機器との接続



a オーディオ用ピンクケーブル、**b** 光デジタルケーブル

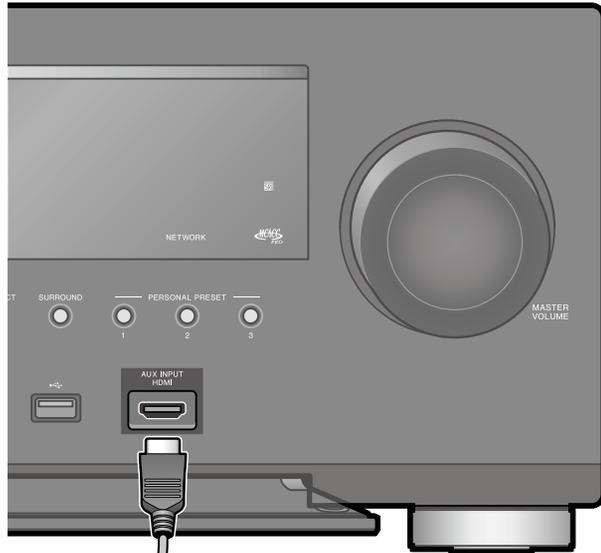
オーディオ機器との接続例です。CDプレーヤーとは光デジタルケーブルまたはオーディオ用ピンクケーブルで接続します。PHONO端子には、MM型のカートリッジを使用したレコードプレーヤーを接続することができます。

- レコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵している場合は、PHONO端子以外のAUDIO IN端子のいずれかに接続します。また、MC型カートリッジを使用したレコードプレーヤーの場合は、MCカートリッジ対応のフォノイコライザーを本機とレコードプレーヤーの間に介して、PHONO端子以外のAUDIO IN端子のいずれかに接続します。



レコードプレーヤーにアース線がある場合は、GND端子に接続します。

ビデオカメラなどを接続する



HDMIケーブルを使用して、フロントパネルのAUX INPUT HDMI端子にビデオカメラなどを接続します。

a

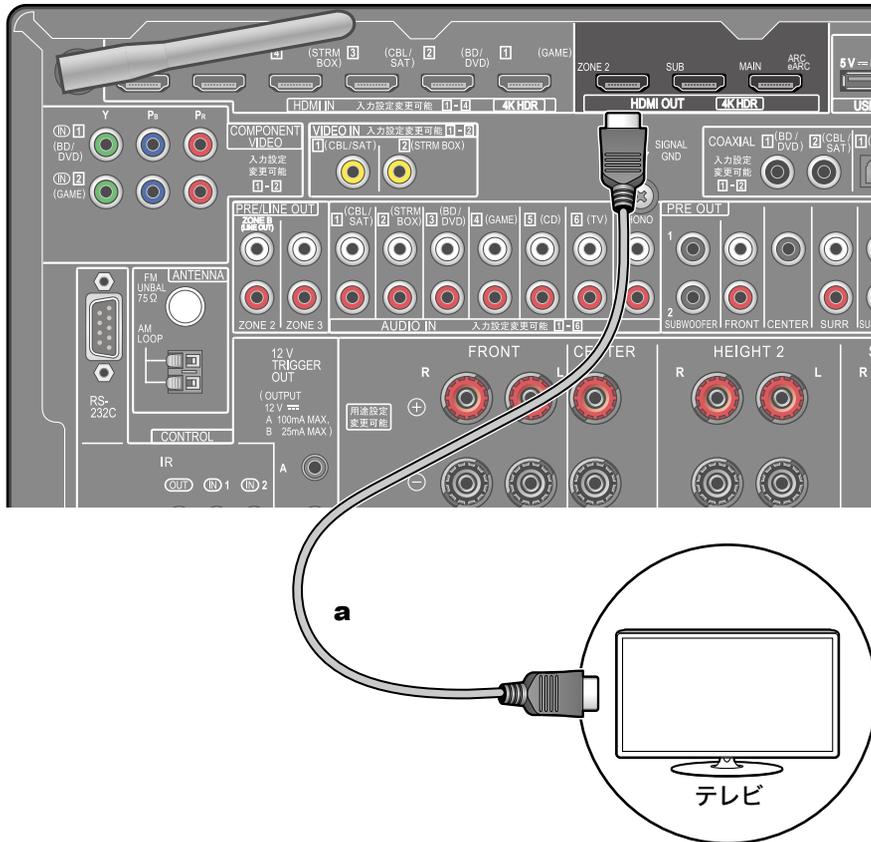


ビデオカメラ

a HDMIケーブル

別室のAV機器と接続する (マルチゾーン接続)

別室のテレビと接続する (ゾーン2)



a HDMIケーブル

メインルーム (本機のある部屋) でブルーレイディスクプレーヤーを再生しながら、HDMI入力端子を備えた別室 (ゾーン2) のテレビでも同じブルーレイディスクプレーヤーや、他のAV機器の映像と音声を再生することができます。なお、別室のテレビで再生できるのは、本機のHDMI IN1 ~ IN3端子に接続した機器のみです。

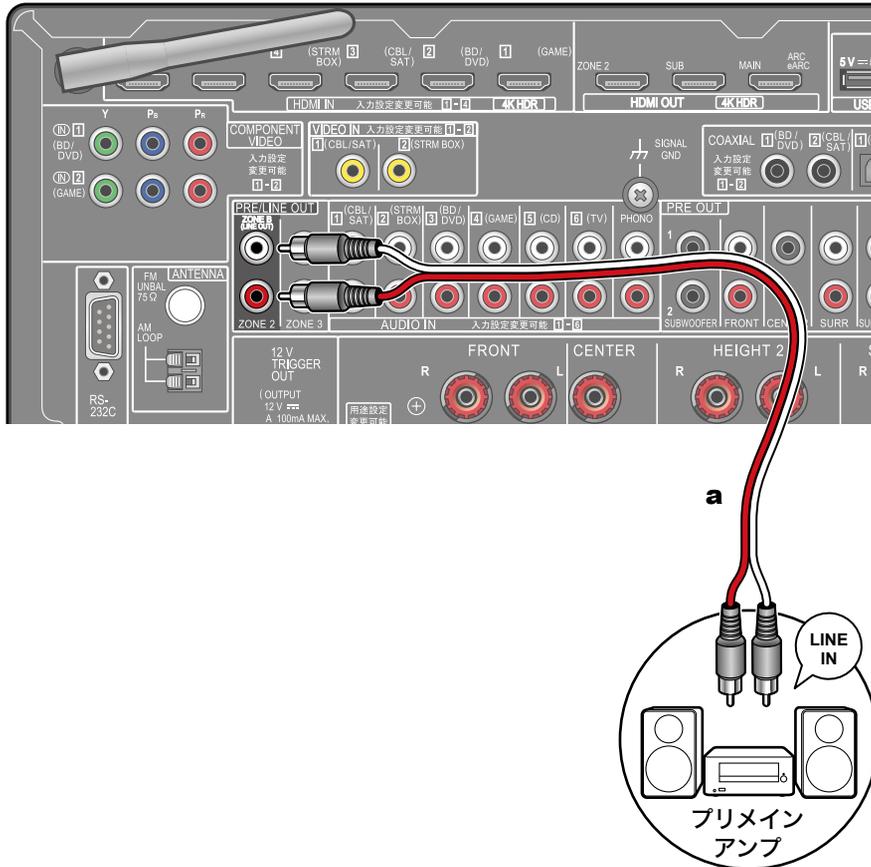
- 外部接続のAV機器の音声は、2チャンネルPCM音声信号のみ出力可能です。また、AV機器の音声出力をPCM出力に変更する必要がある場合があります。



設定が必要です

- HDMI入力の映像や音声をゾーン2出力する場合は、システム設定メニューの「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「ゾーン2 HDMI出力」(→ [p151](#))を「使用する」に設定してください。

別室のプリメインアンプと接続する (ゾーン2)



a オーディオ用ピンケーブル

メインルーム (本機のある部屋) で再生をしながら、別室 (ゾーン2) で、2チャンネルの音声を楽しむことができます。本機の ZONE 2 PRE/LINE OUT 端子と別室のプリメインアンプまたはパワーアンプの LINE IN 端子をオーディオ用ピンケーブルで接続します。メインルームとゾーン2で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。

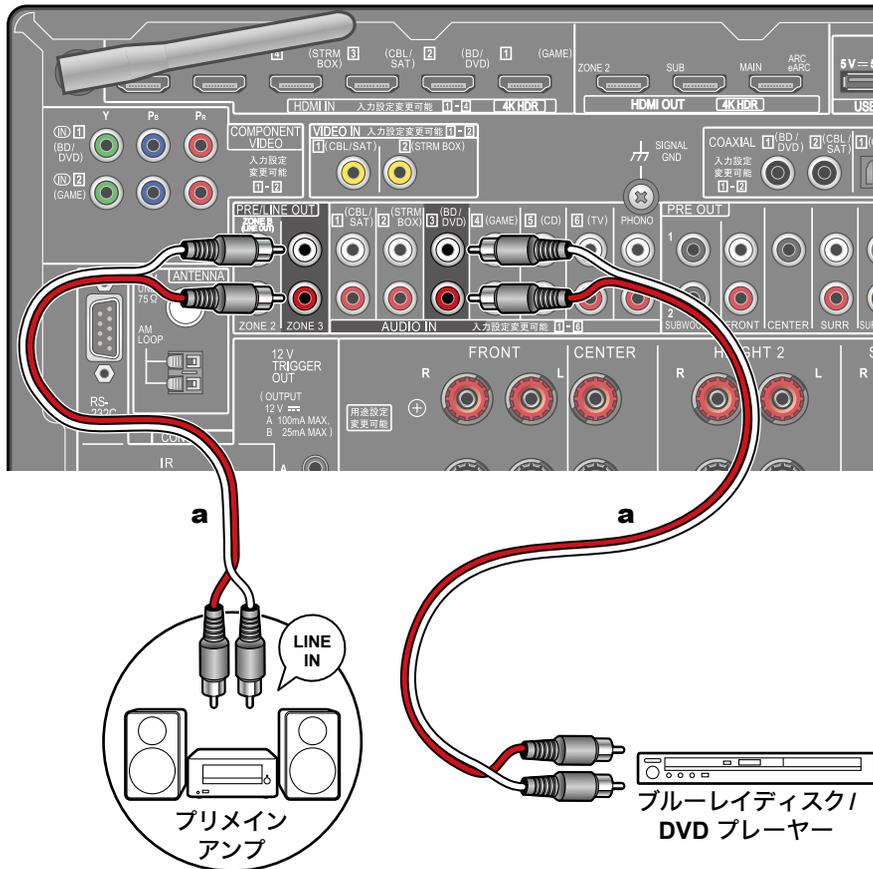
- 外部接続のAV機器の音声をゾーン2出力するには、HDMI IN1 ~ 3に接続します。AV機器がHDMI端子を持たない場合は、同軸デジタルケーブル、光デジタルケーブルまたはオーディオ用ピンケーブルで接続してください。また、外部接続のAV機器の音声は、アナログまたは2チャンネルPCM音声のみゾーン2で再生可能です。本機と同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルで接続している場合は、AV機器の音声出力をPCM出力に変更する必要がある場合があります。



設定が必要です

- ゾーン2に音声を出力するためには設定が必要です。リモコンの を押して表示されるホームの「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーン2プリアウト」(→p157)を「ゾーン2」に設定してください。
- パワーアンプを接続する場合は、システム設定メニューの「マルチゾーン」-「ゾーン2」-「アウトプットレベル」(→p172)を「可変」に設定してください。設定しない場合、大音量が出力されて、パワーアンプやスピーカー等が破損するおそれがあります。

別室のプリメインアンプと接続する (ゾーン3)



a オーディオ用ピンケーブル

メインルーム (本機のある部屋) で再生をしながら、別室 (ゾーン3) で、2チャンネルの音声を楽しむことができます。本機の ZONE 3 PRE/LINE OUT 端子と別室のプリメインアンプまたはパワーアンプの LINE IN 端子をオーディオ用ピンケーブルで接続します。メインルームとゾーン3で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。

- 外部接続のAV機器の音声をゾーン3出力するには、オーディオ用ピンケーブルでの接続が必要です。HDMIケーブルや同軸デジタルケーブル、光デジタルケーブルでの接続ではゾーン3出力できませんのでご注意ください。

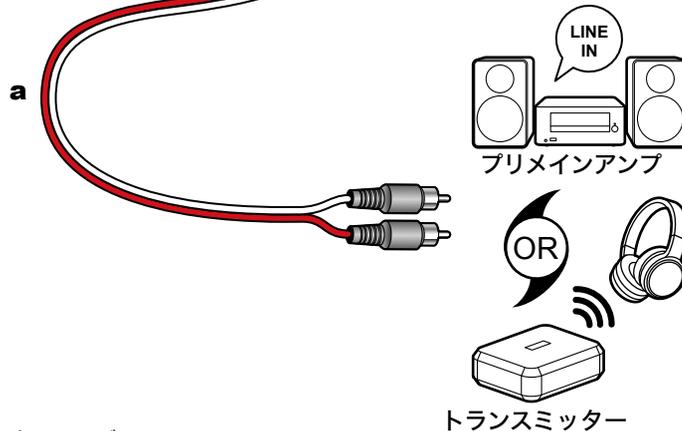
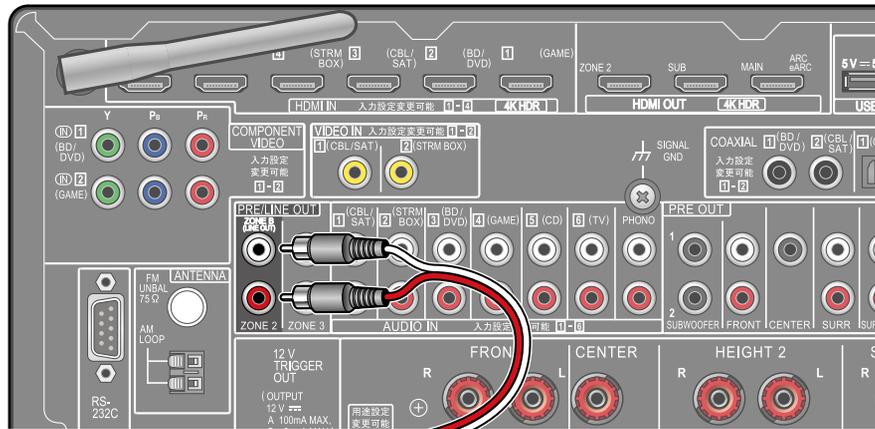


設定が必要です

- 「スピーカー組み合わせ一覧」(→[p75](#))の2.1 ch、3.1 ch、4.1 ch、5.1 ch、6.1 ch、7.1 chの組み合わせをした場合にこの機能を使用することができます。
- パワーアンプを接続する場合は、システム設定メニューの「マルチゾーン」-「ゾーン3」-「アウトプットレベル」(→[p172](#))を「可変」に設定してください。設定しない場合、大音量が出力されて、パワーアンプやスピーカー等が破損するおそれがあります。

ゾーンBに接続する

プリメインアンプなどを接続する(ゾーンB)



a オーディオ用ピンケーブル

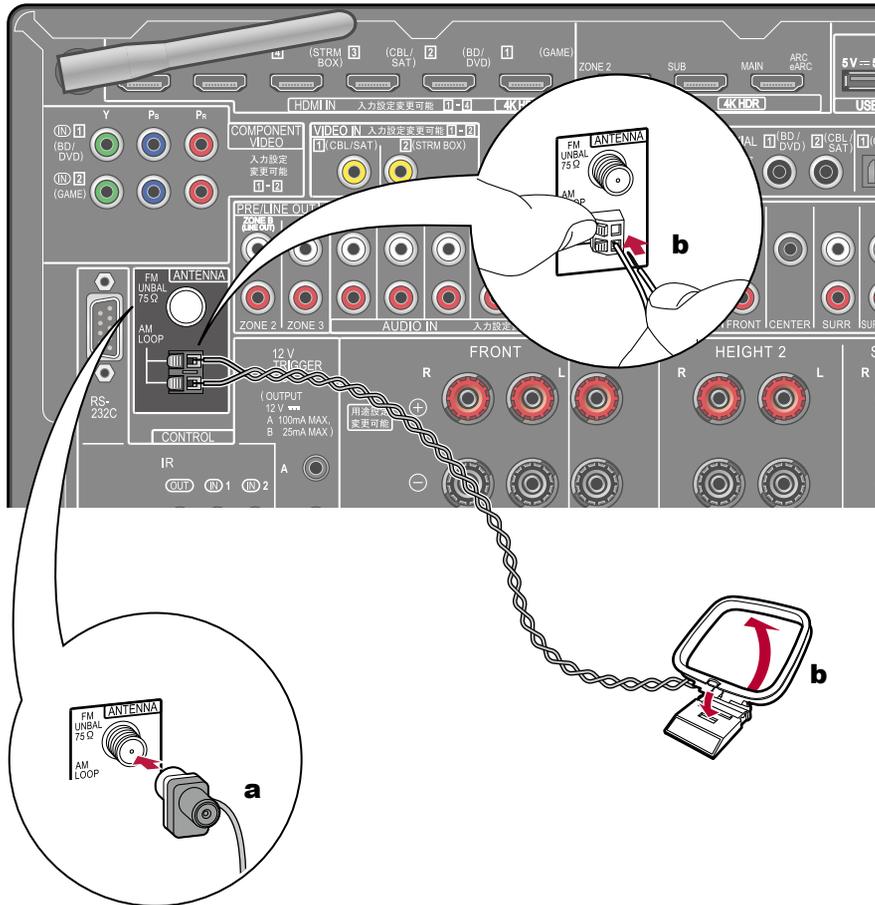
本機に接続したスピーカー(ゾーンA)で再生をしながら、ZONE B LINE OUT 端子にプリメインアンプまたはワイヤレスヘッドホンのトランスミッターなどを接続し、同時に同じソースの音声を楽しむことができます。本機のZONE B LINE OUT 端子とプリメインアンプまたはワイヤレスヘッドホンのトランスミッターのLINE IN端子をオーディオ用ピンケーブルで接続します。再生時には、リモコンの  ボタンを押して表示される「AV Adjust」から音声の出力先を選んでください。(→[p124](#))



設定が必要です

- ゾーンBに音声を出力するためには設定が必要です。リモコンの  を押して表示されるホームの「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーン2ブリアウト」(→[p157](#))を「ゾーンB」に設定してください。

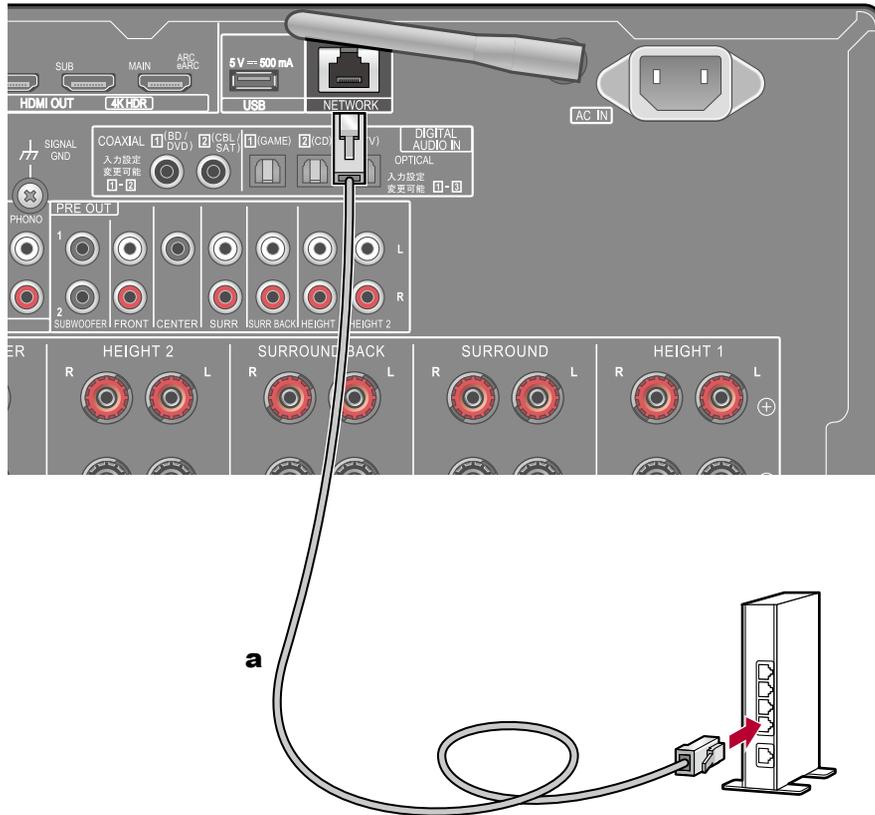
アンテナを接続する



a FM室内アンテナ、**b** AM室内アンテナ

本機にアンテナを接続し、受信しながら、もっとも聴き取りやすい位置にアンテナを設置してください。FM室内アンテナは接着テープや画びょうなどで壁面に設置してください。

ネットワークに接続する

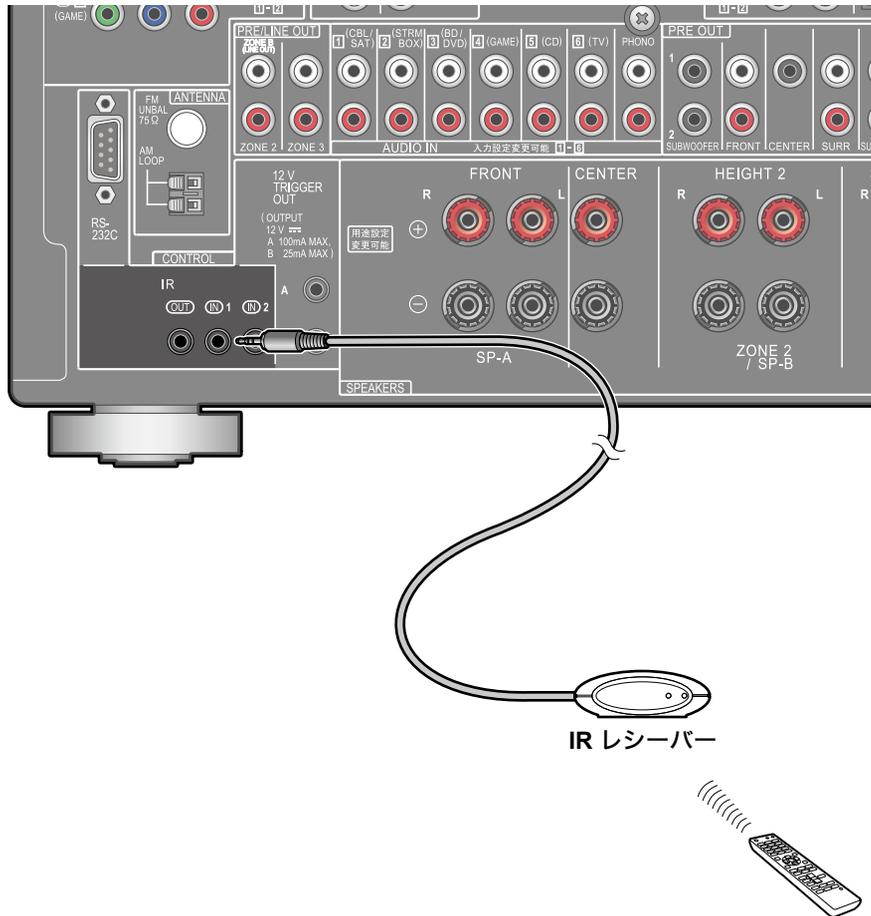


a LANケーブル

本機は有線LANまたはWi-Fi（無線LAN）を使用して、ネットワークに接続できます。ネットワークに接続すると、インターネットラジオなどのネットワーク機能を楽しむことができます。有線LANで接続する場合は、図のようにルーターとNETWORK端子をLANケーブルで接続してください。Wi-Fiで接続するには、初期設定（→[p196](#)）の「5. ネットワーク接続」を選んだあと、お好みの設定方法を選んで画面の指示に従って設定してください。初期設定の完了後に、システム設定メニューで設定する場合は、リモコンの \blacktriangle ボタンを押して表示されるホームの「ネットワーク/Bluetooth」-「ネットワーク」から設定します。（→[p187](#)）また、Wi-Fi接続の場合は、無線アンテナを立ててご使用ください。

外部のコントロール機器を接続する

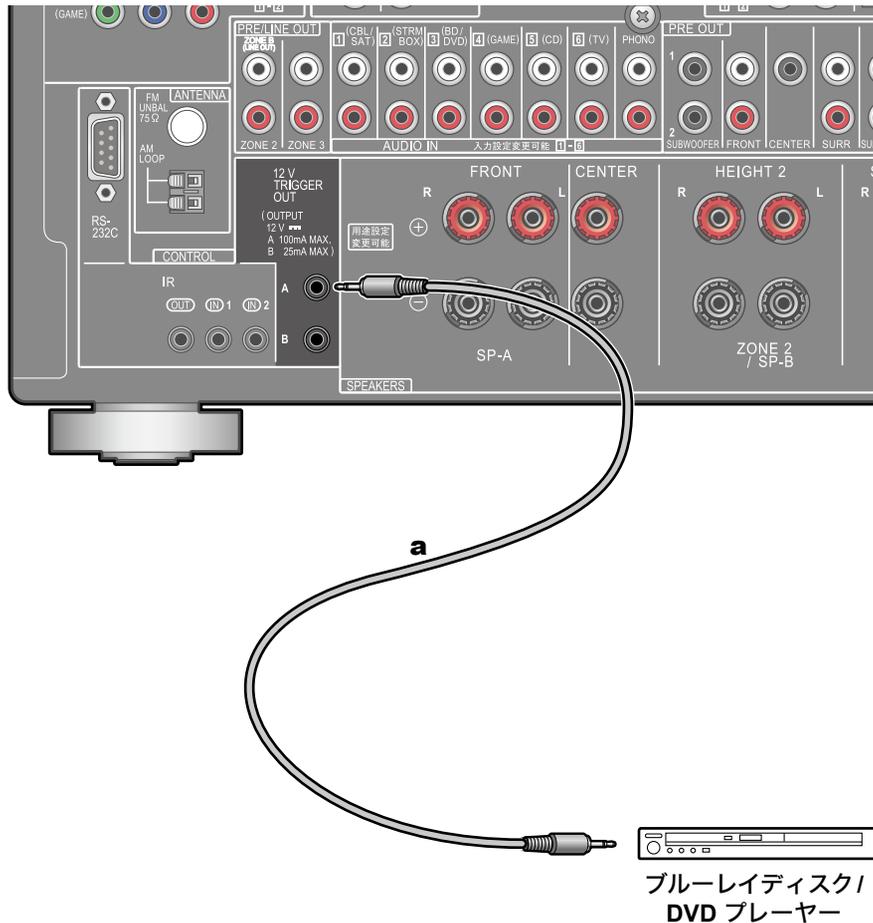
IR 入力/出力端子



IR レシーバーなどで構成されるリモートコントロールレシーバーユニットを本機に接続すると、リモコン信号が届きにくい場合(キャビネットへの設置など)でもリモコンで操作することができます。また、本機をゾーン2などの別室からリモコンで操作したり、本機と別の機器を接続して、リモコンで別の機器を操作することもできます。リモートコントロールレシーバーユニットの導入については、専門の販売店にお問い合わせください。

- 接続に必要なケーブルの種類については、リモートコントロールレシーバーユニットの取扱説明書などで確認ください。

12V トリガー出力端子

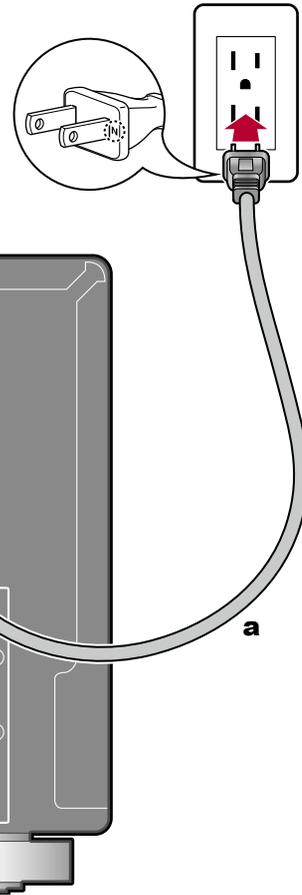


a モノラルミニプラグケーブル (φ 3.5 mm)

ブルーレイディスク / DVD プレーヤーなど TRIGGER IN 端子を装備している機器を本機に接続すると、その機器の電源を本機の操作に連動させてオン/スタンバイすることができます。本機は任意の入力切換を選んだときに、12V TRIGGER OUT A 端子から最大 12 V/100 mA、12V TRIGGER OUT B 端子から最大 12 V/25 mA の制御信号を出力して外部機器の電源連動を制御します。各入力切換は設定を行うことで、制御信号を出力するゾーンを選択することができます。

- 接続には抵抗なしのモノラルミニプラグケーブル (φ 3.5 mm) を使用してください。ステレオミニプラグケーブルは使用しないでください。

電源コードを接続する



すべての接続が完了したら、電源コードを接続してください。

- 本機には取り外しタイプの電源コードが付属しています。電源コードは必ず本機の AC IN に接続したあとで、コンセントに接続してください。電源コードを抜くときは先にコンセントから抜いてください。
- 音質向上のため、電源の極性を合わせます。電源プラグの N の印字がある側をコンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

a 電源コード

再生する

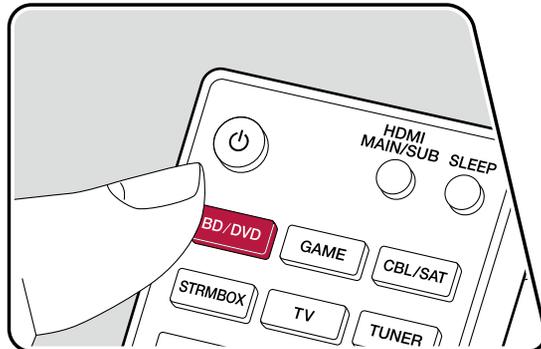
AV 機器の再生	94
BLUETOOTH® 再生	95
インターネットラジオ	96
Spotify	98
AirPlay®	99
DTS Play-Fi®	101
FlareConnect™	102
USB ストレージ	103
PC や NAS に保存された音楽ファイルを再生する	106
Play Queue	110
Amazon Music	112
Sonos システムと接続して再生する	114
AM/FM ラジオを聴く	116
マルチゾーン	120
ゾーン B 再生	124
便利な機能	125
リスニングモード	131
文字を入力する	146

AV機器の再生

ブルーレイディスクプレーヤーなどのAV機器の音声を本機で再生することができます。

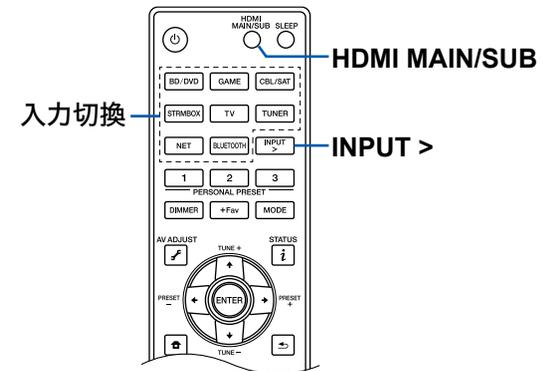
- HDMI OUT SUB 端子にテレビを接続している場合は、HDMI MAIN/SUB ボタンや「AV Adjust」(→p190)でMAINとSUBの切り換えを行います。

基本の操作



本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

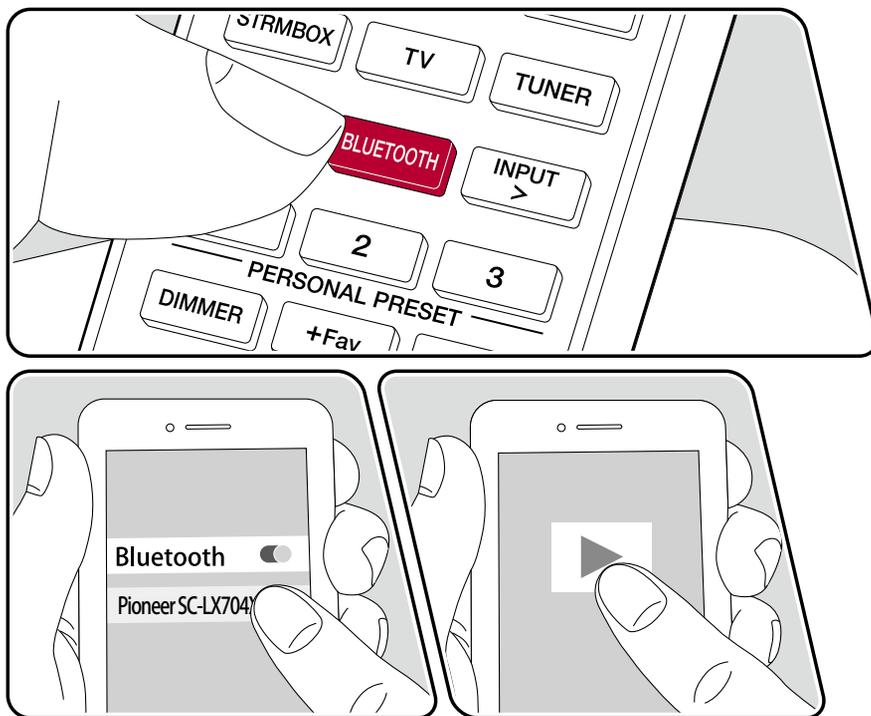
1. テレビのリモコンを使用してテレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. 接続した端子名と同じ名称の入力切換を押して、入力を切り換えます。
例えば、BD/DVD 端子に接続した機器を再生する場合は、BD/DVD を押します。テレビの音声を聴くにはTVを押します。また、CD、USB、PHONO、HDMI5、HDMI6 端子や前面パネルのAUX INPUT HDMI 端子に接続した機器を再生するにはINPUT > をくり返し押して入力を選択します。
 - CEC の連動機能が働くと、本機とHDMI 接続したCEC 対応テレビや再生機器とは入力切換が自動で行われます。
3. AV機器を再生します。



BLUETOOTH® 再生

スマートフォンなどのBLUETOOTH対応機器の音声をワイヤレスで再生することができます。

基本の操作



本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

ペアリング

1. BLUETOOTH ボタンを押すと、表示部に「Now Pairing...」が表示され、ペアリングモードになります。

Now Pairing...

2. BLUETOOTH 対応機器のBLUETOOTH 機能を有効（オン）にして、表示される機器から本機を選びます。パスワードを要求された場合は、「0000」を入力してください。
 - 本機は「Pioneer SC-LX704 XXXXXX」と表示されます。この表示はフレンドリーネーム機能（→p187）やPioneer Remote App（iOSやAndroid™でご利用になれます）で変更することができます。
 - 別のBLUETOOTH 対応機器と接続する場合は、「Now Pairing...」が表示されるまでBLUETOOTH ボタンを長押しして、2の操作を行います。本機は最大8台のペアリング情報を記憶できます。
 - 約15m圏内で通信できます。なお、すべてのBLUETOOTH 対応機器との接続動作を保証するものではありません。

再生する

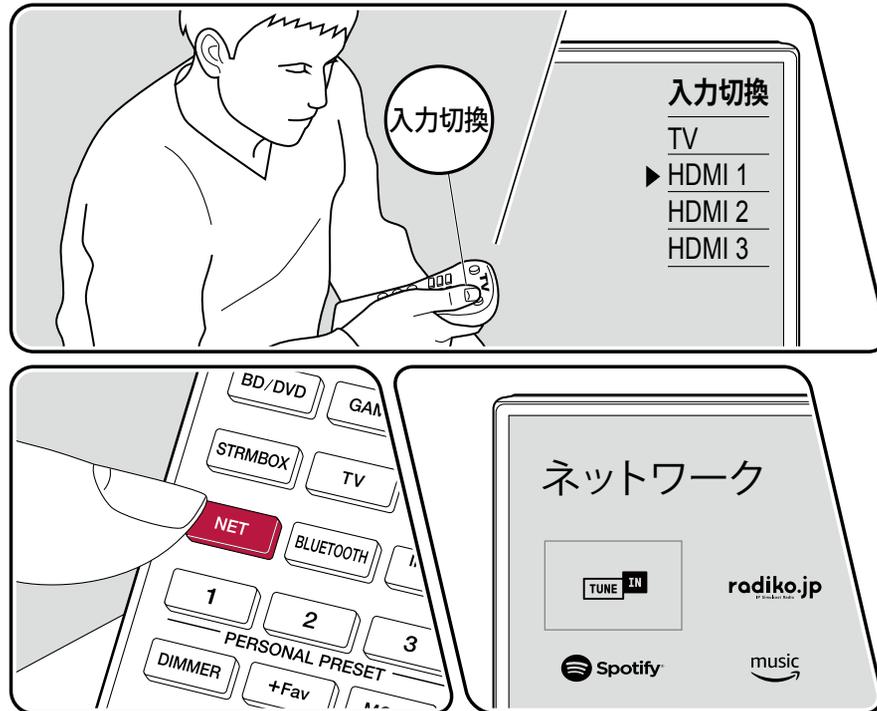
1. BLUETOOTH 対応機器の接続操作を行います。
2. 音楽ファイルを再生します。
本機の入力が自動で「BLUETOOTH」に切り換わります。
BLUETOOTH 対応機器のボリュームは適度に大きくしてください。
 - BLUETOOTH ワイヤレス技術の特性上、本機での再生音はBLUETOOTH 対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。

インターネットラジオ

本機をインターネットに接続されたネットワークに接続すると、TuneIn Radioなどのインターネットラジオサービスをお楽しみいただけます。

- インターネットラジオサービスを再生するには、ネットワークがインターネットに接続されている必要があります。
- インターネットラジオサービスによっては、事前にPCなどからユーザー登録が必要な場合があります。各サービスの詳細については、各サービスのホームページをご確認ください。
- radiko.jpで、お使いの地域以外の放送局を選ぶには、radiko.jpプレミアムへの会員登録が必要です。詳しくはradiko.jpのホームページをご確認ください。

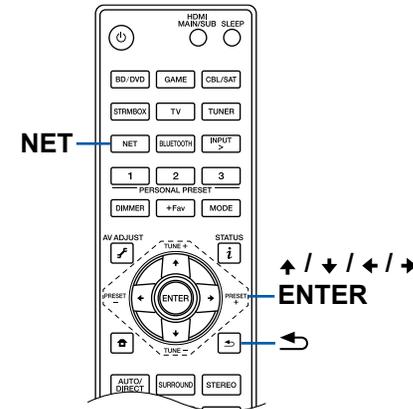
再生する



イラストはイメージです

本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

1. テレビのリモコンを使用してテレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. NET を押すと、テレビにネットワーク機能の一覧画面が表示されます。
3. カーソルでお好みのインターネットラジオサービスを選び、ENTER で決定します。
4. 画面の表示に従ってカーソルでラジオ局や番組を選び、ENTER で再生します。
 - ひとつ前の画面に戻るには **←** を押します。



インターネットラジオサービスのメニューについて

特定の放送局をお気に入り登録したり、お気に入り登録した放送局を削除したりすることができます。表示されるメニューは、選択中のサービスによって異なります。

放送局の再生中に画面の右下にメニューアイコン  が表示されます。このアイコンだけが表示されている場合は、そのまま ENTER を押すと、画面にメニューが表示されます。複数のアイコンが表示されている場合は、カーソルでアイコン  を選び、ENTER を押します。

radiko.jp プレミアムについて

radiko.jp プレミアムの会員登録をされている場合、本機からログインすると、お使いの地域以外の全国各地の放送局を聴くことができます。radiko.jp でお使いの地域以外の放送局を選んで ENTER ボタンを押したあと、以下の操作でログインしてください。

1. 「E-mail アドレスを入力してください」と表示されるので、ENTER を押して、会員登録に使用したメールアドレスを入力します。入力が終わったら「OK」を選び、ENTER を押します。
2. リモコンのカーソルで「OK」を選び、ENTER を押します。
3. 「パスワードを入力してください」と表示されるので、ENTER を押して、パスワードを入力します。入力が終わったら「OK」を選び、ENTER を押します。
4. リモコンのカーソルで「OK」を選び、ENTER を押します。

TuneIn Radio アカウントについて

TuneIn Radio のホームページ (tunein.com) でアカウントを作成し、本機からログインするとホームページ上でフォローしたお気に入りのラジオ局や番組が、本機の「My Presets」に自動的に追加されます。「My Presets」は TuneIn Radio の次の階層に表示されます。「My Presets」に追加されたラジオ局を表示するには、本機の手続きにおいても TuneIn Radio にログインする必要があります。ログインは本機の「TuneIn Radio」のトップリストから「Login」-「I have a TuneIn account」を選び、ユーザー名とパスワードを入力してください。

- 本機で「Login」を選ぶと表示される登録コードを使って、TuneIn Radio ホームページのマイページからデバイスの関連付けを行うと、「Login」-「Login with a registration code」から、ユーザ名とパスワードの入力を省略してログインすることができます。

Spotify



スマートフォン、タブレット、パソコンをリモコンにして、Spotify で音楽を楽しめます。

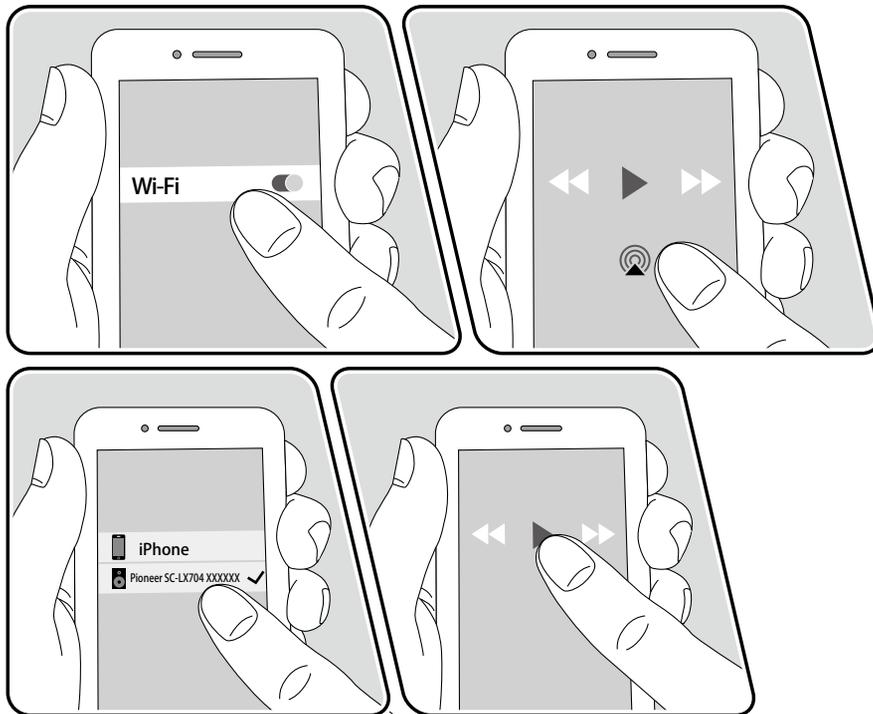
詳しくは spotify.com/connect をご覧ください。

AirPlay[®]

本機を iPhone[®]、iPod touch[®]、iPad[®]などの iOS 端末と同じネットワークに接続すると、iOS 端末の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。

- iOS 端末の OS は最新のバージョンにアップデートしてください。
- iOS のバージョンによっては、iOS 端末側の操作画面や操作手順が異なる場合があります。詳しくは iOS 端末の操作説明をご参照ください。

本機で再生する

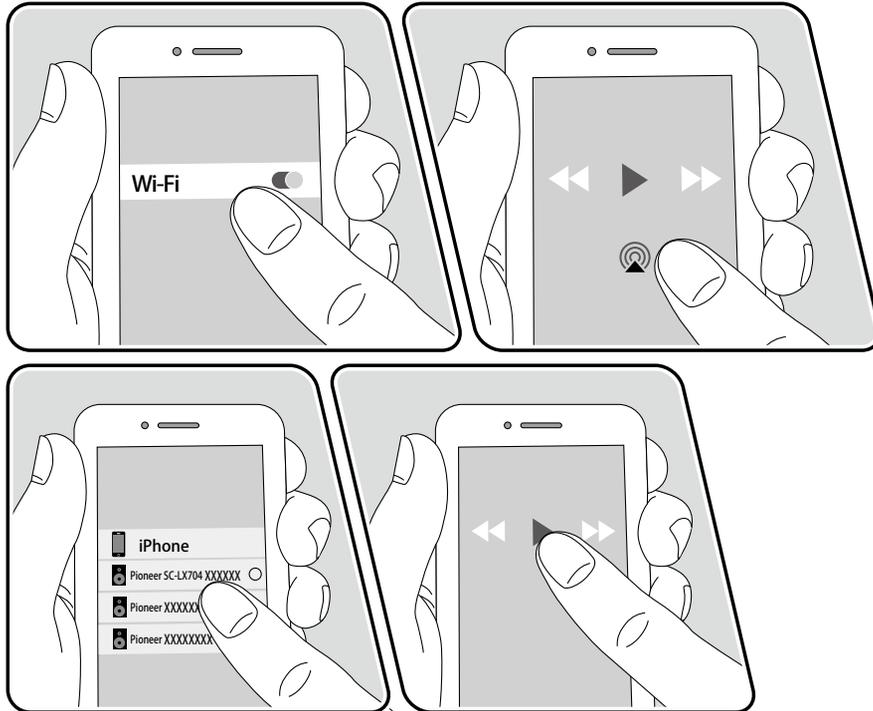


(例) iOS 10

1. iOS 端末を本機がネットワーク接続しているアクセスポイントにネットワーク接続します。
2. AirPlayに対応したiOS 端末の音楽再生アプリの再生画面でAirPlayアイコンをタップして、表示される機器から本機を選択します。
3. iOS 端末の音楽ファイルを再生します。
 - ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にしているときは、手動で本機の電源をオンにして、リモコンのNETボタンを押します。お買い上げ時の状態ではネットワークスタンバイ機能(→[p166](#))はオンに設定されています。
 - AirPlayワイヤレス技術の特性上、本機での再生音はAirPlay対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。

また、iTunes (Ver. 10.2以降) を搭載したPCの音楽ファイルも再生することができます。操作は、本機とPCが同じネットワークに接続していることを確認したうえで、リモコンのNETボタンを押します。次にiTunesのAirPlayアイコンをクリックして、表示される機器から本機を選び、音楽ファイルを再生します。

複数の機器で再生する (AirPlay2)



(例) iOS 11.4

本機はAirPlay2に対応しています。iOS端末のバージョンがiOS11.4以上の場合、iOS端末の曲を本機とAirPlay2対応の他の機器で同時に再生することができます。

1. iOS端末を本機がネットワーク接続しているアクセスポイントにネットワーク接続します。
2. iOS端末の音楽再生アプリの再生画面でAirPlayアイコンをタップして、表示される機器から本機と再生したいAirPlay2対応機器を選択します。
 - AirPlay2対応機器には右側に白い丸が表示されます。
 - AirPlay2対応機器は複数台選ぶことができます。
 - 音量調整は機器ごとに調整することができます。
3. iOS端末の音楽ファイルを再生します。
 - ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にしているときは、手で本機の電源をオンにして、リモコンのNETボタンを押します。お買い上げ時の状態ではネットワークスタンバイ機能(→p166)はオンに設定されています。
 - AirPlayワイヤレス技術の特性上、本機での再生音はAirPlay対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。

また、iTunes (Ver. 12.8以降) を搭載したPCの音楽ファイルも再生することができます。操作は、本機とPCが同じネットワークに接続していることを確認したうえで、リモコンのNETボタンを押します。次にiTunesのAirPlayアイコンをクリックして、表示される機器から本機と再生したいAirPlay2対応機器を選び、音楽ファイルを再生します。

DTS Play-Fi®



<https://play-fi.com/>

本機をスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末と同じネットワークに接続すると、モバイル端末で再生した音楽をワイヤレスで楽しむことができます。再生は音楽ストリーミング配信サービスの楽曲や、モバイル端末のミュージックライブラリ内の楽曲などを再生することができ、iTunesのプレイリストにも対応しています。また、複数のDTS Play-Fi対応スピーカーを同じネットワークに接続すると、ご家庭の色々な部屋で同じ音楽を再生する「グループ再生」も可能です。なお、この機能をお楽しみになるには、Pioneer Music Control App (iOSやAndroid™でご利用になれます)のダウンロードが必要です。



再生する

1. モバイル端末で、Pioneer Music Control Appをダウンロードします。
http://intl.pioneer-audiovisual.com/playfi/app_p.html



2. モバイル端末を本機が接続しているネットワークに接続します。
 3. Pioneer Music Control Appを起動すると、自動的に対応機種が表示されます。
 4. 対応機種の中から本機を選ぶと、音楽ストリーミング配信サービスなどのアプリの一覧が表示されますので、再生したいコンテンツを選び、画面の誘導に従って操作を行います。
- ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にしているときは、手動で本機の電源をオンにして、リモコンのNETボタンを押します。お買い上げ時の状態ではネットワークスタンバイ機能(→[p166](#))はオンに設定されています。
 - 操作の詳細やFAQをご覧になりたい場合は、下記のURLをご参照ください。
http://intl.pioneer-audiovisual.com/playfi/info_p.html
 - 音楽ストリーミング配信サービスをご使用の場合、ユーザー登録などが必要な場合があります。
 - 本機は、以下のDTS Play-Fi機能には対応していません。
 - Spotify
 - Wireless Surround Sound
 - Line In Rebroadcast
 - Internet Radio
 - 本機で「セットアップメニュー」のいくつかの設定が変更できなくなります。それらの設定を変更したいときは、アプリから本機の接続を解除してみてください。
 - 再生中は、リスニングモードを選択することができません。

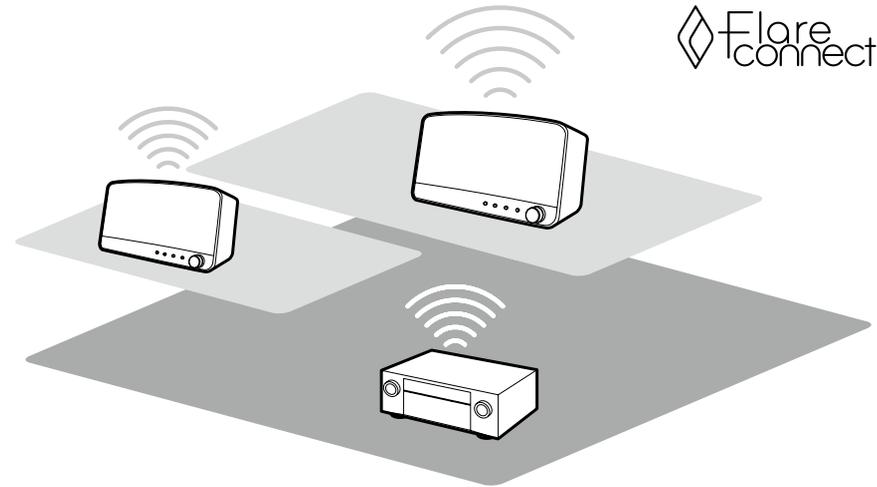
FlareConnect™



Pioneer Remote App (iOSやAndroid™でご利用になれます)をスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末にダウンロードすると、複数のFlareConnect機能に対応したオーディオ製品から同じ音楽を再生するグループ再生が可能になります。再生は、それぞれの製品に接続している外部再生機器の音声やインターネットラジオまたは音楽ストリーミング配信サービスなどのネットワークオーディオサービス、およびモバイル端末のミュージックライブラリ内の楽曲などを再生することができます。

再生する

1. 本機や他のFlareConnect対応機器を、同じネットワークに接続します。
2. App StoreやGoogle Play™ Storeで、Pioneer Remote Appをダウンロードします。
3. モバイル端末を本機が接続しているネットワークに接続します。
4. Pioneer Remote Appを起動すると、対応機器を自動的に認識します。
5. 操作する対応機器の画面を選んだうえで、画面下部のGroupアイコンをタップします。
6. 同じ音楽を再生したいオーディオ製品にチェックを入れます。
7. 再生したいコンテンツを選び、画面の誘導に従って操作を行います。
 - ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にしているときは、手動で本機の電源をオンにして、リモコンのNETボタンを押します。お買い上げ時の状態ではネットワークスタンバイ機能(→p166)はオンに設定されています。その他機器については取扱説明書でご確認ください。

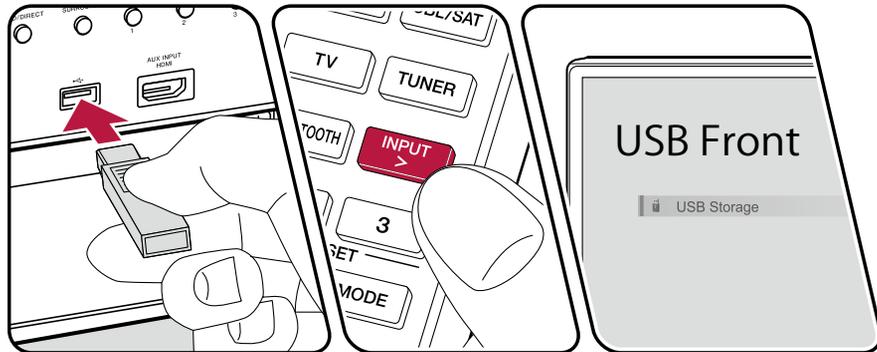


イラストはイメージです

USB ストレージ

USB ストレージに記録された音楽ファイルを再生することができます。

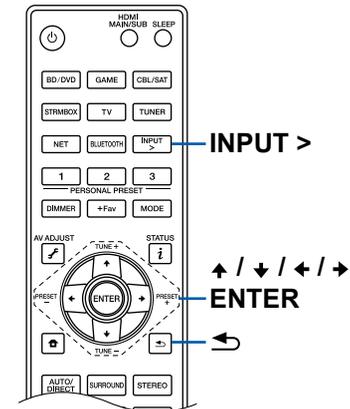
基本の操作



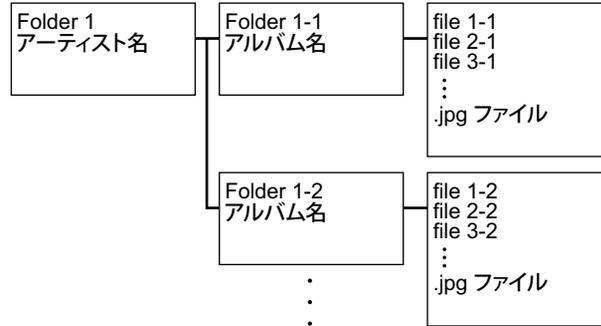
イラストはイメージです

本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

1. テレビのリモコンを使用してテレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. 本機の前面パネルまたは後面パネルのUSB端子に音楽ファイルが入ったUSBストレージを接続します。
3. INPUT > を押して、「USB Front」または「USB Rear」を選びます。
 - 表示部の「USB」が点滅する場合は、USB ストレージが正しく接続されているか確認してください。
 - 表示部に「Connecting…」が表示されている間は、本機と接続しているUSB ストレージを抜かないでください。データ破損や故障の原因になります。
4. 次の画面でENTERを押します。USB ストレージ内のフォルダや音楽ファイルがリスト表示されますので、カーソルでフォルダを選び、ENTER を押して決定してください。
5. カーソルで音楽ファイルを選び、ENTER を押して再生を始めます。



- ひとつ前の画面に戻るには \leftarrow を押します。
- WAV形式の場合、アーティスト名/アルバム名/アルバムアート表示を可能にするには、音楽ファイルを保存する際のフォルダ構成とファイル名を次の図のようになっています。アルバムアートは画面表示させたい.jpg ファイルを最下段フォルダに保存することで表示できます。なお、データ容量が大きい.jpg ファイルは表示するまでに時間がかかる場合や表示されない場合があります。



- 本機で表示できない文字は「*」で表示されます。
- 本機のUSB端子はUSB2.0規格に準拠しています。再生するコンテンツによっては、転送速度が足りずに音途切れなどが発生する場合があります。
- すべてのUSBストレージとの動作を保証するものではありません。
- 本機ではUSBマスタストレージクラス規格に対応しているUSBストレージを使用できます。また、USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。

□ デバイスや対応フォーマットについて (→[p105](#))

デバイスや対応フォーマットについて

USB デバイスについて

- 本機では USB マスストレージクラス規格に対応している USB ストレージを使用できます。
- USB ストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32 に対応しています。
- USB ストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数の USB ストレージとして認識されます。
- 1フォルダにつき 20,000 曲まで、フォルダは 16 階層まで対応しています。
- 本機はハブおよびハブ機能付き USB 機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- 本機はセキュリティ機能付き USB ストレージに対応していません。
- USB ストレージに AC アダプターが付属している場合は、AC アダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- USB カードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。また、USB ストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったりする場合があります。
- USB ストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USB ストレージに保存されているデータは、本機でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。

対応音声フォーマットについて

本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次のとおりです。なお、著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。

MP3 (.mp3/.MP3) :

- 対応フォーマット : MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3
- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート : 8 ~ 320 kbps および VBR

WMA (.wma/.WMA) :

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート : 5 ~ 320 kbps および VBR
- WMA Pro/Voice/WMA Lossless 非対応

WAV (.wav/.WAV) :

WAV ファイルは非圧縮の PCM デジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット : 8 bit、16 bit、24 bit

AIFF (.aiff/.aif/.AIFF/.AIF) :

AIFF ファイルは非圧縮の PCM デジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット : 8 bit、16 bit、24 bit

AAC (.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2/.AAC/.M4A/.MP4/.3GP/.3G2) :

- 対応フォーマット : MPEG-2/MPEG-4 Audio
- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 対応ビットレート : 8 ~ 320 kbps および VBR

FLAC (.flac/.FLAC) :

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット : 8 bit、16 bit、24 bit

Apple Lossless (.m4a/.mp4/.M4A/.MP4) :

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット : 16 bit、24 bit

DSD (.dsf/.dff/.DSF/.DFF) :

- 対応フォーマット : DSF/DSDIFF
- 対応サンプリングレート : 2.8 MHz、5.6 MHz、11.2 MHz
- VBR (可変ビットレート) で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。
- 本機は USB 再生における下記条件時でのギャップレス再生に対応しています。WAV、FLAC、Apple Lossless 再生時、同一のフォーマット、サンプリング周波数、チャンネル数、量子化ビット数が連続再生される場合

PCやNASに保存された音楽ファイルを再生する

本機と同じネットワークに接続したPCやNASに保存された音楽ファイルのストリーミング再生に対応しています。

- 本機が対応しているネットワークサーバーは、Windows Media® Player 11 または 12 などのサーバー機能を備えたプレーヤーがインストールされたPC、またはホームネットワーク機能対応のNASです。Windows Media® Player 11 または 12 をお使いの場合、事前の設定が必要です。なお、PCの場合は、Windows Media® Playerのライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。

Windows Media® Player の設定をする

Windows Media® Player11 の場合

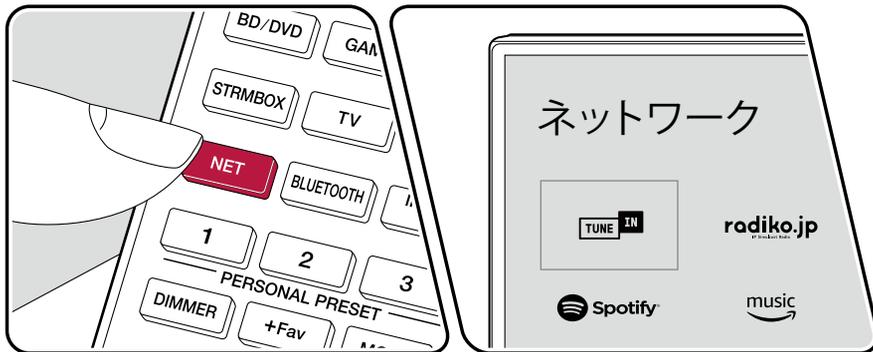
1. PCの電源を入れ、Windows Media® Player 11 を開きます。
2. 「ライブラリ」メニューから「メディアの共有」を選んで、ダイアログを開きます。
3. 「メディアを共有する」のチェックボックスにチェックを入れ、「OK」をクリックして、対応機器を表示させます。
4. 本機を選び、「許可」をクリックします。
 - クリックすると、本機のアイコンにチェックが付きまます。
5. 「OK」をクリックして、ダイアログを閉じます。
 - Windows Media® Playerのバージョンによっては、選択する項目の名称が説明と異なる場合があります。

Windows Media® Player12 の場合

1. PCの電源を入れ、Windows Media® Player 12 を開きます。
2. 「ストリーム」メニューから「メディアストリーミングを有効にする」を選び、ダイアログを開きます。
 - メディアストリームがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューから「その他のストリーミングオプション」を選ぶと、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので、手順4に進んでください。
3. 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックして、ネットワーク内の再生機器一覧を表示させます。
4. 「メディアストリーミングオプション」で本機を選び、「許可」になっていることを確認します。
5. 「OK」をクリックして、ダイアログを閉じます。
 - Windows Media® Playerのバージョンによっては、選択する項目の名称が説明と異なる場合があります。

□ 再生する (→ [p107](#))

再生する



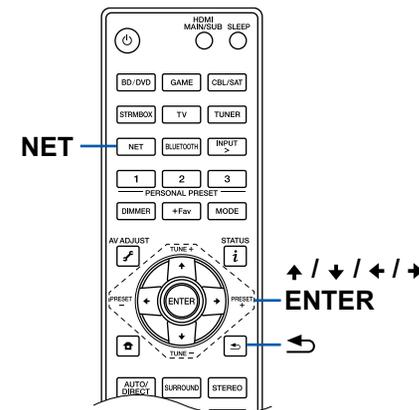
イラストはイメージです

本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

1. テレビのリモコンを使用してテレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. 再生する音楽ファイルが保存されているサーバー (Windows Media® Player 11、Windows Media® Player 12、NASのいずれか) を起動します。
3. PCやNASが本機と同じネットワークに接続されているか確認します。
4. NETを押して、ネットワークサービスの一覧画面を表示させます。
 - 表示部の「NET」が点滅する場合は、ネットワークが正しく接続されていません。接続を確認してください。



5. カーソルで「Music Server」を選び、ENTERを押します。
6. カーソルで目的のサーバーを選び、ENTERを押して、項目のリスト画面を表示させます。
 - 本機では、サーバーにある写真や動画にはアクセスできません。
 - サーバーの共有設定によっては、内容を表示できない場合があります。



- カーソルで再生する音楽ファイルを選び、ENTERを押して再生を始めます。
 - 画面に「No Item.」と表示される場合は、ネットワークの接続が正しくされているか確認してください。
- ひとつ前の画面に戻るには \leftarrow を押します。
- サーバー内の音楽ファイルは、1フォルダにつき20,000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。
- メディアサーバーの種類によっては、本機から認識できなかったり、サーバーに保存された音楽ファイルを再生できない場合があります。

音楽ファイルを検索して、選択する

ご使用のサーバーが検索機能に対応している場合は次の検索機能を使用することが可能です。

Music Serverで使用可能なサーバーを表示した状態で、次の操作を行ってください。

- \blacktriangle / \blacktriangledown で再生したい音楽ファイルのあるサーバーを選び、ENTERを押します。
- \blacktriangle / \blacktriangledown でSearchフォルダを選んでENTERを押します。Searchフォルダには以下の3つのフォルダがあります。
 - 「Search by Artist」: アーティスト名で検索する場合に選びます。
 - 「Search by Album」: アルバム名で検索する場合に選びます。
 - 「Search by Track」: 曲名で検索する場合に選びます。
- \blacktriangle / \blacktriangledown でフォルダを選んでENTERを押します。
- 検索したい文字を入力し、ENTERを押すと検索結果が表示されます。
- \blacktriangle / \blacktriangledown で再生したい音楽ファイルを選んでENTERを押します。

PCを操作してリモート再生する

ホームネットワーク内のPCを操作することにより、PCに保存された音楽ファイルを本機で再生できます。本機では、Windows Media® Player 12を介したリモート再生操作が行えます。Windows Media® Player 12で本機のリモート再生機能を使用するには、事前に設定が必要です。

PCの設定

- PCの電源を入れ、Windows Media® Player 12を開きます。
- 「ストリーム」メニューから「メディアストリーミングを有効にする」を選び、ダイアログを開きます。
 - メディアストリームがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューから「その他のストリーミングオプション」を選ぶと、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので、手順4に進んでください。

- 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックして、ネットワーク内の再生機器一覧を表示させます。
- 「メディアストリーミングオプション」で本機を選び、「許可」になっていることを確認します。
- 「OK」をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
- 「ストリーム」メニューを開き、「プレーヤーのリモート制御を許可」にチェックが入っていることを確認します。
 - Windows Media® Playerのバージョンによっては、選択する項目の名称が説明と異なる場合があります。

リモート再生する

- 本機の電源を入れます。
- PCの電源を入れ、Windows Media® Player 12を開きます。
- Windows Media® Player 12で再生する音楽ファイルを選び、右クリックします。
 - 別のサーバー内の音楽ファイルをリモート再生する場合は、「その他のライブラリ」から目的のサーバーを開き、再生する音楽ファイルを選びます。
- 「リモート再生」から本機を選び、Windows Media® Player 12の「リモート再生」ウィンドウを開いて、本機で再生を始めます。
 - Windows® 8.1をお使いの場合は、「Play to」をクリックしてから本機を選びます。Windows® 10をお使いの場合は、「デバイスキャスト」をクリックしてから本機を選びます。リモート再生中の操作は、PCの「リモート再生」ウィンドウで行います。再生画面はHDMI接続されたテレビに表示されます。
- 「リモート再生」ウィンドウの音量バーで、音量を調節します。
 - リモート再生ウィンドウと本機の音量値は一致しない場合があります。
 - 本機で変更した音量は、「リモート再生」ウィンドウには反映されません。
 - 以下のいずれかの場合、本機はリモート再生できません。
 - ネットワークサービスを使っている
 - USBストレージの音楽ファイルを再生している
- Windows Media® Playerのバージョンによっては、選択する項目の名称が説明と異なる場合があります。

□ 対応音声フォーマットについて (→p109)

対応音声フォーマットについて

本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次のとおりです。なお、リモート再生ではFLACとDSDには対応していません。

MP3 (.mp3/.MP3) :

- 対応フォーマット : MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3
- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート : 8 ~ 320 kbps および VBR

WMA (.wma/.WMA) :

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート : 5 ~ 320 kbps および VBR
- WMA Pro/Voice/WMA Lossless 非対応

WAV (.wav/.WAV) :

WAV ファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット : 8 bit、16 bit、24 bit

AIFF (.aiff/.aif/.AIFF/.AIF) :

AIFF ファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット : 8 bit、16 bit、24 bit

AAC (.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2/.AAC/.M4A/.MP4/.3GP/.3G2) :

- 対応フォーマット : MPEG-2/MPEG-4 Audio
- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 対応ビットレート : 8 ~ 320 kbps および VBR

FLAC (.flac/.FLAC) :

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット : 8 bit、16 bit、24 bit

LPCM (Linear PCM) :

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz
- 量子化ビット : 16 bit

Apple Lossless (.m4a/.mp4/.M4A/.MP4) :

- 対応サンプリングレート : 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット : 16 bit、24 bit

DSD (.dsf/.dff/.DSF/.DFF) :

- 対応フォーマット : DSF/DSDIFF
- 対応サンプリングレート : 2.8 MHz、5.6 MHz、11.2 MHz
- VBR (可変ビットレート) で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。
- リモート再生は、ギャップレス再生に対応していません。

Play Queue



Pioneer Remote App (iOS や Android™ でご利用になれます) をスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末にダウンロードすると、本機に接続したUSBストレージ内の音楽ファイルや、本機と同じネットワークに接続したPCやNASに保存された音楽ファイルの中から、お気に入りの再生リスト (Play Queue 情報) を保存し再生することができます。Play Queue 情報は、本機の電源コードをコンセントから抜くまで有効です。

初期設定

1. 本機のネットワーク設定で、ご家庭のネットワークに本機を接続します。
2. App Store や Google Play™ Store で、Pioneer Remote App をダウンロードします。
3. モバイル端末を本機が接続しているネットワークに接続します。
4. Pioneer Remote App を起動して、本機を選びます。

Play Queue 情報の追加

1. アプリの画面で、「INPUT」入力切換を選び、「USB」アイコンをタップします。または、「NET」入力切換を選び、「USB」アイコンまたは「Music Server」アイコンをタップします。(機種によって、アイコン名は異なる場合があります)



2. 追加したい曲の「+」アイコンをタップすると、Play Queue 追加のポップアップを開きます。

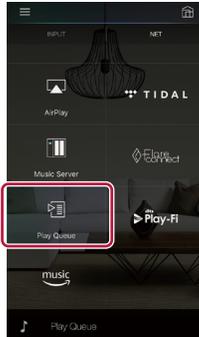


3. 「今すぐ再生」(再生)、「次に再生」(再生)、「最後に再生」(再生)アイコンをタッチすると、Play Queue に追加することができます。

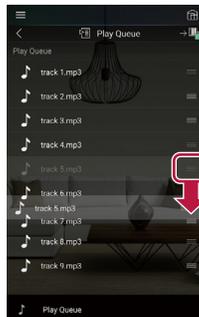
- Play Queue リストに曲がないときは、「今すぐ再生 
」のみが表示されます。

並び替えや削除

1. 「NET」入力切換を選び、「Play Queue」アイコンをタップして Play Queue サービス画面に入ります。



2. 並び替えたい曲の「≡」アイコンをタップして、移動先にドラッグします。



3. 曲を削除する場合は、ゴミ箱アイコンが「
」になるまで曲を左にスライドします。iOSの場合は「≡」アイコンを左にスライドします。指を離すと、Play Queue から削除されます。



再生する

再生は、Play Queue の追加で「今すぐ再生 」を選択するか、Play Queue サービス画面内で曲を選択すると開始されます。

Amazon Music



本機を Amazon Music に登録すると、Amazon が提供している音楽配信サービスを楽しむことができます。本機の登録は、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末に Pioneer Remote App (iOS や Android™ でご利用になれます) をダウンロードして、Pioneer Remote App の画面で行います。

- Amazon Music を再生するには、Amazon のアカウントと Amazon Prime や Amazon Music Unlimited への加入が必要です。詳しくは Amazon のホームページでご確認ください。

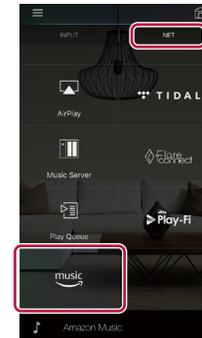


本機を Amazon Music に登録する

- Amazon Music への登録は、Pioneer Remote App で行います。本機の操作では登録することはできません。
1. 本機のネットワーク設定で、ご家庭のネットワークに本機を接続します。
 2. モバイル端末を使って、Pioneer Remote App をダウンロードします。
 3. モバイル端末を本機が接続しているネットワークに接続します。
 4. Pioneer Remote App を起動すると、自動的に本機が表示されます。表示された本機をタップして選びます。
 5. Pioneer Remote App の画面上部にある「NET」または「NETWORK」をタップして、ネットワークメニューに切り換えたあと、「Amazon Music」アイコンをタップして、Amazon Music のログイン画面を表示させます。(機種によって、

アイコン名は異なる場合があります)

- ログイン画面が表示されず、アップデートやインストールの画面が表示された場合は、画面の誘導に従ってアップデートやインストールを行ってください。



お住まいの地域によって利用可能なサービスが異なります。

6. メールアドレスやパスワードなど、Amazon のアカウント情報を入力して、Amazon にログインします。ログインに成功して本機が登録されると、Amazon Music のメニューが表示されます。続いて再生する場合は、次項の手順3に進んでください。

Pioneer Remote App を使って Amazon Music を再生する

1. Pioneer Remote App を起動します。起動すると自動的に本機が表示されますので、表示された本機をタップして選びます。
2. 画面上部にある「NET」または「NETWORK」をタップして、ネットワーク画面に切り換えたあと、「Amazon Music」アイコンをタップします。
3. Amazon Music のメニュー画面の中から再生したいコンテンツを選んで、再生を行います。

リモコンを使って Amazon Music を再生する

1. テレビのリモコンを使用してテレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. NETを押すと、テレビにネットワーク機能の一覧画面が表示されます。
3. カーソルで「Amazon Music」を選び、ENTERで決定します。
4. Amazon Musicのメニュー画面の中から再生したいコンテンツを選んで、再生を行います。

Sonos システムと接続して再生する

本機と Sonos Connect を接続すると、Sonos App 上の音楽、音源を本機に送ることができます。Sonos Connect を介することで、本機をネットワーク上の別の Sonos 機器と同じグループで再生したり、または本機のみで再生することができます。また、本機と Sonos Connect を同じネットワークに接続すると、音楽の再生に合わせて自動的に本機の電源がオンになり、入力切替を行う連動機能が働きます。

- ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にしているときは、手動で本機の電源をオンにして、リモコンの NET ボタンを押します。お買い上げ時の状態ではネットワークスタンバイ機能 (→p166) はオンに設定されています。

必要な機器

- Sonos Connect
- RCA オーディオケーブル (Sonos Connect に付属)

本機と Sonos Connect との接続方法

- Sonos Connect と本機の AUDIO IN 端子を Sonos Connect に付属の RCA オーディオケーブルを使って接続します。PHONO 端子以外のどの入力端子でも使用できます。
 - デジタルケーブルでも接続することができます。詳しくは Sonos の取扱説明書をご確認ください。
 - 本機に表示される入力切替をより分かりやすい名前に変更することができます。例えば、Sonos Connect に接続された入力を「CD」(または別の入力切替) から「SONOS」に変更することができます。リモコンの  ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「入力ソース」-「名前変更」から変更します。

設定する

Sonos を本機で再生するには、設定が必要です。以下の手順に従って設定を行ってください。

- リモコンの  ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「ハードウェア」-「Works with SONOS」を選び、ENTER ボタンを押します。
- カーソルの  /  で次の項目を選んで設定します。

入力セレクト:

Sonos Connect との連動機能を有効にします。カーソルの  /  で、Sonos Connect を接続した入力端子を選びます。

接続機器:

ENTER ボタンを押すと、本機と同じネットワークに接続されている Sonos 機器が表示されます。本機と接続されている Sonos Connect を選んで、ENTER ボタンを押します。

- Sonos Connect 以外の製品 (Play:3 などの出力端子を持たない製品) も機器一覧に表示され、選択することができてしまいます。その場合、Sonos 側の再生が開始されると入力が切り換わりますが、音声は出力されません。接続されている Sonos Connect のルーム名を選択してください。
- Sonos 製品一覧画面に表示できるのは 32 台までになります。連動したい Sonos Connect が見つからない場合は、前の画面に戻り連動しない製品の電源を切ってから、再度お試しください。

出力ゾーン:

カーソルの  /  で音楽を聴きたいゾーンを選びます。
 「メイン」: メインルーム (本機のある部屋) にのみ音声を出力します。
 「ゾーン 2」: 別室 (ゾーン 2) にのみ音声を出力します。
 「メイン / ゾーン 2」: メインルームと別室の両方に音声を出力します。
 「ゾーン 3」: 別室 (ゾーン 3) にのみ音声を出力します。
 「メイン / ゾーン 3」: メインルームと別室 (ゾーン 3) の両方に音声を出力します。
 「ゾーン 2 / ゾーン 3」: 別室 (ゾーン 2 とゾーン 3) の両方に音声を出力します。
 「メイン / ゾーン 2 / ゾーン 3」: メインルームと別室 (ゾーン 2 とゾーン 3) に音声を出力します。

音量プリセット:

メインルーム (本機のある部屋) で Sonos Connect を再生するときのボリューム

ムをあらかじめ設定しておくことができます。「最終値」(スタンバイ状態前の音量)、「 $-\infty$ dB」、「 -81.5 dB」～「 $+18.0$ dB」から選びます。

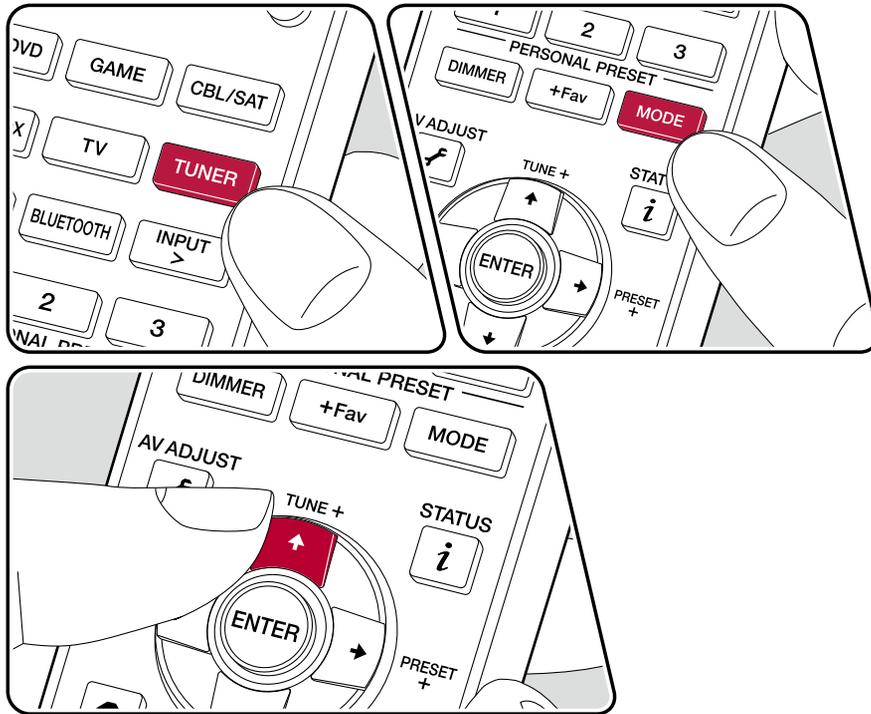
Sonos を本機で再生する

1. Sonos App を使って聞きたい曲を選び、本機が設置されている部屋(またはグループ)に送ることができます。本機と Sonos Connect の組合せには、機器が設置されているテレビルームまたはリビングルームといった覚えやすい名前をつけることをおすすめします。
- 音楽の再生を開始しても本機の入力が自動で切り換わらない場合は、一度再生を止めて、再び再生を開始してください。

AM/FM ラジオを聴く

本機に内蔵されたチューナーで、AM/FM ラジオを受信することができます。

放送局を選局する



本機の電源がオンの状態で次の操作を行ってください。

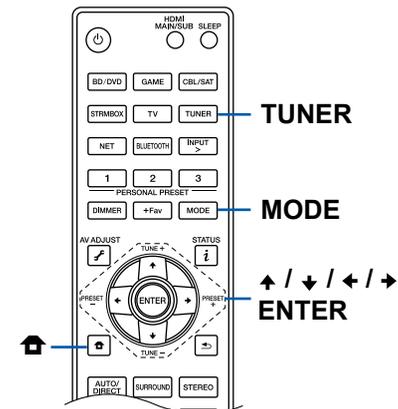
自動で選局する

1. TUNER をくり返し押して、「AM」または「FM」を選びます。
2. MODE をくり返し押して、表示部に「TunMode:Auto」を表示させます。

TunMode:Auto

3. カーソルの▲/▼を押すと、自動選局が始まり、放送局が見つかったと自動的に停止します。放送局を受信すると、表示部の「TUNED」が点灯します。FM ステレオ局を受信した場合は、「STEREO」が点灯します。

FM 放送を受信しにくいときは：「手動で選局する」(→p117)の操作を行ってください。なお、手動で選局するとFM 放送は受信感度に関係なくステレオ受信ではなくモノラル受信になります。



手動で選局する

手動で選局するとFM放送は受信感度に関係なくステレオ受信ではなくモノラル受信になります。

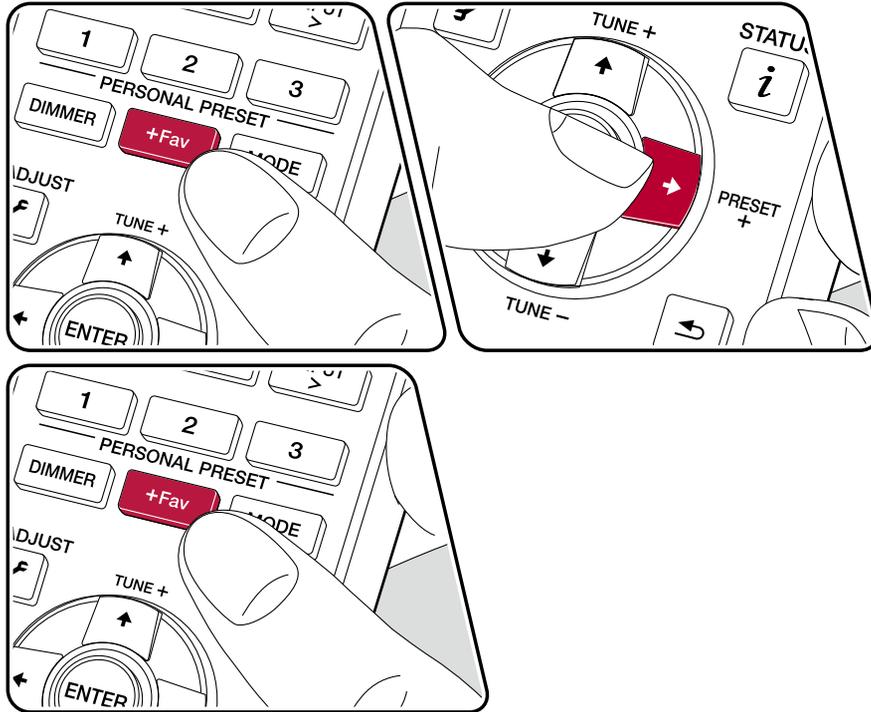
1. TUNER をくり返し押して、「AM」または「FM」を選びます。
2. MODE をくり返し押して、表示部に「TunMode:Manual」を表示させます。

TunMode:Manual

3. カーソルの↑/↓を押しながら、聴きたい放送局を選びます。
 - ・ ↑/↓を押すごとに周波数が1ステップずつ変わります。ボタンを押し続けると、連続して周波数が変わり、離すと止まります。

□ 放送局を登録する (→ [p118](#))

放送局を登録する



登録する

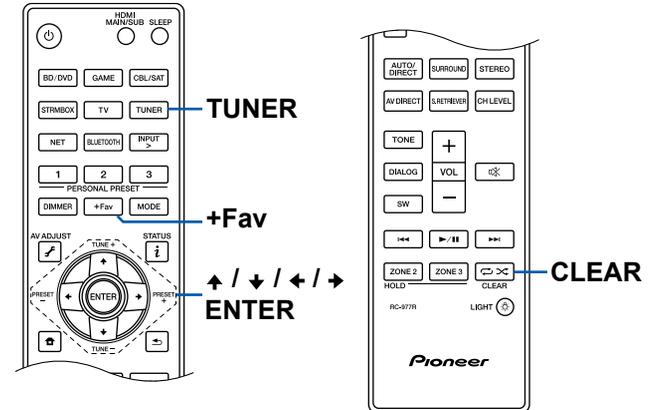
お好きなAM/FM 放送局を最大40局まで登録できます。

登録したいAM/FM 放送局を受信した後、以下の操作を行ってください。

1. +Favを押して、表示部のプリセット番号を点滅させます。

FM 87.5 MHz

2. プリセット番号が点滅している間（約8秒間）に、カーソルの \leftarrow/\rightarrow をくり返し押し、1～40の間で番号を選びます。
3. 再度+Favを押して登録します。
登録すると、プリセット番号の点滅が止まります。この手順をくり返して、お好きなAM/FM 放送局を登録してください。



登録したプリセット局を選ぶ

1. TUNER を押します。
2. カーソルの◀/▶を押して、プリセット番号を選びます。

登録したプリセット局を削除する

1. TUNER を押します。
2. カーソルの◀/▶を押して、削除したいプリセット番号を選びます。
3. +Fav を押したあと、プリセット番号が点滅している間に CLEAR を押して、プリセット番号を削除します。削除されると、表示部から番号が消えます。

マルチゾーン

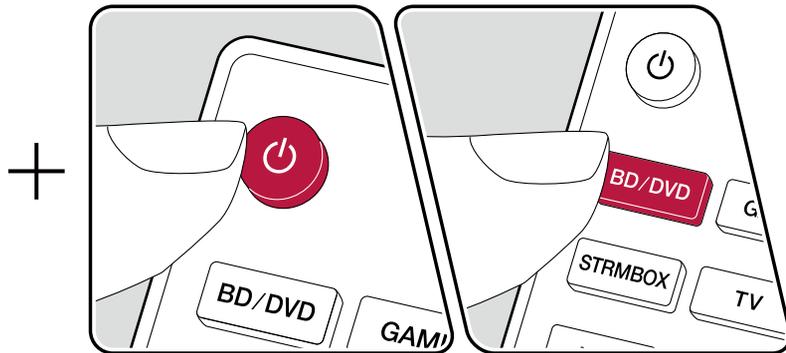
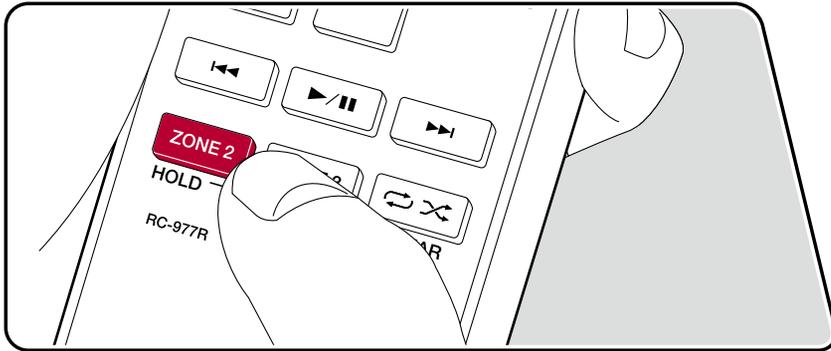
メインルーム (本機のある部屋) で再生をしながら、別室 (ゾーン2/ ゾーン3) で2チャンネルの音声を楽しむことができます。メインルームとゾーン2/ゾーン3で同時に同じソースを再生することや、別々のソースを再生することもできます。なお、「NET」、「BLUETOOTH」、「USB」入力切替は、メインルームと別室とで同じソースしか選べません。メインルームで「NET」を選択中に別室で「BLUETOOTH」を選択すると、メインルームも「BLUETOOTH」に切り換わります。AM/FM 放送もメインルームと別室とで違う放送局を選ぶことはできません。

マルチゾーン再生の操作には、Pioneer Remote Appが便利です。Pioneer Remote App (iOSやAndroid™でご利用になれます) をダウンロードしたスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末で使用できます。



□ 再生する (ゾーン2) (→ [p121](#))

再生する (ゾーン2)



リモコンで操作する場合は、ZONE 2 ボタンを押しながらその他のボタンを押して操作してください。

1. リモコンの ZONE 2 ボタンを押しながら、リモコンを本機に向けて **電源** を押し込みます。
 - 本体表示部の「Z2」が点灯します。



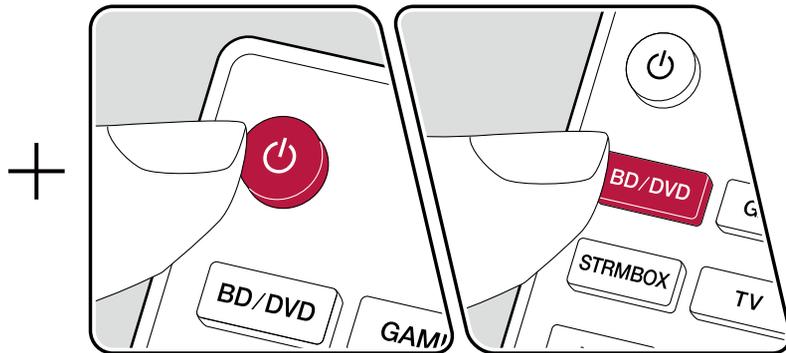
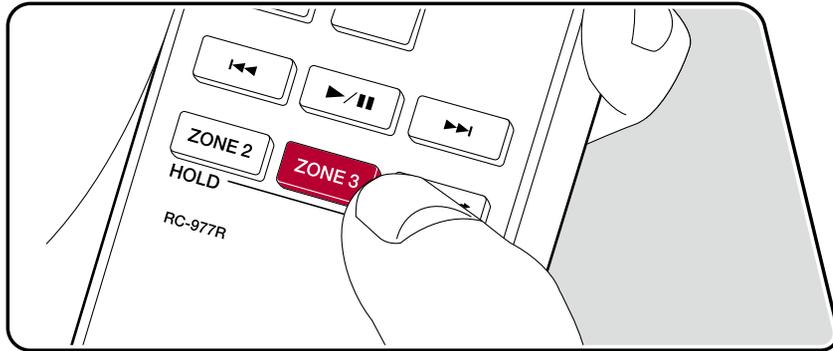
2. リモコンの ZONE 2 ボタンを押しながら別室で再生したい入力の入力切替を押します。本体で操作する場合は、ZONE CONTROL ボタンをくり返し押して表示部で「Z2」を選んだあとに、別室で再生したい入力を INPUT SELECTOR ダイヤルで 8 秒以内に選びます。
3. 別室のプリメインアンプと接続している場合は、プリメインアンプで音量を調整します。別室のパワーアンプやゾーンスピーカーと接続している場合は、リモコンの ZONE 2 ボタンを押しながらボリュームボタンで調整します。本体で操作する場合は、ZONE CONTROL ボタンをくり返し押して表示部で「Z2」を選んでから、8 秒以内に MASTER VOLUME つまみで調整します。
 - パワーアンプを接続する場合は、システム設定メニューの「マルチゾーン」-「ゾーン2」-「アウトプットレベル」(→ [p172](#)) を「可変」に設定してください。設定しない場合、大音量が出力されて、パワーアンプやスピーカー等が破損するおそれがあります。
 - 別室のテレビ に接続機器の情報を表示することができます。リモコンの ZONE 2 ボタンを押しながら **i** ボタンを押してください。
- マルチゾーン再生時に本機の電源をスタンバイにすると、Z2 表示がうす暗く点灯し、別室のみの再生モードに切り換わります。また、本機がスタンバイ時にゾーン2をオンにしても、別室のみの再生モードになります。
- 外部接続の AV 機器の音声は、アナログまたは 2 チャンネル PCM 音声のみゾーン2で再生可能です。本機と HDMI ケーブル、同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルで接続している場合は、AV 機器の音声出力を PCM 出力に変更する必要がある場合があります。
- HDMI 入力の映像や音声をゾーン2出力する場合は、ホーム画面の「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「TV 出力/OSD」-「ゾーン2 HDMI 出力」(→ [p151](#)) を「使用する」に設定してください。

- 「NET」、「USB」入力切換では、DSDの音声信号はゾーン2に出力できません。
- ゾーン2がオンのときは、スタンバイ時の消費電力が増加します。

機能をオフにするには：リモコンのZONE 2ボタンを押しながら  を押します。
本体で操作する場合は、ZONE 2 ON/OFF ボタンを押します。

□ 再生する (ゾーン3) (→ [p123](#))

再生する (ゾーン3)



リモコンで操作する場合は、ZONE 3 ボタンを押しながらその他のボタンを押して操作してください。

1. リモコンの ZONE 3 ボタンを押しながら、リモコンを本機に向けて **⏻** を押します。
 - 本体表示部の「Z3」が点灯します。



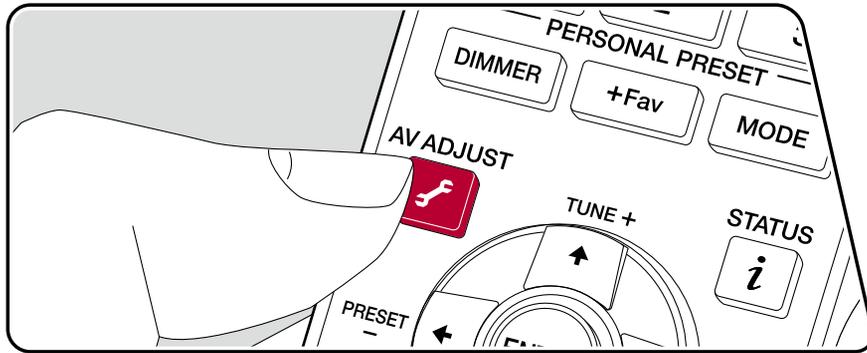
2. リモコンの ZONE 3 ボタンを押しながら別室で再生したい入力の入力切換を押します。本体で操作する場合は、ZONE CONTROL ボタンをくり返し押して表示部で「Z3」を選んだあとに、別室で再生したい入力を INPUT SELECTOR ダイヤルで 8 秒以内に選びます。
3. 別室のプリメインアンプと接続している場合は、プリメインアンプで音量を調整します。別室のパワーアンプやゾンスピーカーと接続している場合は、リモコンの ZONE 3 ボタンを押しながらボリュームボタンで音量を調整します。本体で操作する場合は、ZONE CONTROL ボタンをくり返し押して表示部で「Z3」を選んでから、8 秒以内に MASTER VOLUME つまみで調整します。
 - パワーアンプを接続する場合は、システム設定メニューの「マルチゾーン」-「ゾーン3」-「アウトプットレベル」(→[p172](#))を「可変」に設定してください。設定しない場合、大音量が出力されて、パワーアンプやスピーカー等が破損するおそれがあります。
 - マルチゾーン再生時に本機の電源をスタンバイにすると、Z3 表示がうす暗く点灯し、別室のみの再生モードに切り換わります。また、本機がスタンバイ時にゾーン3をオンにしても、別室のみの再生モードになります。
 - 外部接続の AV 機器の音声は、アナログのみ再生可能です。
 - 「NET」、「USB」入力切換では、DSD の音声信号はゾーン3に出力できません。
 - ゾーン3がオンのときは、スタンバイ時の消費電力が増加します。

機能をオフにするには：リモコンの ZONE 3 ボタンを押しながら **⏻** を押します。本体で操作する場合は、ZONE 3 ON/OFF ボタンを押します。

ゾーンB再生

本機に接続したスピーカー（ゾーンA）で再生をしながら、ZONE B LINE OUT 端子に接続したプリメインアンプなど（ゾーンB）（→p87）で同時に同じソースの音声を楽しむことができます。

再生する



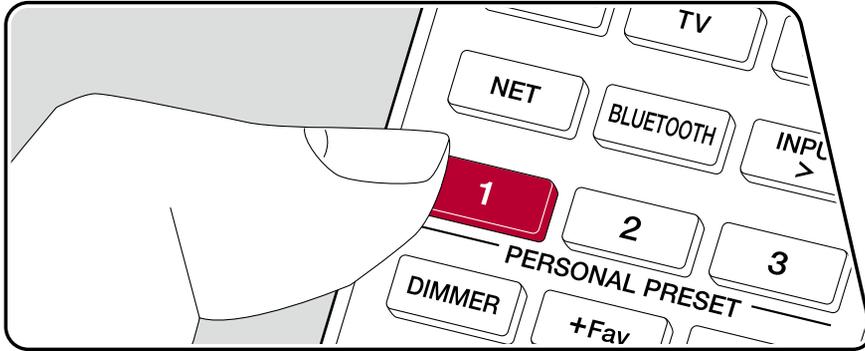
- リモコンの  ボタンを押して、「オーディオ」-「ゾーンB」を選びます。
 - 以下の場合、「ゾーンB」は選択することができません。
 - ゾーン2がオンの場合
 - ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーン2プリアウト」が「ゾーン2」に設定されている場合（→p157）
- 音声の出力先を選びます。
 - オフ**：ゾーンAからのみ音声を出力します。本体表示部の「A」が点灯します。
 - オン (A+B)**：ゾーンAとゾーンBから音声を出力します。本体表示部の「A」「B」が点灯します。
 - オン (B)**：ゾーンBからのみ音声を出力します。本体表示部の「B」が点灯します。

AB

- AV機器を再生します。
- 音量調整は、ゾーンBのプリメインアンプなどで調整します。
 - 「ゾーン2プリアウト」を「ゾーンB」に設定し、かつAV Adjustの「オーディオ」-「ゾーンB」が「オン (A+B)」に設定されているとき、ゾーンAの出力は以下のようになります。
 - 音質調整はできません。
 - ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」-「ダブルバス」（→p158）は「オン」に固定されます。
 - ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「距離」（→p159）の効果はなくなります。
 - 音声の出力先に「オン (A+B)」を選んだ場合、ゾーンAのリスニングモードはスピーカーレイアウトが2.1チャンネルの場合は「Stereo」、3.1チャンネル以上の場合は「Ext.Stereo」しか選べません。

便利な機能

PERSONAL PRESET を使う



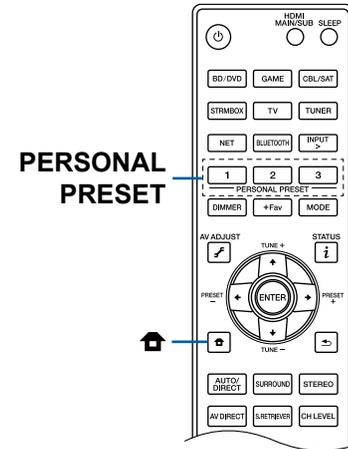
登録する

現在の入力切換やリスニングモードなどの、さまざまな設定内容(→p126)を3つのPERSONAL PRESET ボタンに登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

(例) PERSONAL PRESET ボタンを押すと、自動的に入力切換が「TUNER」に切り換わって、登録した放送局を受信します。また、リスニングモードやボリュームレベルも登録した内容に切り換わります。

登録したい設定の状態で、以下の操作を行ってください。

1. PERSONAL PRESET 1～3 のいずれかのボタンを長押しします。
2. 表示部に「Preset Written」と表示され、設定内容が登録されます。すでに登録がされている場合は上書きされます。



登録できる設定内容について

PERSONAL PRESET では以下の設定が登録されます。

- 入力切換 (ネットワークサービスやAM/FM放送局を登録することもできます。)
- リスニングモード
- ボリュームレベル (上限は「0.0 dB」)
(ゾーン2/ゾーン3がオンの場合、ゾーン2/ゾーン3のボリュームレベルも登録されます。)
- 出力先 (マルチゾーン)
- マニュアルMCACC
- MCACC EQ
- 定在波制御
- フェイズコントロール
- Auto Phase Control Plus
- サウンドディレイ
- サウンドレトリバー機能の「オン」「オフ」
- TREBLE/BASS/DIALOG など
- * AM/FM放送局を登録した場合、TUNERのプリセット番号「38」、「39」、「40」(→[p118](#)) が上書きされます。

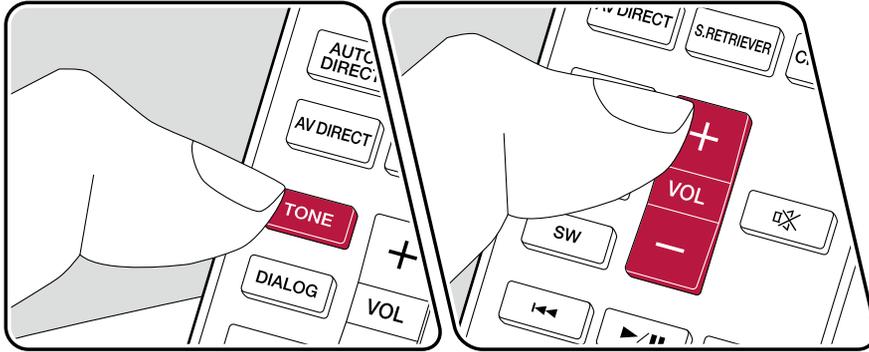
登録した設定を使用する

1. PERSONAL PRESET 1～3ボタンのうち、設定内容を登録したボタンを押します。
 - 本体がスタンバイ時でも、PERSONAL PRESET ボタンを押すと電源がオンになります。

登録した設定を確認する

1.  を押して表示されるホームの「システム設定」-「入力/出力端子の割り当て」-「PERSONAL PRESET 情報」(→[p154](#)) を選び、ENTERを押します。
2. 登録内容の一覧が表示されます。
 - サウンドレトリバー機能など一覧に表示されない項目もあります。

トーンを調整する



低音域/高音域を調整する

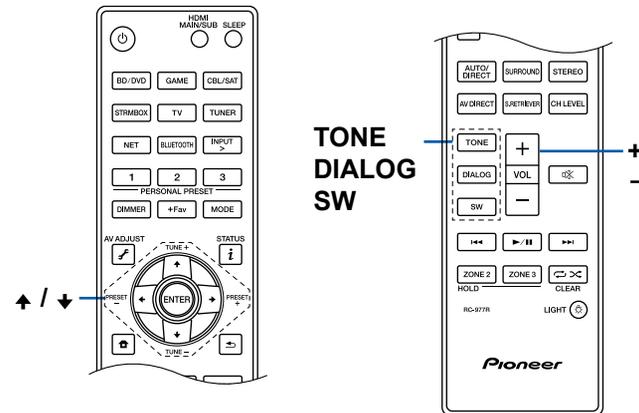
スピーカーの音質を調整することができます。

1. TONEをくり返し押して、Treble、Bassのどちらか調整したい内容を選びます。
Treble：スピーカーの高音域を強調したり、弱めたりします。
Bass：スピーカーの低音域を強調したり、弱めたりします。
2. +、-またはカーソルの▲/▼を押して調整します。

DIALOGを調整する

映画のセリフ部分や音楽のボーカルをより際立たせ、聴き取りやすくなります。特に映画のセリフ部分には有効です。またセンタースピーカーを用いない場合でもその効果を発揮します。「1」(低)～「5」(高)から、お好きなレベルをご利用ください。

1. DIALOGを押します。
2. +、-またはカーソルの▲/▼を押して調整します。
 - 入力ソースまたはリスニングモードの設定によっては、選択できない、もしくは望ましい効果を得ることができない場合があります。
 - 「Dialog Lifted Up」(→[p191](#))を設定している場合は設定できません。

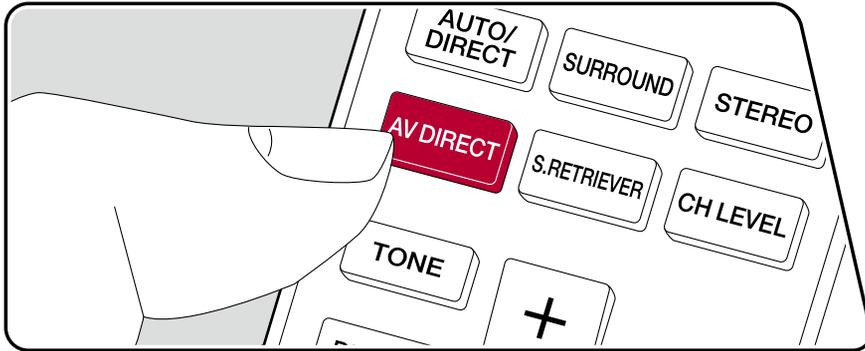


サブウーファーを調整する

音声を聴きながら、サブウーファーのスピーカーレベルを調整します。

1. SWを押します。
2. +、-またはカーソルの▲/▼を押して、「-15.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調整します。
 - 調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると設定前の内容に戻ります。

AV Directモードを使う



AV Directモードはデジタル回路の動作を制限してノイズの発生を抑えることで、音質を向上させることができます。ネットワーク、BLUETOOTH、USBなどの通信を一時的に停止する「AV Direct」と、一部のデジタル回路の電源をオフにする「AV Direct Net Off」があります。どちらも、本機の入力端子に接続した外部機器の音声を再生するときに使用することができます。

- Sonos Connect (→p114) が接続されている入力ソースでは使用することはできません。

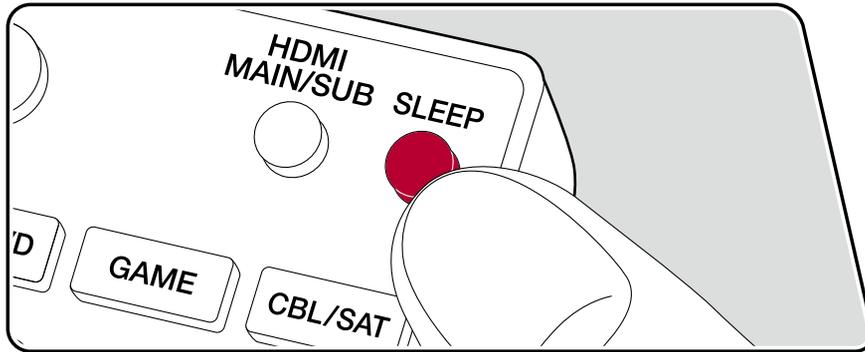
「AV Direct」を使用する

1. リモコンにある「AV DIRECT」ボタンを押して、「AV Direct」を「オン」にします。「オフ」にするにはもう一度「AV DIRECT」ボタンを押します。
 - 次の操作を行うと、「AV Direct」は自動的にオフになります。
 - 本機をスタンバイ状態にする。
 - 入力ソースを「NET」、「BLUETOOTH」、「USB」、「TUNER」に切り換える。
 - Sonos Connect (→p114) が接続されている入力ソースを選ぶ。
 - 設定メニューを表示する。
 - マルチゾーン機能をオンにする。
- 使用する機能によっては表示部に曲名が表示されて、「AV Direct」の「オフ」が表示されないことがあります。

「AV Direct Net Off」を使用する

1. 本体の ZONE CONTROL ボタンを押しながら STATUS ボタンを押すと、本体表示部に「AV Direct Net Off」が表示されて一部のデジタル回路の電源が「オフ」になります。
 - 次の操作を行うと、「AV Direct Net Off」は自動的に解除されます。
 - 本機をスタンバイ状態にする。
 - 入力ソースを「NET」、「BLUETOOTH」、「USB」または「TUNER」に切り換える。
 - Sonos Connect (→p114) が接続されている入力ソースを選ぶ。
 - 設定メニューを表示する。
 - マルチゾーン機能をオンにする。

スリープタイマー



指定した時間が経過したら、本機を自動的にスタンバイ状態にすることができます。リモコンのSLEEPボタンを押し、「30 min」、「60 min」、「90 min」から選びます。「Off」: 自動的にスタンバイ状態にしない場合

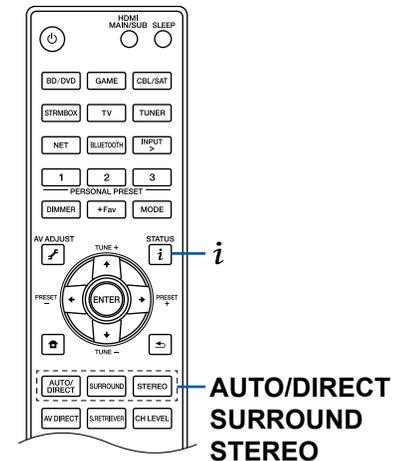
リモコンの🏠ボタンを押して表示されるホームの「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「スリープタイマー」(→[p165](#))から設定することもできます。

リスニングモード

再生中に「AUTO/DIRECT」、「SURROUND」、「STEREO」のボタンをくり返し押すことで、リスニングモードを切り換えることができます。

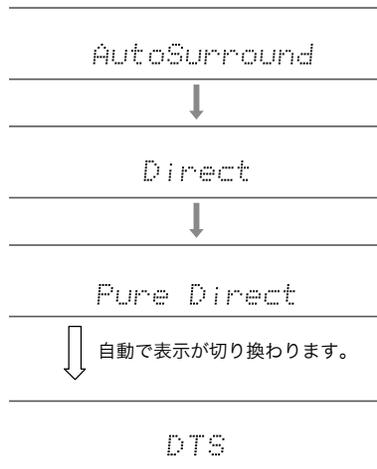
リスニングモードを選ぶ

- AUTO/DIRECT、SURROUND、STEREOは、各ボタンごとに最後に選んだリスニングモードを記憶します。最後に選んだリスニングモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなリスニングモードを自動的に選択します。
- それぞれのリスニングモードの効果は、「リスニングモードの効果」(→[p137](#))をご参照ください。
- 入力する信号の音声フォーマットごとに選択できるリスニングモードについては、「入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて」(→[p142](#))をご参照ください。



■ AUTO/DIRECT ボタン

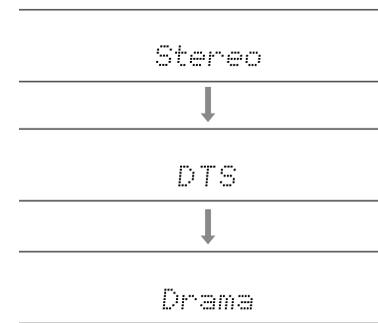
くり返し押すと、入力信号に応じたリスニングモードが自動で選択される「Auto Surround」、「Direct」、「Pure Direct」のモードに切り換わります。いずれかを選ぶと、本体表示部に「Auto Surround」（または「Direct」、「Pure Direct」）と表示されたあと、マルチチャンネルの入力信号ではDTS、2チャンネルの入力信号ではStereoモードなど、それぞれの音声フォーマットに対して最適なリスニングモードに自動で切り換わり、表示部に「DTS」のように表示されます。



「Direct」モードは、トーンコントロール機能など音質に影響する処理を一部遮断することで、より良い音質を楽しむことができます。また「Pure Direct」は、さらに音質に影響を与える処理を遮断することで、原音に忠実な再生を行います。この場合、MCACCで測定されたスピーカー補正は無効になります。

■ SURROUND ボタン

くり返し押すと、入力している信号の音声フォーマットで選択できる、さまざまなリスニングモードを切り換えることができます。お好みに応じて選択ください。表示部には選択されているリスニングモードが表示されます。



■ STEREO ボタン

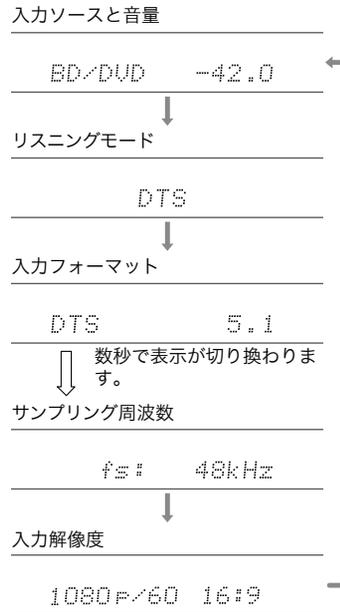
フロントスピーカーとサブウーファーのみで再生するStereoモードが選べます。

それぞれのリスニングモードの効果については、「リスニングモードの効果」を、入力する信号の音声フォーマットごとに選択できるリスニングモードについては「入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて」をご参照ください。

入力フォーマットやリスニングモードを確認するには

i をくり返し押すと、本体表示部が次の順に切り換わります。

- BLUETOOTHの場合は、表示内容が異なります。
- すべての情報が表示されるとは限りません。



スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード

各スピーカーレイアウトによって選択できるリスニングモードについては、下記の表を参照してください。

リスニングモード	スピーカーレイアウト (ch)															
	2.1	3.1	4.1	5.1	6.1	7.1	2.1.2	3.1.2	4.1.2	5.1.2	6.1.2	7.1.2	4.1.4	5.1.4	6.1.4	7.1.4
<input checked="" type="checkbox"/> DD (Dolby Audio - DD)		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*2)	✓(*2)		✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)
<input checked="" type="checkbox"/> DD+ (Dolby Audio - DD+)		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)
<input checked="" type="checkbox"/> DTHD (Dolby Audio - TrueHD)		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos					✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 2.0/2.1/2.2	✓															
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 3.0/3.1/3.2		✓														
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 4.0/4.1/4.2			✓													
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 5.0/5.1/5.2				✓												
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 6.0/6.1/6.2					✓											
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 7.0/7.1/7.2						✓										
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 2.0.2/2.1.2/2.2.2							✓									
<input checked="" type="checkbox"/> Atmos 3.0.2/3.1.2/3.2.2								✓								
<input checked="" type="checkbox"/> DSur (Dolby Audio - Surr)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 2.0/2.1/2.2 (Dolby Audio - Surr)	✓															
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 3.0/3.1/3.2 (Dolby Audio - Surr)		✓														
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 4.0/4.1/4.2 (Dolby Audio - Surr)			✓													
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 5.0/5.1/5.2 (Dolby Audio - Surr)				✓												
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 6.0/6.1/6.2 (Dolby Audio - Surr)					✓											
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 7.0/7.1/7.2 (Dolby Audio - Surr)						✓										
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 2.0.2/2.1.2/2.2.2 (Dolby Audio - Surr)							✓									
<input checked="" type="checkbox"/> DSur 3.0.2/3.1.2/3.2.2 (Dolby Audio - Surr)								✓								

リスニングモード	スピーカーレイアウト (ch)															
	2.1	3.1	4.1	5.1	6.1	7.1	2.1.2	3.1.2	4.1.2	5.1.2	6.1.2	7.1.2	4.1.4	5.1.4	6.1.4	7.1.4
DTS		✓	✓	✓	✓	✓		✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)
ES Discrete (DTS-ES Discrete)					✓	✓										
ES Matrix (DTS-ES Matrix)					✓	✓										
DTS 96/24		✓	✓	✓	✓	✓		✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)
DTS-HD HR (DTS-HD High Resolution)		✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DTS-HD Master (DTS-HD Master Audio)		✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DTS Express		✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DTS:X		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
DTS Neural:X	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
IMAX DTS	✓	✓	✓	✓	✓	✓(*4)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3) (*4)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3) (*4)
IMAX DTS:X	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
IMAX Neural:X	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

リスニングモード	スピーカーレイアウト (ch)															
	2.1	3.1	4.1	5.1	6.1	7.1	2.1.2	3.1.2	4.1.2	5.1.2	6.1.2	7.1.2	4.1.4	5.1.4	6.1.4	7.1.4
AAC		✓	✓	✓	✓(*2)	✓(*2)		✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)		
PCM	✓	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)	✓(*3)
DSD		✓(*1)	✓(*1)	✓(*1)	✓(*2)	✓(*2)		✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)	✓(*2)
Stereo	✓	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)
Mono	✓	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)	✓(*5)
Ext.Mono		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Ext.Stereo		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Classical			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Ent.Show (Entertainment Show)			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Drama			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Unplugged			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Action			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
AdvancedGame			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Rock/Pop			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Sports			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
F.S.Surround (Front Stage Surround)	✓	✓	✓(*5)	✓(*6)	✓(*5)	✓(*6)	✓(*5)	✓(*6)	✓(*5)	✓(*6)	✓(*5)	✓(*6)	✓(*5)	✓(*6)	✓(*5)	✓(*6)

*1: 入力信号のチャンネル数に応じた音場で再生されます。

*2: サラウンドバックスピーカーまたはハイトスピーカーからは出力されません。

*3: ハイトスピーカーからは出力されません。

*4: サラウンドチャンネルの音声はサラウンドバックスピーカーから出力されます。

*5: フロントスピーカーのみ出力されます。

*6: フロントスピーカーとセンタースピーカーのみ出力されます。

リスニングモードの効果

アルファベット (ABC) 順

■ AAC

MPEG-2 AAC で収録されたソースの再生に適したモードです。MPEG-2 AAC 方式で圧縮されたデジタルデータで5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。

- 地上デジタル、BS/CS放送などのMPEG-2 AACソースの再生時に選んでください。

■ Action

アクションシーンの多い映画を楽しむのに適したモードです。

■ AdvancedGame

ゲームコンテンツを楽しむのに適したモードです。

■ Classical

クラシックやオペラに適したモードです。サラウンド感を強調して、音声イメージが全体に広がる大ホールで聴いているような自然な響きを楽しめます。

■ Atmos

Dolby Atmos 音声に記録されている音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、フロントスピーカーのみの接続など、どのようなスピーカーレイアウトでも、Dolby Atmosの自然で立体的な音場をお楽しみいただけます。また、サラウンドバックスピーカーまたはハイトスピーカーを接続することで、Dolby Atmosのサウンドデザインを、より忠実に再現することができます。Dolby Atmos 音声フォーマット入力時に選択することができます。

Dolby Atmos は既存のサラウンドとは異なり、チャンネルではなく、3次元空間を、独立した動きのある音声オブジェクトで、よりクリアに、より正確に配置することが可能です。Dolby Atmos は、ブルーレイディスクの音声フォーマットのオプションとして採用され、リスナーの上方に音場を導入したことで、より立体的な音場を実現しています。

スピーカーレイアウトによって、以下のリスニングモードが表示されます。

-  Atmos 2.0/2.1/2.2 : フロントスピーカーのみを設置している場合

-  Atmos 3.0/3.1/3.2 : フロントスピーカーとセンタースピーカーを設置している場合
-  Atmos 4.0/4.1/4.2 : フロントスピーカーとサラウンドスピーカーを設置している場合
-  Atmos 5.0/5.1/5.2 : フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを設置している場合
-  Atmos 6.0/6.1/6.2 : フロントスピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
-  Atmos 7.0/7.1/7.2 : フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
-  Atmos 2.0.2/2.1.2/2.2.2 : フロントスピーカーとハイトスピーカーを設置している場合
-  Atmos 3.0.2/3.1.2/3.2.2 : フロントスピーカー、センタースピーカー、ハイトスピーカーを設置している場合
-  Atmos : サラウンドスピーカーおよびハイトスピーカーを設置した「4.1.2ch」、「5.1.2ch」、「6.1.2 ch」、「7.1.2 ch」、「4.1.4 ch」、「5.1.4 ch」、「6.1.4 ch」、「7.1.4 ch」のときに選択することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。
- 「スピーカーバーチャライザー」(→p160)の設定が「オフ」(初期値はオン)の場合は、 Atmos以外は選択できません。

■ DD (Dolby Audio - DD)

Dolby Digital 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby Digital 音声フォーマットは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタルフォーマットで、映画製作に広く採用されており、また、DVD-Videoやブルーレイディスクでは標準の音声フォーマットとして採用されています。DVD-Videoやブルーレイディスクでは、フロントスピーカーとセンタースピーカーの3チャンネルとサラウンドスピーカーの2チャンネル、低音域専用のLFEチャンネル(サブウーファアの音声要素)の最大5.1チャンネルで記録することが可能です。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DD+ (Dolby Audio - DD+)

Dolby Digital Plus 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby Digital Plus 音声フォーマットは、Dolby Digitalをベースに改良され、チャンネル数の拡大と、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。Dolby Digital Plus はブルーレイディスクの音声フォーマットのオプションとして採用され、5.1チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1チャンネルで記録することが可能です。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DSurr (Dolby Audio - Surr)

2チャンネルや5.1チャンネル入力信号を5.1チャンネルや7.1チャンネルや5.1.2チャンネルに拡張できるリスニングモードです。接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるほか、フロントスピーカーのみの接続など、拡張できるスピーカーがない場合も、仮想的にサラウンドチャンネルやハイトチャンネルの音声を創出して、拡張再生することができます。

- DTS信号入力時は、選択できません。

スピーカーレイアウトによって、以下のリスニングモードが表示されます。

-  DSurr 2.0/2.1/2.2 : フロントスピーカーのみを設置している場合
-  DSurr 3.0/3.1/3.2 : フロントスピーカーとセンタースピーカーを設置している場合
-  DSurr 4.0/4.1/4.2 : フロントスピーカーとサラウンドスピーカーを設置している場合
-  DSurr 5.0/5.1/5.2 : フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを設置している場合
-  DSurr 6.0/6.1/6.2 : フロントスピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
-  DSurr 7.0/7.1/7.2 : フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを設置している場合
-  DSurr 2.0/2.1/2.2 : フロントスピーカーとハイトスピーカーを設置している場合
-  DSurr 3.0/3.1/3.2 : フロントスピーカー、センタースピーカー、ハイトスピーカーを設置している場合
-  DSurr : サラウンドスピーカーおよびハイトスピーカーを設置した

「4.1.2ch」、「5.1.2ch」、「6.1.2 ch」、「7.1.2 ch」、「4.1.4 ch」、「5.1.4 ch」、「6.1.4 ch」、「7.1.4 ch」のときに選択することができます。

- 「スピーカーバーチャライザー」(→ [p160](#)) の設定が「オフ」(初期値はオン)の場合は、 DSurr以外は選択できません。

■ DTHD (Dolby Audio - TrueHD)

Dolby TrueHD 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby TrueHD 音声フォーマットは、MLPとよばれるロスレス圧縮技術をベースとし拡張された「可逆型」の音声フォーマットで、スタジオで録音されたマスター音声の忠実な再現を可能としています。Dolby TrueHDはブルーレイディスクの音声フォーマットのオプションとして採用され、5.1チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1チャンネルで記録することが可能です。7.1チャンネルでは96 kHz/24 bit、5.1チャンネルでは192 kHz/24 bitで記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ Drama

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。すべてのサラウンド音声を強調して会話音声を明瞭にすることにより、局のスタジオにいるような臨場感が楽しめます。

■ DSD

DSDで収録されたソースの再生に適したモードです。

- 本機はHDMI入力端子からのDSD信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定をPCM出力に設定した方がよい音声を得られる場合があります。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー側の出力設定をDSDにしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

■ DTS

DTS 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS 音声フォーマットは、DTS, Inc.により開発されたマルチチャンネルデジタル

フォーマットです。DVD-Video のオプションの音声フォーマットや、ブルーレイディスクの標準の音声フォーマットとして採用されており、フロントスピーカーとセンタースピーカーの3チャンネルとサラウンドスピーカーの2チャンネル、低音域専用のLFEチャンネル(サブウーファースの音声要素)の5.1チャンネルを、最大48 kHzのサンプリングレートと24 bitの解像度、1.5 Mbpsのビットレートの豊富な情報量で記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS 96/24

DTS 96/24 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS 96/24 音声フォーマットは、DVD-Video やブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、フロントスピーカーとセンタースピーカーの3チャンネルとサラウンドスピーカーの2チャンネル、低音域専用のLFEch(サブウーファースの音声要素)の5.1チャンネルを、96 kHzのサンプリングレートと24 bitの解像度を使ってきめ細やかな再現性を実現します。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS Express

DTS Express 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS Express は、ブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1チャンネルをロービットレートでサポートする音声フォーマットです。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS-HD HR (DTS-HD High Resolution)

DTS-HD High Resolution Audio 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS-HD High Resolution Audio 音声フォーマットは、ブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1チャンネルを、96 kHzのサンプ

リングレートと24 bitの解像度で記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS-HD MSTR (DTS-HD Master Audio)

DTS-HD Master Audio 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS-HD Master Audio 音声フォーマットは、ブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大7.1チャンネルを、ロスレス・オーディオ再生技術により記録することができます。7.1チャンネルでは96 kHz/24 bit、5.1チャンネルでは192 kHz/24 bitに対応しています。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ DTS Neural:X

2チャンネルや5.1チャンネルの入力信号を5.1チャンネルや7.1チャンネルに拡張するなど、接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるリスニングモードです。

- Dolby信号入力時は、選択できません。

■ DTS:X

DTS:X 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS:X 音声フォーマットは、従来のチャンネルベース(5.1チャンネル、7.1チャンネル)のミキシング方式と、オブジェクトベースのダイナミックなオーディオミキシングを組み合わせて、精密な音の定位や移動を表現できることが特徴です。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ ES Discrete (DTS-ES Discrete)

DTS-ES Discrete 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS-ES Discrete 音声フォーマットは、DVD-Video やブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1チャンネルをベースに、モ

ノラルのサラウンドバックチャンネルを追加した最大6.1チャンネルを記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ ES Matrix (DTS-ES Matrix)

DTS-ES Matrix 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS-ES Matrixは、DVD-Video やブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1チャンネルをベースに、モノラルのサラウンドバックチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した音声フォーマットです。再生の際は、本機のマトリクスデコーダーによって、6.1チャンネルの再生を実現します。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

■ Ent.Show (Entertainment Show)

ロック、ポピュラーなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドが楽しめます。

■ Ext.Mono (Extended Mono)

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されるモードです。どの場所においても同じ音場イメージで音楽を聴くことができます。

■ Ext.Stereo (Extended Stereo)

BGMとして音楽を流すときに適したモードです。フロントだけでなくサラウンドからもステレオ音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

■ F.S.Surround (Front Stage Surround)

サラウンドスピーカーを設置しなくてもマルチチャンネルサラウンド再生しているようなバーチャル再生が楽しめるモードです。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって効果を実現しています。

- 「スピーカーバーチャライザー」(→[p160](#))の設定が「オフ」(初期値はオン)の場合は、選択できません。

■ IMAX

エンターテインメント技術のイノベーター・IMAXは、独自のソフトウェアやアーキテクチャー、設備を融合することで体験を創造し、皆様を観客席の先にある見たこともない世界へとお連れします。一流の映画制作者や制作会社がIMAXシアターの利点を生かし、常識を覆す手法で観客の心を掴もうとしています。IMAXは独自の高画質化処理「DMR」を活用し、監督のイメージに忠実な、より鮮明・精細な映像を生み出しています。画角が広がるよう専用カスタマイズされたシアター環境、そしてシアター全域を満遍なくカバーする独自の音響システムにより、IMAXは本格的臨場感のある映画体験を実現します。

IMAX Enhanced :

IMAX Enhancedは、臨場感世界最高峰のエンターテインメント体験をご自宅にお届けします。最上位のテレビやプロジェクター、サウンドバー、AVレシーバーをはじめとするIMAX Enhanced対応製品は、IMAX、DTS、そしてハリウッドを代表するカラリストの定めた厳しい性能基準を満たしており、圧倒的な品質とスケールを家庭用エンターテインメントで実現します。

IMAX Enhanced コンテンツはご自宅の環境に合わせてデジタルリマスターされるため、映画制作者のイメージに忠実な、より精細な映像や迫力を高めた音声を得ることができます。Ultra HDブルーレイディスクや4Kストリーミングサービスでご利用いただけるコンテンツに、認証済み家庭用エンターテインメント機器搭載のDTS:Xコーデック技術を活用することで、お客様だけでお楽しみいただける臨場感あふれる体験を実現します。

IMAX モードでは全設定がリマスター済みIMAX Enhanced コンテンツの再生用に最適化され、映像や音声の力を常時最大限引き出します。またIMAX モードは、「IMAX DTS」表示時、5.1 IMAX Enhanced コンテンツの再生用に最適化されます。さらに「IMAX DTS:X」表示時には、IMAX モードは臨場感あふれるIMAX Enhanced コンテンツの再生用に最適化されます。

- この音声フォーマットの伝送にはHDMIケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

IMAX のリスニングモード :

- IMAX DTS : IMAX Enhanced コンテンツを含むDTS音声フォーマットが入力されたときに表示されます。
- IMAX DTS:X : IMAX Enhanced コンテンツを含むDTS:X音声フォーマットが入力されたときに表示されます。
- IMAX Neural:X : 5.1チャンネルの入力信号を5.1.4チャンネルや7.1.2チャンネル

ルに拡張するなど、接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生するリスニングモードです。IMAX Enhanced コンテンツを含むDTS音声フォーマットが入力されたときに表示されます。

- お買い上げ時の状態ではIMAX Modeは「自動」に設定されています(→ [p161](#))。IMAX Enhanced コンテンツを識別すると、自動的にリスニングモードが切り換わりますが、テレビなどでストリーミングサービスから受信したIMAX Enhanced コンテンツを再生する場合、IMAX Enhanced コンテンツを本機が識別できず、リスニングモードが切り換わらないことがあります。この場合はIMAX Modeを「オン」に設定してください。
- サラウンドバックスピーカーを接続している場合、5.1チャンネルのIMAX Enhanced コンテンツを含むDTS音声フォーマットをIMAX DTSで再生すると、サラウンドチャンネルの音声はサラウンドバックスピーカーから出力されます。

■ Mono

アナログまたはPCM信号入力時に、センタースピーカーからモノラル音声を再生します。センタースピーカーがない場合は、フロントスピーカーからモノラル音声を再生します。

■ PCM

マルチチャンネルPCMで収録されたソースの再生に適したモードです。

■ Rock/Pop

ロックコンテンツを楽しむのに適したモードです。

■ Sports

スポーツコンテンツを楽しむのに適したモードです。

■ Stereo

左右フロントスピーカーとサブウーファーから音声が出力されるモードです。

■ Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、ステージの前で聴いているようなサウンドが楽しめます。

入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて

入力する信号の音声フォーマットに応じて、さまざまなリスニングモードが選べるようになります。

- Stereoモードは、すべての音声フォーマットで選択できます。
- Pure Directモードでアナログ信号を入力している場合は、DSP (Digital Signal Processor) を経由せずに直接アンプに入力される Analog Direct モードに切り換わります。ただし、スピーカー B を使用している場合は入力信号に応じたリスニングモードが自動で選択されます。
- ヘッドホン接続時に選べるリスニングモードは、Pure Direct、Stereoのみです。

リスニングモード 入力フォーマット	Pure Direct / Direct / Stereo	<input checked="" type="checkbox"/> DD (Dolby Audio - DD) (*1)	<input checked="" type="checkbox"/> DD+ (Dolby Audio - DD+) (*1)(*2)	<input checked="" type="checkbox"/> DTHD (Dolby Audio - TrueHD) (*1)	<input checked="" type="checkbox"/> Atmos (*3)	<input checked="" type="checkbox"/> DSur (Dolby Audio - Surr) (*3)
	2チャンネル信号時					
Analog / PCM	✓					✓
MPEG-2 AAC / NET / USB / DSD (*12)	✓					✓
DD / DD+ / DTHD	✓					✓
DTS / DTS 96/24 / DTS Express / DTS-HD HR / DTS-HD MSTR	✓					
マルチチャンネル信号時						
Multich PCM	✓					✓
DSD (*12)	✓					✓
MPEG-2 AAC	✓					✓
DD	✓	✓				✓
DD+	✓		✓			✓
DTHD	✓			✓		✓
ATMOS	✓				✓	
DTS	✓					
DTS 96/24	✓					
DTS Express	✓					
DTS-HD HR	✓					
DTS-HD MSTR	✓					
DTS-ES Discrete	✓					
DTS-ES Matrix	✓					
DTS:X	✓					
IMAX DTS	✓					
IMAX DTS:X	✓					

リスニングモード 入力フォーマット	DTS (*1)	DTS 96/24 (*1)	DTS Express (*1)	DTS-HD HR (DTS-HD High Resolution) (*1)	DTS-HD Master (DTS-HD Master Audio) (*1)	ES Discrete (DTS-ES Discrete) (*4)	ES Matrix (DTS-ES Matrix) (*4)	DTS:X	DTS Neural:X (*5)	IMAX DTS (*6)	IMAX DTS:X (*6)	IMAX Neural:X (*6)
2チャンネル信号時												
Analog / PCM									✓			
MPEG-2 AAC / NET / USB / DSD (*12)									✓			
DD / DD+ / DTHD												
DTS / DTS 96/24 / DTS Express / DTS-HD HR / DTS-HD MSTR									✓			
マルチチャンネル信号時												
Multich PCM									✓			
DSD (*12)									✓			
MPEG-2 AAC									✓			
DD												
DD+												
DTHD												
ATMOS												
DTS	✓								✓			
DTS 96/24		✓							✓			
DTS Express			✓						✓			
DTS-HD HR				✓					✓			
DTS-HD MSTR					✓				✓			
DTS-ES Discrete	✓(*13)					✓			✓			
DTS-ES Matrix	✓(*13)						✓		✓			
DTS:X								✓				
IMAX DTS	✓(*14)								✓(*14)	✓		✓
IMAX DTS:X								✓(*14)			✓	

リスニングモード 入力フォーマット	PCM (Multich PCM) (*1)	DSD (*1) (*7)	MPEG-2 AAC (*1)	Mono	Classical / Unplugged / Ent.Show (Entertainment Show) / Drama / AdvancedGame / Action / Rock/Pop / Sports (*8)	Ext.Stereo / Ext.Mono (*9)	F.S.Surround (Front Stage Surround) (*10)	THX Cinema / Music / Games (*11)	THX Ultra Cinema / Music / Games (*4)
2チャンネル信号時									
Analog / PCM				✓	✓	✓	✓	✓	
MPEG-2 AAC / NET / USB / DSD (*12)					✓	✓	✓	✓	
DD / DD+ / DTHD					✓	✓	✓	✓	
DTS / DTS 96/24 / DTS Express / DTS-HD HR / DTS-HD MSTR					✓	✓	✓	✓	
マルチチャンネル信号時									
Multich PCM	✓				✓	✓	✓	✓	✓
DSD (*12)		✓			✓	✓	✓	✓	✓
MPEG-2 AAC			✓		✓	✓	✓	✓	✓
DD					✓	✓	✓	✓	✓
DD+					✓	✓	✓	✓	✓
DTHD					✓	✓	✓	✓	✓
ATMOS					✓	✓	✓		
DTS					✓	✓	✓	✓	✓
DTS 96/24					✓	✓	✓	✓	✓
DTS Express					✓	✓	✓	✓	✓
DTS-HD HR					✓	✓	✓	✓	✓
DTS-HD MSTR					✓	✓	✓	✓	✓
DTS-ES Discrete					✓	✓	✓	✓	
DTS-ES Matrix					✓	✓	✓	✓	
DTS:X					✓	✓	✓	✓	
IMAX DTS					✓	✓	✓	✓	✓
IMAX DTS:X					✓	✓	✓	✓	

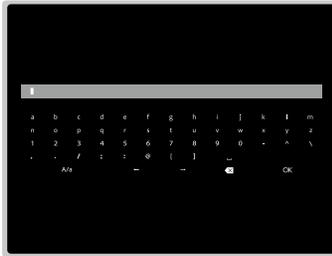
- (*1) センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- (*2) 入力ソースがブルーレイディスクで、スピーカーレイアウトが5.1チャンネル以下の場合、DD+は選択できません。代わりにDDのリスニングモードが選択できます。
- (*3) スピーカーレイアウトによって、表示されるリスニングモードが異なります(→[p137](#)、[138](#))。また、「スピーカーバーチャライザー」(→[p160](#))の設定が「オフ」(初期値はオン)の場合は、 Atmosや DSur以外は選択できません。
- (*4) サラウンドバックスピーカーの設置が必要です。入力フォーマットのチャンネル数が5.1チャンネルの場合、選択できます。
- (*5) 入力フォーマットが次のいずれかでチャンネル数がモノラルの場合、このリスニングモードは選択できません。
 - DTS、DTS 96/24、DTS Express、DTS-HD HR、DTS-HD MSTR、PCM、音楽ファイル
- (*6) IMAX Mode (→[p161](#))を「オフ」(初期値は自動)に設定している場合、選択できません。
- (*7) 入力フォーマットのチャンネル数がモノラルの場合、選択できません。
- (*8) サラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
- (*9) センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーまたはハイトスピーカーの設置が必要です。
- (*10) 「スピーカーバーチャライザー」(→[p160](#))を「オフ」に設定している場合、選択できません。
- (*11) サラウンドスピーカーの設置が必要です。
- (*12) サンプリングレートが5.6/11.2 MHzの場合は、Pure Direct、Stereo、Ext.Stereo、Ext.Mono以外のモードは選択できません。
- (*13) サラウンドバックスピーカーを設置していないときのみ選択できます。
- (*14) IMAX Mode (→[p161](#))の設定が「オフ」(初期値は自動)の場合のみ選択できます。

□ スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード(→[p134](#))

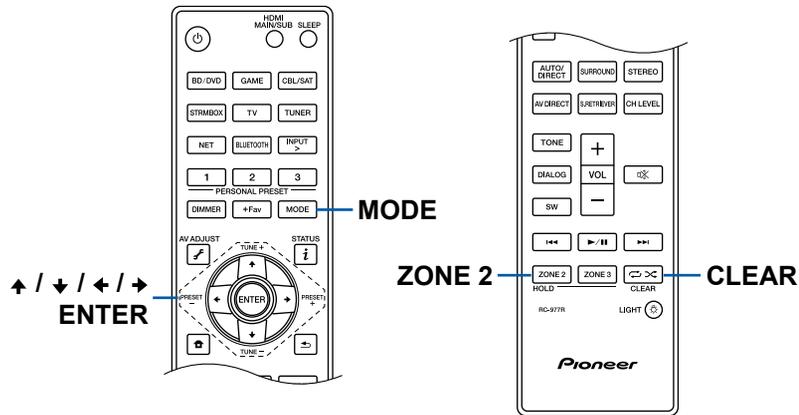
文字を入力する

Wi-Fi Setup (→p187)でのパスワードの入力や、プリセットされた放送局に名前をつけるなど(→p162)、文字や記号の入力をテレビ画面に表示したキーボードで行うことができます。

1. リモコンのカーソル ↑/↓/←/→ で文字・記号を選び、ENTER ボタンを押します。
2. 入力を終えて、文字を保存するときは「OK」を選び、ENTER ボタンを押します。



- 大文字/小文字の切り換えは「A/a」を選びます。(リモコンのMODEボタンでも切り換えることができます。)
- 1文字分スペースを入れるには、「L」を選びます。
- カーソルの左側の文字を1文字消去するには、「☒」を選びます。
- 入力した文字をすべて消去するには、リモコンのCLEARボタンを押します。
- ゾーン2の再生画面では、ZONE 2ボタンを押しながらリモコンを操作してください。



システム設定

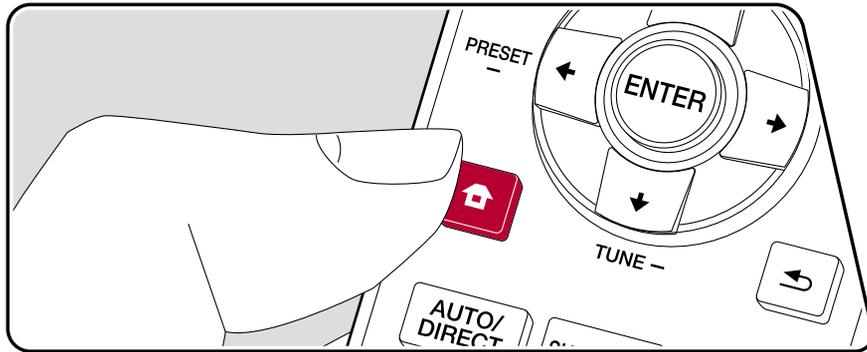
メニューリスト

本機をより深くお楽しみいただくための応用的な設定ができます。操作の説明については、「メニュー操作」(→[p149](#))を参照してください。

入力/出力端子の割り当て	TV 出力/OSD	テレビへの出力についての設定や、テレビに操作画面を表示する機能 (OSD) についての設定が行えます。	p150
	HDMI 入力	各入力切換に割り当てられている、HDMI IN 端子の割り当て設定を変更することができます。	p151
	映像入力	各入力切換に割り当てられている、COMPONENT VIDEO IN 端子と VIDEO IN 端子の割り当て設定を変更することができます。	p152
	デジタル音声入力	各入力切換に割り当てられている、DIGITAL AUDIO IN COAXIAL/OPTICAL 端子の割り当て設定を変更することができます。	p152
	アナログ音声入力	各入力切換に割り当てられている、AUDIO IN 端子の割り当て設定を変更することができます。	p153
	入力スキップ	本機の INPUT SELECTOR ダイヤルやリモコンの入力切換ボタンを操作したときに、接続に使用していない入力をスキップすることができます。	p153
	PERSONAL PRESET 情報	PERSONAL PRESET の登録内容を確認することができます。	p154
スピーカー	配置・構成	スピーカーの接続環境についての設定を変更することができます。	p155
	クロスオーバー	クロスオーバー周波数についての設定を変更することができます。	p157
	距離	視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することができます。	p159
	チャンネルレベル	各スピーカーの音量レベルを調整することができます。	p159
	Dolby Enabled Speaker	Dolby Enabled スピーカーについての設定を変更することができます。	p160
	スピーカー バーチャライザー	スピーカーバーチャライザー機能のオン/オフを切り換えることができます。	p160
音の設定・調整	デュアルモノ/モノ	多重音声の再生についての設定を変更することができます。	p161
	Dolby	Dolby 信号入力時についての設定を変更することができます。	p161
	DTS/IMAX	DTS 信号入力時についての設定を変更することができます。	p161
	LFE Mute Level	Dolby Digital 系、DTS 系、マルチチャンネル PCM、DSD 信号の低域効果 (LFE) レベルが設定できます。	p162
	ボリューム	ボリュームについての設定を変更することができます。	p162

入力ソース	インプットボリュームア ブソーバ	本機に接続された複数の機器で音量差がある場合の調整をすることができます。	p162
	名前変更	各入力切換にわかりやすい名前を設定することができます。	p162
	音声信号選択	1つの入力切換に複数の音声接続をしている場合に、優先する入力端子を選択することができます。	p163
ハードウェア	HDMI	HDMI機能に関する設定を変更することができます。	p164
	電源管理	省電力機能に関する設定を変更することができます。	p165
	12Vトリガー A	12V TRIGGER OUT A 端子に関する設定を変更することができます。	p166
	12Vトリガー B	12V TRIGGER OUT B 端子に関する設定を変更することができます。	p169
	Works with SONOS	Sonos Connectと接続する場合の設定を変更することができます。	p171
マルチゾーン	ゾーン2	ゾーン2に関する設定を変更することができます。	p172
	ゾーン3	ゾーン3に関する設定を変更することができます。	p172
	Remote Play Zone	リモート再生に関する設定を変更することができます。	p173
その他	チューナー	チューナーの設定を変更することができます。	p173
	リモコンID	リモコンのIDを変更することができます。	p173
	プリアンプモード	本機をパワーアンプと接続する場合に、本機のSPEAKERS端子の電源をオフにして消費電力を抑えることができます。	p173
	ファームウェアアップ デート	ファームウェアアップデートに関する設定を変更することができます。	p174
	初期設定	初期設定をセットアップメニューから行うことができます。	p174
	ロック	セットアップメニューの設定を変更できないようにすることができます。	p174
	ファクトリーリセット	すべての設定をお買い上げ時の状態に戻します。	p174

メニュー操作



テレビに操作画面を表示するOSD (On-Screen Display) 機能を使用して、設定を行います。

リモコンの🏠ボタンを押してホーム画面を表示させ、リモコンのカーソルでシステム設定を選びENTERボタンを押します。



リモコンのカーソル↑/↓/←/→で内容を選び、ENTERボタンで決定します。

初期値を変更するには、カーソル←/→で操作します。

- ひとつ前の画面に戻るには🏠ボタンを押します。
- 設定を終了するときには、🏠ボタンを押します。

入力/出力端子の割り当て

■ TV出力/OSD

テレビへの出力についての設定や、テレビに操作画面を表示する機能 (On-Screen Display) についての設定が行えます。

設定項目	初期値	設定内容
HDMI出力	MAIN	<p>テレビを接続するHDMI端子を選びます。</p> <p>「MAIN」：テレビをHDMI OUT MAIN端子に接続する場合</p> <p>「SUB」：テレビをHDMI OUT SUB端子に接続する場合</p> <p>「MAIN + SUB」：MAINとSUB端子両方に接続する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> HDMI OUT MAIN端子とSUB端子の両方に解像度の異なる機器を接続している場合は、低い方の解像度に合わせて出力されます。
Dolby Vision	MAIN	<p>Dolby Vision対応テレビの接続先を「MAIN」、「SUB」、「ゾーン2」から選びます。この設定は「HDMI出力」で「MAIN + SUB」を選んでいるときや、「ゾーン2 HDMI出力」(→ p151)を「使用する」にして、ゾーン2と同じ映像をMAINまたはSUBのHDMI OUT端子から出力するなど、複数のHDMI OUT端子から同時に同じ映像を出力する場合のみ設定する必要があります。</p> <p>「MAIN」：HDMI OUT MAIN端子に接続したDolby Vision対応テレビにDolby Vision映像を出力する場合</p> <p>「SUB」：HDMI OUT SUB端子に接続したDolby Vision対応テレビにDolby Vision映像を出力する場合</p> <p>「ゾーン2」：HDMI OUT ZONE 2端子に接続したDolby Vision対応テレビにDolby Vision映像を出力する場合</p> <p>「オフ」：テレビの映像が正常に映らなくなる場合はオフにしてください。</p>

設定項目	初期値	設定内容
1080p -> 4Kアップスケーリング	オフ	<p>4Kに対応したテレビをご使用の場合に、1080pで入力された映像信号を自動的に4Kで出力することができます。</p> <p>「オフ」：この機能を使用しない場合</p> <p>「自動」：この機能を使用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ご使用のテレビが4Kに対応していない場合は、「オフ」にしてください。 テレビがHDMI入力映像の周波数と同じ周波数の4K解像度に対応していないと正しく4Kアップスケーリングすることができません。テレビの4K解像度の対応周波数をご確認の上、AV機器から入力する映像信号の解像度を変更してください。
スーパーレゾリューション	2	<p>「1080p -> 4Kアップスケーリング」を「自動」に設定している場合に入力された映像信号の補正の度合いを「オフ」、「1」(弱)～「3」(強)から選びます。</p>

設定項目	初期値	設定内容																																								
4K信号フォーマット	標準	<p>HDMI 4K対応のテレビおよび再生機器などのAV機器を本機と接続したときに、本機が入出力する4K信号フォーマットの設定を切り換えることができます。</p> <p>「標準」：本機と接続しているAV機器が標準的な4K信号フォーマット(4K 60p 4:2:0 8bit)の映像信号に対応している場合</p> <p>「拡張」：本機と接続しているAV機器、およびHDMIケーブルが高精度な4K信号フォーマット(4K 60p 4:4:4、4:2:2 および 4K 60p 4:2:0 10bit)の映像信号に対応している場合</p> <p>設定と対応する解像度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th>拡張</th> <th>標準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4K (3840×2160p) 24/25/30 Hz</td> <td>RGB/ YCbCr4:4:4</td> <td>8 bit</td> <td>✓</td> <td>✓</td> </tr> <tr> <td>4K SMPTE(4096×2160p) 24/25/30 Hz</td> <td>YCbCr4:2:2</td> <td>10/12 bit</td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>12 bit</td> <td>✓</td> <td>✓</td> </tr> <tr> <td>4K (3840×2160p) 50/60 Hz</td> <td>RGB/ YCbCr4:4:4</td> <td>8 bit</td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4K SMPTE(4096×2160p) 50/60 Hz</td> <td>YCbCr4:2:2</td> <td>12 bit</td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>8 bit</td> <td>✓</td> <td>✓</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>10/12 bit</td> <td>✓</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 「拡張」に設定するときは、パッケージに「PREMIUM Certified Cable」のラベルが貼られているプレミアムハイスピードHDMIケーブル、またはイーサネット対応プレミアムハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。 接続機器やHDMIケーブルによっては、映像が乱れる場合があります。その場合は、「標準」に切り換えてください。 				拡張	標準	4K (3840×2160p) 24/25/30 Hz	RGB/ YCbCr4:4:4	8 bit	✓	✓	4K SMPTE(4096×2160p) 24/25/30 Hz	YCbCr4:2:2	10/12 bit	✓				12 bit	✓	✓	4K (3840×2160p) 50/60 Hz	RGB/ YCbCr4:4:4	8 bit	✓		4K SMPTE(4096×2160p) 50/60 Hz	YCbCr4:2:2	12 bit	✓				8 bit	✓	✓			10/12 bit	✓	
			拡張	標準																																						
4K (3840×2160p) 24/25/30 Hz	RGB/ YCbCr4:4:4	8 bit	✓	✓																																						
4K SMPTE(4096×2160p) 24/25/30 Hz	YCbCr4:2:2	10/12 bit	✓																																							
		12 bit	✓	✓																																						
4K (3840×2160p) 50/60 Hz	RGB/ YCbCr4:4:4	8 bit	✓																																							
4K SMPTE(4096×2160p) 50/60 Hz	YCbCr4:2:2	12 bit	✓																																							
		8 bit	✓	✓																																						
		10/12 bit	✓																																							
ゾーン2 HDMI出力	使用しない	<p>HDMI OUT ZONE 2端子に接続しているゾーン2のテレビに出力する場合の設定です。</p> <p>「使用する」：この機能を有効にする場合</p> <p>「使用しない」：この機能を無効にする場合</p> <ul style="list-style-type: none"> HDMI入力の映像や音声をゾーン2出力する場合は、「使用する」に設定してください。 																																								
OSD言語	日本語	<p>テレビに表示する言語を以下から選びます。</p> <p>英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、スウェーデン語、日本語</p>																																								

設定項目	初期値	設定内容
インポーズOSD	オン	<p>音量調整や入力切換などの情報をテレビ画面に表示するかどうかを設定します。</p> <p>「オン」：OSDをテレビに表示する</p> <p>「オフ」：OSDをテレビに表示しない</p> <ul style="list-style-type: none"> この設定を「オン」にしても、入力信号によってはOSDが表示されないことがあります。表示されない場合は、接続機器の解像度を変更してください。
スクリーンセーバー	3分	<p>スクリーンセーバーの起動時間の設定です。</p> <p>「3分」、「5分」、「10分」、「オフ」から選びます。</p>

■ HDMI入力

各入力切換に割り当てられている、HDMI IN端子の割り当て設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	HDMI 2 (HDCP 2.3)	<p>「HDMI 1 (HDCP 2.3)」～「HDMI 4 (HDCP 2.3)」：BD/DVD入力切換に任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「---」を選びます。他の入力切換に設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当する入力切換の設定を「---」に変更すると選べるようになります。</p>
GAME	HDMI 1 (HDCP 2.3)	<p>「HDMI 1 (HDCP 2.3)」～「HDMI 4 (HDCP 2.3)」：GAME入力切換に任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「---」を選びます。他の入力切換に設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当する入力切換の設定を「---」に変更すると選べるようになります。</p>
CBL/SAT	HDMI 3 (HDCP 2.3)	<p>「HDMI 1 (HDCP 2.3)」～「HDMI 4 (HDCP 2.3)」：CBL/SAT入力切換に任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「---」を選びます。他の入力切換に設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当する入力切換の設定を「---」に変更すると選べるようになります。</p>

設定項目	初期値	設定内容
STRM BOX	HDMI 4 (HDCP 2.3)	「HDMI 1 (HDCP 2.3)」～「HDMI 4 (HDCP 2.3)」: STRM BOX入力切換に任意のHDMI IN端子を割り当てます。割り当てない場合は、「---」を選びます。他の入力切換に設定されているHDMI IN端子を選ぶ場合は、該当する入力切換の設定を「---」に変更すると選べるようになります。

■ 映像入力

各入力切換に割り当てられている、COMPONENT VIDEO IN端子とVIDEO IN端子の割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「---」を選びます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	COMPONENT 1	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: COMPONENT VIDEO IN端子をBD/DVD入力切換に割り当てます。 「VIDEO 1」、「VIDEO 2」: BD/DVD入力切換に任意のVIDEO IN端子を割り当てます。
GAME	COMPONENT 2	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: COMPONENT VIDEO IN端子をGAME入力切換に割り当てます。 「VIDEO 1」、「VIDEO 2」: GAME入力切換に任意のVIDEO IN端子を割り当てます。
CBL/SAT	VIDEO 1	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: COMPONENT VIDEO IN端子をCBL/SAT入力切換に割り当てます。 「VIDEO 1」、「VIDEO 2」: CBL/SAT入力切換に任意のVIDEO IN端子を割り当てます。
STRM BOX	VIDEO 2	「COMPONENT 1」、「COMPONENT 2」: COMPONENT VIDEO IN端子をSTRM BOX入力切換に割り当てます。 「VIDEO 1」、「VIDEO 2」: STRM BOX入力切換に任意のVIDEO IN端子を割り当てます。

■ デジタル音声入力

各入力切換に割り当てられている、DIGITAL AUDIO IN COAXIAL/OPTICAL端子の割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「---」を選びます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	COAXIAL 1 (同軸入力)	「COAXIAL 1 (同軸入力)」、「COAXIAL 2 (同軸入力)」、「OPTICAL 1 (光入力)」、「OPTICAL 2 (光入力)」、「OPTICAL 3 (光入力)」: BD/DVD入力切換に任意のDIGITAL AUDIO IN端子を割り当てます。
GAME	OPTICAL 1 (光入力)	「COAXIAL 1 (同軸入力)」、「COAXIAL 2 (同軸入力)」、「OPTICAL 1 (光入力)」、「OPTICAL 2 (光入力)」、「OPTICAL 3 (光入力)」: GAME入力切換に任意のDIGITAL AUDIO IN端子を割り当てます。
CBL/SAT	COAXIAL 2 (同軸入力)	「COAXIAL 1 (同軸入力)」、「COAXIAL 2 (同軸入力)」、「OPTICAL 1 (光入力)」、「OPTICAL 2 (光入力)」、「OPTICAL 3 (光入力)」: CBL/SAT入力切換に任意のDIGITAL AUDIO IN端子を割り当てます。
STRM BOX	---	「COAXIAL 1 (同軸入力)」、「COAXIAL 2 (同軸入力)」、「OPTICAL 1 (光入力)」、「OPTICAL 2 (光入力)」、「OPTICAL 3 (光入力)」: STRM BOX入力切換に任意のDIGITAL AUDIO IN端子を割り当てます。
CD	OPTICAL 2 (光入力)	「COAXIAL 1 (同軸入力)」、「COAXIAL 2 (同軸入力)」、「OPTICAL 1 (光入力)」、「OPTICAL 2 (光入力)」、「OPTICAL 3 (光入力)」: CD入力切換に任意のDIGITAL AUDIO IN端子を割り当てます。
TV	OPTICAL 3 (光入力)	「COAXIAL 1 (同軸入力)」、「COAXIAL 2 (同軸入力)」、「OPTICAL 1 (光入力)」、「OPTICAL 2 (光入力)」、「OPTICAL 3 (光入力)」: TV入力切換に任意のDIGITAL AUDIO IN端子を割り当てます。

- デジタル入力から入力されるPCM信号(ステレオ/モノラル)のサンプリングレートは、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz/16 bit、20 bit、24 bitです。

■ アナログ音声入力

各入力切換に割り当てられている、AUDIO IN 端子の割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「---」を選びます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	オーディオ 3	「オーディオ 1」～「オーディオ 6」: BD/DVD 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
GAME	オーディオ 4	「オーディオ 1」～「オーディオ 6」: GAME 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
CBL/SAT	オーディオ 1	「オーディオ 1」～「オーディオ 6」: CBL/SAT 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
STRM BOX	オーディオ 2	「オーディオ 1」～「オーディオ 6」: STRM BOX 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
CD	オーディオ 5	「オーディオ 1」～「オーディオ 6」: CD 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。
TV	オーディオ 6	「オーディオ 1」～「オーディオ 6」: TV 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。

■ 入力スキップ

本機の INPUT SELECTOR ダイヤルやリモコンの INPUT > ボタンを操作したときに、接続に使用していない入力をスキップすることができます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	使用する	BD/DVD 入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
GAME	使用する	GAME 入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
CBL/SAT	使用する	CBL/SAT 入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
STRM BOX	使用する	STRM BOX 入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
HDMI 5	使用する	HDMI 5 入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
HDMI 6	使用する	HDMI 6 入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
AUX	使用する	AUX 入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
CD	使用する	CD 入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
TV	使用する	TV 入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
PHONO	使用する	PHONO 入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。

設定項目	初期値	設定内容
TUNER	使用する	TUNER入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
NET	使用する	NET入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
USB FRONT	使用する	USB FRONT入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
USB REAR	使用する	USB REAR入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。
BLUETOOTH	使用する	BLUETOOTH入力切換をスキップするかどうかを設定します。この入力をスキップする場合は、「スキップ」を選んでください。

■ PERSONAL PRESET 情報

PERSONAL PRESET1～3ボタンで登録した内容を確認することができます。登録されている設定の一覧が表示されます。

設定項目	初期値	設定内容
プリセット	プリセット1	プリセット番号を「プリセット1」、「プリセット2」、「プリセット3」から選びます。

(メイン)

設定項目	初期値	設定内容
入力セレクト	---	設定されている入力切換が表示されます。
ネットワークサービス	---	設定されているネットワークサービスが表示されます。
バンド	---	設定されているバンド「AM」、「FM」が表示されます。
ステーション	---	設定されている放送局の名前が表示されます。
リスニングモード	---	設定されているリスニングモードが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • <input type="checkbox"/> Atmos や <input type="checkbox"/> Atmos 2.0/2.1/2.2 (→p137) などは「Dolby Audio - Surr」と表示される場合があります。
音量	---	設定されている音量が表示されます。(上限は「0.0 dB」)
マルチゾーン	---	設定されている出力先(マルチゾーン)が表示されます。
MCACCメモリー	---	設定されているMCACCメモリーの番号が表示されます。
MCACC EQ	---	設定されているMCACC EQの状態が表示されます。
定在波制御	---	設定されている定在波設定の状態が表示されます。
フェイズコントロール	---	設定されているフェイズコントロールの状態が表示されます。
Auto Phase Control Plus	---	設定されているAuto Phase Control Plusの設定値が表示されます。

設定項目	初期値	設定内容
サウンドディレイ	---	設定されているサウンドディレイの設定値が表示されます。

- 「バンド」は入力切換が「TUNER」の場合にのみ表示されます。
- 「ステーション」は入力切換が「TUNER」、「NET」の場合にのみ表示されます。
- 「ネットワークサービス」は入力切換が「NET」の場合にのみ表示されます。
- 「ステーション」(入力切換が「TUNER」の場合のみ)の名前は「入力ソース」-「名前変更」で付けた名前が表示されます。名前を付けていない場合は、放送局の周波数で表示されます。

(ゾーン2)

設定項目	初期値	設定内容
入力セレクト	---	設定されている入力切換が表示されます。
ネットワークサービス	---	設定されているネットワークサービスが表示されます。
バンド	---	設定されているバンド「AM」、「FM」が表示されます。
ステーション	---	設定されている放送局の名前が表示されます。

- 「バンド」は入力切換が「TUNER」の場合にのみ表示されます。
- 「ステーション」は入力切換が「TUNER」、「NET」の場合にのみ表示されます。
- 「ネットワークサービス」は入力切換が「NET」の場合にのみ表示されます。
- 「ステーション」(入力切換が「TUNER」の場合のみ)の名前は「入力ソース」-「名前変更」で付けた名前が表示されます。名前を付けていない場合は、放送局の周波数で表示されます。

(ゾーン3)

設定項目	初期値	設定内容
入力セレクト	---	設定されている入力切換が表示されます。
ネットワークサービス	---	設定されているネットワークサービスが表示されます。
バンド	---	設定されているバンド「AM」、「FM」が表示されます。
ステーション	---	設定されている放送局の名前が表示されます。

- 「バンド」は入力切換が「TUNER」の場合にのみ表示されます。
- 「ステーション」は入力切換が「TUNER」、「NET」の場合にのみ表示されます。
- 「ネットワークサービス」は入力切換が「NET」の場合にのみ表示されます。
- 「ステーション」(入力切換が「TUNER」の場合のみ)の名前は「入力ソース」-「名前変更」で付けた名前が表示されます。名前を付けていない場合は、放送局の周波数で表示されます。

スピーカー

■ 配置・構成

スピーカーの接続環境についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
スピーカーチャンネル	7.1.2 ch	接続しているスピーカーのチャンネル数に合わせて、「2.1 ch」、「3.1 ch」、「4.1 ch」、「5.1 ch」、「6.1 ch」、「7.1 ch」、「2.1.2 ch」、「3.1.2 ch」、「4.1.2 ch」、「5.1.2 ch」、「6.1.2 ch」、「7.1.2 ch」、「4.1.4 ch」、「5.1.4 ch」、「6.1.4 ch」、「7.1.4 ch」から選択してください。
サブウーファー	2ch	音声信号を出力するPRE OUT SUBWOOFER端子を設定します。 「2ch」：音声信号をPRE OUT SUBWOOFER 1端子、PRE OUT SUBWOOFER 2端子の両方から出力する場合 「1ch」：音声信号をPRE OUT SUBWOOFER 1端子からのみ出力する場合 「無し」：音声信号をPRE OUT SUBWOOFER 1端子、PRE OUT SUBWOOFER 2端子のどちらからも出力しない場合

設定項目	初期値	設定内容
ハイト1スピーカー	トップミドル	<p>HEIGHT 1端子にハイトスピーカーを接続する場合、スピーカーのタイプを設定します。接続するスピーカーのタイプや配置に合わせて「トップミドル」、「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker フロント」、「Dolby Speaker サラウンド」、「Dolby Speaker バック」、「フロント ハイ」、「トップフロント」から選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「パイアンプ」を「フロント」に設定している場合、この設定は選択できません。ハイトスピーカーのタイプは「ハイト2スピーカー」で設定してください。 ハイトスピーカーを2組使用している場合、「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker サラウンド」、「Dolby Speaker バック」は選べません。 「Dolby Speaker サラウンド」および「Dolby Speaker バック」は、それぞれサラウンドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーを使用している場合のみ選択できます。使用しているスピーカーは、「スピーカーチャンネル」で表示される図でご確認いただけます。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

設定項目	初期値	設定内容
ハイト2スピーカー	リアハイ	<p>HEIGHT 2端子にハイトスピーカーを接続する場合、スピーカーのタイプを設定します。接続するスピーカーのタイプや配置に合わせて「フロント ハイ」、「トップフロント」、「トップミドル」、「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker フロント」、「Dolby Speaker サラウンド」、「Dolby Speaker バック」から選択してください。ただし、「ハイト1スピーカー」の設定によって選択できる項目は以下のようになります。</p> <p>「ハイト1スピーカー」を「フロント ハイ」に設定している場合：「トップミドル」、「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker サラウンド」、「Dolby Speaker バック」から選択します。</p> <p>「ハイト1スピーカー」を「トップフロント」または「Dolby Speaker フロント」に設定している場合：「トップリア」、「リアハイ」、「Dolby Speaker サラウンド」、「Dolby Speaker バック」から選択します。</p> <p>「ハイト1スピーカー」を「トップミドル」に設定している場合：「リアハイ」に固定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「Dolby Speaker サラウンド」および「Dolby Speaker バック」は、それぞれサラウンドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーを使用している場合にのみ選択できます。使用しているスピーカーは、「スピーカーチャンネル」で表示される図でご確認いただけます。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

設定項目	初期値	設定内容
ゾーンスピーカー	無し	<p>ゾーン2およびゾーン3のスピーカー端子の接続の有無を設定します。</p> <p>「ゾーン2」：ZONE 2スピーカー端子にスピーカーを接続する場合 「ゾーン2/ゾーン3」：ZONE 2スピーカー端子とZONE3スピーカー端子の両方にスピーカーを接続する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイトスピーカーを使用している場合、「ゾーン2/ゾーン3」は選べません。 <p>「無し」：ゾーン2およびゾーン3のスピーカー端子にスピーカーを接続しない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゾーン2プリアウト」を「ゾーンB」に設定している場合、この設定は選べません。
スピーカー B	無し	<p>スピーカー B システムの使用の有無を設定します。</p> <p>「無し」：スピーカー B システムを使用しない場合 「有り」：スピーカー B システムをバイアンプ接続せずに使用する場合 「バイアンプ」：スピーカー B システムをバイアンプ接続して使用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイトスピーカーを使用している場合、「バイアンプ」は選べません。 ・以下のいずれかの場合、この設定は「無し」になります。 <ul style="list-style-type: none"> - 「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーンスピーカー」を「無し」以外に設定している - ハイトスピーカーを2組使用している
ゾーン2プリアウト	ゾーン2	<p>ZONE 2 PRE/LINE OUT または ZONE B LINE OUT 端子から出力される音声の出力先を設定します。</p> <p>「ゾーン2」：別室(ゾーン2)のプリメインアンプを接続している場合 「ゾーンB」：ゾーンBにプリメインアンプやワイヤレスヘッドホンのトランスミッターなどを接続している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゾーンスピーカー」を「ゾーン2」または「ゾーン2/ゾーン3」に設定している場合、この設定は「ゾーン2」に固定されます。

設定項目	初期値	設定内容
バイアンプ	無し	<p>スピーカーをバイアンプ接続するかどうかを設定します。</p> <p>「無し」：いずれのスピーカーもバイアンプ接続しない場合 「フロント」：フロントスピーカーのみバイアンプ接続する場合 「フロント/センター」：フロントスピーカーとセンタースピーカーをバイアンプ接続する場合。「スピーカーチャンネル」を「3.1 ch」または「5.1 ch」に設定している場合のみ選択できます。 「フロント/サラウンド」：フロントスピーカーとサラウンドスピーカーをバイアンプ接続する場合。「スピーカーチャンネル」を「4.1 ch」または「5.1 ch」に設定している場合にのみ選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゾーン3やスピーカーB使用時、または「スピーカーチャンネル」を「6.1.4ch」または「7.1.4ch」に設定しているときは、この設定は「無し」になります。また、ハイトスピーカーとゾーンスピーカーを同時に使用している場合も、「無し」になります。 ・ゾーンスピーカーを使用している場合は、「無し」と「フロント」以外は選べません。

■ クロスオーバー

クロスオーバー周波数についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
フロント	スモール	<p>使用するスピーカーに応じて設定します。</p> <p>「スモール」：フロアスタンド型のフロントスピーカーを使用しない場合 「ラージ」：フロアスタンド型のフロントスピーカーを使用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「配置・構成」-「サブウーファー」の設定を「無し」にした場合、「フロント」の設定は「ラージ」に固定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。ご使用のスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

設定項目	初期値	設定内容
センター	スモール	使用するスピーカーに応じて設定します。 「スモール」：スピーカーの直径が16cm未満のセンタースピーカーを使用する場合 「ラージ」：スピーカーの直径が16cmより大きいセンタースピーカーを使用する場合 ・「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 ・正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
ハイト 1	スモール	使用するスピーカーに応じて設定します。 「スモール」：スピーカーの直径が16cm未満のハイト1スピーカーを使用する場合 「ラージ」：スピーカーの直径が16cmより大きいハイト1スピーカーを使用する場合 ・「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 ・正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
ハイト 2	スモール	使用するスピーカーに応じて設定します。 「スモール」：スピーカーの直径が16cm未満のハイト2スピーカーを使用する場合 「ラージ」：スピーカーの直径が16cmより大きいハイト2スピーカーを使用する場合 ・「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 ・正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

設定項目	初期値	設定内容
サラウンド	スモール	使用するスピーカーに応じて設定します。 「スモール」：スピーカーの直径が16cm未満のサラウンドスピーカーを使用する場合 「ラージ」：スピーカーの直径が16cmより大きいサラウンドスピーカーを使用する場合 ・「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 ・正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
サラウンドバック	スモール	使用するスピーカーに応じて設定します。 「スモール」：スピーカーの直径が16cm未満のサラウンドバックスピーカーを使用する場合 「ラージ」：スピーカーの直径が16cmより大きいサラウンドバックスピーカーを使用する場合 ・「サラウンド」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 ・正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
クロスオーバー	80Hz	「スモール」に設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域を他のスピーカーで再生するか、またLFE（低域効果音）信号の何Hz以下の低音域を再生するかを設定します。 設定できる各周波数は「50Hz」～「200Hz」です。
ダブルバス	オフ	「配置・構成」-「サブウーファー」の設定が「1ch」または「2ch」で、「フロント」の設定が「ラージ」のときのみ選択できます。 左右フロントスピーカー、センタースピーカーの低音をサブウーファーに送り、低音の出力を強調します。 「オン」：低音の出力を強調する場合 「オフ」：低音の出力を強調しない場合 ・フルオート MCACC を行っても、この機能は自動で設定されません。

・IMAX サウンドモードが適用されている場合、この設定は無効になります。ただし、「IMAX User Setting」（→[p161](#)）の設定が「手動」（初期値は自動）の場合は有効になります。

■ 距離

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することができます。MCACCメモリーに複数の設定を保存している場合は、リモコンの  ボタンを押して、「AV Adjust」-「MCACC」-「MCACCメモリー」で、あらかじめ使用するMCACCメモリーを選んでおいてください。

設定項目	初期値	設定内容
フロント左	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
センター	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
フロント右	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
ハイト1左	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
ハイト1右	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
ハイト2左	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
ハイト2右	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サラウンド右	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
サラウンドバック右	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サラウンドバック左	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サラウンド左	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
サブウーファー1	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。
サブウーファー2	3.00 m	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。

・距離の単位は、リモコンのMODEボタンを押して切り換えることができます。単位をフィートで設定する場合は、0' 0" 1/2 ~ 30' 0" ftの間で1/2 ft単位で設定可能です。単位を

メートルで設定する場合は、0.01 m ~ 9.00 mの間で0.01 m単位で設定可能です。

■ チャンネルレベル

各スピーカーの音量レベルを調整することができます。MCACCメモリーに複数の設定を保存している場合は、リモコンの  ボタンを押して、「AV Adjust」-「MCACC」-「MCACCメモリー」で、あらかじめ使用するMCACCメモリーを選んでおいてください。

設定項目	初期値	設定内容
フロント左	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
センター	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
フロント右	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
ハイト1左	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
ハイト1右	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
ハイト2左	0.0 dB	「- 12.0 dB」~「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。

設定項目	初期値	設定内容
ハイト2右	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サラウンド右	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
サラウンドバック右	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サラウンドバック左	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サラウンド左	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
サブウーファー 1	0.0 dB	「- 15.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
サブウーファー 2	0.0 dB	「- 15.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。

■ Dolby Enabled Speaker

Dolby Enabled スピーカーについての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
ドルビーイネーブルドスピーカーから天井の距離	1.80 m	Dolby Enabled スピーカーから天井までの距離を設定します。「0' 0" 1/2」/「0.01 m」～「15' 0" 4.50 m」から選びます (「0' 0" 1/2」/「0.01 m」単位)。 <ul style="list-style-type: none"> 距離の単位 (ft/m) は、「距離」の設定で使用している単位で表示されます。
Reflex Optimizer	オフ	Dolby Enabled スピーカーの天井からの反射効果を高めることができます。 「オフ」：この機能を使用しない場合 「オン」：この機能を使用する場合 <ul style="list-style-type: none"> リスニングモードが Pure Direct モードのときは、この機能は効果がありません。

- この設定は、「配置・構成」-「ハイト1スピーカー」/「ハイト2スピーカー」を「Dolby Speaker」に設定している場合に選択できます。

■ スピーカーバーチャライザー

スピーカーバーチャライザー機能のオン/オフを切り換えることができます。

設定項目	初期値	設定内容
スピーカーバーチャライザー	オン	「オン」：F.S.Surround などのバーチャルスピーカー効果のあるリスニングモードを選択できます。 「オフ」：F.S.Surround などのバーチャルスピーカー効果のあるリスニングモードを選択できなくなります。

音の設定・調整

■ デュアルモノ/モノ

多重音声の再生についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
デュアルモノ	主	多重音声や多重言語の放送などを再生するときの音声や言語の種類を設定します。 「主」：主音声のみが再生されます。 「副」：副音声のみが再生されます。 「主/副」：主音声と副音声と同時に再生されます。 ・音声多重放送の場合、リモコンの i ボタンを押すと本機の表示部に「1 + 1」と表示されます。
モノラル入力チャンネル	左 + 右	2チャンネルで記録された Dolby Digital などのデジタル信号やアナログ/PCM信号を Mono リスニングモードで再生する場合の入力チャンネルを設定します。 「左」：左チャンネルの音声のみを再生します。 「右」：右チャンネルの音声のみを再生します。 「左 + 右」：左右両チャンネルの音声を再生します。

■ Dolby

Dolby 信号入力時についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
Loudness Management	オン	Dolby TrueHD 再生時に、セリフの音量を一定レベルに揃えるダイアログノーマライゼーション機能を有効にします。なお、Dolby Digital Plus/Dolby TrueHD 再生時にこの設定をオフにすると、小音量でもサラウンドが楽しめる Midnight 機能はオフに固定されます。 「オン」：この機能を使用する場合 「オフ」：この機能を使用しない場合

■ DTS/IMAX

DTS 信号入力時についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
Dialog Control	0 dB	音声の会話部分を 1 dB ステップで 6 dB まで引き上げ、騒音下でも会話部分を聴こえやすくします。 ・DTS:X コンテンツ以外では設定できません。 ・コンテンツによっては選択できない場合があります。
IMAX Mode	自動	IMAX サウンドモードを設定します。 「自動」：IMAX コンテンツを検出した場合に、自動的に IMAX サウンドモードを適用します。 「オン」：IMAX コンテンツを本機が識別できない場合、この設定を「オン」にすることで、IMAX サウンドモードを適用することができます。 「オフ」：無効にする場合
IMAX User Setting	自動	IMAX コンテンツを IMAX サウンドモードで再生する際に、自動的に IMAX が推奨するスピーカー設定を適用するか、手動で設定するかを選びます。 「自動」：IMAX が推奨するスピーカー設定を使用する場合 「手動」：「IMAX Bass Feeding」と「IMAX LFE Mute Level」を手動で設定する場合 ・IMAX Mode が「オフ」の場合、この設定は選択できません。
IMAX Bass Feeding	オン	低音域成分の経路を設定します。 「オン」：各チャンネルの低音域成分を、クロスオーバー設定 (→ p157) に従って出力します。 「オフ」：LFE 信号のみを出力します。 ・「IMAX User Setting」が「自動」の場合、この設定は選択できません。
IMAX LFE Mute Level	0 dB	IMAX 信号を入力している時の LFE の音量レベルを設定することができます。「-∞ dB」、「0 dB」～「-20 dB」から選びます。 ・「IMAX User Setting」が「自動」の場合、この設定は選択できません。

■ LFE Mute Level

Dolby Digital系、DTS系、マルチチャンネルPCM、DSD信号の低域効果 (LFE) レベルが設定できます。

設定項目	初期値	設定内容
LFE Mute Level	0 dB	各信号の低域効果 (LFE) レベルを、「0dB」～「-∞ dB」から選びます。低域効果音が強調されすぎると、LFE Mute Levelが「-20dB」または「-∞ dB」を選んでください。 <ul style="list-style-type: none"> IMAX サウンドモードが適用されている場合、この機能は無効になります。

■ ボリューム

ボリュームについての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
ミュートレベル	-∞ dB	消音時の音量を、聴いている音よりどれだけ下げるか設定しておくことができます。「-∞ dB」、「-40 dB」、「-20 dB」から設定できます。
音量制限	オフ	音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ」、「-32 dB」～「+17 dB」から選びます。
電源オン時音量	最終値	電源を入れたときの音量を設定します。「最終値」(スタンバイ状態前の音量)、「-∞ dB」、「-81.5 dB」～「+18.0 dB」から選びます。 <ul style="list-style-type: none"> この設定値は、「音量制限」の設定の値より高く設定できません。
ヘッドホン音量レベル	0.0 dB	ヘッドホンの出力レベルを調整します。「-12.0 dB」～「+12.0 dB」から選びます。

入力ソース

■ インプットボリュームアブソーバ

本機に接続された複数の機器で音量差がある場合の調整をすることができます。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。

設定項目	初期値	設定内容
インプットボリュームアブソーバ	0.0 dB	「-12.0 dB」～「+12.0 dB」から選びます。他の機器と比べて音量が大きい場合は-の値を、小さい場合は+の値で調整します。音声を確認する場合は接続機器を再生してください。 <ul style="list-style-type: none"> この機能は、ゾーン2/ゾーン3では機能しません。

■ 名前変更

各入力切換にわかりやすい名前を設定することができます。入力した名前が本体表示部に表示されます。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。

設定項目	初期値	設定内容
名前変更	入力切換名	<ol style="list-style-type: none"> カーソルで文字・記号を選び、ENTER ボタンを押します。 この操作をくり返して最大10文字まで入力します。「A/a」：大文字/小文字が切り換わります。(リモコンのMODE ボタンを押しても大文字/小文字が切り換わります) 「←」「→」：矢印の方向にカーソルが移動します。 「☒」：カーソルの左側の文字を1文字消去します。 「⏏」：1文字分スペースが入ります。 <ul style="list-style-type: none"> リモコンのCLEAR ボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTER ボタンを押します。 入力した名前が保存されます。 初期値に戻すには、入力画面でリモコンのCLEAR ボタンを押し、何も入力されていない状態で「OK」を選び、ENTER ボタンを押します。

- プリセットされた放送局に名前をつける場合は、リモコンのTUNER ボタンを押してAM/FM を選び、プリセット番号を選びます。
- 「NET」、「USB」、「BLUETOOTH」の入力切換を選択時は、設定できません。

■ 音声信号選択

HDMI IN 端子の「BD/DVD」と AUDIO IN 端子の「BD/DVD」に接続しているなど、1つの入力切換に複数の音声接続をしている場合に、優先する入力端子を選択します。入力切換ごとに設定します。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。なお、初期値が変更できないものもあります。

設定項目	初期値	設定内容
音声信号選択	BD/DVD : HDMI GAME : HDMI CBL/SAT : HDMI STRM BOX : HDMI AUX : HDMI CD : OPTICAL (光入力) TV : OPTICAL (光入力)	<p>「ARC」: ARC 対応テレビからの入力信号を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、「ハードウェア」-「HDMI」-「オーディオリターンチャンネル (eARC対応)」の設定を「オン」にして、かつ「TV」の入力切換を選択時のみ選ぶことができます。 <p>「HDMI」: HDMI IN 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「入力/出力端子の割り当て」-「HDMI 入力」の設定で HDMI 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 <p>「COAXIAL (同軸入力)」: DIGITAL AUDIO IN COAXIAL 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「入力/出力端子の割り当て」-「デジタル音声入力」の設定で COAXIAL 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 <p>「OPTICAL (光入力)」: DIGITAL AUDIO IN OPTICAL 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「入力/出力端子の割り当て」-「デジタル音声入力」の設定で OPTICAL 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 <p>「アナログ」: AUDIO IN 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「入力/出力端子の割り当て」-「アナログ音声入力」の設定で AUDIO IN 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。

設定項目	初期値	設定内容
PCM 固定	オフ	<p>「音声信号選択」の設定で「HDMI」、「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」を選んだ場合の入力信号を PCM (マルチチャンネル PCM は除く) に固定するかどうかを選択します。PCM 信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが発生する場合は「オン」に設定してください。通常は「オフ」にしておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「音声信号選択」の設定を変更するたびにこの設定は「オフ」に戻ります。

- 「TUNER」、「NET」、「USB」、「BLUETOOTH」の入力切換を選択時は、この設定を変更できません。

ハードウェア

■ HDMI

HDMI機能についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
HDMI CEC	オフ	<p>この設定を「オン」にすると、HDMI接続したCEC対応機器と入力切替連動などの連動機能が働きます。</p> <p>「オン」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合</p> <p>この設定を変更した場合、すべての接続機器の電源を切って電源を入れ直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ご使用のテレビによっては、テレビ側でリンク設定などが必要です。 この設定は、HDMI OUT MAIN 端子に接続した場合にのみ有効です。 この設定を「オン」にして、操作画面を閉じると、本体表示部に接続されているCEC対応機器名称と「CEC On」が表示されます。 この機能を「オン」に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。 この設定が「オン」で、ご利用のテレビのスピーカーから音声を出力しているときに、本機のMASTER VOLUMEダイヤルを操作すると、本機に接続したスピーカーからも音声が出力されます。どちらか一方の音声のみ出力したい場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。 この設定を「オン」にして、異常な動作をする場合は「オフ」にしてください。 接続した機器がCECに対応していない場合や、対応しているかわからない場合は、「オフ」にしてください。

設定項目	初期値	設定内容
HDMI スタンバイスルー	オフ	<p>「オフ」以外に設定すると、本機がスタンバイ状態でも、HDMI接続している再生機器の映像と音声をテレビで再生することができます。なお、「HDMI CEC」が「オン」に設定されている場合は、「自動」および「自動(エコ)」のみ選択できます。その他を選択する場合は、「HDMI CEC」を「オフ」に設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> この機能を「オフ」以外に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。 <p>「BD/DVD」、「GAME」、「CBL/SAT」、「STRM BOX」、「HDMI 5」、「HDMI 6」、「AUX」: たとえば「BD/DVD」を選んでいると、本機がスタンバイ状態でも、「BD/DVD」端子に接続した再生機器をテレビで再生することができます。この機能を使用したい再生機器が決まっている場合に、この設定値を選択します。</p> <p>「最終値」: スタンバイにする直前に選んでいた入力切替の映像と音声をテレビで再生することができます。</p> <p>「自動」、「自動(エコ)」: 接続した再生機器がCEC規格に準拠している場合は、この設定を選びます。スタンバイにする直前に選んでいた入力切替が何であっても、CEC連動機能により、再生機器の映像と音声をテレビで再生することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> CEC規格に準拠していない再生機器をテレビで再生する場合は、本機の電源をオンにして入力を切り換える必要があります。 CEC規格に準拠したテレビをお使いの場合は、「自動(エコ)」を選ぶとスタンバイ状態での消費電力を低減できます。

設定項目	初期値	設定内容
テレビオーディオ出力	オフ	<p>本機の電源が入った状態で、テレビのスピーカーから音声を聴くことができます。</p> <p>「オン」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「HDMI出力」、または「AV Adjust」の「HDMI」-「HDMI出力」の設定を「MAIN」または「MAIN+SUB」にし、「HDMI CEC」の設定を「オン」にした場合、この設定は「自動」に固定されます。この設定を変更する場合は、「HDMI CEC」の設定を「オフ」にしてください。 「テレビオーディオ出力」が「オン」に設定されている場合、テレビから音声が出ているときはリスニングモードを変更できません。 お使いのテレビや接続機器の入力信号によっては、この設定が「オン」でもテレビから音声がでないことがあります。その場合は、本機のスピーカーから音声がでます。 本機に入力された音声をご利用のテレビのスピーカーから出力しているときに、本機のMASTER VOLUMEダイヤルを操作すると、本機から音声がでます。音声を出したくない場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。
オーディオリターンチャンネル (eARC対応)	オフ	<p>HDMI接続したARC機能またはeARC機能対応テレビの音声を、本機と接続したスピーカーで聴くことができます。</p> <p>「オン」: テレビの音声を本機のスピーカーで聴く場合 「オフ」: ARC機能/eARC機能を使用しない場合</p>
PQLS	オフ	<p>HDMI接続したPQLS (Precision Quartz Lock System) 機能対応のAV機器の音声を高音質に再生します。</p> <p>「オン」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合</p>

設定項目	初期値	設定内容
オートディレイ	オン	<p>HDMIリップシンク対応テレビからの情報に応じて映像と音声のズレを自動補正します。</p> <p>「オン」: 自動補正機能を有効にする場合 「オフ」: 自動補正機能を使用しない場合</p>

■ 電源管理

省電力機能についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
スリープタイマー	オフ	<p>指定した時間が経過したら、本機を自動的にスタンバイ状態にすることができます。「30分」、「60分」、「90分」から選びます。</p> <p>「オフ」: 自動的にスタンバイ状態にしない場合</p>
自動スタンバイ	オフ	<p>映像または音声入力がない状態で本機を20分間操作しなかった場合、自動的にスタンバイ状態に移行させることができます。(「スタンバイ時のUSB電源供給」または「ネットワークスタンバイ」が有効になっているときは、消費電力の増加を最小限に抑制するHYBRID STANDBYモードに移行します。)</p> <p>「オン」: 自動的にスタンバイ状態に移行させる場合 (「AUTO STBY」表示が点灯します。) 「オフ」: スタンバイ状態への移行をさせない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> スタンバイ状態に移行する30秒前に本体表示部とテレビ画面に「自動スタンバイ」と表示されません。 ゾーン2/ゾーン3に出力している場合、「自動スタンバイ」は動作しません。
HDMIスタンバイスルー時の自動スタンバイ	オフ	<p>「HDMIスタンバイスルー」動作中に「自動スタンバイ」設定を有効または無効にします。</p> <p>「オン」: 有効にする場合 「オフ」: 無効にする場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自動スタンバイ」および「HDMIスタンバイスルー」の設定が「オフ」の場合、この設定は「オン」にできません。

設定項目	初期値	設定内容
スタンバイ時のUSB電源供給	オフ	この機能を「オン」に設定すると、本機がスタンバイ状態でも、フロントパネルおよびリアパネルのUSB端子に接続された機器に給電することができます。 <ul style="list-style-type: none"> この機能を「オン」に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。
ネットワークスタンバイ	オン	この機能を「オン」に設定すると、スタンバイ状態でもネットワーク機能が働き、Pioneer Remote Appなど本機をコントロールできるアプリケーションを使用して、ネットワーク経由で本機の電源をオンにすることができます。 <ul style="list-style-type: none"> この機能を「オン」に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。なお、この機能を「オフ」に設定した場合でも、HDMI CEC (→p164)、HDMIスタンバイスルー (→p164)、スタンバイ時のUSB電源供給 (→p166)、Bluetoothによる起動 (→p166) のいずれかの機能を有効に設定しているときは、設定に関わらず「オン」の状態になります。 ネットワークへの接続が切断されると、消費電力の抑制のため「ネットワークスタンバイ」が無効になる場合があります。この場合は、リモコンや本体の電源ボタンで電源をオンにしてください。

設定項目	初期値	設定内容
Bluetoothによる起動	オフ	本機がスタンバイ時に、BLUETOOTH対応機器と接続することにより、本機を起動させる機能です。 「オン」：この機能を使用する場合 「オフ」：この機能を使用しない場合 <ul style="list-style-type: none"> この機能を「オン」に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動するHYBRID STANDBYモードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。 「ネットワーク/Bluetooth」-「Bluetooth」-「自動入力切り換え」を「オフ」に設定している場合、この設定は「オフ」に固定されます。

- 「ネットワークスタンバイ」、「Bluetoothによる起動」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

■ 12Vトリガー A

12V TRIGGER OUT A端子から制御信号(最大12V/100mA)を出力する場合に設定します。入力切換ごとに設定することができます。12Vトリガー入力端子を装備する外部機器との接続で、本機とそれらの機器の電源連動を制御することができます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「BD/DVD」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「BD/DVD」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「BD/DVD」を選んだときに出力します。

設定項目	初期値	設定内容
GAME	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切替ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切替に「GAME」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切替に「GAME」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切替に「GAME」を選んだときに出力します。
CBL/SAT	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切替ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切替に「CBL/SAT」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切替に「CBL/SAT」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切替に「CBL/SAT」を選んだときに出力します。
STRM BOX	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切替ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切替に「STRM BOX」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切替に「STRM BOX」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切替に「STRM BOX」を選んだときに出力します。
HDMI 5	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切替ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切替に「HDMI 5」を選んだときに出力します。
HDMI 6	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切替ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切替に「HDMI 6」を選んだときに出力します。

設定項目	初期値	設定内容
AUX	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切替ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切替に「AUX」を選んだときに出力します。
CD	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切替ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切替に「CD」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切替に「CD」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切替に「CD」を選んだときに出力します。
TV	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切替ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切替に「TV」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切替に「TV」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切替に「TV」を選んだときに出力します。
PHONO	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切替ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切替に「PHONO」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切替に「PHONO」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切替に「PHONO」を選んだときに出力します。

設定項目	初期値	設定内容
TUNER	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「TUNER」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「TUNER」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「TUNER」を選んだときに出力します。
NET	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「NET」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「NET」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「NET」を選んだときに出力します。
USB FRONT	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「USB FRONT」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「USB FRONT」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「USB FRONT」を選んだときに出力します。
USB REAR	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「USB REAR」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「USB REAR」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「USB REAR」を選んだときに出力します。

設定項目	初期値	設定内容
BLUETOOTH	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「BLUETOOTH」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「BLUETOOTH」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「BLUETOOTH」を選んだときに出力します。

■ 12Vトリガー B

12V TRIGGER OUT B 端子から制御信号 (最大 12V/25mA) を出力する場合に設定します。入力切換ごとに設定することができます。12Vトリガー入力端子を装備する外部機器との接続で、本機とそれらの機器の電源連動を制御することができます。

設定項目	初期値	設定内容
BD/DVD	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「BD/DVD」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「BD/DVD」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「BD/DVD」を選んだときに出力します。
GAME	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「GAME」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「GAME」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「GAME」を選んだときに出力します。
CBL/SAT	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「CBL/SAT」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「CBL/SAT」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「CBL/SAT」を選んだときに出力します。

設定項目	初期値	設定内容
STRM BOX	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「STRM BOX」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「STRM BOX」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「STRM BOX」を選んだときに出力します。
HDMI 5	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「HDMI 5」を選んだときに出力します。
HDMI 6	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「HDMI 6」を選んだときに出力します。
AUX	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「AUX」を選んだときに出力します。
CD	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「CD」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「CD」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「CD」を選んだときに出力します。

設定項目	初期値	設定内容
TV	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「TV」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「TV」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「TV」を選んだときに出力します。
PHONO	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「PHONO」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「PHONO」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「PHONO」を選んだときに出力します。
TUNER	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「TUNER」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「TUNER」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「TUNER」を選んだときに出力します。
NET	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「NET」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「NET」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「NET」を選んだときに出力します。

設定項目	初期値	設定内容
USB FRONT	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「USB FRONT」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「USB FRONT」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「USB FRONT」を選んだときに出力します。
USB REAR	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「USB REAR」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「USB REAR」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「USB REAR」を選んだときに出力します。
BLUETOOTH	オフ	12Vトリガー出力設定を、入力切換ごとに設定することができます。 「オフ」：出力をしない場合 「メイン」：メインルームの入力切換に「BLUETOOTH」を選んだときに出力します。 「ゾーン2」：ゾーン2の入力切換に「BLUETOOTH」を選んだときに出力します。 「ゾーン3」：ゾーン3の入力切換に「BLUETOOTH」を選んだときに出力します。

■ Works with SONOS

Sonos Connectと接続する場合の設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
入力セレクト	オフ	本機と Sonos Connect を接続した入力端子を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 「オフ」を選択すると、Sonos との連動機能が無効になります。
接続機器	-	本機と同じネットワークに接続されている Sonos Connect の名前を表示します。ENTER ボタンを押すと、接続している Sonos Connect を選択することができます。 <ul style="list-style-type: none"> Sonos Connect 以外の製品 (Play:3 などの出力端子を持たない製品) も機器一覧に表示され、選択することができてしまいます。その場合、Sonos 側の再生が開始されると入力切り換わりますが、音声は出力されません。接続されている Sonos Connect のルーム名を選択してください。 Sonos 製品一覧画面に表示できるのは 32 台までになります。連動したい Sonos Connect が見つからない場合は、前の画面に戻り連動しない製品の電源を切ってから、再度お試しください。 この機能を使用するには、あらかじめ「入力セレクト」を設定しておいてください。

設定項目	初期値	設定内容
出力ゾーン	メイン	音楽を聴きたいゾーンを選びます。 「メイン」：メインルーム (本機のある部屋) にのみ音声を出力します。 「ゾーン2」：別室 (ゾーン2) にのみ音声を出力します。 「メイン/ゾーン2」：メインルームと別室の両方に音声を出力します。 「ゾーン3」：別室 (ゾーン3) にのみ音声を出力します。 「メイン/ゾーン3」：メインルームと別室 (ゾーン3) の両方に音声を出力します。 「ゾーン2/ゾーン3」：別室 (ゾーン2とゾーン3) の両方に音声を出力します。 「メイン/ゾーン2/ゾーン3」：メインルームと別室 (ゾーン2とゾーン3) に音声を出力します。 <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用するには、あらかじめ「入力セレクト」を設定しておいてください。
音量プリセット	メイン：最終値 ゾーン2：最終値 ゾーン3：最終値	Sonos Connect を再生するときのボリュームをあらかじめ設定しておくことができます。メインルーム (本機のある部屋) と別室 (ゾーン2またはゾーン3) で異なるボリュームを設定することができます。「最終値」(スタンバイ状態前の音量)、「-∞ dB」、「-81.5 dB」～「+18.0 dB」から選びます。 <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用するには、あらかじめ「入力セレクト」を設定しておいてください。

マルチゾーン

■ ゾーン2

ゾーン2についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
アウトプットレベル	固定	ゾーン2に出力しているときに、音量を別室のプリメインアンプで調整するか、本機で調整するかを設定します。 「固定」：別室のプリメインアンプで調整する場合 「可変」：本機で調整する場合
音量制限	オフ	ゾーン2で音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ」、「-32 dB」～「+17 dB」から選びます。
電源オン時音量	最終値	本機の電源を入れたときのゾーン2の音量を設定します。「最終値」(本機の電源を切ったときの音量)、「-∞ dB」、「-81.5 dB」～「+18.0 dB」から選びます。 • この設定値は、「音量制限」の設定の値より高く設定できません。
低域	0 dB	ゾーン2の低音域の音量を調整します。「-10 dB」～「+10 dB」から選びます。
高域	0 dB	ゾーン2の高音域の音量を調整します。「-10 dB」～「+10 dB」から選びます。
バランス入力	0	ゾーン2の左右の音量バランスを設定します。「L +10」～「R +10」から選びます。

■ ゾーン3

ゾーン3についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
アウトプットレベル	固定	ゾーン3に出力しているときに、音量を別室のプリメインアンプで調整するか、本機で調整するかを設定します。 「固定」：別室のプリメインアンプで調整する場合 「可変」：本機で調整する場合
音量制限	オフ	ゾーン3で音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ」、「-32 dB」～「+17 dB」から選びます。
電源オン時音量	最終値	本機の電源を入れたときのゾーン3の音量を設定します。「最終値」(本機の電源を切ったときの音量)、「-∞ dB」、「-81.5 dB」～「+18.0 dB」から選びます。 • この設定値は、「音量制限」の設定の値より高く設定できません。
低域	0 dB	ゾーン3の低音域の音量を調整します。「-10 dB」～「+10 dB」から選びます。
高域	0 dB	ゾーン3の高音域の音量を調整します。「-10 dB」～「+10 dB」から選びます。
バランス入力	0	ゾーン3の左右の音量バランスを設定します。「L +10」～「R +10」から選びます。

■ Remote Play Zone

リモート再生についての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
Remote Play Zone	自動	<p>AirPlayやSpotify Connectでの再生やMusic Server機能でPCからリモート再生する際に、音楽をメインルーム(本機のある部屋)で再生するか別室(ゾーン2またはゾーン3)で再生するかを設定することができます。</p> <p>「自動」:メインルームがNET入力切換の場合はメインルームで、別室がNET入力切換の場合はメインルームがNET以外の入力切換の場合は別室で再生します。</p> <p>「メイン」、「ゾーン2」、「ゾーン3」:別室でのみ再生する場合は「ゾーン2」や「ゾーン3」に設定するなど、特定の部屋での再生に固定する場合に選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同じネットワーク機能ですでに再生中の場合は、この機能は働かない場合があります。

その他

■ チューナー

チューナーの設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
AMノイズカットモード	1	AM放送が聴き取りづらい場合に、このモードを変更すると、受信感度が良くなる場合があります。「1」または「2」から選びます。

■ リモコンID

リモコンのIDを変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
リモコンID	1	<p>Pioneer製品が同じ部屋に複数ある場合、他の製品との混線を防ぐために、本機で使うリモコンのIDを「1」、「2」、「3」から選び、設定します。IDを変更した場合、以下の操作でリモコン本体も本体側と同じIDに設定してください。</p> <p>MODEボタンを押しながら、以下のボタンを約3秒間押します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リモコンのIDを「1」にする場合: AUTO/DIRECT • リモコンのIDを「2」にする場合: SURROUND • リモコンのIDを「3」にする場合: STEREO

■ プリアンプモード

本機のPRE OUT端子に接続したパワーアンプを経由してスピーカーを接続している場合に、本機の使用しないSPEAKERS端子の電源をオフにして消費電力を抑えることができます。

設定項目	初期値	設定内容
プリアンプモード	無し	電源をオフにする SPEAKERS 端子を選択します。 「無し」：すべての SPEAKERS 端子に電源を供給します。 パワーアンプを接続していない場合に選択します。 「フロント」：フロントスピーカーの SPEAKERS 端子の電源をオフにします。 「フロント + センター」：フロントスピーカーとセンタースピーカーの SPEAKERS 端子の電源をオフにします。 「すべて」：すべての SPEAKERS 端子の電源をオフにします。本機をプリアンプとして使用する場合に選択します。 • スピーカーとバイアンプ接続している場合、この設定は選べません。

■ ファームウェアアップデート

ファームウェアアップデートについての設定を変更することができます。

設定項目	初期値	設定内容
アップデート通知	有効	更新可能なファームウェアが存在する場合、ネットワーク経由で更新を通知します。 「有効」：通知する場合 「無効」：通知しない場合
バージョン	-	現在のファームウェアのバージョンを表示します。
ネットワーク経由のアップデート	-	ネットワーク経由でファームウェアを更新するときに ENTER ボタンを押して選択します。 • インターネットに接続していない場合や、更新可能なファームウェアが存在しない場合は、この設定は選択できません。
USB 経由のアップデート	-	USB 経由でファームウェアを更新するときに ENTER ボタンを押して選択します。 • USB ストレージを接続していない場合や、USB ストレージに更新可能なファームウェアが存在しない場合は、この設定は選択できません。

- 「ファームウェアアップデート」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

■ 初期設定

初期設定をセットアップメニューから行うことができます。

- 「初期設定」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

■ ロック

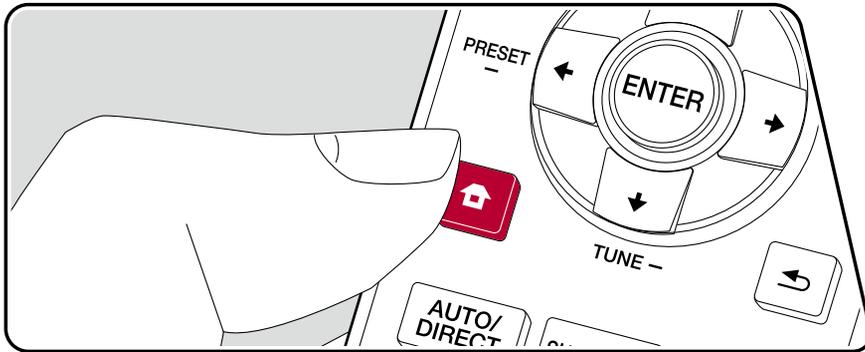
セットアップメニューの設定を変更できないようにすることができます。

設定項目	初期値	設定内容
セットアップ項目	解除	セットアップメニューをロックして、設定を変更できないようにします。 「ロック」：ロックを設定 「解除」：ロックを解除

■ ファクトリーリセット

すべての設定をお買い上げ時の状態に戻します。

設定項目	初期値	設定内容
ファクトリーリセット	-	すべての設定をお買い上げ時の状態に戻します。 「Start」を選び、ENTER ボタンを押します。 • 「ファクトリーリセット」を行うと、お客様の設定内容が初期値に戻りますので、実行前に、設定内容をメモなどに記録してください。

MCACC Pro**メニュー操作**

スピーカーの自動設定やお好みのイコライザー設定を行います。また現在設定されている各スピーカーの設定値などの内容が確認できます。

テレビに操作画面を表示するOSD (On-Screen Display) 機能を使用して、設定を行います。

リモコンの🏠ボタンを押してホーム画面を表示させ、リモコンのカーソルでMCACC Proを選びENTERボタンを押します。



リモコンのカーソル▲/▼/◀/▶で内容を選び、ENTERボタンで決定します。初期値を変更するには、カーソル◀/▶で操作します。

- ひとつ前の画面に戻るには◀ボタンを押します。
- 設定を終了するときは、🏠ボタンを押します。

フルオート MCACC

付属の測定用マイクを視聴位置に設置して、各スピーカーから出力されるテストトーンを測定し、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数、視聴位置からの距離を自動で設定します。また、視聴環境に応じて定在波の影響を軽減したり、残響特性を測定して補正精度を高めたり、スピーカーのイコライザー調整やスピーカーおよびスピーカーユニット間の位相とタイミングのズレを補正します。これらの設定や補正内容は、マニュアルMCACCで再調整したり、AV Adjustで有効/無効に切り換えることができます。

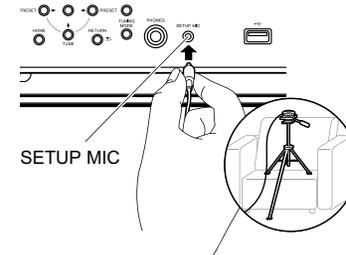
- 測定は完了するまでに3～12分ほどかかります。測定中は各スピーカーより大音量のテスト音が出力されますので、周囲への影響に十分ご注意ください。また、測定中はできるだけ部屋を静かにしてください。
- サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源や音量を確認してください。サブウーファーの音量は半分以上に設定してください。
- 本機の電源が突然切れるときは、スピーカーケーブルの芯線がリアパネルや他の芯線と接触して、保護回路が働いています。芯線をしっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。

1. 接続しているスピーカー構成を選びます。



「スピーカーチャンネル」では、チャンネル数を選ぶごとに画面の図が切り換わりますので参考にしてください。

2. 付属の測定用マイクを視聴位置に設置し、本体のSETUP MIC端子に接続します。



測定用マイクの設置で三脚などをご使用の場合は、イラストを参考に設置してください。

3. サブウーファーからテストトーンが出力されていることを確認し、ENTERを押します。
4. ENTERを押すと、各スピーカーからテストトーンが出力され、まずは、接続したスピーカーと周囲のノイズが自動で測定されます。
5. 4の測定結果が表示されます。スピーカーの検出結果に問題が無い場合は、「次へ」を選びENTERを押すと、再度テストトーンが出力され、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数などの設定が自動で行われます。(操作をせずに10秒経つと自動でテストトーンが出力されます。)
 - エラーメッセージが表示された場合や、接続したスピーカーが検出されない場合は、「再試行」を選びENTERを押して、再測定を行ってください。
 - 再測定を行っても解決できない場合は、スピーカーの接続が正しく行われているかご確認ください。スピーカー接続に問題があった場合は、電源コードを抜いてから接続を行ってください。
6. 測定が完了したら、さらに最大8つの視聴位置での測定が可能です。測定を行う場合は、「次へ」を選びENTERを押して、画面の指示に従ってください。測定を行わない場合は「終了」を選びENTERを押してください。
 - 各視聴位置での測定後に「終了」を選びENTERを押すと、測定は完了します。
7. 測定用マイクを取り外します。

マニュアルMCACC

フルオートMCACCを実行すると、自動でさまざまなスピーカー設定を行います。が、マニュアルMCACCではさらに手動で調整したり、より詳細な設定を行うことができます。

- それぞれの調整を行う前に、フルオートMCACCを行っておいてください。
- 設定によっては、各スピーカーより大音量のテスト音が出力されますので、周囲への影響に十分ご注意ください。
- MCACCメモリーに複数の設定を保存している場合は、リモコンの  ボタンを押して、「AV Adjust」-「MCACC」-「MCACCメモリー」で、あらかじめ使用するMCACCメモリーを選んでおいてください。

■ チャンネルレベル調整

テストトーンを聴きながら、各スピーカーの音量レベルを調整します。まず、フロント左スピーカーをお好みの音量レベルに調整したあと、フロント右スピーカーから順に同じ音の大きさになるように音量レベルを調整します。選択中のスピーカーと基準となるスピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。

設定項目	初期値	設定内容
フロント左	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、お好みの音量レベルを選択してください。
フロント右	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このスピーカーと、基準となるフロント左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。
センター	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このスピーカーと、基準となるフロント左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。

設定項目	初期値	設定内容
ハイト 1 左	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このスピーカーと、基準となるフロント左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。 • ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
ハイト 1 右	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このスピーカーと、基準となるハイト 1 左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。 • ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
ハイト 2 左	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このスピーカーと、基準となるフロント左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。 • ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
ハイト 2 右	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このスピーカーと、基準となるハイト 2 左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。 • ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サラウンド左	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このスピーカーと、基準となるフロント左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。

設定項目	初期値	設定内容
サラウンド右	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このスピーカーと、基準となるサラウンド左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。
サラウンドバック左	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このスピーカーと、基準となるサラウンド左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サラウンドバック右	0.0 dB	「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このスピーカーと、基準となるサラウンドバック左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サブウーファー 1	0.0 dB	「- 15.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このサブウーファーと、基準となるフロント左スピーカーから交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。
サブウーファー 2	0.0 dB	「- 15.0 dB」～「+ 12.0 dB」から選びます (0.5 dB 間隔)。このサブウーファーと、基準となるサブウーファー 1 から交互にテストトーンが出力されますので、同じ音の大きさになるように音量レベルを調整してください。

■ スピーカー距離調整

テストパルスを聴きながら、視聴位置から各スピーカーまでの距離を微調整します。まず、フロント左スピーカーから視聴位置までの実測距離を設定したあと、フロント右スピーカーから順に距離を調整します。選択中のスピーカーと基準となるスピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整してください。

設定項目	初期値	設定内容
フロント左	3.00 m	フロント左スピーカーから視聴位置までの実測距離を設定します。
フロント右	3.00 m	このスピーカーと、基準となるフロント左スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。
センター	3.00 m	このスピーカーと、基準となるフロント左スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。
ハイト 1 左	3.00 m	このスピーカーと、基準となるフロント左スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
ハイト 1 右	3.00 m	このスピーカーと、基準となるハイト 1 左スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
ハイト 2 左	3.00 m	このスピーカーと、基準となるフロント左スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。

設定項目	初期値	設定内容
ハイト 2 右	3.00 m	このスピーカーと、基準となるフロント右スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サラウンド左	3.00 m	このスピーカーと、基準となるフロント左スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。
サラウンド右	3.00 m	このスピーカーと、基準となるフロント右スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。
サラウンドバック左	3.00 m	このスピーカーと、基準となるサラウンド左スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サラウンドバック右	3.00 m	このスピーカーと、基準となるサラウンド右スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。 ・ゾンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。
サブウーファー 1	3.00 m	このサブウーファーと、基準となるフロント左スピーカーからテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。
サブウーファー 2	3.00 m	このサブウーファーと、基準となるサブウーファー 1 からテストパルスが出力されますので、テストパルスの聴こえるポイントが2つのスピーカーの中央に定位するように距離を調整します。

・距離の単位は、リモコンのMODEボタンを押して切り換えることができます。単位をフィートで設定する場合は、0' 0" 1/2 ~ 30' 0"の間で1/2間隔で設定可能です。単位をメートルで設定する場合は、0.01 m ~ 9.00 mの間で0.01 m間隔で設定可能です。

■ 定在波制御

音波が壁などで反射して元の音波と干渉することで発生する定在波の影響を制御できます。

設定項目	初期値	設定内容
メイン	0.0dB	センタースピーカーとサブウーファー以外のスピーカーの定在波の影響を制御します。 1. カーソルの▲/▼で「フィルター」を選んだあと、◀/▶で調整するフィルターを「1」～「3」から選び、ENTERボタンを押します。 2. カーソルの◀/▶で中心周波数を選んだあと、◀◀/▶▶で帯域幅を調整し、▲/▼で減衰量を調整します。中心周波数は「63Hz」～「250Hz」、帯域幅は「2.0」～「9.8」(0.2間隔)、減衰量は「0.0dB」～「12.0dB」(0.5dB間隔)から選択できます。
センター	0.0dB	センタースピーカーのスピーカーの定在波の影響を制御します。 1. カーソルの▲/▼で「フィルター」を選んだあと、◀/▶で調整するフィルターを「1」～「3」から選び、ENTERボタンを押します。 2. カーソルの◀/▶で中心周波数を選んだあと、◀◀/▶▶で帯域幅を調整し、▲/▼で減衰量を調整します。中心周波数は「63Hz」～「250Hz」、帯域幅は「2.0」～「9.8」(0.2間隔)、減衰量は「0.0dB」～「12.0dB」(0.5dB間隔)から選択できます。
サブウーファー	0.0dB	サブウーファースの定在波の影響を制御します。 1. カーソルの▲/▼で「フィルター」を選んだあと、◀/▶で調整するフィルターを「1」～「3」から選び、ENTERボタンを押します。 2. カーソルの◀/▶で中心周波数を選んだあと、◀◀/▶▶で帯域幅を調整し、▲/▼で減衰量を調整します。中心周波数は「63Hz」～「250Hz」、帯域幅は「2.0」～「9.8」(0.2間隔)、減衰量は「0.0dB」～「12.0dB」(0.5dB間隔)から選択できます。

■ EQの調整

フルオート MCACC を行った場合は自動で設定されていますが、お好みで接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整することができます。それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。各スピーカーで選択できる周波数の数は、サブウーファーは4バンドまで、それ以外のスピーカーは9バンドまでです。各周波数の音量を調整することで全体的な音量バランスが変わってしまった場合は、「Trim」でバランスを再調整することもできます。

設定項目	初期値	設定内容
フロント左	0.0 dB	カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。 <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。
センター	0.0 dB	カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。 <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

設定項目	初期値	設定内容
フロント右	0.0 dB	カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。 <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。
ハイト1左	0.0 dB	カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。 <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。 ゾーンスピーカーの使用状況によっては、この設定は選択できません。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

設定項目	初期値	設定内容
ハイト 1 右	0.0 dB	<p>カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカ-の周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB 間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカ-の設定を「ラージ」にしている場合にのみ選択できます。 ゾンスピーカ-の使用状況によっては、この設定は選択できません。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
ハイト 2 左	0.0 dB	<p>カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカ-の周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB 間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカ-の設定を「ラージ」にしている場合にのみ選択できます。 ゾンスピーカ-の使用状況によっては、この設定は選択できません。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

設定項目	初期値	設定内容
ハイト 2 右	0.0 dB	<p>カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカ-の周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB 間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカ-の設定を「ラージ」にしている場合にのみ選択できます。 ゾンスピーカ-の使用状況によっては、この設定は選択できません。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
サラウンド右	0.0 dB	<p>カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカ-の周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB 間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカ-の設定を「ラージ」にしている場合にのみ選択できます。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

設定項目	初期値	設定内容
サラウンドバック右	0.0 dB	<p>カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカ-の周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカ-の設定を「ラージ」にしている場合にのみ選択できます。 ゾンスピーカ-の使用状況によっては、この設定は選択できません。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
サラウンドバック左	0.0 dB	<p>カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカ-の周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカ-の設定を「ラージ」にしている場合にのみ選択できます。 ゾンスピーカ-の使用状況によっては、この設定は選択できません。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

設定項目	初期値	設定内容
サラウンド左	0.0 dB	<p>カーソルの◀/▶で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカ-の周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」でこのスピーカ-の設定を「ラージ」にしている場合にのみ選択できます。 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
サブウーファー1	0.0 dB	<p>カーソルの◀/▶で「31 Hz」～「250 Hz」からスピーカ-の周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」(0.5 dB間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「サブウーファー」の設定を「無し」にしているときは選択できません。

設定項目	初期値	設定内容
サブウーファー 2	0.0 dB	<p>カーソルの◀/▶で「31 Hz」～「250 Hz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼でその周波数の音量を「- 12.0 dB」～「+ 12.0 dB」(0.5 dB間隔)の間で調節します。「Trim」で全体的な音量のバランスを再調整する場合は、◀/▶で「Trim」を選び、▲/▼で音量を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調整中に「OVER!」が表示されたときは、その周波数帯域または他の周波数帯域の音量が大きすぎるので、表示が消えるまで、さまざまな周波数帯域の音量を下げてください。 「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「サブウーファー」の設定を「無し」または「1ch」にしているときは選択できません。

- 入力ソースまたはリスニングモードの設定によっては、望ましい効果を得ることができない場合があります。

EQ Professional

部屋の残響特性(音の響き方)の測定と補正を自動で行うことができます。まず、「残響特性の測定」で残響特性を測定し、「残響特性の確認」で測定結果を確認します。測定結果をもとに「アドバンスドEQセットアップ」で補正時間位置などを指定し、自動で残響特性の補正を行います。

■ 残響特性の測定

部屋の残響特性を測定します。以下の設定を行ったあと、測定用マイクを視聴位置に設置し、本体のSETUP MIC端子に接続します。ENTERを押し、画面の指示に従って操作してください。

設定項目	初期値	設定内容
残響特性の測定	EQ以外	<p>残響特性の測定方法を選択します。</p> <p>「EQ以外」: MCACCによるスピーカーのイコライザ調整前の部屋の残響特性を測定します。</p> <p>「EQ」: MCACCメモリーに保存された、スピーカーのイコライザ調整後の残響特性を測定します。</p>

■ 残響特性の確認

残響特性の測定結果を、各スピーカーと周波数ごとにグラフで表示します。残響がない場合はグラフが横這いを保ち、残響がある場合は右上がりのグラフになります。補正タイプで「Symmetry」を選択してフルオートMCACCを行った場合は、予測値として補正後の残響特性も表示できます。

■ アドバンスドEQセットアップ

設定した内容に合わせて、自動で残響特性の補正を行います。以下の設定を行ったあと、測定用マイクを視聴位置に設置し、本体のSETUP MIC端子に接続します。ENTERを押し、画面の指示に従って操作してください。

設定項目	初期値	設定内容
Time Position	30 - 50 msec	補正時間位置を「0 - 20 msec」～「60 - 80 msec」（10 msec間隔）の間で指定します。 Reverb Viewのグラフ表示で、周波数ごとに残響特性が異なる場合やチャンネルごとに残響特性が異なる場合は、「30 - 50 msec」を選ぶことをお勧めします。全体的に残響特性が似ている場合は、「60 - 80 msec」を選ぶことをお勧めします。
EQタイプ	Symmetry	補正タイプを選択します。 「Symmetry」：L/Rでペアになっているスピーカー1組ごとの周波数特性をフラットに補正します。センターなどペアでないスピーカーは個別に補正します。位相特性を重視した補正をしたい場合に選んでください。 「All Channel Adjust」：全スピーカーの周波数特性を、それぞれ個別にフラットに補正します。周波数特性を重視した補正をしたい場合に選んでください。 「Front Align」：フロント以外のスピーカーをフロントスピーカーの特性に合わせて補正します（フロントスピーカーは補正しません）。フロントスピーカーの特性を重視した補正をしたい場合に選んでください。
定在波マルチポジション	無し	「2」～「9」を選ぶと、メインの視聴位置に加えて、複数の視聴位置に対して定在波の補正を行うことができます。視聴位置が1箇所の場合は、「無し」を選んでください。 ・「2」～「9」を選んだ場合、先にメイン以外の視聴位置で補正を行い、最後にメインの視聴位置で補正を行います。

MCACCデータチェック

接続したスピーカーのチャンネル数や各スピーカーの設定項目の内容や設定値が確認できます。項目によってはカーソルでMCACCメモリーやチャンネルなどを切り換えて確認します。

■ スピーカー設定

接続したスピーカーのチャンネル数や各スピーカーの低音再生能力の大小の設定を確認できます。

■ チャンネルレベル

各スピーカーの出力レベルの設定を確認できます。

■ スピーカー距離

視聴位置から各スピーカーまでの距離を確認できます。

■ 定在波制御

定在波制御フィルターの設定を確認できます。

■ Acoustic Calibration EQ

「マニュアルMCACC」で設定された各スピーカーの周波数特性の補正值を確認できます。

■ 群遅延特性

補正前後のスピーカーの群遅延特性を確認できます。

データ管理

MCACCメモリーの名前を変更したり、設定内容のコピーや消去ができます。

■ MCACCメモリーの名称変更

MCACCメモリーの名前を変更します。

設定項目	初期値	設定内容
M1	Memory 1	変更する名前を「Memory 1」、「Symmetry」、「All Adj」、「F.Align」、「Movie」、「Music」、「Game」、「Party」、「Sofa」、「Seat」から選択します。
M2	Memory 2	変更する名前を「Memory 2」、「Symmetry」、「All Adj」、「F.Align」、「Movie」、「Music」、「Game」、「Party」、「Sofa」、「Seat」から選択します。
M3	Memory 3	変更する名前を「Memory 3」、「Symmetry」、「All Adj」、「F.Align」、「Movie」、「Music」、「Game」、「Party」、「Sofa」、「Seat」から選択します。

■ MCACCメモリーのコピー

各メモリーに保存されているスピーカーの設定内容を、他のメモリーにコピーします。以下の設定を行ったあと、ENTERを押し、画面の指示に従って操作してください。

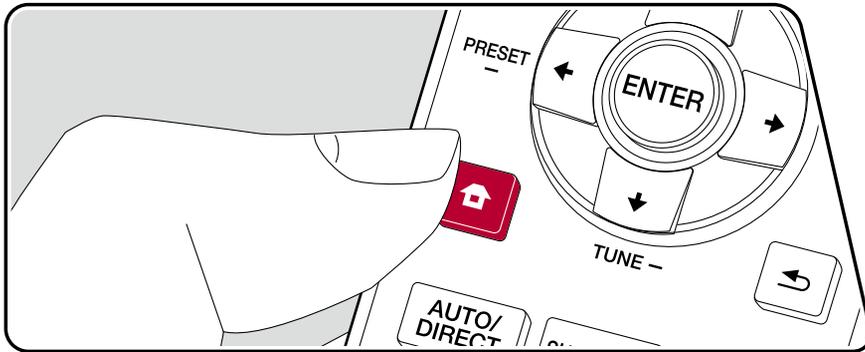
設定項目	初期値	設定内容
コピー	全データ	コピーする内容を選びます。 「全データ」：すべての設定内容をコピーします。 「レベルと距離のデータ」：各スピーカーの出力レベルと視聴位置からの距離のみをコピーします。
コピー元	M1.Memory 1	コピーしたいメモリーを選びます。
コピー先	M1.Memory 1	コピー先のメモリーを選びます。

■ MCACCメモリーの消去

MCACCメモリーに保存されているスピーカーの設定内容を消去します。メモリーを選んだあと、ENTERを押し、画面の指示に従って操作してください。

ネットワーク/Bluetooth

メニュー操作



ネットワーク接続に関する設定やBLUETOOTHに関する設定ができます。

テレビに操作画面を表示するOSD (On-Screen Display) 機能を使用して、設定を行います。

リモコンの🏠ボタンを押してホーム画面を表示させ、リモコンのカーソルでネットワーク/Bluetoothを選びENTERボタンを押します。



リモコンのカーソル↑/↓/←/→で内容を選び、ENTERボタンで決定します。

初期値を変更するには、カーソル←/→で操作します。

- ひとつ前の画面に戻るには🏠ボタンを押します。
- 設定を終了するときは、🏠ボタンを押します。

ネットワーク

- DHCPでLANを構築している場合は「DHCP」の設定を「有効」にして自動設定してください。(初期値では「有効」になっています)また、各機器に固定IPアドレスを割り当てる場合は、「DHCP」の設定を「無効」にして「IPアドレス」の設定で本機にアドレスを割り当て、サブネットマスクとゲートウェイなどお使用のLANに関する情報を設定する必要があります。

設定項目	初期値	設定内容
Wi-Fi	オフ(有線)	無線LAN対応ルーター経由で、本機をネットワークに接続します。 「オン」: 無線LANで接続する場合 「オフ(有線)」: 有線LANで接続する場合 • 「オン」「オフ(有線)」を切り替える時にはネットワークサービスを停止してください。また、グループ再生を行っている場合は、一度グループを解除してから切り替える設定をしてください。
Wi-Fi Setup	-	「Start」が表示された状態でENTERボタンを押して、無線LANの設定を行います。
Wi-Fi 接続状態	-	接続しているアクセスポイントの情報が表示されません。 「SSID」: 接続しているアクセスポイントのSSID 「感度」: 接続しているアクセスポイントの信号強度 「ステータス」: 接続しているアクセスポイントの状態
MACアドレス	-	本機のMACアドレスを確認します。 この値は機器固有のものであり、変更はできません。
DHCP	有効	「有効」: DHCPで自動設定する 「無効」: DHCPを使わず手動設定する • 「無効」を選んだ場合、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」、「DNSサーバー」は手動で設定してください。
IPアドレス	0.0.0.0	IPアドレスを表示・設定します。
サブネットマスク	0.0.0.0	サブネットマスクを表示・設定します。
ゲートウェイ	0.0.0.0	ゲートウェイアドレスを表示・設定します。

設定項目	初期値	設定内容
DNSサーバー	0.0.0.0	DNSサーバー(プライマリ)を表示・設定します。
プロキシURL	-	プロキシサーバーのURLを表示・設定します。
プロキシポート	8080	「プロキシURL」入力時にプロキシサーバーのポート番号を表示・設定します。
フレンドリーネーム	Pioneer SC-LX704 XXXXXX	ネットワーク接続している機器側で表示される本機の機種名をわかりやすい名前に変更します。 1. ENTERボタンを押し、編集画面を表示させます。 2. カーソルで文字・記号を選び、ENTERボタンを押します。 この操作をくり返して最大31文字まで入力します。 「A/a」: 大文字/小文字が切り換わります。(リモコンのMODEボタンを押しても大文字/小文字が切り換わります) 「←」「→」: 矢印の方向にカーソルが移動します。 「☒」: カーソルの左側の文字を1文字消去します。 「□」: 1文字分スペースが入ります。 • リモコンのCLEARボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。 3. 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTERボタンを押します。 入力した名前が保存されます。

設定項目	初期値	設定内容
AirPlay デバイス名	Pioneer SC-LX704 XXXXXX	<p>AirPlay 接続している機器側で表示される本機の機種名をわかりやすい名前に変更します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ENTER ボタンを押し、編集画面を表示させます。 カーソルで文字・記号を選び、ENTER ボタンを押します。 この操作をくり返して最大31文字まで入力します。 <p>「A/a」：大文字／小文字が切り換わります。(リモコンのMODE ボタンを押しても大文字／小文字が切り換わります)</p> <p>「←」「→」：矢印の方向にカーソルが移動します。</p> <p>「☒」：カーソルの左側の文字を1文字消去します。</p> <p>「□」：1文字分スペースが入ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> リモコンのCLEAR ボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。 <ol style="list-style-type: none"> 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTER ボタンを押します。 入力した名前が保存されます。 <ul style="list-style-type: none"> Home App に本機を登録した場合、この機能は使用することができません。

設定項目	初期値	設定内容
AirPlay パスワード		<p>入力したユーザーのみがAirPlay[®]を利用できるよう最大31文字のパスワードを設定することができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ENTER ボタンを押し、編集画面を表示させます。 カーソルで文字・記号を選び、ENTER ボタンを押します。 この操作をくり返して最大31文字まで入力します。 <p>「A/a」：大文字／小文字が切り換わります。(リモコンのMODE ボタンを押しても大文字／小文字が切り換わります)</p> <p>「←」「→」：矢印の方向にカーソルが移動します。</p> <p>「☒」：カーソルの左側の文字を1文字消去します。</p> <p>「□」：1文字分スペースが入ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> リモコンの+Fav ボタンを押すと、パスワードを「*」で表示するか入力した文字をそのまま表示するか切り換えます。 リモコンのCLEAR ボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。 <ol style="list-style-type: none"> 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTER ボタンを押します。 入力したパスワードが保存されます。 <ul style="list-style-type: none"> Home App に本機を登録した場合、この機能は使用することができません。
プライバシーステートメント	同意しない	<p>ログイン名、Eメールアドレス、パスワードなどを必要とするネットワークサービスを使用する場合、当社プライバシーステートメントへお客様の同意が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> この設定はプライバシーステートメントの確認後に設定できます。「プライバシーステートメント」を選んでENTER ボタンを押すと、プライバシーステートメントが表示されます。 この設定を「同意しない」に設定すると、ログインしていたネットワークサービスからログアウトされます。
ネットワーク確認	-	<p>ネットワークの接続状態を確認します。</p> <p>「Start」が表示された状態でENTER ボタンを押してください。</p>

• 「ネットワーク」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

Bluetooth

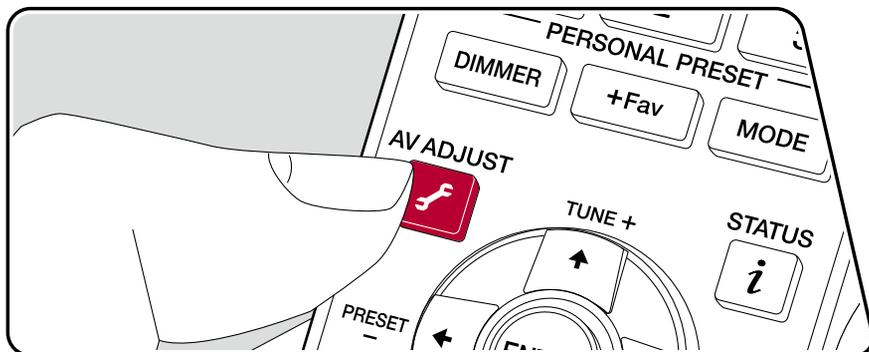
設定項目	初期値	設定内容
Bluetooth	オン	BLUETOOTH機能の使用/不使用を設定します。 「オン」: BLUETOOTH機能を使用して、BLUETOOTH対応機器との接続を有効にします。BLUETOOTHに関する各種設定を行う場合もこの設定を「オン」にしてください。 「オフ」: BLUETOOTH機能を使用しない場合
自動入力切り換え	オン	BLUETOOTH対応機器側から本機に接続した状態で再生すると、本機の入力切換を自動的に「BLUETOOTH」に切り換えることができます。 「オン」: BLUETOOTH対応機器の再生に対応して、入力切換を自動で「BLUETOOTH」にします。 「オフ」: この機能を無効にします。 • 自動的に入力切換が切り換わらない場合は、「オフ」に設定して、手動で入力切換を設定してください。
自動接続	オン	入力切換を「BLUETOOTH」に切り換えると、自動的に最後に接続していたBLUETOOTH対応機器と接続する機能です。 「オン」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合 • ご使用のBLUETOOTH対応機器によっては、この機能が働かないことがあります。
ペアリング情報	-	本機に保存されているペアリング情報を初期化することができます。 「削除」が表示された状態でENTERボタンを押すと、本機に保存されているペアリング情報が初期化されます。 • BLUETOOTH対応機器側のペアリング情報は初期化されません。再度その機器と本機をペアリングする際は、BLUETOOTH対応機器側のペアリング情報を消去してから行ってください。ペアリング情報の消去については、BLUETOOTH対応機器の取扱説明書をご参照ください。

設定項目	初期値	設定内容
デバイス	-	接続されているBLUETOOTH対応機器の名前が表示されます。 • 「ステータス」が「待機中」や「ペアリング」の場合は、名前は表示されません。
ステータス	-	接続されているBLUETOOTH対応機器の状態が表示されます。 「待機中」: ペアリングされていない 「ペアリング」: ペアリング中 「接続済み」: 接続完了

- 「Bluetooth」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。BLUETOOTH機能が起動すると選べるようになります。

AV Adjust

メニュー操作



音質の調整など、よく利用する設定を素早く設定することができます。

再生しながらテレビの画面で設定が可能です。リモコンの  ボタンを押して、AV Adjustのメニューを表示させます。なお、入力切替が「CD」、「TV」、「PHONO」、「FM」、「AM」のときはテレビの画面には表示されませんので、本体表示部を見ながら操作してください。



リモコンのカーソル  /  で内容を選び、ENTERボタンで決定します。

設定を変更するには、カーソルで操作します。

- ひとつ前の画面に戻るには  ボタンを押します。
- 設定を終了するときは、 ボタンを押します。

■ HDMI

Audio Exclusive Mode : HDMI IN 2端子を音声専用のモードにし、音質を向上させることができます。なお、設定をオンにした場合、映像信号の出力が止まりテレビ画面は表示されなくなります。

-  ボタンを押すとテレビ画面に表示されますが、 ボタンを再度押すと、映像信号は出力されません。

HDMI出力 : 映像信号を出力するHDMI OUT端子を「MAIN」、「SUB」、「MAIN+SUB」から選びます。

サウンドディレイ : 映像が音声より遅れている場合、音声を遅らせて映像と音声のずれを調整できます。各入力切替に個別に設定することができます。

- リスニングモードがPure Directモードでアナログ信号やDSD信号を入力しているときは効果がありません。

Audio Return Channel : HDMI 接続した ARC 機能対応テレビの音声を、本機と接続したスピーカーで聴くことができます。テレビの音声を本機のスピーカーで聴く場合は「オン」を選び、ARC 機能を使用しない場合は「オフ」を選んでください。

■ オーディオ

サウンドレトリバー : 圧縮された音声をより良い音質にします。MP3 などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。この設定は、各入力切替ごとに行えます。サンプリング周波数が 48 kHz 以下の信号に働きます。ビットストリーム信号は効果がありません。

- リスニングモードが Direct または Pure Direct モードのときは、設定できません。

Midnight : 小さな音でも細かな音が聴こえやすくなる機能です。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。Dolby 系、DTS 系の入力信号再生時のみに効果があります。

- リスニングモードが Direct または Pure Direct モードのときは、設定できません。
- 以下の場合、この機能を使用することはできません。
 - 「Loudness Management」を「オフ」に設定し、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD を再生している場合
 - 入力信号が DTS:X で、「Dialog Control」が 0 dB 以外の場合

ステレオアサイン : リスニングモードを「Stereo」に設定した時の音声の出力先を通常のフロントスピーカーの左右両チャンネル「フロント」) 以外に「サラウンド」、「サラウンドバック」、「ハイト 1」、「ハイト 2」から設定することができます。

- 以下の場合、この機能を使用することはできません。
 - リスニングモードが「Stereo」以外に設定されている場合
 - スピーカー B を使用している場合
- ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」で設定されていないスピーカーを選択することはできません。

ゾーン B : ゾーン B への音声の出力方法を「オフ」、「オン (A+B)」、「オン (B)」から選びます。

- 以下の場合、「ゾーン B」を選択することはできません。
 - ゾーン 2 がオンの場合
 - ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーン 2 プリアウト」が「ゾーン 2」に設定されている場合 (→ [p157](#))

Speakers : スピーカー B 使用時に、スピーカー A/B/A+B で切り換えて音声を出力します。

- スピーカー A+B 出力の際は、サラウンドバックスピーカーからは出力できません。

Auto Phase Control+ : フェイズコントロール規格で作られたディスク以外は、低域が遅れて記録されているものがあります。そういったディスクの位相ずれを補正します。「自動」を選ぶと低域の遅れだけでなく、極性と相関も検出して補正します。

- リスニングモードが Pure Direct モードのときは、設定できません。

Dialog Lifted Up : センター成分の定位感を調整することにより、映画やドラマのセリフ、または音楽のボーカルを際立たせ、より聴き取りやすい音にします。フロントハイスピーカーを使用している場合に、「1」(低)～「4」(高)から選びます。

- 以下の場合、この機能を設定することはできません。
 - フロントハイスピーカーが有効でない場合
 - 「DIALOG を調整する」(→ [p127](#)) の機能を使用している場合
 - 「Dialog Control」(→ [p161](#)) が設定されている場合
 - リスニングモードが Direct または Pure Direct モードのとき

オーディオスケイラー : 「自動」を選ぶと、「Hi-bit 32」、「アップサンプリング」、「デジタルフィルター」を自動で最適な設定にして、音楽ファイルや CD などを高音質再生します。この設定は、各入力切替ごとに行えます。

「Hi-bit 32」、「アップサンプリング」、「デジタルフィルター」を手動で設定する場合は、「手動」を選んでください。

Hi-bit 32 : CD や DVD、BD といったデジタル音声信号へのダイナミックレンジの拡大をすることにより、より滑らかで繊細な音楽表現を可能にします。この設定は、各入力切替ごとに行えます。サンプリング周波数が 44.1 kHz 以上の場合に設定できます。

- 「オーディオスケイラー」で「自動」を選んでいるときは設定できません。

アップサンプリング : PCM2 チャンネル音声のサンプリング周波数を 2 倍または 4 倍にすることで、高音質な再生を実現します。この設定は、各入力切替ごとに行えます。サンプリング周波数が 44.1 kHz ～ 96 kHz の場合に設定できます。この機能が使用できるリスニングモードは、Direct、Pure Direct、Stereo です。

- 「オーディオスケイラー」で「自動」を選んでいるときは設定できません。

デジタルフィルター : AUDIO DAC (デジタルアナログコンバーター) のデジタルフィルターの種類を切り換えます。「Slow」(柔らかく緩やかな音の印象)、「Sharp」(骨格感のある硬めな音の印象)、または「Short」(立ち上がりが早く前に出てくるような音の印象)から選びます。この設定は、各入力切替ごとに行えます。サンプリング周波数が 44.1 kHz 以上の場合に設定できます。

- 「オーディオスケイラー」で「自動」を選んでいるときは設定できません。

Reflex Optimizer : Dolby Enabled スピーカーの天井からの反射効果を高めます。

- この設定は、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ハイト1スピーカー」/「ハイト2スピーカー」を「Dolby Speaker」に設定している場合に選択できます。
- リスニングモードがPure Directモードのときは、設定できません。

■ MCACC

MCACC EQ：部屋の環境による音のひずみを補正するイコライザー機能を有効/無効に切り換えます。

- リスニングモードがPure Directモードのときは、設定できません。

フェイズコントロール：低域の位相乱れを補正して低音を増強します。原音に忠実な力強い低音域再生を実現します。

- リスニングモードがPure Directモードのときは、設定できません。

「フェイズコントロール」を「フルバンド」に設定すると：

フェイズコントロール機能に加えて、フルバンドフェイズコントロール機能が有効になります。フルバンドフェイズコントロール機能とは、スピーカーユニットがツイーターとウーファーなど複数に分かれたスピーカーの場合に、スピーカーユニット間の群遅延（位相とタイミングのズレ）を補正し、さらに接続しているスピーカーどうしの位相もそろえることで全帯域（フルバンド）、全チャンネルでの正確な再生を可能にする機能です。また、補正タイプで「Front Align」を選択してフルオートMCACCを行っている場合は、フロントスピーカーの周波數位相特性に合わせてようにフロント以外のスピーカーの位相を補正します。

- 「フルバンド」は、フルオートMCACCを行っていないと選べません。

MCACCメモリー：「フルオートMCACC」や「マニュアルMCACC」で補正したスピーカーの設定内容を保存しているMCACC Memory 1～3から、どのメモリーを使用するかを選びます。

シアターフィルター：高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

- リスニングモードがDirectまたはPure Directモードのときは、設定できません。

定在波制御：「オン」に設定すると音波が壁などで反射して元の音波と干渉することで発生する定在波の影響を制御できます。

- リスニングモードがPure Directモードのときは、設定できません。

■ レベル

フロント：音声を聴きながら、フロントスピーカーのスピーカーレベルを調整します。

センター：音声を聴きながら、センタースピーカーのスピーカーレベルを調整します。

サブウーファー 1 / サブウーファー 2：音声を聴きながら、サブウーファーのスピーカーレベルを調整します。

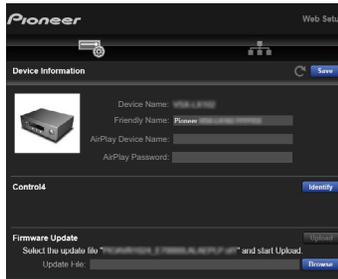
- 調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると設定前の内容に戻ります。

Web Setup

メニュー操作

本機のネットワーク機能に関する設定などをPCやスマートフォンなどのインターネットブラウザを使って設定することができます。

1. リモコンの🏠ボタンを押して、ホーム画面を表示させます。
2. カーソルで「ネットワーク/Bluetooth」-「ネットワーク」を選び、「IP アドレス」に表示されるIPアドレスをメモします。
3. PCやスマートフォンなどのインターネットブラウザを起動し、URL 欄に本機のIPアドレスを入力します。
4. インターネットブラウザに本機の情報 (Web Setup画面) が表示されます。



5. 設定の変更後は、「Save」を選んで設定を保存してください。

Device Information

フレンドリーネームまたは AirPlay Device Name の変更や AirPlay パスワードの設定などができます。

Control4 : Control4 システムをお使いの場合に本機を登録します。

Firmware Update : PC にダウンロードしたファームウェアファイルを選んで、本機をアップデートできます。

Network Setting

Status : 本機の MAC アドレスと、IP アドレスなどのネットワークに関する情報を確認できます。

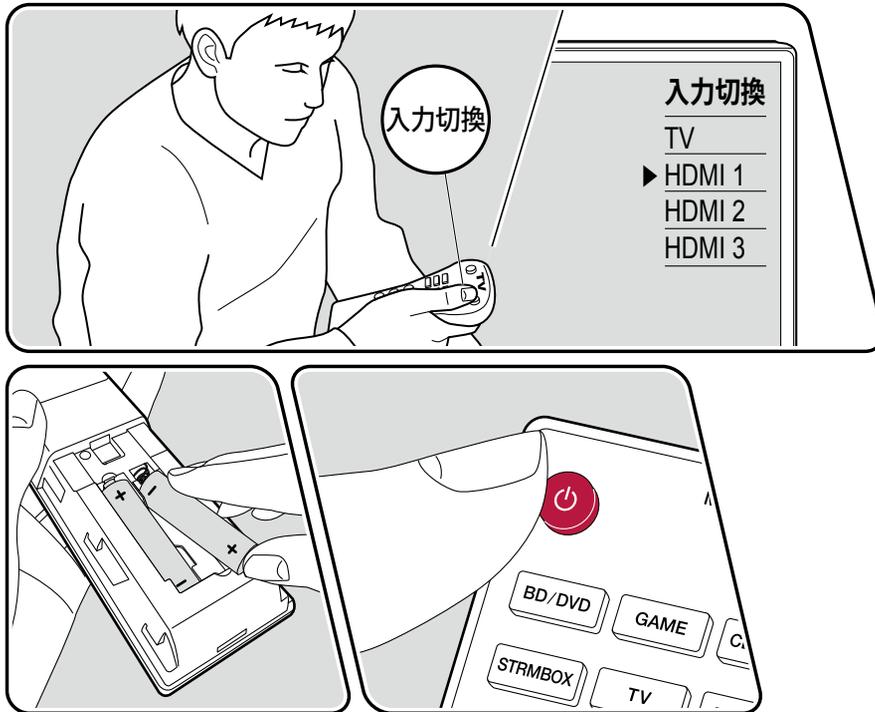
Network Connection : ネットワークの接続方法を選択できます。「Wireless」を選んだ場合は、「Wi-Fi Setup」から接続するアクセスポイントを選んで接続してください。

DHCP : DHCP の設定を変更できます。「Off」を選んだ場合、「IP Address」、「Subnet Mask」、「Gateway」、「DNS Server」は手動で設定してください。

Proxy : プロキシサーバーの URL を表示・設定します。

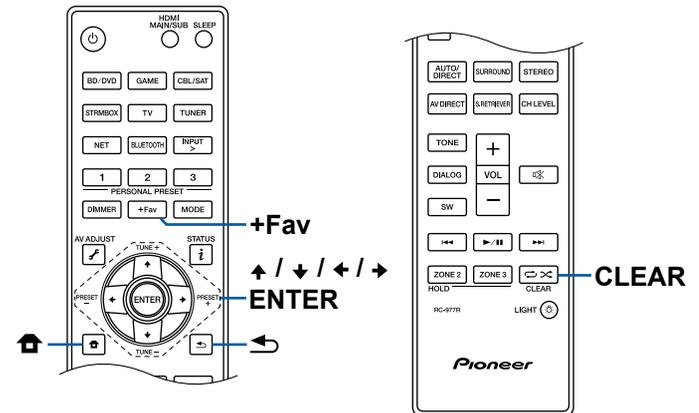
設定ウィザードでの初期設定

初期設定を始める



お買い上げ後、初めて電源を入れると、初期設定の画面が自動でテレビに表示され、ガイダンスに沿ってスタートアップに必要な項目を簡単な操作で設定することができます。

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えてください。
2. 本機のリモコンに電池を入れます。
3. 本機のリモコンの **電源** を押して電源をオンにします。
4. テレビに言語選択の画面が表示されたら、カーソル **↑** / **↓** で選択し、**ENTER** を押します。
 - 操作はリモコンのカーソルで項目を選び、**ENTER** で決定します。ひとつ前の画面に戻るには **戻る** を押します。
 - 初期設定を途中で終了してしまった場合は、本機の電源をスタンバイにして、もう一度電源をオンにすると初期設定を再度表示することができます。初期設定は設定を最後まで行うか、はじめの画面で「今後表示しない」を選択しない限り、電源をオンにするたびに画面に表示されます。
 - 初期設定の設定完了後、再度行いたい場合は、**ホーム** を押し、「システム設定」-「その他」-「初期設定」を選んで **ENTER** を押してください。



■ 1. スピーカー設定

1. 接続しているスピーカー構成を選び、ENTERを押します。
「スピーカーチャンネル」では、チャンネル数を選ぶごとに画面の図が切り換わりますので参考にしてください。



カーソル \uparrow/\downarrow で2ページ目の項目を設定します。ここでは「2. フルオートMCACC」で測定する各スピーカーの測定結果を、以下の3つの補正タイプ別に保存することができます。項目別に測定結果を保存したいメモリーをカーソル \leftarrow/\rightarrow で選択します。複数の補正タイプを選んだ場合は、「AV Adjust」-「MCACC」-「MCACCメモリー」で使用したい補正タイプを選択することができます。なお、異なる補正タイプに対して、同じ保存先を選ぶことはできません。

Symmetry (初期値 : M1.Memory 1) : 位相特性を重視した補正
All Channel Adjust (初期値 : ---) : 周波数特性を重視した補正
Front Align (初期値 : ---) : フロントスピーカーの特性を重視した補正
 設定が終わったらENTERを押します。



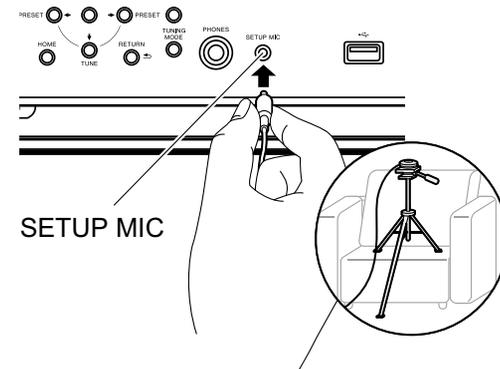
2. 1で選択したスピーカーの組み合わせが表示されます。選択したスピーカーには「有り」が表示されています。間違いがなければENTERを押してください。
3. 「次へ」を選びENTERを押すと、各スピーカーから接続確認のためのテスト

- トーンが出力されます。カーソル \uparrow/\downarrow で各スピーカーを選択すると、テストトーンが出力されます。確認が終わったら、ENTERを押します。
4. スピーカー接続に問題がなければ、「次へ」を選びENTERを押します。「スピーカー設定」に戻る場合は、「スピーカー設定に戻る」を選びENTERを押します。

■ 2. フルオートMCACC

付属の測定用マイクを視聴位置に設置して、各スピーカーから出力されるテストトーンを測定し、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数、視聴位置からの距離を自動で設定します。また、視聴環境に応じて定在波の影響を軽減したり、残響特性を測定して補正精度を高めたり、スピーカーのイコライザー調整やスピーカーおよびスピーカーユニット間の位相とタイミングのズレを補正します。これらの設定や補正内容は、マニュアルMCACCで再調整したり、AV Adjustで有効/無効に切り換えることができます。

- 測定は完了するまでに3～12分ほどかかります。測定中は各スピーカーより大音量のテスト音が出力されますので、周囲への影響に充分ご注意ください。また、測定中はできるだけ部屋を静かにしてください。
 - サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源や音量を確認してください。サブウーファーの音量は半分以上に設定してください。
 - 本機の電源が突然切れるときは、スピーカーケーブルの芯線がリアパネルや他の芯線と接触して、保護回路が働いています。芯線をしっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。
1. 付属の測定用マイクを視聴位置に設置し、本体のSETUP MIC端子に接続します。



測定用マイクの設置で三脚などをご使用の場合は、イラストを参考に設置してください。

- サブウーファーからテストトーンが出力されていることを確認し、ENTERを押します。
- ENTERを押すと、各スピーカーからテストトーンが出力され、まずは、接続したスピーカーと周囲のノイズが自動で測定されます。
- 3の測定結果が表示されます。スピーカーの検出結果に問題が無い場合は、「次へ」を選びENTERを押すと、再度テストトーンが出力され、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数などの設定が自動で行われます。(操作をせずに10秒経つと自動でテストトーンが出力されます。)
 - エラーメッセージが表示された場合や、接続したスピーカーが検出されない場合は、「再試行」を選びENTERを押して、再測定を行ってください。
 - 再測定を行っても解決できない場合は、スピーカーの接続が正しく行われているかご確認ください。スピーカー接続に問題があった場合は、電源コードを抜いてから接続を行ってください。
- 測定が完了したら、さらに最大8つの視聴位置での測定が可能です。測定を行う場合は、「次へ」を選びENTERを押して、画面の指示に従ってください。測定を行わない場合は「終了」を選びENTERを押してください。
 - 各視聴位置での測定後に「終了」を選びENTERを押すと、測定は完了します。
- 測定用マイクを取り外します。

■ 3. マルチゾーン音声確認

メインルーム以外の別室(ゾーン2)でも音声を楽しみたい場合に、ゾーン2へのテストトーンを出力します。

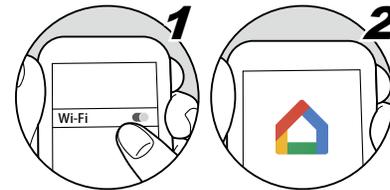
■ 4. ARC 設定

ARC機能に対応したテレビと接続する場合は、「はい」を選んでください。本機のARC設定がオンになり、テレビの音声を本機で楽しむことができます。

- 「はい」を選ぶとHDMI CEC機能がオンになり、スタンバイ時の消費電力が増加します。

■ 5. ネットワーク接続

- ネットワークへの接続設定を行う場合は、「はい」を選びENTERを押します。ネットワーク設定中にプライバシーステートメントに同意するかの確認画面が表示されますので、同意する場合は「同意する」を選択し、ENTERを押してください。
- ネットワークへの接続方法を選びます。Chromecast built-in機能を利用して接続する場合は「はい」を選びENTERを押します。Chromecast built-in機能を利用するにはGoogle Homeアプリが必要です。スマートフォンやタブレットにGoogle Play や App Store からGoogle Home アプリをダウンロードしてください。
 - Google Home アプリは、以下のOSで使用できます。(2019年8月現在)
Android™ : 4.4 以上
iOS : iOS 10.0 以降。iPhone®、iPad®、およびiPod touch®に対応



「いいえ」を選んだ場合は、有線LANを使用する方法と、Wi-Fi接続を行う2種類の接続方法があります。

「有線」: 有線LANを使用したネットワークへの接続

「ワイヤレス」: 無線LANルータなどのアクセスポイントとのWi-Fi接続

- Wi-Fi接続方法には2通りの方法があります。
 - 「ネットワークを検索する」: 本機からアクセスポイントを検索して接続します。事前にアクセスポイントのSSIDをお調べください。
 - 「iOSデバイス(iOS7以降)を使用する」: お使いのiOS端末のWi-Fi設定を本機に共有して接続します。
- 「ネットワークを検索する」を選んだ場合は、さらに2種類の接続方法があります。以下の内容をご確認ください。
 - 「パスワード入力」: アクセスポイントのパスワード(キー)を入力して接続します。
 - 「プッシュボタン」: アクセスポイントに自動設定ボタンが装備されている場合に、パスワードの入力を行わずに接続できます。
- アクセスポイントのSSIDが表示されない場合は、SSIDの一覧画面でカーソルの➡で「その他・・・」を選んでENTERを押し、画面に従って設定してください。

キーボードの入力について

大文字/小文字を切り換えるには、画面の「A/a」を選び、リモコンのENTERを押します。

リモコンの+Favを押すと、パスワードを「*」で表示するか入力した文字をそのまま表示するか切り換えます。リモコンのCLEARを押すと入力した文字をすべて消去します。

困ったときは

はじめにお読みください

トラブルは接続や設定、操作方法を見直す以外にも、電源のオン/オフ、電源コードの抜き差しで改善することがあります。本機や接続している機器の両方でお試してください。また、映像や音が出ない、HDMI連動ができないなどの場合、接続しているHDMIケーブルの抜き差しを行うと改善することもあります。差し直す際は、HDMIケーブルが巻かれていると接触が悪くなりますので、なるべく巻かずに差し直してください。差し直したあとは、本機と接続している機器の電源を一度オフにし、再度電源を入れ直してください。

- 本機はマイクロコンピュータにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。
- 製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については補償対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

動作が不安定なときは 199

再起動をお試しください 199

本機のリセット（設定内容は初期化されます） 200

故障かなと思ったら 201

■ 電源 201

■ 音声 201

■ リスニングモード 203

■ 映像 204

■ 連動動作 205

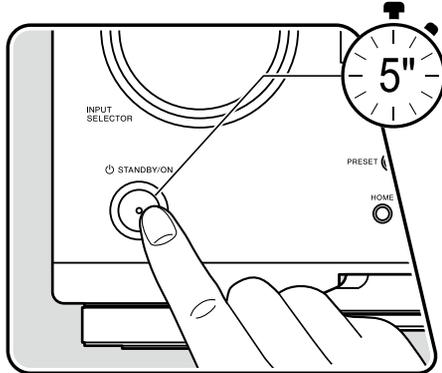
■ AM/FM放送に関して 205

■ BLUETOOTH機能	205
■ ネットワーク機能	206
■ USBストレージ	207
■ 無線LANネットワーク	207
■ ゾーンB機能	208
■ マルチゾーン機能	208
■ リモコン	208
■ 表示部	209
■ その他	209

動作が不安定なときは

□再起動をお試しください

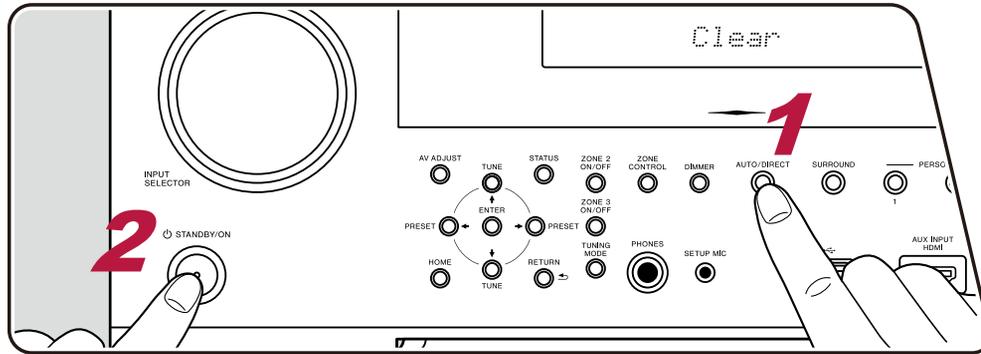
本機を再起動すると改善することがあります。本機の電源をスタンバイ状態にして5秒以上待ってから、本体の  STANDBY/ON ボタンを5秒以上押し続けて、本機を再起動してください。(本機の設定内容は保持されます。)再起動しても改善しない場合は、本機や接続機器の電源コードやHDMIケーブルの抜き差しをお試しください。



□ 本機のリセット (設定内容は初期化されます)

再起動で改善しない場合は、本機をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。リセットを行うと、お客様の設定内容が初期値に戻りますので、以下の操作をする前に、設定内容をメモなどに記録してください。

1. 本機の電源がオンの状態で本体のAUTO/DIRECT ボタンを押しながら、**⏻** STANDBY/ON ボタンを押します。
2. 表示部に「Clear」が表示されてスタンバイ状態に戻ります。表示部から「Clear」が消えるまで、絶対に電源コードを抜かないでください。
なお、リモコンのリセットは、MODE を押しながら、CLEAR ボタンを3秒以上押します。



故障かなと思ったら

■ 電源

□ 電源を入れると本体表示部に「AMP Diag Mode」が表示される

- 保護回路機能が作動した可能性があります。急に電源がスタンバイ状態になり、再度電源を入れたときに本体表示部に「AMP Diag Mode」が表示される場合は、本体の故障やスピーカーケーブルの接続に異常がないかを診断しています。診断が終了すると、次のメッセージが表示されます。

CH SP WIRE	表示部に「CH SP WIRE」が表示されたあと、通常のオン状態に戻った場合は、スピーカーケーブルがショートしている可能性があります。本機の電源をスタンバイにしたうえで、スピーカーケーブルの接続を再度行ってください。スピーカーケーブルの先端の芯線はしっかりよじるなどして、芯線がスピーカー端子からはみ出さないようにしてください。
NG：*****	表示部に「NG」が表示された状態で動作を停止した場合は、すぐに本機の電源をスタンバイにしたうえで、電源プラグをコンセントから抜いてください。故障の可能性がありますので、販売店にお問い合わせください。

□ 本機の電源が切れる場合

- ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「電源管理」-「自動スタンバイ」が作動すると、自動でスタンバイ状態になります。 (→p165)
- 本機の温度が異常に上昇して保護回路機能が作動した可能性があります。この場合、電源を入れ直してもまた電源が切れる状態がくり返されます。本機の周りに十分な換気スペースを確保して、本機の温度が下がるまでしばらく待ってから電源を入れ直してください。

警告：煙が出ている、変なにおいがする、異様な音ができるなど、少しでも異常を感じたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、販売店または弊社の修理窓口にご連絡ください。

■ 音声

- 測定用マイクを接続したままになっていないことを確認してください。
- 接続した機器の出力端子と、本機の入力端子が正しく接続されているか確認ください。
- 接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。
- 表示部に「MUTING」と表示し、喋表示が点滅している場合、リモコンの喋ボタンを押して消音を解除してください。
- ヘッドホンが PHONES 端子に接続しているときは、スピーカーから音は出ません。
- ホーム画面の「システム設定」-「入力ソース」-「音声信号選択」-「PCM固定」がオンになっている場合、PCM信号以外の入力では音声が再生されません。設定をオフに変更してください。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ テレビの音が出ない

- 本機の入力切換を、テレビと接続した端子のポジションに切り換える必要があります。
- テレビがARC機能に対応していない場合は、HDMIケーブルの接続に加えて、光デジタルケーブルでテレビと本機を接続してください。 (→p79)

□ 接続した再生機器の音が出ない

- 本機の入力切換を、再生機器と接続した端子のポジションに切り換える必要があります。
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がオフになっていることがあります。
- 一部の DVD-Video ディスクでは、メニューから音声出力形式を選ぶ必要があります。

□ 特定のスピーカーから音が出ない

- スピーカーコードの+/-は正しく接続されているか、むき出しの芯線部分がスピーカー端子の金属部分と接触していないか確認してください。 (→p45)
- スピーカーコードがショートしていないことを確認してください。
- スピーカーの接続が正しく行われているか、「スピーカーケーブルを接続する」(→p45)をご確認ください。スピーカーの接続環境については、初期設定の「スピーカー設定」で設定が必要です。「設定ウィザードでの初期設定」(→p194)をご確認ください。
- 入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。他のリスニングモードを選択して、音が出るかご確認ください。
- サラウンドバックスピーカーを設置する場合、サラウンドスピーカーの設置は必須です。
- バイアンプ接続の場合、フロントスピーカーのみバイアンプ接続する場合を除き、複数のスピーカーを組み合わせるバイアンプ接続の場合は、最大5.1チャンネルの再生になります。また、バイアンプ接続では、スピーカー側のショートバーは必ず外してください。

□ サブウーファーから音が出ない

フロントスピーカーの設定が「ラージ」になっていると、テレビや音楽などの2チャンネル音声入力時に、低域成分がサブウーファーから出力されず、フロントスピーカーから出力されます。サブウーファーから出力する場合は、以下のいずれかの設定を行ってください。

1. フロントスピーカーの設定を「スモール」に変更する

低域成分がフロントスピーカーから出力されず、サブウーファーから出力されます。フロントスピーカーの低域再生能力が高い場合は、変更しないことをお勧めします。

2. 「ダブルバス」を「オン」に変更する

フロントスピーカーの低域成分がフロントスピーカーとサブウーファーの両方から出力されます。そのため低音が出過ぎる場合があります。その場合は変更しない、または1の方法で設定することをお勧めします。

- 設定の詳細については、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」をご覧ください。 (→p157)
- 入力信号にサブウーファー音声要素 (LFE) が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

□ ノイズが聴こえる

- コード留めを使ってオーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。
- オーディオケーブルが雑音を拾っている可能性があります。ケーブルの位置を変えてみてください。

□ HDMI に入力した音声の冒頭部分が聴こえない

- HDMI 信号は、ほかの音声信号に比べて認識するのに時間がかかるため、音声がすぐに出力されない場合があります。

□ 音が途切れる

- ・「AV Adjust」の「アップサンプリング」でサンプリング周波数を上げると接続機器によっては音が途切れることがあります。設定を「×2」に変更してください。それでも音が途切れる場合は「×1」に変更してください。

□ 音が急に小さくなった

- ・本機の内部温度が一定の温度を超えた状態で長時間お使いになると、回路保護のために自動で音量を絞る場合があります。

■ リスニングモード

- ・Dolby Digitalなどのデジタルサラウンド再生を楽しむためには、音声信号はHDMIケーブルまたは同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルでの接続が必要です。また、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。
- ・リモコンの **i** ボタンをくり返し押すと、本体表示部が切り換わり、入力フォーマットを確認することができます。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ 希望するリスニングモードが選べない

- ・スピーカーの接続状況によっては選べないリスニングモードがあります。「リスニングモード」の「スピーカーレイアウトと選択できるリスニングモード」(→[p134](#))または「入力フォーマットと選択できるリスニングモードについて」(→[p142](#))をご確認ください。
- ・マルチチャンネルPCM音声フォーマットを再生する場合に、コンテンツによってはリスニングモードの「DTS Neural:X」を選択できない場合があります。

□ Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio フォーマットで聴くことができない

- ・Dolby TrueHDやDolby Atmos、DTS-HD Master Audioなどの音声が生源どおりのフォーマットで出力されない場合、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの設定で、「BDビデオ副音声」(または再エンコード、セカンダリ音声、ビデオ付加音声など)機能を「切」にしてお試しください。設定を変更したあとは、各ソース用のリスニングモードに切り換えてご確認ください。

□ Dolby信号について

- ・スピーカーレイアウトにサラウンドバックスピーカーを含む場合で、5.1チャンネルのDolby音声フォーマットで収録されたソフトを再生すると、サラウンドチャンネルの音声をサラウンドバックスピーカーから出力することがあります。
- ・ゲームなどで使用されている一部のDolby Atmos音声フォーマットが「マルチチャンネルPCM」として認識されることがあります。このような場合はゲーム機本体のファームウェアの更新情報をご確認ください。

□ DTS信号について

- DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときは再生機側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理(出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など)が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズが発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

■ 映像

- 接続した機器の出力端子と、本機の入力端子が正しく接続されているか確認ください。
 - 接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。
 - テレビの映像が乱れる場合は、本機の電源コードや接続ケーブルが干渉している場合があります。テレビのアンテナ線と本機のケーブル類を離してお試しください。
 - テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ 映像が出ない

- 本機の入力切換を、再生機器と接続した端子のポジションに切り換える必要があります。

□ HDMI入力端子に接続した機器の映像が出ない

- 本機の電源がスタンバイ状態の場合、接続した再生機器の映像をテレビに映し出すにはホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMIスタンバイスルー」を有効にする必要があります。なお、HDMIスタンバイスルーの機能については「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」をご確認ください。 (→p164)
- HDMI OUT SUB端子に接続しているテレビに映像を出力するには、リモコンの  ボタンを押して表示される「AV Adjust」の「HDMI」-「HDMI出力」やリモコンのHDMI MAIN/SUB ボタンを押して、出力するHDMI OUT端子を選択します。
- HDMI入力端子から入力した映像が出ないとき、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合テレビが、プレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。
- HDMI IN 2端子に接続した機器で「Audio Exclusive Mode」(→p190) がオンになっている場合、映像信号の出力が止まりテレビ画面は表示されなくなります。オフになっているか確認してください。
- HDMI-DVIアダプターを使っている場合は、正常な動作は保証されません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。

□ HDMI入力端子に接続した機器の映像や音声の出力が遅い

- HDMI IN2端子に接続した機器で「Audio Exclusive Mode」(→p190) がオンの時、「システム設定」の表示/非表示を行う場合に映像や音声出力に時間がかかる場合があります。その場合、接続機器の映像出力の解像度設定値を「自動」ではなく、1080pなどの固定値に設定してください。

□ 映像がちらつく

- テレビの対応解像度が再生機器の出力解像度に適合していない可能性があります。再生機器と本機をHDMI接続している場合は、再生機器側の出力解像度を変更してお試しください。また、テレビの画面モードを変更すると、改善される場合があります。

□ 映像と音声にずれがある

- お使いのテレビの設定や接続環境などによっては、映像が音声より遅れて表示されることがあります。リモコンの  ボタンを押して表示される「AV Adjust」の「HDMI」-「サウンドディレイ」で調整してください。 (→ [p190](#))

■ 連動動作

□ テレビなどのCEC対応機器とのHDMI連動動作が働かない

- 本機のホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMI CEC」の設定を「オン」にする必要があります。 (→ [p164](#))
- CEC対応機器側もHDMI連動の設定が必要です。取扱説明書でご確認ください。
- シャープ製のプレーヤーやレコーダーをHDMI IN端子に接続する場合は、「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMIスタンバイスルー」を「自動」に設定してください。

■ AM/FM放送に関して

□ 放送が受信しづらい、ノイズが多い

- アンテナの接続をもう一度確認してください。 (→ [p88](#))
- アンテナをスピーカーコードや電源コードから離してください。
- テレビやコンピューターから離してください。
- 近くに自動車が走っていたり飛行機が飛んでいると雑音が入ることがあります。
- 電波がコンクリートの壁等で遮断されていると放送が受信しにくくなります。
- モノラル受信 (→ [p117](#)) に変更してみてください。
- AM受信時、リモコンを操作すると雑音が入る場合があります。
- AM放送が聴き取りづらい場合は、ホーム画面の「システム設定」-「その他」-「チューナー」-「AMノイズカットモード」の設定を変更すると、受信感が良くなる場合があります。
- テレビに配線されている壁面のアンテナ端子を利用するとFM受信がクリアになることがあります。

■ BLUETOOTH機能

- 本機の電源抜き差しや、BLUETOOTH対応機器の電源オン/オフなどをお試しください。BLUETOOTH対応機器の再起動が効果的な場合もあります。
- BLUETOOTH対応機器がA2DPプロファイルに対応している必要があります。
- 電子レンジ、コードレス電話機など2.4 GHz帯の電波を使用する機器の近くでは電波干渉を起こしますので使用できないことがあります。
- 周囲に金属製のものがあると、電波に影響を及ぼし、BLUETOOTH接続ができない場合があります。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ 本機に接続できない

- BLUETOOTH対応機器のBLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。

(→ p189)

□ BLUETOOTH 接続しているのに音楽の再生ができない

- BLUETOOTH対応機器のボリューム設定が小さいと、音声が再生されないことがあります。BLUETOOTH対応機器のボリューム設定を大きくしてください。
- BLUETOOTH対応機器によっては、送信/受信切換スイッチが搭載されている場合があります。送信に切り換えてお試しください。
- BLUETOOTH対応機器の特性や仕様によっては、本機で音楽を再生できない場合があります。

□ 音声が途切れる

- BLUETOOTH対応機器に問題が発生している可能性があります。ホームページなどで情報を調べてみてください。

□ BLUETOOTH 対応機器との接続後、音質が低下した

- 受信状態がよくありません。BLUETOOTH対応機器を本機に近づける、またはBLUETOOTH対応機器と本機の間にある障害物を取り除いてください。

■ ネットワーク機能

- ネットワークサービスを選択できない場合は、ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。起動には約1分かかることがあります。
- NET表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
- 本機とルーターの電源抜き差しや、ルーターの再起動などをお試しください。
- アクセスポイント一覧に該当のルータが表示されないときは、無線LANルータがSSIDを隠す設定になっている場合や、ANY接続がオフになっている場合があります。設定を変えてお試しください。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ インターネットラジオが聴けない

- サービスプロバイダーがサービスを終了していると、本機でそのネットワークサービスやコンテンツを利用できなくなる場合があります。
- モデムとルーターが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。
- ルーターのLAN側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
- 他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。
- ISPによってはプロキシサーバーを設定する必要があります。
- お使いのISPがサポートしているルーターやモデムを使用しているか確認してください。

□ ネットワークサーバーが使用できない

- 本機とネットワークサーバーは同じルーターに接続する必要があります。
- 本機が対応しているネットワークサーバーは、Windows Media® Player 11 または 12、またはホームネットワーク機能対応のNASです。
- Windows Media® Playerは設定が必要な場合があります。「PCやNASに保存された音楽ファイルを再生する」をご確認ください。
- PCを使用する場合は、Windows Media® Playerのライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。

(→ [p106](#))

□ ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる

- ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。
- PCをネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア (Windows Media® Player 12 など) 以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。
- PCで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。

■ USB ストレージ

□ USB ストレージが表示されない

- USB ストレージやUSB ケーブルが本機のUSB 端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。
- USB ストレージをいったん本機から外し、再度接続してみてください。
- 本機のUSB 端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- コンテンツの種類によっては正常に再生できないことがあります。対応フォーマットをご確認ください。
- セキュリティ機能付きのUSB ストレージの動作は保証できません。

(→ [p103](#))

■ 無線 LAN ネットワーク

- 本機と無線LANルーターの電源の抜き差しや、無線LANルーターの電源オン状態の確認、および無線LANルーターの再起動などをお試しください。以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

□ 無線 LAN ネットワークに接続できない

- 無線LANルーターの設定が手動設定に切り換わっている場合があります。自動設定に戻してください。
- 手動でのセットアップをお試しください。つながる場合があります。
- 無線LANルーターがSSIDを隠す設定 (ステルスモードなど) になっている場合や、ANY接続がオフになっている場合は、表示されません。設定を変えてお試しください。
- SSIDおよび暗号化設定 (WEP など) が正しいか確認してください。ネットワークの設定と本機の設定内容を合わせてください。
- マルチバイト文字で設定されているSSIDへの接続は対応していません。無線LANルーターのSSIDを英数字で設定しなおして再度お試しください。

□ 選択したSSIDとは異なるSSIDに接続される

- 無線LANルーターによっては、1台で複数のSSIDを設定できるものがあります。このようなルーターに自動設定ボタンを使って接続すると、接続したいSSIDとは異なるSSIDに接続される場合があります。この場合、パスワード入力による接続を行ってください。

□ 再生音が途切れたり通信できない

- 電波状態が悪いため、電波が届かないことがあります。無線LANルーターからの距離を短くしたり、障害物をなくしたりして、見通しを良くしてから接続し直してください。また、電子レンジや他のアクセスポイントから離して設置してください。無線LANルーターと本機は、同じ部屋に配置することを推奨します。
- 周囲に金属製のものがあると、電波に影響を及ぼし、無線LANの接続ができない場合があります。
- 他の無線LANを本機の近くで使用すると、再生音が途切れたり通信できないなど他にも色々な症状が発生することがあります。このような場合は無線LANルーターのチャンネルを変更することで回避できます。変更方法は無線LANルーターの取扱説明書をご覧ください。
- 無線LANで使用する帯域が不足している可能性があります。有線LANで接続してください。

■ ゾーンB機能

□ ゾーンB音声出力できない

- ゾーンBに音声を出力するためには、AV Adjustの「オーディオ」-「ゾーンB」で音声の出力先を「オン(A+B)」または「オン(B)」に設定し、かつホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「ゾーン2プリアウト」を「ゾーンB」に設定する必要があります。 (→ [p124](#))

■ マルチゾーン機能

□ 外部接続のAV機器の音声をゾーン出力できない

- 外部接続のAV機器の音声をゾーン2出力するには、HDMI IN1～3に接続します。AV機器がHDMI端子を持たない場合は、同軸デジタルケーブル、光デジタルケーブルまたはオーディオ用ピンケーブルで接続してください。また、外部接続のAV機器の音声は、アナログまたは2チャンネルPCM音声のみゾーン2で再生可能です。AV機器と本機をHDMIケーブル、同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルで接続している場合は、AV機器の音声出力をPCM出力に変更する必要がある場合があります。
- HDMI入力の映像や音声をゾーン2出力する場合は、システム設定メニューの「入力/出力端子の割り当て」-「TV出力/OSD」-「ゾーン2 HDMI出力」(→ [p151](#))を「使用する」に設定してください。
- 外部接続のAV機器の音声をゾーン3出力するには、オーディオ用ピンケーブルでの接続が必要です。また、外部接続のAV機器の音声は、アナログのみゾーン3で再生可能です。

□ その他

- NET、USB入力切替からの音声信号の場合、DSD音声信号はゾーン出力できません。

■ リモコン

- 電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。
- 新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。
- 本体の受光部が直射日光やインバータタイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置したり、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。

■ 表示部

□ 表示部が点灯しない

- Dimmer機能が働いていると表示部が薄暗くなったり、消灯します。DIMMER ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。

(→ [p11](#))

■ その他

□ 本体から異音聞こえる

- 本機と同系統のコンセントに他の機器を接続している場合、その機器の影響を受けて異音が発生する場合があります。他の機器の電源プラグをコンセントから抜いて症状が改善される場合は、本機とその機器を別系統のコンセントに接続してください。

□ フルオート MCACC を実行中に「騒音が大きすぎます」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

□ フルオート MCACC の測定結果がスピーカーまでの実際の距離と異なる

- お使いのスピーカーによっては測定結果に誤差が生じる場合があります。その場合は、ホーム画面の「システム設定」-「スピーカー」-「距離」で設定してください。

(→ [p159](#))

□ フルオート MCACC の測定結果でサブウーファースの音量レベルが下限に補正される

- サブウーファースの音量レベルを補正しきれていないことが考えられます。フルオート MCACC の測定開始前にサブウーファースのボリュームを下げてください。

□ フルオート MCACC の画面を Pioneer Remote App (iOS や Android™ でご利用になれます) で操作することができない。

- Pioneer Remote App は測定用マイクを接続する前に起動してください。

□ Midnight 機能が働かない

- 再生ソースが Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS のいずれかになっているか確認してください。

待機時消費電力を抑えるには

次の機能を有効に設定している場合は、スタンバイ時の消費電力が増加します。スタンバイ時の消費電力を抑えるには、各設定の内容を確認したうえで、設定を「オフ」にしてください。

- HDMI CEC (→ [p164](#))
- HDMI スタンバイスルー (→ [p164](#))
- スタンバイ時の USB 電源供給 (→ [p166](#))
- ネットワークスタンバイ (→ [p166](#))
- Bluetooth による起動 (→ [p166](#))

HDMIについて

対応する機能

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、テレビ、プロジェクター、ブルーレイディスク/DVD プレーヤー、デジタルチューナーなどの映像機器の接続に対応したデジタルインターフェース規格です。これまで、映像機器を接続するには、さまざまな映像・音声ケーブルが個別に必要でした。HDMI では、1本のケーブルで、制御信号、デジタル映像、デジタル音声 (2チャンネルPCM、マルチチャンネルデジタル音声、マルチチャンネルPCM) を伝送できます。

HDMI CEC 機能：

HDMI 規格の CEC (Consumer Electronics Control) に準拠した機器と HDMI ケーブルで接続することで、機器間のさまざまな連携動作が可能になります。再生機との入力切替の連動切り換えやテレビのリモコンで本機の音量調整などの操作ができたり、テレビの電源オフに連動して自動で電源をスタンバイすることができます。

CEC 規格に準拠している製品と連動するよう設計されておりますが、すべての CEC 機器との連動動作を保証するものではありません。連動機能が適切に働くように、HDMI 端子には以下の台数より多くの CEC 機器を接続しないでください。

- ブルーレイディスク/DVD プレーヤー：最大3台
- ブルーレイディスク/DVD レコーダー：最大3台
- ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大4台

また、当社が動作確認している機器は以下のとおりです。(2019年1月現在)
東芝製のテレビ/シャープ製のテレビ/東芝製のプレーヤー、レコーダー/シャープ製のプレーヤー、レコーダー (シャープ製のテレビと合わせてお使いの場合のみ)

ARC (オーディオリターンチャンネル)/eARC (エンハンスドオーディオリターンチャンネル)：ARC 機能および eARC 機能は、HDMI ケーブルを経由してテレビの音声信号を送り、本機でテレビの音声を再生する機能です。ARC 機能または eARC 機能に対応したテレビと1本の HDMI ケーブルで接続するだけで、本機の映像と音声をテレビに出力することも、テレビの音声を本機に入力することもできます。

- eARC 機能は、HDMI 2.1 で追加される新機能です。従来の ARC 機能から拡張された機能であり、ARC 機能では伝送できなかった Dolby TrueHD や DTS-HD Master Audio などの音声フォーマットを eARC 機能対応テレビから本機へ伝送することが可能になります。

- ARC 対応音声フォーマット：PCM、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、DTS (DTS 96/24、DTS-ES など)、DTS-HD High Resolution Audio、IMAX DTS
- eARC 対応音声フォーマット：PCM、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、DTS (DTS 96/24、DTS-ES など) Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio、DTS:X、Multichannel PCM、DTS-HD High Resolution Audio、IMAX DTS、IMAX DTS:X

HDMI スタンバイスルー：

本機の電源がスタンバイ状態になっているときでも、AV 機器からの入力信号をテレビに伝送することができます。

ディープカラー：

ディープカラーに対応した機器と接続すると、入力される映像信号をより多くの色で表現できるようにテレビに出力することができます。

x.v.Color™：

色域を拡大することで、より現実に近い色を再現することができる技術です。

3D：

AV 機器からの 3D 映像信号をテレビに伝送することができます。

4K：

本機は 4K (3840 × 2160p) および 4K SMPTE (4096 × 2160p) の映像信号に対応しています。

リップシンク：

HDMI リップシンク対応テレビからの情報に応じて映像と音声のズレを自動補正します。

著作権の保護について：

本機の HDMI 端子はデジタル映像信号の著作権保護技術である HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) の Revision1.4 および 2.2、2.3 規格に準拠しています。本機と接続する機器も HDCP 規格に準拠している必要があります。

対応音声フォーマット

2チャンネルリニア PCM：

32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz、16/20/24 bit

マルチチャンネルリニア PCM :

最大7.1チャンネル、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz、16/20/24 bit

ビットストリーム :

Dolby Atmos、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS:X、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio、DTS 96/24、DTS-ES、DTS Express、IMAX DTS、IMAX DTS:X

DSD :

対応サンプリングレート : 2.8 MHz

お使いのブルーレイディスク/DVDプレーヤーも上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

対応解像度

HDMI IN1 ~ IN6:

- 著作権保護技術 : HDCP1.4/2.2/2.3
- カラースペース (色深度):
 - 720 × 480i 60 Hz、720 × 480p 60 Hz、1920 × 1080i 50/60 Hz、1280 × 720p 24/25/30/50/60 Hz、1680 × 720p 24/25/30/50/60 Hz、1920 × 1080p 24/25/30/50/60 Hz、2560 × 1080p 24/25/30/50/60 Hz、4K (3840 × 2160p) 24/25/30 Hz、4K SMPTE (4096 × 2160p) 24/25/30 Hz : RGB/YCbCr4:4:4 (8/10/12 bit)、YCbCr4:2:2 (12 bit)
 - 4K (3840 × 2160p) 50/60 Hz、4K SMPTE (4096 × 2160p) 50/60 Hz : RGB/YCbCr4:4:4 (8 bit)、YCbCr4:2:2 (12 bit)、YCbCr4:2:0 (8/10/12 bit)

AUX INPUT HDMI (前面) :

- 著作権保護技術 : HDCP1.4/2.2/2.3
- カラースペース (色深度):
 - 720 × 480i 60Hz、720 × 480p 60Hz、1920 × 1080i 50/60Hz、1280 × 720p 24/25/30/50/60Hz、1680 × 720p 24/25/30/50/60Hz、1920 × 1080p 24/25/30/50/60Hz、2560 × 1080p 24/25/30/50/60Hz : RGB/YCbCr4:4:4 (8/10/12 bit)、YCbCr4:2:2 (12 bit)
 - 4K (3840 × 2160p) 24/25/30Hz、4K SMPTE (4096 × 2160p) 24/25/30Hz : RGB/YCbCr4:4:4 (8 bit)、YCbCr4:2:2 (12 bit)
 - 4K (3840 × 2160p) 50/60Hz、4K SMPTE (4096 × 2160p) 50/60Hz : YCbCr4:2:0 (8 bit)

主な仕様

■ アンプ (音声) 部

定格出力

205 W × 9 チャンネル (1 kHz、全高調波歪率 1.0% 以下、6 Ω、非同時駆動、JEITA)

135 W × 9 チャンネル (1 kHz、全高調波歪率 0.08% 以下、8 Ω、2 チャンネル駆動時、JEITA)

実用最大出力

240 W × 1 チャンネル (1 kHz、全高調波歪率 10%、6 Ω、非同時駆動、JEITA)

マルチチャンネル同時出力 (マルチチャンネル動作時)

760W (全9 チャンネル) (1 kHz、全高調波歪率 1%、8 Ω)

総合ひずみ率

0.04% (1 kHz、100 W)

入力感度/インピーダンス

200 mV/82 kΩ (LINE (RCA))

3.5 mV/47 kΩ (PHONO MM)

RCA 定格出力電圧/インピーダンス

1 V/470 Ω (PRE OUT)

1 V/470 Ω (SUBWOOFER PRE OUT)

200 mV/1.2 kΩ (ZONE B /ZONE 2 / ZONE 3 LINE OUT)

2 V/1.2 kΩ (ZONE 2 / ZONE 3 PRE OUT)

PHONO 最大許容入力

70 mV (MM 1 kHz 0.5%)

トーンコントロール最大変化量 (MAIN)

± 10 dB、20 Hz (BASS)

± 10 dB、20 kHz (TREBLE)

トーンコントロール最大変化量 (ZONE 2)

± 10 dB、100 Hz (BASS)

± 10 dB、10 kHz (TREBLE)

SN比

107 dB (IHF-A、LINE IN、SP OUT)

90 dB (IHF-A、PHONO IN、SP OUT)

スピーカー適応インピーダンス

4 Ω - 16 Ω (通常)

ヘッドホン定格出力

57 mW + 57 mW (32 Ω、1 kHz、全高調波歪率 10%)

■ 映像部

信号レベル

1 Vp-p/75 Ω (コンポジット)

1 Vp-p/75 Ω (コンポーネント Y)

0.7 Vp-p/75 Ω (コンポーネント Pb/Pr)

適応最大解像度 (コンポーネント)

480i

■ AM/FM チューナー部

FM 受信範囲

76.0 MHz - 95.0 MHz

50 dB SN 感度 (FM MONO)

1.0 μV、11.2 dBf (IHF、75 Ω)

AM 受信範囲

522 kHz - 1629 kHz

プリセットチャンネル数

40

■ ネットワーク部

イーサネット LAN

10BASE-T/100BASE-TX

無線 LAN

対応規格 IEEE 802.11 a/b/g/n/ac 準拠
(Wi-Fi® 準拠)

5 GHz/2.4 GHz 帯域

■ BLUETOOTH 部

通信システム

BLUETOOTH Specification version 4.2

周波数帯域

2.4 GHz 帯域

変調方式

FHSS (周波数ホッピングスペクトラム拡散)

対応プロファイル

A2DP 1.2

AVRCP 1.3

対応コーデック

SBC

AAC

伝送範囲 (A2DP)

20 Hz - 20 kHz (サンプリング周波数 44.1 kHz)

最大通信距離

遮蔽物の無い見通し 約 15 m (※)

※ 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

■ 総合

電源・電圧

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

310 W

0.1 W (完全スタンバイ時)

1.6 W (ネットワークスタンバイ (有線) 時)

1.5 W (ネットワークスタンバイ (無線) 時)

1.4 W (BLUETOOTH による起動時)

0.1 W (HDMI CEC 時)

* 2.6 W (HiNA 機能を備えた機器がスタンバイ状態、ネットワーク非接続状態、ネットワークスタンバイがオン状態のとき)

1.6 W (スタンバイモード (オールオン) 時)

* 本機器は、HiNA 機能を備えた機器として、欧州委員会規則 (EC) No. 1275/2008 に準拠しています。

ネットワーク機能を使用しない場合は、ネットワークスタンバイ設定をオフにしてください。スタンバイ状態における、電力消費を削減することができます。

最大外形寸法

435 (幅) × 185 (高さ) × 440 (奥行) mm

質量

15.5 kg

■ HDMI

入力

IN1 (GAME)、IN2 (BD/DVD)、IN3 (CBL/SAT)、IN4 (STRM BOX)、IN5、IN6、AUX INPUT HDMI (前面)

出力

OUT MAIN (ARC/eARC)、OUT SUB、OUT ZONE 2

対応

ディープカラー、x.v.Color™、リップシンク、eARC、3D、4K 60 Hz、CEC、対応カラー (sYCC601、Adobe RGB、Adobe YCC601)、コンテンツタイプ、HDR (HDR10、BT.2020、HLG)、Dolby Vision

音声形式

Dolby Atmos、Dolby TrueHD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、DTS、DTS:X、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS 96/24、DTS-ES、DTS Express、IMAX DTS、IMAX DTS:X、DSD、PCM、MPEG-2 AAC

HDCPバージョン

2.3

最大解像度

4K 60 Hz (YCbCr 4:4:4)

■ 映像入力

コンポーネント入力

IN1 (BD/DVD)、IN2 (GAME)

コンボジット入力

IN1 (CBL/SAT)、IN2 (STRM BOX)

■ 対応入力解像度

HDMI入力

4K、1080p/24、1080p、1080i、720p、480p

コンポーネント入力

480i

コンボジット入力

480i

- 本機のHDMI OUT端子からテレビには、入力された解像度のまま出力されま
す。4Kに対応したテレビをお使いの場合、1080pのHDMI映像信号は4Kで出
力することもできます。

■ 音声入力

デジタル

OPTICAL (GAME、CD、TV)
COAXIAL (BD/DVD、CBL/SAT)

アナログ

CBL/SAT、STRM BOX、BD/DVD、GAME、CD、TV、PHONO

■ 音声出力

アナログ

PRE OUT (FRONT L/R、CENTER、SURR L/R、SURR BACK L/R、HEIGHT
1 L/R、HEIGHT 2 L/R、SUBWOOFER 2個)
ZONE B LINE OUT or ZONE 2 PRE/LINE OUT
ZONE 3 PRE/LINE OUT

スピーカー

FRONT L/R、CENTER、HEIGHT 2 L/R or ZONE 2 L/R or SP-B、
SURROUND BACK L/R、SURROUND L/R or SP A、HEIGHT 1 L/R or
Bi-AMP L/R or ZONE 3 L/R (バナナプラグ対応)

ヘッドホン

PHONES (前面、 ϕ 6.3 mm)

■ その他

セットアップマイク：1 (前面)

USB：2 (Ver. 2.0、5 V/0.5 A (前面/後面))

イーサネット：1

RS232：1

IR IN：2

IR OUT：1

12V TRIGGER OUT：2 (A：100 mA、B：25 mA)

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

□ → [ライセンスと商標](#)

Pioneer

SN 29403788A

© 2019 Onkyo & Pioneer Corporation. All rights reserved.

Onkyo group has established its Privacy Policy, available at [<http://pioneer-audiovisual.com/privacy/>].
「Pioneer」及び「MCACCロゴ」は、パイオニア株式会社の商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

F1909-0